

# 徳島の剣道

## 特報

1. 新八段誕生
2. ふるさとトーク
3. 至誠館の閉館

第33号



徳島県剣道連盟



表紙題字  
さし絵  
堀江 幸夫  
村嶋 恒徳



# 瞬時・瞬間を生かすために

徳島県剣道連盟 会長 三木 毅



平成二十九年の干支は、「丁酉」（ひのととり）であります。今年の一年は、良きことを連想させる年であるらしい。その意を素直にいただくことにして「物事が頂点に極まった状態」になるよう「トリ込みたい」ものであります。

昨年は、この頂点をめざし、多大な成果を残された会員剣士が五人誕生しました。そのご功績をご紹介しますと、先ず、剣道八段位・居合道八段位を獲得されました、富浦廣志先生、坂本憲一先生であります。

剣道界で最高の段位を取得されることは、剣道・居合道の奥義に通暁し、成熟し、技倆円熟なる者と認定されることなのであり、認定の厳しさは各位が知るところであります。昨年五月の審査会で、剣道・居合道においてそれぞれ八段位合格という快挙は本県の剣道史的に見ても前例のないことであります。八段位挑戦者が多い中でこの上ないお手本を示していただき、徳島県存在を

全国に轟かせてくれる結果となりました。

次いで、全国大会で戦い、優勝という実績を三人の剣士が、成し遂げてくれました。

先ずは、大石洋史剣士であります。全日本剣道選手権大会で、八位の好成績を修めてくれました。さらに、全国教職員剣道大会の個人戦で優勝という快挙を成し遂げられたのです。

次いで、敦賀晋平剣士が全国郵政武道剣道大会の個人戦で優勝を勝ち取ってくれました。

さらに、平野千尋剣士が、宮本武蔵顕彰（お通杯）女子剣道大会の個人戦で勝ち上がり優勝という栄誉を得られました。

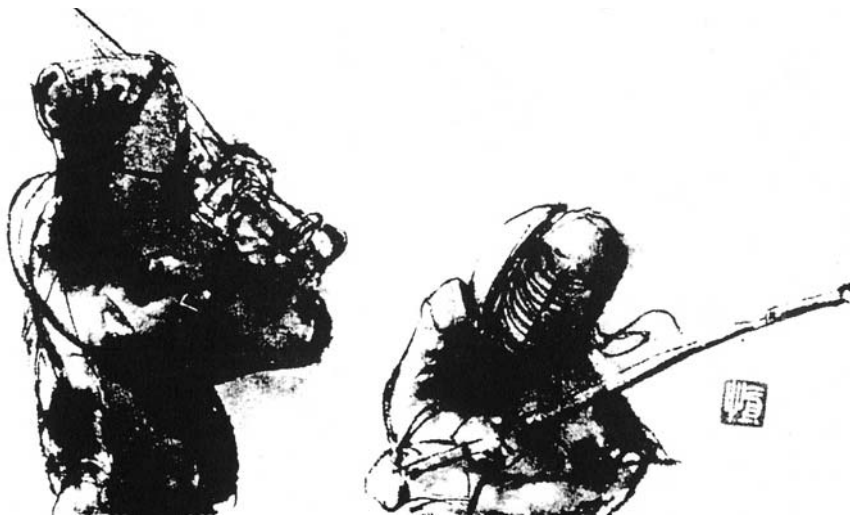
剣道・居合道の審査の場と試合の場は、共通する場面であると思えます。なぜなら、それは自分の心技力を出し尽くし、その技倆を評価してもらうからであります。「一本に瞬時を懸ける」その厳しい時間は「瞬時・瞬間」であって、その瞬時に懸けなければ合格という評価、或いは勝ちという評価を得ることが出来ない世界であるからです。この厳しい瞬時を大切に、しかもその瞬時

を選び、逃さず、生かし、心技力を表現できる者が評価されるのであります。これを、「一本に懸ける」「一撃に懸ける」と称されますが、それが頂点を極め得る者の瞬間なのであります。剣道人はこの第一人者になり得るために、師匠に付き、剣友を得て練磨・研鑽を重ね、その間に人として道を教わり、勝負人としての技倆を身に付けるのであります。

第一任者になり得るために極めて厳しい「瞬時・瞬間」をどのように切り開きながら前進するかは、尋常な精神状態では乗り越えられないとすれば、前記した五人は尋常でない強靱な精神力を身に付けていた証であると思うのであります。剣道が社会的に高く評価されている要因の一つに、団体戦に重きをおきながら、個人の力量が高く重宝されていることであるとされておりあります。

それ故に、身近な場所での稽古が可能という恵まれた環境が存在するわけでありあります。頂点を極める者の日頃の剣道・居合道への取り組み姿勢は、無駄、無理、ムラのない求道精神が身についているにちがいない。瞬時、瞬間の立ち振る舞いは、定型があるはずがなく、たゆまない稽古、多くの試合経験、師匠・剣友からの評価・助言など多岐に亘る激励が身を結んでいくものと思うのであります。

剣士各位は、自己が成長するために欠かすことができない師匠・剣友の存在に感謝の念を強くしながら、本年を有意義にすごされることを祈念いたします。



『徳島の剣道 第三十三号』目次

巻頭言……………三木 毅……………1

《特報Ⅰ 新八段誕生》……………作道 正夫……………5

富浦廣志君の剣道八段昇段を祝して……………影山 美雄……………6

おめでとう。八段昇段。……………富浦 廣志……………8

日々感思流汗之行……………平野 誠司……………10

師とともに求めた剣道本體への取り組み……………原田 勝……………12

坂本憲一先生の居合道八段合格を祝す……………古谷 昇……………13

祝八段位 坂本先生……………坂本 憲一……………15

居合道八段を拝受して……………一村 昌和……………18

天晴れ 文武二道の達者かな……………松端 孝元……………21

《特報Ⅱ ふるさとトーク》……………中山 繁輝……………26

不思議なご縁に導かれて……………石井 博……………30

《特報Ⅲ 至誠館の閉館》……………河田 清実……………31

閉館のご挨拶……………上田 宏司……………33

徳島至誠館の思い出……………徳島至誠館の思い出……………33

徳島至誠館の思い出……………上田 宏司……………33

徳島至誠館の思い出……………上田 宏司……………33

顕彰一覽……………中村 稔裕……………37

剣道有功賞……………島尾 眞且……………39

有功賞を拝受して……………美馬 勝行……………42

少年剣道教育奨励賞……………大石 洋史……………45

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………敦賀 晋平……………46

体育功労賞……………平野 千尋……………49

体育功労賞を受賞して……………お通杯個人優勝……………51

全国教職員大会……………徳島至誠館の閉館……………52

全国教職員大会に臨んで……………お通杯個人優勝……………51

全国郵政大会……………お通杯個人優勝……………51

全国制覇(郵政)清原先生、やりました！……………お通杯個人優勝……………51

お通杯入賞……………お通杯個人優勝……………51

お通杯個人優勝……………お通杯個人優勝……………51

平成二十八年徳島県中学校剣道優秀選手……………平成二十八年徳島県高等学校剣道優秀選手……………52

先生を偲ぶ……………川田 武志……………53

剣道範士 勝浦守先生を偲んで……………立川 信彦……………58

勝浦先生を偲んで……………矢武 秀生……………60

勝浦守先生を偲んで……………満壽 良史……………62

竹原実太郎先生を偲んで……………村井 恒治……………64

恩師高橋憲司先生との思い出……………伊賀 雅人……………66

高橋憲司先生との思い出……………山田仁先生を偲んで……………70

山田仁先生を偲んで……………山田仁先生を偲んで……………72

山田仁先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

山田仁先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

西浦新先生を偲んで……………西浦新先生を偲んで……………74

矯正武道について	森 直行	129
全日本都道府県女子剣道大会に参加して	北村 環	132
全国選抜大会に出場して	美馬 州一	134
仲間	福岡ひかり	136
インターハイに出場して	湯浅 混平	138
三年間	丸岡由理奈	140
全国中学校剣道大会に出場して	片岡 俊人	141
全国中学校剣道大会に参加して	檜田 胡桃	143
第五十八回全国教職員剣道大会に出場して	前田奈々枝	144
第三十六回四国教職員大会に参加して	森 康二	146
第十一回都道府県対抗少年剣道大会に参加して	齋 浩一	154
全日本女子剣道選手権大会	平野 千尋	156
全日本東西対抗剣道大会に出場して	平野 誠司	158
第七十一回国民体育大会に出場して	宮本 靖之	159
第五十一回全日本居合道大会の報告	坂本 憲一	161
全日本剣道選手権大会に臨んで	大石 洋史	163
第六十八回四国四県剣道大会に参加して	富田 正	165
全国警察剣道大会を終えて	山室 雅幹	169
第二十三回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	乾 清孝	170
ねんりんピック長崎剣道交流大会に参加	木下 裕康	172
第三十八回全日本高齢者武道大会に参加して	乾 清孝	175
随 想		
青春の一齣	中尾 正輝	177
自転車旅	大石 正志	178
『徳島の剣道』と『交剣知愛』	杉浦 佳夫	179
あれから四十年	手塚十三子	180
岐路となった高校時代	吉田 昌彦	182
師を思う	山名 信行	185
出 会 い	曾根 徳治	187
徳島に来て	内海 直弥	189
稽古の中で	林 由美	190
称号・段位合格者		
七段審査に合格して	篠原 永光	192
剣道七段に合格して	岩本 一彦	193
七段審査に合格して	佐野 伸治	194
感謝の剣道七段	喜多 一幸	196

まさかの合格	月岡 陽市	198
六段審査に合格して	宮本 靖之	200
剣道六段審査	仁科 文宏	201
六段に合格して	床嶋 亮	202
六段審査に合格して	近藤 夏子	204
六段に挑戦して	北村 環	205
剣道錬士に合格して	小倉 武雄	206
剣道錬士の称号を授与いたしました。	福永 康浩	207
称号・段位合格者一覧		
がんばろう徳島		
道場連盟体験・実践発表会	北林 葵	213
剣道を通して学んだこと	西村 葵	215
病気とともに		
事務局取材レポート	藤川 和秋	217
頑張ってます！東祖谷剣道クラブ		
専門部報告		
事業部	佐賀 博史	220
審査部	佐藤 佳宏	221
強化部	平野 誠司	222
少年部	松村 和宏	224
女子部	竹内佳代子	225
居合道部	福井 勝	227
中体連	佐藤 浩	229
高体連専門部	玉田 晋作	231
大学連	木原 資裕	234
少年部よりの作文集		
平成二十八年度 大会記録		
平成二十九年度 昇段審査学科試験問題・解答例		
徳島新聞に見る戦いの跡		
平成二十九年度 昇段審査学科試験問題・解答例		
平成二十九年度 徳島県剣道連盟行事予定表		
平成二十九年度 審査実施計画表		
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等		
剣連事務局について	熊澤 信行	310
徳島県剣道稽古場所一覧		
居合道 道場案内		
編集後記		

# 特報Ⅰ 新八段誕生

## 富浦廣志君の剣道八段昇段を祝して

大阪体育大学剣道部師範 作道正夫



海亀産卵の地、日和佐出身の富浦君（「富さん」と部員達からは親しみを込めて呼ばれた）。数年前大阪体育大学剣道部の合宿がここ日和佐の地で実施された。

午前午後の稽古を終えての夕食後、富さん達に連れられて海岸探索に出掛けた。「海亀の産卵」とその後の子亀たちの太平洋へと繰り出す姿を拝見しながら涙が止まらなかったことを思い出す。なるほどなあ！富さんの人となりはこの日和佐の大自然と海、そこに生きとし生けるものたちとの時間が根底に流れているんだなあと実感した。

大学の四年間は選手にもなれず、よく負け、よく稽古し、気迫のこもった面技中心の稽古振りが思い出される。中学校現場にあってでも継続され、徳島の先生方の御指導の中でコツコツと磨きが掛けられて来て八段合格であったことがよくわかる。

太平洋の大波が押し寄せるような面技を得意技とした。その中

にあって裏技としての小手技を小気味よく使う富さん。おおらかに、いつもにこにここと誰の話をも聴きつつ「ほじゃけんどのう」と酒を飲みながら、みんなと語らう富さんが印象に残っている。

先般の大体大寒稽古での立ち合い。気迫のこもった技の打ち出しとその響きは感動のひとつでした。富さんの剣心の輝き、構えの充実、そのまともりから発する「太平洋面」（彼の面技を私はこのように命名している）。これに加えてのいぶし銀の小手技。徳島という剣境に恵まれ、上向（先生、先輩に掛る）と下向（教え、指導する）同時の剣心を更に磨いてくれることを期待しています。祝賀会の時の奥様と御二人のお子さんの誇らしく悦びに溢れた姿が忘れられません。本当におめでとう。益々の正精進を祈ります。

昨年の講習会の折、徳島に明るくて力強い剣光と剣風が降り注いでいることを強く実感致しました。三世代共習共導の老若男女それぞれの剣振りが力強く心嬉しく展開されつつあることを心よりお喜び申し上げます。

富さんの面技はこんなイメージかな。

“一撃を 地軸に放ち 澁冽凜”

## おめでとう。八段昇段。

海部支部長 影山 美雄

富浦先生剣道八段位ご昇段誠におめでとうございます。



平成二十六年五月二日。京都市立体育館において行われました八段審査におきまして、超難関の審査を富浦先生は見事合格されました。八段合格の知らせは本人からでした。合格発表よりあまり間がない審査場からのようで、喜びの感動が直に感じ取れました。

大変すばらしいの一言に尽きます。誠におめでとうございます。長年のご努力に対しまして心より敬意を表するしだいでもあります。海部支部を代表しまして心より賛辞を送りたいと思います。

昭和四十八年、富浦廣志少年は日和佐中学校に入学し、部活は剣道部に入部しました。熱心な地域には古くからの剣道教室や道場があったのですが、ほとんどの所では中学校から剣道を始めていました。富浦少年も初めて剣道に接し、他の新入部員と一緒に礼法や竹刀の持ち方から面打ち・小手打ちなどを習い、やがて防具を着けての稽古をするようになりました。剣道八段に通ずる一本道を踏み出したのであります。部員を指導したのは、あの熱血漢の中山啓男先生でした。わたしは学校外から稽古に参加してい

ました。剣道部員は四十八人と多く、稽古場は常に熱気いっぱいでした。とにかく稽古しました。学校での決められた部活時間の稽古を一旦終了した後、レギュラーの者は軽い夕食をすませてから、稽古場所を移動して再び稽古を始めました。努力の結果、県中学校総体で優勝するなど数々のめざましい実績を挙げました。念願の全国大会にも初出場し、ベスト八に入り、あこがれの日本武道館に日和佐中学校の名を轟かせました。富浦少年は県総体個人戦でも三位という好成绩を挙げました。昭和五十四年四月、大阪体育大学に進学し、杉江憲先生、作道正夫先生に師事し、その実力を一層向上させました。昭和六十二年四月、徳島県教職員に採用。赴任したそれぞれの学校では、“師弟同行”をモットーに剣道部員の指導に情熱を注ぎ、自らの背中で修業の厳しさを示しています。また、自分自身の修練も怠らず、並々ならぬ努力を重ね今回の八段昇段となったのであります。

今後健康に留意され、益々精進されまして県剣道連盟の発展に尽力されると共に、後進の指導、すそ野の拡大に貢献されますようご祈念申し上げます。本当におめでとうございます。





日和佐中学校時代  
(二列目左端が富浦先生、二列目五人目が筆者、その隣が中山先生)



## 日々感思流汗之行

海部支部 富 浦 廣 志



大阪体育大学剣道部のモットーは、「日々感思流汗之行」であり、そもそも剣道が行であることを教えていただいた言葉です。

若かりし頃のやんちゃで、多くの方々  
に迷惑を掛けながらも、反省を繰り返して、近年この言葉に立ち返り、稽古ができる自分を嬉しく思います。

平成二十八年五月二日、四十六歳秋の東京審査から始まった八段審査も丸九年が過ぎました。

厳しい審査だということは、受審前からわかっていましたし、実際にかんばり続けることは苦しいことでした。審査にかかる費用や旅費、稽古の時間など、妻の理解なしではかなわぬことでしたし、ダメと言われ続ける訳ですから、精神的にも苦しいときがありました。自分の為してきたことに、成せた結果を得て、今は自分を誇らしく思えます。

苦しいときに支えていただいた先生方や稽古をお願いした先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

### 一、師

私には師匠がいます。大阪体育大学教授であった作道正夫先生です。

先生の剣道にあこがれ、ずっとまねをしてきました。卒業後も年三回稽古することを目標に先生との御縁を稽古という形で繋いできました。師の教えは「子弟同行」です。師は自らの背中で修行の過程を示してくれています。

八段昇段におごることなく、自分の剣道の完成へ、人間形成の努力を怠らないようにしていきたいと思えます。そして、八段の責任や役割を果たしていきたいと思えます。

### 二、為せば成る

「自尊感情」この言葉を最初に耳にしたのは人権教育の研修会で、「自尊感情の低い人は差別と向き合えない」ということでした。自尊感情 (self-esteem) : セルフ・エスティーム) とは、自分自身を価値ある者だと感じる感覚で、自分自身を好きだと感じること、自分を大切に思える気持ちのことだそうです。教師にとつて、自尊感情の低い生徒は他者からの愛情が乏しく、努力を怠ったり、やるべきこと、あるべき姿から逃げたい生徒です。ある面、教師が教えやすい生徒ではありません。

教師という職業柄、自分の担当する生徒の自尊感情を高めるために、剣道や教科、行事を通して、生徒との関わり方を模索して

きました。

昇段を記念して手ぬぐいを作りましたが、「為せば成る」とし  
るしました。それぞれの生徒に、乗り越えるべき課題があり、夢  
や目標があります。「成る」ために必要な事柄を課題解決してい  
けば、いずれは夢や目標が叶うということなのでしょう。若い剣  
士たちが、剣の理法の修練の過程において、自分の課題と向き合  
い解決していくなかで、自尊心を高められるようお願いを込めま  
した。

### 三、おわりに

剣道の奥義を表したり、修行の過程を知らしめたりする言葉に  
は、二律背反と思える言葉が多く存在します。「懸待一致」です  
と、「懸かる」と「待つ」は反対の言葉です。これを矛盾と感じ  
ると前には進めません。

大阪体育大学では「いつでもゆけるように」「いつでもできる  
ように」と、攻めの方法、応じの方法を学習してきました。そこ  
に、動作、技、構えの「懸待一致」が培われていくのだと思っ  
ています。

先生は三十年後の私を見越して指導をしていてくれたことにな  
ります。（指導者として勝ちたいだけなら違う方法があります。）  
定年までの後四年間為しておきたいことがあります。

①中学生レベルでの「いつでもゆける」「いつでもできる」剣  
道の指導を具体的に基本指導の実際として研究する。

②「懸待一致」した剣道の完成を目指す。  
③徳島県の剣道の発展のお役に立ちたい。  
教職生活も後四年、先生のように、生徒の人生に関わっていけ  
る先生になりたいと思います。  
八段の修行が始まりました。



一次審査の立合（筆者左）

## 師とともに求めた剣道本體への取り組み

警察支部 平野 誠 司



日本の伝統文化である剣道、特に競技化が進んだ現代剣道の中で、剣道本體を見据えた取り組みは非常に崇高なものとなっています。この最も大切な修練に魅せられ、師匠の背中を見て共に歩んできた富浦先輩は本当に幸福の中で充実した日々を送られてきたと私は確信をもっております。

富浦先輩、剣道八段ご昇段本当におめでとうございます。

ご存じのとおり、我々大阪体育大学剣道部の恩師は作道正夫先生であります。富浦先輩が合格された五月二日の京都八段審査の少し前になりますが、三月二十日に徳島中央武道館にて「徳島県高段位受審者講習会」の講師として作道先生をお迎えしていました。

講習会では求めてこられた剣道観を惜しみなく講義していただきました。

「現代の剣道に何を求めていくのか」

「試合、審査に何を表現するのか」

「剣道を修練して自分はどうかになりたいのか」

等々、私たちの剣心を鋭く問われているような気がしました。

剣道とは自分にとって一体何なのか、剣道で何を表現したいのか、自分の剣道観と向き合う時々の初心を説いていただいたように思っています。

そのような中でも富浦先輩は平然と聴講されています。何故なら、そのことは今までに何千回何万回と指導いただいており、この場に及んで心が動くことはないのです。初めての受審から合格された今回まで、ご自分の剣を迷いなく表現されてきたこととありますが、合格したい合格したいと前のめりにもならず、先生の愛気を受けて育まれた剣心を披露できることを楽しんでおられたようにも見えました。でも、剣道は一人にあらず、二人であらず、相手がいて初めて成立するものです。なかなか合格の歓喜が訪れることはありませんでした。

二年前の京都の立ち会いでの一コマ、見ておられた作道先生が「平野、富はいったよ。よかった。」と絶賛して褒められました。先輩にコツッと伝えると、もう天にも昇る心地で「もうそれだけで充分やあ」と。結果は不合格でしたが、先生に免許皆伝をいだけたような気分であったのか、先輩は嬉しそうに会場を後にしました。

平成二十八年五月二日、八段審査二日目。私も京都市新京極の体育館にいました。一次審査、二次審査ともに拝見させていただきました。持ち前の縣待一致した構えは重厚であり、他の受審者とは一味違っていました。我々が作道先生から常々ご指導いただいていたことは、先生の師匠・湯野正憲範士の剣道本體論、特に

「剣道の本體を説明するということは、構えを解くということである。」に代表されるように、構えについての研究は半端なものではありませんでした。

まったりと静かに重みのある構えで相手を圧していきます。思わず打ち出す相手の面をしっかりと溜めて、撃ち落としの面を数回。嫌がることを攻めて面。再び出てくるところを小手に切ると、求めてきた構えで相手を崩し、その懸待は冴え渡り、あきらめず丁寧な四回の立ち会いをやりきられたなあという印象を受けました。

発表までは、軽はずみなことは言えないのがこの八段審査。本人には言いませんでしたが、「二重丸ですよ。」と何度も心の中で叫んでいました。しばらくして、合格者の発表がありました。

「二〇三D」歓喜の瞬間でした。

この日、残念ながら作道先生は所用のため会場にはおられませんでした。すぐさま報告と思い、先生の携帯に一報を入れました。開口一番、「うん？富さんやったか？」でした。「はい。」「そうかそうか、よかったなあ、よかったよかった。」本当にうれしそうな声で喜んでいただきました。

富浦先輩、今後ともこの貴重な剣道本体への修練、先の見えない修練を是非とも継続して行って下さい。それと同時に、この剣道観を共導、共習する場でご活躍されますように心からお願い申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。本当におめでとうございました。



二次合格発表時 富浦先輩の満面の笑顔

## 坂本憲一先生の居合道八段合格を祝す

副会長 原 田 勝



この度、坂本憲一先生が居合道八段に合格されました快挙に対して、心よりお慶びを申し上げます。平成二十八年五月三日、京都武道センターに於いて年一回の居合道八段審査会が開催されました。

受審者一四二名中、一次審査の合格者は二五名、二次審査の合格者は六名でありました。武道家にとって八段審査は最大の登竜門であると言われております。居合道八段審査も例外ではありません。

第一次審査は全剣連居合十二本の技の中より七本の技を当日指定し、二次審査は各人が修業してきた古流の技を自由に七本抜き、その所要時間は最初の正面の礼より、終わりの正面の礼が終わりを携刀姿勢になるまでが、共に八分以内であります。それらの各技を一呼吸で如何に平常心を保ち続けて抜けるかが問題なのです。並大抵の稽古では氣と息が続かず抜ききる事が難しいものです。その難関を今回、坂本先生は八段位に相応しい品位、風格を備え、卓越した心技の力量により見事に超越しました。審査員は技の上手、下手だけを見て審査するものではありません重要なのは人間性です。

八段の受審資格が出来るまでの修業期間に於いて、剣の理法の修練による人間形成の道に沿った取り組み方をして来たかどうか、剣の理法の修練とは即ち理に合った人生道の修練でもあります。正しい礼儀作法や武道としての合理的な刀捌き体捌き等の修練の積み重ねが修業の深さとなり品位風格として自ずと滲み出て来るものです。また常日頃より謙虚に真摯に取り組んで来た中に自然に育まれた、豊かな人間性を感じさせる居合でなければなりません。審査ではその人の人間性が全て出てしまします誤魔化しは出来ません。審査員は受審者の技前に対する修業の深さに合せて、心の修養の深さから潜在能力までも見極める力量が要求されます。それ故に今回の審査における坂本先生の演武は見事でありました。豪快にかつ優美であり、人に感銘を与えると共に切れる居合であったと思います。しかし、八段位であろうと、範士号であろうと、最終ではなく単なる一つの節目に過ぎず、果てしない宇宙の様なるものであると言われております。また高段位になれば成る程に謙虚となり日々新たな精神で、自ら求め創意工夫を怠らず精進するのが当然の道であり高段者としての努めでもあります。全国的に見て徳島県剣道連盟の居合道人口は全国の最下位に等しい状況にあります。坂本先生の八段合格の快挙が刺激となり、今後徳島県剣道連盟の居合道が益々発展して行く為にも非常に意義深いものであります。

## 祝八段位 坂本先生

香川県剣道連盟 居合道部長 古谷 昇



此の度は、見事な大輪の華を咲かされました。臥薪嘗胆の日々もありましたが、よくぞ頑張られ居合道八段位という榮譽をものされました。心よりお慶び申し上げます。

坂本先生と私が始めて出会ったのは、昭和六十三年の春浅い季節、私の師匠、故範士岩田憲一先生から、「憲兵時代の部下だった野口直之という人物が居合道を教えている。この人物から依頼があったので徳島へ指導に行こうと思うが、随行しないか」と声が掛かりお供する運びとなりました。

行き先は、確か徳島県立川島高校の武道館だったと思います。そこには野口直之（教士七段）先生の居合仲間に加えて阿波居合道伝習会の面々が一同に会されておりました。坂本先生は、背が高く、居合は習い始めでしたが、極の無いひときわ重い真剣を持ち、前列に位置していたことから印象に残りました。思い起こせば、これが坂本先生と私の最初の出会いでした。

その時の岩田先生の講習内容は、古流が中心で、初心者には英信流の初伝を、二段から五段には中伝と奥伝を事細かく指導されました。奥伝の座居合が終了した時点で、同じく随行していた剣

友の故大西清先生と私に、長谷川英信流古伝組太刀「太刀打之位」を披露するよう命ぜられ、微力をも省みず演武致しました。私と坂本先生の出会いはこの組太刀の演武が縁といっても過言ではありません。

その後、香川県へも再三出稽古において成り、岩田先生の根元道場では、時には泊まり込みで稽古を重ねられました。組み太刀は一村昌和先生を相方にして取り組まれており、特に古伝の組太刀は、実戦を想定しており、打ち合わせの際、寸止めでなく木刀と木刀を激しく打ち合せることから、消費した木刀は数十本を下りません。そんなことから木刀はどの木種のもが良いとか、鞘木刀の作り方、果ては額部を防御する鉢金の作り方、刀の柄巻などを研究、文章にまとめるなど多彩な一面をも持っておられます。

組太刀を習い始めて十数年がたった平成十五年七月、香川居合道大会が開かれた時、私の相方が急用で出場出来なくなり、急遽代役をお願いしました。坂本先生が仕太刀、私が打太刀。まさにぶっつけ本番でしたが、その時の坂本先生の打ち込みにはすさまじいものがあり、私はその気迫に終始押さればなしました。演武を終えたあと壇上にいた故岩田先生が組太刀を徳島に伝え残すことが出来たと非常に喜ばれていたことを思い出します。

また、岡山の武藏道場で、同剣連の居合部が中心となり英信流の研究会を開催した折、古伝太刀打之位の演武のご指名が有り、坂本・一村ご両人に演武をお願いしたことがございます。本番は

得てして良き面が出ず悪しき面が出るとよく言われますが、その時は、迫力は勿論のこと、体捌き、剣捌きが、普段よりもはるかに見事で、見ている多くの人たちを唸らせ、卓越した練習量の成果が発揮されたものと感動した次第でございます。坂本先生は、長谷川英信流古伝組太刀のうち、太刀打之位・詰合之位・大小之位まで仕上がっております。これからはこれらの形のなかに、迫力を超越する品格・風格を加え、更に磨きを掛けて頂きたいと念願致します。

坂本先生は、居合道だけではありません。刀剣の鑑定にも通じ、文化庁の銃砲刀剣の登録審査委員、博物館の運営委員・阿波市の文化財保護審議委員などを歴任されており、私がみた三徳を備える人、まさに文武不岐の人物でもあります。

最後になりましたが、組太刀を伝授した先輩として一言言わせて頂きます。坂本先生、これからが本番ですよ。健康に留意し八段位拝受者として全剣連居合を正しく伝え、斯界の発展に尽力して下さい、そして古伝の組太刀を徳島に根付かせて下さい。お願いします。





## 居合道八段を拝受して

阿波居合道伝習会 会長 坂 本 憲 一



平成二十八年五月三日、京都で開催されました日本剣道連盟居合道八段審査におきまして、図らずも八段位を拝受することが出来ました。

審査の状況を振り返りますと、八段の受審者数は一四二名、年齢は四七歳から八五歳でした。一次審査は連盟が定める「全剣連居合」の一二本から指定された技が七本、二次審査は古流から自由選択で七本が出題されます。

一次二次とも所用時間は礼式を含めて八分間。審査結果は、一次審査での合格者が二五名、最終の二次審査での合格者は六名となり、私はその末席を汚した訳で御座います。私にとりまして今回の審査は九度目の挑戦であっただけに合格の喜びは一入ひとしおでした。

初めて審査に臨んだときは、当時の短縮制度に便乗しての挑戦でもありましたので、当初から合格は無縁のものといった不埒千萬な気持ちで受審いたしました。一次審査さえ合格できないままに受審を重ねていくうちに、次第に合格せねばという気持が芽生え、始めて一次審査を突破したときには、更に二次審査の合格を切望するようになったことなど、様々な心境変化が蘇って参りません。

武道には良く不動心という言葉が使われます。その心境に大きく近づくきっかけとなったのは、矛盾した表現かも知れませんが、長年の腰痛に加えて二年前からの左膝の悪化という健康状態のことでした。当然ながら前年度は、左膝の悪化のまま審査に臨んだわけですが、一次は合格したものの二次審査はやはり不合格となりました。

今回は、時間を割いて治療に通い、結果、長年苦しんだ腰痛、悪かった左膝も治り体調は極めて良好で、単純と受けとめられるかも知れませんが、このことが心を不動なものに近づけてくれる大きな要因となりました。

高齢になると健康が一番といいますが、健康であれば練習にも力が入ります。審査に臨む三か月半前から、通常の練習に加えて、地元の公民館で午前中三時間、全剣連居合と古流の一人稽古に取り組みました。特に古流には力を入れたのですが、それについては過去五年間、一次審査は合格するものの二次審査で不合格となっていたからです。

審査本番には、昨年と比較して邪念などの動揺は少なく、極めて冷静に臨めたと思います。練習時間は昨年の三倍ぐらいになったのでしょうか。大袈裟な表現かも知れませんが、審査に臨んでは、まさに「人事を尽くして天命を待つ」という心境になれたと思います。

ここまでは自分の心境、修練への想いを述べてきましたが、今回の八段位拝受には、範士の先生方や教士の諸先輩方、剣友、そ

して、私を取り巻く皆様方の温かいご支援があったことは言うまでもありません。

思い起こせば、私の居合道人生は、昭和五十七年、野口直之先生との出会いより始まりました。剣道家の有志と阿波居合道同好会（後阿波居合道伝習会）を結成、父（剣道連盟阿波支部長）の知人の居合道七段教士の野口直之先生を招聘して毎週火曜日（午後七時三〇より十時まで）を練習日と定め、練習に取り組みました。昭和六十三年、野口先生がご高齢になったため、紹介頂いた



香川県の範士八段故岩田憲一先生の道場にも通うようになりました。ここで出会ったのが教士八段の古谷昇先生です。先生からは、特に長谷川英信流の古伝組太刀の手ほどきを受けました。

そして、全剣連居合に古流色が強かった私の居合には是正の手をさしのべてくださったのが、本県の範士八段の原田勝先生です。原田先生の道場へは繁く通わせていただく一方、先生の師匠筋にあたる高知の三谷照雄範士の養心館道場の強化合宿にも再三参加させて頂き、三谷先生はもとより、師範代の松田忠雄教師八段にも御指導を頂きました。お世話になった事柄は筆舌に尽くせない程数多くありますが、こうしたご指導ご支援には只々感謝の一念で御座います。

かつて、岩田範士が九十四歳の時、なにげ無くお伺いしたことがあります。「先生のお歳になると心技とも孤高の域に達しているのでしょうか」と、返ってきた言葉は、「あの世へいっても日々修業ぞ」でしたが、お話しされた通り、晩年まで書道と居合道の錬磨が日課でした。

これからは、ご指導頂いた事柄の数々を大切に、更に精進を重ね、拝受いたしました段位に恥じないよう、専心努力し斯界の発展に微力ながら尽くして参りたいと存じます。今後ともご支援ご指導の程宜しく願います。



第109回全日本剣道演武大会 平成25年5月2日～5日 武徳殿

## 天晴れ 文武二道の達人かな

阿波居合道伝習会 一村昌和

昭和五十七年に石井町在住の教士七段野口直之先生を師範にお迎えし、阿波居合道同好会（現在は阿波居合道伝習会）を設立した。坂本先生は、発足時から剣友あり師である。五段までは、足並みをそろえて昇段した。差が顕著になったのは、六段審査からであった。

坂本先生は、順調に六段・七段と初回受審で昇段し、ますます積極的に居合道に取り組むようになり、技に磨きがかかってくる。その一方で私は、何度も昇段に失敗し、途中で中断する始末であった。何年間の空白を経て、ようやく六段になることができた。

坂本先生は、剣道界の最高峰の八段を目指し、日々精進し、各居合道大会では優秀演武賞を重ね、遂にはその栄冠を勝ち取ったのである。道を究めようと志す者と軽い気持ちで道を楽しむ者の到達点の違いである。

坂本先生との永年の付き合いの中で感心したことを記して八段昇段の祝意を表したい。

### ○ 二重課題

居合は、剣道と違い刀を鞘から抜く動作が重要である。全剣連居合の一本目「前」の一部分を紹介する。その所作は、まず前方

の仮想敵を捉える。左手で、鯉口を静かに切り、鞘を引く。右手は柄頭を敵に向け抜き始める。左手で鞘を栗形が帯に接するまで引くと同時に横に返し、右手は激しく敵のこめかみに抜きつける。この鞘離れの瞬間が居合の妙味である。ここまでの所作でも刀を抜くことに意識が集中し、対敵動作が希薄となったり、右手が主導して左手の鞘引きが疎かになりやすい。さらに、この間に正座から両爪立て、腰を上げ、右足を踏み出し、左足は膝の裏後ろで踏ん張り、上体は四十五度に捻り、抜きつける動作が同時進行する。続いて、面向（顔の真ん中）を切り下ろし、面向不背（前後とも美しい）の姿勢となるのである。

異なる動作を同時に行うことは難しく、習熟しないと上手くできない。簡単そうでも、いざ実際にやってみれば、一方に集中すると、もう一方が留守になる。居合は、二重、多重の課題を瞬時に解決することが求められる。

坂本先生は、恵まれた体躯、天性の運動能力、集中力、研究熱心、理解力、創意工夫により、いとも簡単に克服したのである。私も凡夫には何十年かかることやらと思ひ悩む。

鏡花水月（鏡に映った花、水に映った月のように、目に見えながら手に取りにくいものたとえ）でなく、理想とする居合の姿を想定し、イメージを具現した演武に到達しているように思われる。絵に描いた居合でなく、絵に描いたとおりの居合を抜くのである。武骨な武術の居合から昇華し、理合と美を表現する芸術の居合を会得したのではなからうか。

## ○ 知行合一

坂本先生は日本刀の研究者であり、愛刀家でもある。そもそも居合道に関心を持ったのも日本刀から出発したという。日本刀に関する知識は、群を抜いている。徳島県の銃砲刀剣類審査員を永年にわたり勤めており、鑑識眼は鋭く、高い見識は衆人の認めるところである。

日本刀の研究で知識が豊富であるばかりでなく、とにかく手器用である。刀匠でなければ許可が下りない作刀以外は、何でも出来るといっても過言ではない。柄巻きは、当に職人芸である。柄木を削り、鮫皮を貼り、柄紐を巻く。使う人の好みに応じ、使い勝手の良い仕上がりしてくれる。金工師顔負けの縁・頭・鐔・鍔等の金具類も制作する。鞘も削り、塗りもする。鯉口の修理も御手の物である。鞘が緩くなるとすぐ修理をしてくれ重宝している。組太刀に使う鞘付き木刀も炉で火を熾し、バーベキュー宜しくビニールパイプを熱して、象る。鐔と栗形を付けて、スプレーで色を塗り、いとも簡単に作る。組太刀の普及に大いに貢献している。

日本刀の知識を最大に活かし、現代において日本刀を活用する居合道は、県内の刀匠の育成にもつながることも見据えており、狭義の解釈での外れの感もするが、知り得た知識を具現化して社会に活かしている姿は、まさしく格物・致知・誠意・正心・修身・齐家・治国・平天下へとつながる歩みと信じている。

## ○ 文武二道

坂本先生は徳島県郷土文化会館に勤務し、事業部長の要職を務めた。その間に郷土が育んだ芸術・芸能・文化・歴史的遺産等に関する調査・研究・資料収集に鋭意取り組んだ。各種催事の企画運営に携わり、県民に文化的情報の発信を行う。その成果は、多くの出版物、講演、新聞寄稿で広く知らされた。

特に顕著な実績は、郷土文化会館の五階にある阿波木偶資料館に展示されている阿波木偶の数々であり、永年にわたり取り組んだ調査・研究・収集の証となっている。

印象に残る深い催しは、県内で活躍する現代刀匠七人にスポットを当てた刀剣展、海部刀の名品を中心にした阿波刀展である。実物の鑑賞と共に坂本先生が緻密に描いた押形や解説文に感銘を受けた。

各地域の民俗を掘り起こし、後世に伝承すべく地域別民俗資料展を開催し、その成果をまとめた民俗文化財集「○○の民俗」と冠した出版物を監修し、刊行した。私も地元住民として「土成の民俗」・「日開谷川流域の民俗」の一部を出筆させてもらい、その作業の大変さを垣間見ることが出来た。

刀剣はもとより、阿波における武道に関する歴史、年中行事、絵馬、石造物、人形浄瑠璃、峠道、旧街道、伝統工芸、芸能、伝統産業、史跡等々の知識は豊富で泉の如く湧き出てくる。坂本先生との会話は、無料の教養講座を受講しているようなものである。

退職後も県の文化財巡視委員や地元の阿波市文化財保護審議委員を歴任され、文化財巡視委員では阿波市の文化財に指定されている物件の保存状態を確認し報告を行っている。また、御尊父の偉業を引き継いで郷土史の研究や成人文化講座の開催に尽力している。

## ○ 教学相長

私が城西高校に勤務時、総合学科で特色ある選択科目「居合道」が設けられた。私が一年で転動したため、現在まで二十年近く講師として指導してもらっている。

豊のない生活環境で育った生徒が増え、正座は体罰と捉える子もいるという多様な生徒を指導する苦労話を聞くと、申し訳なく思う以上にありがたく感謝している。

教えることは学ぶこと、欠点を指摘するだけに止まらずどうすれば改善し成長してゆけるかを考えることを基本理念に置き、時には毅然と、時には柔軟に指導することができる教育者である。教える対象者は、高校生、鳴門教育大では大学院生と指導者、本会では小学生から一般と幅広く、通り一遍の指導法では対応できない。能や小笠原流から学んだ歩み方、刀を大きく振る方法、体さばきの基本動作、理合の説明等、個別的に適切な手法を駆使し、剣技の向上を目指す。また、居合道を通じて人間形成を目指す。大上段に構えず、健康で人生を豊かにする一助となる指導を模索して活動している。

今回の八段昇段は、天が坂本先生を認めた証であると思う。まさしく「天晴れ」である。天命の伝道者として、今後も「武事」の居合道と「文事」の日本および地域に由来する文化的活動に邁進していただきたい。そのためにも、くれぐれも健康に留意してもらいたい。できるだけ永く我々もその恩恵に浴くしたい。



坂本先生が主宰する奉納演武会での筆者

## 特報Ⅱ ふるさとトーク

### 不思議なご縁に導かれて

公益社団法人大阪府剣道連盟

相談役 松 端 孝 元



「あー、もしもし、池高の中尾です！」  
突然の電話にびっくり。「おー！なんや、懐かしいなー」と言う。「徳島の剣道に記事を投稿してほしい。」とのこと。何もわかりませんが、中尾君の言うことや

「アー、よっしゃ！よっしゃ！」と二つ返事で引き受けたものの、どんな内容なのかさっぱり分からないので、「とにかくその冊子を送ってほしい」と言ってお願ひしました。すぐに分厚い「徳島の剣道」が送られてきました。二五〇ページもの大部です。びっくりしました。しかも第三十二号とあります。全国各都道府県でも同様の啓発冊子が発刊されていますが、ほとんどが数ページから数十ページのもので、これは編集が大変だと思いました。編集委員の先生方のご心労いかばかりかとお察し申し上げます。本当にご苦労様です。

さて、依頼の内容は、「ふるさとトーク」に記事をと言うこと

ですので、出身の池田中学、高校時代の事を書けばいいのだと思いましたが、資料がなにも残っていません。ですから思いつくまま現在までの剣道人生を振り返ってみたいと思います。

とりあえずは、「徳島の剣道」にざっと目を通させていただきました。随想欄、戦績欄また体験談など素晴らしい記事で記録誌としても啓発誌としても価値ある冊子だと感心しました。

随想欄に載っていた「ぼくは負けれん」という沖野友哉君の作文にでてくる徳島弁には、思わず頬が緩み、六十数年前の池田での生活を懐かしく思いださせてくれました。沖野君にはこれからも自分自身をさらに鍛え、立派な剣士に育ってほしいと思います。私としては、三十二号の「ふるさとトーク」に掲載されている内田さんや大石さんのように掲載出来るような立派な経歴も戦績もありませんので、唯々、懐かしく、断片的ですが当時をしのんでみたいと思います。

### 剣道との出会い

剣道が戦後復活したのは、確か、サンフランシスコ平和条約が発効した昭和二十七年頃のことだと思います。それまで陰で耐え忍んでいた、剣道愛好家達が全国各地で立ち上がり、勇躍、竹刀を振るようになったのだと思います。私の生まれた池田町でもこの頃、数人で剣道を始めており、丁度、私が中学一年生か二年生の時（昭和三十年頃）だったと思いますが、山田という先輩が「剣道せえへんか？」と言って友人たちを勧誘しているところに

出くわしました。チャンバラ大好き人間でありました私は躊躇なく「僕もしたい。カンマンデ！」と聞きますと「おお、おお、カンマン、カンマン。」と言って許可してくれ、早速警察の道場で稽古らしきものを始めました。

歳をとると（現在七五歳）昔のことはほとんど忘れてしまっていますのに、（昨日の事も忘れていますが…？）とところどころ、鮮明に甦ってくるシーンがありますので不思議です。この入部のお願いをしたシーンもその一つです。そんな鮮明な映像が浮かんでくるものを頼りに少しずつ思い出してみます。

## 中学・高校時代

警察署では、何人かの池田町在住の剣道経験者たちが稽古をしていました。その中に、中山某というおじいさん（？）がいました。面を打っていくと出小手を打たれるのです。いま思いますが決していい小手ではないのですが、「うまくいった」というような感じで満足されていたように思いました。それはいいのですが、その小手が痛いのです。それでその先生にかかっていくときは、小手に要注意と言いついていたような記憶もあります。

中学校に剣道部ができましたが、先生は、頭師先生と言いました。後に、池田中学校の校長先生になられた人でした。あまり長く指導いただけませんでした。頭師先生は、気合いっぱいの先生でした。今、振り返ってみますと、どうも私の剣道は、この先生の影響を多分に受けているような気がします。

中学三年生のとき、徳島市で中学生の県大会があり優勝し、確か、ライオンのマークのあるメダルをもらいました。その時の優勝戦も鮮明に覚えています。コーチは、高橋先生でした。

優勝戦の時、先生が「あれは、つばぜり合いのとき、相手の竹刀をグウと下に押し下げて、上がったところを引き胴を打つてくるから気をつけよ！」とアドバイスをいただきました。（丁度、今の、『木刀による剣道基本技稽古法』四本目と同じ技です。）それならと、私は、反対にその技を相手にかけて、見事に引き胴を決め勝つたような記憶があります。

池田高校時代からはある程度記憶が鮮明になってきますが、恩師は、国金唯義先生でした。私の同級生に国金義典君がおりますが、高校のときには剣道をやっておらず、東京教育大学に入学してから本格的に剣道を学んだ人で、卒業後は高松一高の教師をしております。現在、体調を崩し、竹刀を置いていますが、今もまだ交流があります。その君のお父さんが唯義先生です。先生は、書道の先生でもあり高校では、書道も教えて頂きました。この頃は本格的な剣道部という感じでした。中尾正輝君はこの頃一緒に稽古した仲間です。

国金先生には、書道の時間に、「宮本武蔵は、独行道という本の中で『我、事において後悔せず。』と書いてあるが後悔せずと書くということは、武蔵も又、後悔していたということだ。」と教えて頂き、なるほどそういう見方、とり方もあるのだと感心した記憶があります。



高校での戦績は、あまりありませんが、各県から四校ずつ出て覇を競う四国大会というのがあり、これに出場させていただいた記憶があります。確か二回戦で小豆島の太田友康先生にあたり、担ぎ面（この頃は、担ぎ面が得意でほとんど担ぎ面で勝っていました。）にいこうとする端を見事に小手を切られ、二本目も全く同じ状態で小手を切られ、負けてしまいました。その時の太田先生のキラキラ輝く綺麗な目が今も私の脳裏に焼き付いています。そして、同時に、このような技では相手に読まれてしまいダメなのだと反省し、それから担ぎ技はほとんどやらなくなりました。

また、徳島農業高校には下村先生がおられました。ある時、先生が池田に指導に見えられたことがありました。その時、先生に飛び込み胴を打ったところ、それが見事に決まり、先生からほめてもらったことがあります、うれしい記憶となっています。

脇町高校には滝下先生がおられ、時折、稽古をつけて頂きました。大阪府剣道連盟常任理事の井口昭則先生も同じ脇高の出身です。私も昨年まで四年間専務理事をしておりました関係上井口先生とは一緒に大阪府剣道連盟の仕事をして頂いたのですが、井口先生が脇町高校出身と知り、びっくり。本当に懐かしく、又、急速に何十年来の知己に出会えたように感じました。同県人のDNAのなせる業でしょうか。同級生には、岡山県剣道連盟会長の山本晋一郎君などいます。山本君を頼りに岡山県に合宿に行ったり、理事長をされていたのが松井明先生で、脇町高校の出身と知り、これもまた、DNAの引き合わせだ。ありがたいことだ。

また稽古をつけてもらおうと楽しみにしておりましたのに、故人になってしまわれ、寂しい気分になっています。いずれにいたしましても、故郷を離れ、他府県で生活をするようになりますと、徳島県と聞くだけで、急速に関係が縮まります。

二年先輩には、現在、全剣連の東日本資料編集委員長をされている筑波大学名誉教授の入江康平さんがいます。剣道から弓道に変更され、第一書房から「堂射く武道における歴史と思想」という七百ページを超える大作を出版されています。

### 昇段審査学科試験問題に思う

少し話が変わりますが、徳島の剣道（第三二号）二四六ページに「剣道・居合道昇段審査学科試験問題・解答例」が載せられています。初段の部では、①中段の構えで注意すること、②三つの間合い③基本打突や技の稽古で気をつけること等々が記載されています。全日本の立場としては、全国共通のレベルが必要ですので、こうした試験問題に統一して実施せざるをえないものと思います。私が初段を受験したのは高校一年生の時でしたが、このような統一されたものはなかったのだと思います。試験問題は、「幕末の剣豪十人あげよ」というようなユニークな問題でした。千葉周作、斎藤弥九郎、桃井春蔵など江戸三大道場主はすぐに書けました。次には赤胴鈴之助に出てくる、島田寅之助、「心、正しからざれば、剣又正しからず」などと言ってチャンバラをしていましたので、すぐ出てきます。その次には幕府講武所師範役の

榊原健吉、ここまで書いてハタと困りました。あとが思い浮かびません。思い出したのは新選組です。近藤勇、土方歳三、沖田総司とそして桂小五郎、あと一人、本当に困ってしまつて、平手造酒などと書きました。審査員の先生も吹き出したことだろうと思います。今なら、山岡鉄舟の師、浅利又七郎、勝海舟、江戸大道場の伊庭軍兵衛などが書けたかなと思います。

いずれにせよ、剣道術理の問題は必要課題だと思いますが、各都道府県独自の問題を選択肢として挙げて面白いのにと思っています。剣道の歴史とか、偉人伝とか、有名人の座右の銘あるいは剣道に関する四字熟語等々人生岐路に立った時、役立つフレーズなどを加えてみるのも剣道修行にとって必要なことではなからうかと考えているのですが…？

### 不思議なご縁に導かれて

最後になりましたが、ご縁の不思議とありがとうございました。お礼を述べ終わらせていただきます。池田高校を卒業後、関西大学に入学、すぐ、剣道部に入部。二年生の春に広島から久留米まで合宿に参加しましたが、そこで足をねんざしてしまい、稽古できなくなりました。冬に稽古再開と思っていましたら、盲腸炎で入院手術、又、稽古ができなくなり、大好きだった剣道をやめてしまいました。四年生になり学校の就職掲示板を見に行きましたところ、岸和田市役所の採用試験が目に入り、受験、合格となりました。岸和田市のことは、何も分からないまま就職。だんじり祭りが有名

であることも就職後に知りました。だんじり囃しは、太鼓、笛、鐘、勇壮な掛け声ですが、阿波踊りの音頭で育った私には同じようなリズム感でしたので、太鼓の音を聞くだけで体がムズムズと浮かれてきたことを思い出します。

岸和田市には岸和田城がありますが、その一角に「心技館」という立派な武道場があり、剣道、柔道、空手、居合の四道をやっていました。たまたま、覗いてみますと、それは立派な姿勢の先生が少年剣士の指導をされていました。西川克己先生です。西川先生の姿勢にうたれ剣道を再開することとなりました。ここでは、小森園正雄先生（範士九段）、川口湊先生、古谷福之助先生（いづれも範士八段）がおり、素晴らしい剣風をたたきこまれました。丁度、川口先生、古谷先生が八段受験を目指し、小森園先生にしがかれている頃でしたので、その壮絶な修行の状況を目の当たりにすることができました。

三年間のブランクも就職と共に解消し、今日までずっと続けてこられましたのも、岸和田という土地、人、仕事と言った環境にめぐり合わせて頂いたお陰です。地縁も血縁も何もありませんのに何故、岸和田市に來たのか不思議なのです。自分の計らい以外の何か大きな力で引き寄せられた気がしてなりません。そして大好きな剣道が続けられるこの不思議なご縁に感謝したいのです。ある時、楠見先生と言う岸和田高校で剣道を指導されていた先生から、扇子を頂きました。楠見先生とは年齢も離れており、特段のお付き合いもありませんのに、なぜ私に頂けたのか分からない

のですが、そこには「剣徳無窮」と揮毫されていました。その時以来、この言葉の意味が私の腹の奥底でぐんぐん拡がってくるのを感じています。剣道とは本当にありがたいものです。剣道を通じてどれだけ多くの知己を得たことか。どれだけ多くの教えをうけたことか。今の自分は、全く剣道により育てられたなあと思う感じがします。又、此度、全剣連から剣道有功賞を頂くこととなりました。どれほどの貢献もできておりませんのに、唯々、有難く感謝の言葉よりありません。そして、さらに又、今日こうして、ふるさと徳島とのご縁を頂くこととなり本当にうれしく感激しております。徳島の皆様の益々のご精武、ご隆昌をお祈りして「ふるさとトーク」とさせて頂きます。ありがとうございます。



## 特報Ⅲ 至誠館の閉館

### 閉館のご挨拶

徳島至誠館副館長 中山 繁 輝

平成三年十二月、阿南市羽ノ浦町に開館致しました徳島至誠館も諸般の事情により、平成二十八年三月をもちまして閉館致すこととなりました。

二十四年の永きに亘り、ご指導ご支援を頂きました県剣道連盟の先生方、また、少年大会に参加させて頂きご指導いただきました、各剣道教室の先生方や保護者の皆様方に、心より厚くお礼申し上げます。

徳島至誠館は「至誠、天に通ず」を道場訓とし、「目的は剣道を通して、心と体を鍛え、目標は優勝すること。」を指針としてやって参りました。

指導者は、館長・中山啓男他、二十三名。卒業生、百十三名。小学生の団体優勝は、二百十八回を数えます。

三月で小学生の指導は終了しましたが、四月からは新たに月二回、河田清実・臼木崇・武藏純郎・大城健作・大城幸子先生方を中心に中学生の指導が行われています。また、週一回、卒業生た

ちが集まり一般の稽古会も行われています。将来においてもこのような活動が続いていくことを願っています。  
最後になりましたが、徳島県剣道連盟の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。





徳島至誠館の稽古風景



# 閉館記念

平成28年3月13日



# 徳島至誠館

## 徳島至誠館の思い出

徳島市教育委員会教育長 石井 博



長年、徳島県内の少年剣道を牽引してきた徳島至誠館が、本年三月をもって閉館した。

優勝回数は二〇〇回を超えるなど、数々の素晴らしい業績は、ここにご紹介するまでもなく、積み上げてこられた歴史・伝統は錬心館・光武館などと並び、徳島県剣道界の大黒柱として君臨した。

徳島至誠館は、二十四年前に中山啓男先生が教員を退職され、阿南市羽ノ浦町に、青少年の健全育成や剣道後進県である徳島県のレベルアップを目指して開かれた。副館長は、文理中学校教諭の中山繁輝先生で、親子で熱心に指導を続けてこられた。

開館当初、稽古に参加させていただく時に、小学校三年生になる私の娘も見学に来て行った。中山先生親子の剣道にかける熱い思いに感化されたのか、「剣道をしたい」と希望し入館させていただいた。

風邪をひき、三八度の熱を出していた時も、練習の見学だけほしいと熱望し、親として迷いながら道場に連れて行った。道場に着き、館長から「真美ちゃん、よくきたなあ。いつもよく頑張ってるなあ」と暖かい声をかけられた途端、「練習するから」と言っ

て素振りを始めた。徳島至誠館道場の持つ、高みを目指す真摯な雰囲気は、どんどん子ども達のやる気を引き出し、可能性を伸ばしていった。

私は、当時、徳島市内の中学校に勤務していたが、一年後に僻地への異動になり、娘の送り迎えが難しくなった。ただ、娘の剣道が続けたいと熱望する思いと、徳島至誠館でかけがえのない体験や勉強をさせていただいていることを思えば、なんとしても自身が送迎し、この流れを継続したいと決意した。

勤務地での宿泊地から、徳島至誠館まで約七〇キロ。勤務を終え、徳島の自宅に帰り、娘を車に乗せて週三回、徳島至誠館に通わせていただいた。

娘の成長を見るにつけ、この選択は正しかったと確信している。また、何よりも私自身が、教師として仕事を続けていく上で、中山館長、副館長から、常に指導者が真摯に子ども達に向き合うこと、良いところを見つけ褒める・認める、指導者も子どもと共に研鑽していく、など多くの大切なことを学んだ。

私自身、現在、徳島市教育委員会教育長として勤務させていた中で、徳島至誠館で学ばせていただいたことが、基盤となっている。道場訓の「至誠通天」は、道場で学んだ一人ひとりの子ども達の心の中で生き、人生訓となっていることだろう。もちろん、私自身も、生涯にわたって大切にしていこうと教訓である。

中山館長、副館長、お疲れさまでした。  
徳島至誠館ありがとう。



## 徳島至誠館の閉館に寄せて 徳島至誠館の思い出

阿南支部 河 田 清 実

徳島至誠館が二十五年の永きにわたり、県下のトップレベルの剣道場として活躍され、平成二十八年三月に惜しまれながら閉館されました。館長の中山啓男先生、副館長の繁輝先生、長い間本当に御苦労様でした。

私は至誠館が開館された一年目から娘がお世話になり、三人目の子供が卒業するまで、十年間御指導いただきました。

至誠館がスタートした頃は、伝統ある強豪チームがたくさんあり、なかなか勝たせてもらえず、館長、副館長、石井博先生と「早く優勝旗を飾りたいなあ」と遅くまで道場で話していたことを思い出します。そのためには左手をしっかりと利かせて、竹刀の先を鋭く振って強い打ちをさせることと引き技をしっかりと打たせようといった話を指導者でよくしました。そして、館長、副館長の熱く気迫のこもった指導で、優勝旗を飾るまで、そう長い時間はかかりませんでした。優勝旗がどんどん増え、飾る台が足りなくなり、県下のチームに「打倒至誠館」を目標にされるまでになりました。

至誠館の強さの源は何だと考えてみますと、一つ目は館長先生の温かく、心にしみる歯切れのよい訓示やお話しと、心配りや声

かけで、子供達だけでなく保護者の気持をしっかりと掴まれている事、二つ目は、道場の正面の壁に「人並みの稽古や勉強は、人並みの結果に終わる」と掲げられているように、繁輝先生の熱のこもった、粘り強い指導だと思います。子供達の元立ちに立つと、「もう一度、一步右」と言って太鼓のバチをなかなか離してもらえず、いつ終わってくれるのだろうと気持ち折れそうになるぐらい粘り強い御指導でした。

たくさんの思い出がありますが、その中で特に毎週木曜日は、互角稽古が中心で、一般の先生方も多く来られて、子供達との稽古の後で、十時過ぎまで、激しい稽古会をしていました。その後、道場で繁輝先生と玉田先生と日付けが変わるまで、剣道談義をした事を思い出します。又、社会人大会に出場し、大将の館長先生の試合で、場外に何度も出そうになり、ハラハラ、ドキドキしながら応援した事も懐かしい思い出です。

少年剣道教室としての至誠館は閉館しましたが、毎月の第一、第三の木曜日の午後八時三十分より一時間、至誠館の出身者を中心とした稽古会を実施しており、剣道場としての至誠館は活動を続けています。中山繁輝先生も、希望者があれば、参加して稽古してほしいと話されていましたので、希望する方が居れば参加されたらと思います。

最後になりましたが、数え上げれないほどの思い出と、子供達に対して、思いやりのある御指導をいただいた、館長の啓男先生と副館長の繁輝先生にお礼を申し上げますと共に、至誠館の出身

者が、剣道会で活躍されん事を祈念して、お礼に代えさせていただきます。



徳島至誠館開館 1周年記念 平成 4年11月 5日

## 徳島至誠館の思い出

富岡西高等学校 教諭 上 田 宏 司

中山啓男館長と繁輝副館長の情熱と信念で開館した徳島至誠館道場が二十五年あまりの長い歴史を刻んで閉館されました。館長、副館長、ご家族の皆様にご心よりお礼と感謝を申し上げます。

私の家から二km足らずのところに、徳島至誠館道場があります。今も前を通るたびに当時の楽しく暖かい思い出が懐かしく浮かんできます。

親子で至誠館の門をくぐりましたのが、平成十年十月の初めだったと思います。清原杯の準備会で繁輝副館長より「長男はいくつになったん。」「年長さんで、ちょうど良かった明日から連れてきて。」と半ば強制的にお誘いを受けて、当時全盛期の至誠館に入門させていただきました。それから、次男が小学校を卒業するまで十年近くお世話になり、楽しく充実した時間をいただきました。

至誠館道場は文字通り道場ですので、身も心も館長・副館長先生にお任せすればよいだろうと安易な気持ちでおりましたが、館長中心に当時は鎌田恵先生、河田清実先生、村井正志先生、曾根徳治先生、指導者全員が真剣に子ども達に立ち向かう姿を見て、すごい道場に入門したなと引き締まる思いをしたことが懐かしいです。稽古の折々にいただく啓男館長先生の温かく慈愛に満ちた教えや、お心遣いに親子共にとりこになりました。道場生はもちろ

ん保護者の心の中まで温かいものがしみ通るお話は、後に保護者間では啓男節と呼ばれていました。鎌田先生の挨拶を始めとした、あらゆる礼儀の徹底した指導、河田先生の基本重視の竹刀の先をしっかり振る指導、村井先生の勝負や稽古に対する厳しく粘り強い指導、また、常時ほとんどの保護者が道場につめかけ自分の子どもだけでなく、すべての子どもにも健康面や着装・礼儀などを厳しく温かい視線でバックアップしていた姿も忘れることはできません。

そして、二時間いっぱい子ども達を縦横無尽に動かし、子どもの可能性を最大限まで引き出す、合理的・情熱的な繁輝副館長の指導。特筆すべきは技術指導以外の教えでした。他人への無配慮は強く戒め、先輩道場生から後輩へのお世話を徹底させました。その指導は、道場生に思いやりを持たせ、自立心を育てました。こんなことがありました。あるとき、体調が悪い道場生がいたのか、道場にうんちが点々と落ちていました。保護者が「あっ」と思うより先に数人の道場生が何事もなかったように、ちり紙でささっと処理しました。まいりました。

子どもたちにも色々教わりました。厳しい稽古の前にも三十分程前からニコニコと嬉しそうに集まりだし、自然と打ち込み台をたたいたり、足捌きを始めていました。(好きこそものの上手なれ)。こんな技や練習はできないだろうと思っけていても、いつの間にか出来るようになっていく。(為せば成る・継続の大切さ)。他道場の子どもたちともお互いに仲良く切磋琢磨している。(交

剣知愛の精神)。帰りの車中では半眠り状態(粘り強さ・集中)。  
等々、子ども達を通じて何度もハッとさせられました。

また、館長は常々「至誠館はファミリー」というお考えで、剣道以外にも四季折々に親子のふれあいを計画して頂きました。夏の行事では水泳やバーベキュー、秋には釣り大会、冬にはクリスマス会、春には送別会、それから、各大会の反省会や祝勝会やカラオケ大会。各家族に自然に共通の話題や会話が増え、子育ての一番大事な時を有意義な時間と思い出で埋めることが出来ました。楽しい思い出ばかりが頭をよぎり、とりとめのない文章になってしまいました。やはり、閉館という寂しさをぬぐうことは出来ません。けれども、私たちはこれからも機会あるごとに、至誠館の思い出や教えを何度も何度も反芻していくでしょう。そのたびに、徳島至誠館道場はそれぞれの心の中に復活しているのです。館長・副館長先生、ご家族の皆様と至誠館に集い、学ばれたすべの方々の、今後ますますのご健康とご多幸をお祈りして、感謝と思ひ出の文章とさせて頂きます。



## 平成二十八年年度 顕彰一覽

### 剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

#### ○ 中 村 稔 裕 (徳島県剣道連盟審議員)

昭和三十一年に剣道を始め、その後刑務官を拝命し、職場での剣道指導・育成に努め、刑務官の職務執行能力の向上に尽力したほか、地域では少年剣道教室の指導者として少年剣士の指導育成にも情熱を注ぎ、地域社会に大きく貢献している。

また、平成三年から本剣道連盟理事となり、その後、常任理事、徳島支部長を経て平成二十七年から剣道連盟審議員に就任し、本県連盟の発展に大きく寄与している。

### 少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

#### ○ 上浦剣道教室

昭和五十四年に設立され、現在まで三十七年間の長きにわたり、基本に忠実で将来につながる剣道を目指して少年剣士の指導育成に尽力している。少子化の進む中、指導者と保護者が一体となって会員獲得にも努め、少年剣士達は生き生きと稽古に参加するなど、地域の剣道発展に大きく寄与している。

#### ○ 山城町剣道修練クラブ

昭和五十一年に設立され、四十一年間にわたり青少年の剣道育成に尽力してきた。県西部の秘境とも言われる山間部に位置し、少子化によりクラブ員が激減する時期もあったが、熱心な指導者や地域の支えもあり、その危機を乗り越え現在クラブ員は小学生だけで二十人を超え活発に活動にとりくんでいる。

### 体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

#### ○ 美 馬 勝 行 (徳島県剣道連盟審議員)

長年に亘り、剣道連盟評議員、常任理事を経て現在剣道連盟審議員を努め、連盟の会員や少年剣士の指導育成に尽力している。また現在は高齢剣友会の理事長としても活躍し、高齢者の剣道普及発展にも多大な貢献をしている。

#### ○ 柴 田 宗 忠 (徳島県剣道連盟理事)

美馬市体育協会からの推薦により受賞

### スポーツ優秀者表彰 (徳島県体育協会)

#### ○ 大 石 洋 史 (徳島文理中学校教諭)

平成二十八年八月九日に沖縄県立武道館で開催された第五十八回全国教職員剣道大会における個人戦(幼・義務教育の部)において、見事優勝している。

平成二十八年十一月三日、東京の日本武道館において開催され

た第六十四回全日本剣道選手権大会において徳島県代表として出場し、第五位（ベスト八・優秀選手賞）に入賞する優秀な成績を収めた。

### 全国郵政剣道大会優勝

○敦賀 晋平（上勝郵便局長）

平成二十八年九月二十四日に東京武道館で開催された第五十八回全国郵政剣道大会における個人戦（参加者百三十九名）において、見事優勝している。また、四国郵政チームとして出場した団体戦においても、先鋒として活躍し、団体三位入賞に大きく貢献した。

### お通杯宮本武蔵顕彰女子剣道大会優勝

○平野 千尋（警察支部）

平成二十八年十月二十三日に岡山県立武蔵武道館で開催された第十五回お通杯宮本武蔵顕彰女子剣道大会における個人戦（参加者百三十九名）において、見事優勝している。



## 剣道有功賞

### 有功賞を拝受して

審議員 中村 稔 裕



この度、全日本剣道連盟から剣道有功賞を拝受し大変恐縮しております。これも三木会長様を始め役員の方、そして多くの剣友の皆様方の御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

私は、十四才の時（中学二年生）初めて竹刀を握りました。以来仕事の都合・病気等で十六年間のブランクがあったものの、あしかけ四十五年間剣道に携わって参りました。今静かに振り返ってみますと、今日の基礎は中学・高校生時代に築かれたと思っております。

昭和三十一年四月、高浦中学校二年生の時、剣道部発足と同時に第一期生として十九名の者と一緒に入部しました。しかし、剣道部が発足したものの、剣道具がない、稽古場所がないとないものづくめでした。顧問の高橋静男先生の御尽力により、保護者の協力を得て九名が剣道具を購入したものの、十名が購入出来ず退部してしまいました。志を一つに団結した部員が離別するという

悲しい体験をしました。ちなみに当時の剣道具の値段はサラリーマンの給与一ヶ月分であり、保護者にも大変な負担になったのも事実です。

いざ稽古となり、校庭で運動靴をはき土の上での稽古をしていました。その後、地元で武道館を開設していた久武館々長久保勇先生の格別の御配慮により、中学校から約1km離れた久武館道場で部活することになりました。最初は久保、高橋両先の指導でしたが、やがて、剣道の経験がある国語・体育・英語・美術・音楽の先生方が共に指導して下さる事になりました。英語の先生は（陸軍三段と自認）左片手面が得意で容赦なく半面を打ってきました。国語の先生は面の打突後送り足が遅いと竹刀を生徒の首の後にかけ「それいけ！」と力まかせに振りまわされ、何回となく道場に投げ飛ばされました。どの先生も荒々しい稽古で手・足は豆だらけ、ヨードチンキを塗り激痛に耐えたのも思い出の一つです。

中学二年秋、県下大会に名西郡代表で出場しました。当時中学、高校生には剣道大会が認められておらず「撓しな競技」でした服装は白の体操服上下、道具はフェンシングの道具そのものでした。竹刀は全長の先から三分の一が三十二本、次の三分の一が十六本、次の三分の一が八本に割られ、刃部には革の袋がかぶせてある袋竹刀でした。試合方法も三本勝負でなく、一定時間内に有効打突の多い少ないで勝負を決めていました。この時の試合は、竹刀がガシャガシャと音をたて剣道とは程遠い試合でしたが、貴重な体

験の一つになっています。

中学三年になった昭和三十三年五月二十日付文部次官通知により「撓競技」と剣道の内容を整理統合し、名称を「学校剣道」として統一され、中学生以上の大会が剣道大会となり「撓競技」が姿を消すこととなりました。

高校は地元名西高校に進学しました。当時の名西高校は県下ベスト四以内の実力校でした。指導者は高瀬嘉十郎先生、乾寿夫先生の二人の他に、名西支部の重鎮である石井隆介・須見善富両範士先生をはじめ、松島隆・遠藤英雄・久保勇・野口直之の先生方がいつも顔を出され、名西支部の総力あげての指導をして頂きました。稽古内容は打込みと地稽古のみでへろへろに疲れると「一本勝負」となる訳で、頭の中は何の雑念もなく「必至」の二文字でした。

高瀬先生は日本体育学校（現日本体育大学）の出身、乾先生は陸士出身で二人共に恐ろしい程の気迫でした。高瀬先生は元陸軍大尉で生徒のしつけ面でも厳しい先生でした。しかし、稽古の厳しい中にもユーモアもありました。高瀬先生はいつも左諸手上段をとられ「わしの甲手がとれるかい」と面金の奥でニコッと笑顔を見せられたり、快心の片手面が決まると「陸軍大尉高瀬嘉十郎これにあり」とそり返ってみせたり、稽古終了、後上半身裸体となり「エイエイサッサーエイサッサー」と大声で上体を大きくゆさぶり日体大のエイサーを見せ、生徒の気分転換を図ってくれました。

中学・高校生学生時代はただがむしゃらに稽古をしたこと、そして最高の指導者に恵まれたこと、そして高二、高三と県下大会完全制覇することで先生方に御恩返しが出来たことが私の大きな財産となっています。

今度私が次世代の人のお世話をする時だと思い、力の限り頑張ります。今回は本当にありがとうございました。





## 少年剣道教育奨励賞

### 少年剣道教育奨励賞を受賞して

山城町剣道修練クラブ 島 尾 眞 且



この度は全日本剣道連盟より少年剣道教育奨励賞を受賞し、山城町剣道修練クラブの指導者及び関係者、部員一同喜びに包まれております。

折しも、当クラブは今年で創立四十周年の記念すべき年となり二重の喜びでございます。

山城町剣道修練クラブは、今は亡き東岡清文先生が皆に呼びかけ、山城中学体育館下のウナギ筒のような所で、保護者が土台部分に板を張り、道場として始めたのが最初です。はじめは三、四人程度でしたが、一人増え、二人増えと地域の人の協力もあり剣道教室として発足しました。しかし、人数が増えても狭い稽古場は変わらず、稽古中にコンクリートの壁に頭が当たってケガをする子が出たりすることもあり、壁に板を張ってしのいでいたと聞いております。

その後、山城小学校体育館建設計画が浮上したのを機会に元保護者会長 高田 武さん、指導者・平田照男先生が教育委員会に

床下にバネを入れてほしい等の陳情に行きました。当初なかなか聞き入れてもらえず苦勞したそうですが、説得の甲斐があって良い環境で剣道が出来るようになったそうです。

小学校体育館完成と共に、平田先生が後を引き継ぎ、その指導内容は、基本を重点に、試合の勝負にこだわらず礼儀を重んじるもので、それらを山城町剣道修練クラブの目標として掲げ、稽古に励んだそうです。当初、試合に出ても負けてばかりではあったのですが、礼儀作法が身につけていく子供達の成長を見て、保護者からも次第に理解されていきました。

そして次に、山城町長に山城剣道場建設の必要性を訴え、最初は相手にされませんでした。何度か足を運ぶ内に理解を深めていただき、昭和六十二年山城中学校武道場完成にこぎ着けました。現在の武道場で稽古が出来るのも諸先輩のお陰と身にしみて有難く思う今日でございます。また現在でも、武道場床の痛みが激しくなり困っていると、元保護者である塗装会社社長・堀尾芳清さんが、自分の仕事を二の次にして、従業員と共に駆け付け、丸一日掛けて無償で修理してくださったりと、今もたくさんの方に山城町剣道修練クラブは支えられ、感謝の思いでいっぱいでございます。

また、当クラブ出身の子供達は大人に成長した今でも、竹刀を足で扱ってとても怒られた事や、それを他人のせいにして更に怒られた事、道場への出入りの際に礼を忘れて再度出入りし直していた事などをよく覚えており、感謝の気持ちや敬意を持って人と



接する事や、物や場所を大切に扱う事へと繋がっているそうです。  
現在クラブは小学生以下二十三名、中学生が六名で、稽古も毎週水曜、土曜の週二回行い、保護者との信頼関係も厚く又、合田秀實先生を先頭に七段が二名、六段が四名、五段二名、三段一名でとても充実しております。  
最後になりましたが、この度の受賞に当たり、ご推薦いただいた徳島県剣道連盟始めご指導頂いた諸先生方に心より感謝申し上げますと共にこの賞の主旨である剣道を通じての人造りのため精進する決意でございますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。



稽古風景



受賞記念撮影



# 体育功労賞

## 体育功労賞を受賞して

審議員 美馬勝行

平成二十八年度の徳島県体育協会表彰式が二月十一日、徳島グランヴィリオホテルにおいて行なわれ、県体育協会会長の飯泉知事から体育功労賞をいただきました。

この度の受賞に際しましては、剣道連盟をはじめ諸先生方のご指導、ご支援のお蔭であると、心より感謝いたしております。

それでは、受賞の喜びをかみしめながら、私の剣道人生を振り返ってみたいと思います。

### 一 剣道入門

私が剣道を始めた、昭和三十六年当時は、現在のように少年剣道が盛んでありませんでしたから、剣道入門は、高校生になってからでありました。それも自ら剣道を求めたものでなく、友達に誘われるままの入部であったのです。

今は亡き恩師、下村富夫先生の教えを受けて、三年の高校総体では大將戦を制して「優勝」、全国大会へのキップを手にすることができました。

剣道人生最初の、心に残る一戦でした。

### 二 警察剣道

高校卒業と同時に、剣道を続けたい一心で警察官となり、所轄署から特練への通い練習の後、憧れの機動隊に配属されました。当時、警察剣道師範をされていました堀江幸夫先生をはじめ、先輩の坂下彦之先生から指導を受けました。

警察では、主に四国管区警察剣道大会・全国警察剣道大会、大阪府警での合宿や他県警察への遠征などを通じて技を磨きました。思い出に残る試合としては次のものがあります。

#### 一 全日本剣道選手権大会

第十七回全日本剣道選手権大会に徳島県代表として出場し、一回戦はクリアしたものの、二回戦で神奈川県警の河野選手に秒殺同然の負けを期し、勝負の深さを思い知らされました。

しかし、この敗戦は勝負に対する私への大きな教訓となりました。それは「我上位なりの心構え」、「執念」、「闘争心」などを身に着ける必要性を痛感したことでした。

#### 二 国民体育大会

国体には四回出場し、最後の四回目は平成四年十月に徳島県で開催された第四十八回国民体育大会でした。

先鋒 飯田栄一 次鋒 平野誠司 中堅 近藤 巨

副将 美馬勝行 大將 大澤讓二

のメンバーで出場して、なんとか第三位に入賞でき、開催県の

面目を果たすことができたのです。

特に、三位決定戦での副将戦は、チームの勝敗を決定する一戦で、相手の東京チームの副将は、身長が一八五センチの巨漢、警視庁の鬼と言われた梯選手で、私はもとより、誰もが「これで勝負有りか」と、諦めムードになったと思います。

ところが、「剣道の神様」がいたんです。

面を先取されたものの、二回も床に倒されながら、小手を連取することができました。負けて元々、捨て身の勝利でした。

どうにか副将の面目を果たして、最も頼りになる、大将の澤先生にバトンタッチ。先生は、選手や応援団の期待通り、見事、大将戦を制して、三位入賞を手にすることができました。

私にとっては、心に残る大一番でありました。

ちなみに、このとき三人制の二部で、

先鋒 玉田晋作 中堅 鈴木伸一 大将 那倉文夫

のメンバーで栄えある「優勝」を手にし、徳島県を剣道総合優勝へと導きました。

### 三 高齢剣友会

高齢剣はこれまでやってきた剣道の総仕上げの場であると思っています。

生涯剣道の最終段階で闘争心から解放され、結果を求めず、求められず、マイペースで健康維持を図りながら、剣道を楽しんでいます。

### 四 少年剣道の指導

北井上剣道教室での専属指導歴は、警察退職後から現在までの十一年になりますが、私は特に手の内の効いた切れのある見本を分解して見せることに指導の重点をおき、少年剣士が見本を目標に習い・修得できるようにするため、常に自分自身の修練と技を磨くことに意を配しているところです。

### 五 現在の目標

今私は、自分の体形、年齢、技量等々を考えると面の打突方法・相手の技の見切りについて再勉強しています。

○ 面の打ち方

腕始動と腰始動の使い分け・左手の送り・右足と左足の関係などを自宅の打込み台で勉強していますが、面打ちの征服には奥が深く、なかなかのこと。

○ 相手の打突の見切り

相手の打ちだす技を、いかに捌くかを「技を見切る」とことあわせて常に問題意識をもって取り組んでいるところです。

以上、これまで私の剣道を思いつくまま振り返ってまいりましたが、未だ開眼せずの状態です。

最後になりましたが、この度の受賞に際し、飯泉知事から二〇九人の受賞者ひとり一人に「本日は誠におめでとうございます」と直接に言葉を掛けていただき、受け取った表彰盾の重みを噛み

しめながら、七十一歳となった今、残り少ない剣道人生、私に何  
ができるかを、しっかりと考えながら、お礼の言葉にしたいと思  
います。

ありがとうございました。



# 全国教職員大会

## 全国教職員剣道大会に臨んで

徳島文理中・高等学校教諭 大石 洋史



美しい海、豊かな自然をもつ沖繩県で第五十八回全国教職員剣道大会が開催されました。私は団体戦と個人戦に出場し、幼・義務教育の部で個人優勝という結果を残させて頂きました。これも大学を卒業後七年間在籍し、ご指導頂いた山口県剣道連盟の先生方、また今年度よりお世話になっている徳島県剣道連盟の先生方のご指導のおかげだと深く感謝しております。

今年度より職場が変わる節目となった年であり、そこで結果を残せたことは非常に嬉しく思います。今までは何か実績を残さなければいけないというあせりから、負けたくない気持ちが先行してしまい、それが構えの崩れや心の崩れ、迷いへと繋がっていたように思います。

教員大会直前に、国体チームの京都遠征と一緒に参加させて頂きました。そこで平野誠司先生より、「勝負する覚悟が出来ていない。」という指導を頂きました。この言葉は大阪体育大学

卒業後、恩師の作道正夫先生から再会する度に言われていた言葉でした。この時、その言葉がスッと自分の中に入っていききました。大会本番では覚悟を持った完璧な試合内容とはほど遠いですが、無心で捨てきった技を何試合か出すことができ、久しぶりに自分らしい剣道が出来たと思います。特に個人戦の決勝では、相手が胸に変化する瞬間を面にとらえることができ、良い技を決勝で出せたことは自信になりました。

また団体戦では準々決勝で代表戦の末、東京都に惜敗しました。非常に悔しい負けでしたが、他県の先生方から徳島県は強いという言葉や評価を頂きました。来年こそは必ず団体優勝を勝ち取りたいと思います。

今後も教員という立場を常に頭に置き、また剣道人としても周りの範となる人物を目指していきたいと思っています。そして、周りへの感謝する気持ちを忘れることなく、生徒と共に精進してまいります。

### 試合結果

一回戦	メ	山下(京都府)
二回戦	メ延	鶴田(鹿児島県)
三回戦	コ	木野内(埼玉県)
準々決勝	メ	千葉(北海道)
準決勝	コメ	対馬(滋賀県)
決勝	メ	渡邊(岩手県)

# 全国郵政大会

## 全国制覇（郵政）清原先生、やりました！

上勝郵便局長 敦賀 晋平



試合の報告に先立ちまして、何かおかしいと思う方がいたら申し訳ありません。ここに至るまでに非常に大きな決断がありました。一大決心ののち、一昨年警察官を退官しました。そして祖父や父親がやってきた日本郵政での仕事をするべく、現在、上勝郵便局において郵便局長として修業の日々を送っております。

今まで不思議に思われていた方には紙面をお借りしてお詫び申し上げます。もし、お近くにお越しの際は用事が無くてもぜひお立ち寄りください。というわけで、平成二十八年九月二十四日、東京武道館において行われました、第五十八回全国郵政剣道大会に出場させていただきました。郵政関係者であれば誰でも出場できるオープンな大会で全国から多数の参加者があります。団体戦は東北、関東、関西、中国、四国、九州など地域別、さらに本社、支社などの部署別から様々なチームが多数参加していました。また地域ごとの参加チームに制限がなく、多いと

ころは四チーム五チームと出してお祭りのような雰囲気もある非常に大きな大会で、初めて出場した私は規模の大きさと剣道に対する熱意に驚きました。

今回、団体戦は四国チームとして先鋒・敦賀（徳島）、次鋒・井出（愛媛）、中堅・切中（徳島）、副将・井口（高知）、大将・久保（徳島）のチームで出場しました。団体戦はリーグ戦で、勝ち上がれば決勝トーナメントです。私達は本社Aや関東Bなどのチームに勝ち、準決勝まで進み、最後は優勝した関東Aチームに一本差で敗れました。しかし、非常に良いチームワークで団体三位入賞という結果を残せました。また、四国チーム強し、実力が一番ではとの話も聞こえてきましたし、来年は優勝しようと思ひなで誓い合いました。団体戦ののちすぐに個人戦が始まります。出場人数一三九名という大きなトーナメント表、正直団体戦での疲れもありました。一戦一戦に疲労や緊張、目には見えないうプレッシャーに押しつぶされそうになります。しかしそのプレッシャー以上に、久しぶりに試合が出来る喜び、また勝ち上がるたびに応援してくれる皆さんの気持ちに乗って気づいたらここまできていたという感じでした。

決勝戦は関東の関選手（上段）で、ここまで来たらやるしかない、自分を解放して自由に技を出し、思い切ってやれたと思います。結果コテを連取し、優勝することが出来ました。正面に礼を終えた時、剣道をやってきてよかった、続けてよかった、これで応援してくれている人に少しは恩返しのできたのかなと思いま



した。

剣道は一对一で相手と対峙し、冷静沈着かつ丁寧な心から相手と向き合い、剣先でお互いの心と間合いを読み合いながら、時に大胆に攻め、自分を捨てて打ち込んだ先に結果があり、勝敗があると思います。今回の結果に驕らず良い経験として仕事にも活かせるようにしたいと思います。また今回郵政の試合に出場できたこと、またこのような舞台で試合出来たこと、四国、全国の郵政剣道家の皆さんと仲良くなれたこと等、大変貴重な経験と出会いがありました。

最後になりましたが、試合に際しサポートしてくれた家族（私よりも一日早く東京入り、ドイツニールランドで一日中楽しんだ嫁さんと子供たち、試合に間に合ってよかったです。来てくれたのもうこれ以上は言いません）、いろいろと応援してくださいました。剣友の皆さん、職場の皆様、指導をしてくださいました先生方（機動隊の後輩達は試合前と言ったのに全員がかかってくるまで、筋肉痛とマメをいただきました。）ありがとうございます。皆様方がこの結果を喜んでくれたことが何より嬉しかったです。来年、また本大会に出場し個人、団体共に全国優勝を勝ち取り、また笑顔で喜んでもらえるように精進致します。

小学五年生から阿南少年剣道教室で始めた剣道、当時は清原栄先生、有賀先生、北条先生、須藤先生が私たちに指導してくれていました。六年生の終り頃、清原先生が「敦賀君は日本一になれる。」と言ってくださったことを思い出します。今後も剣道とい

う道を自分なりにですが、求め続けます。本当にありがとうございます。



決勝戦 正面への礼



団体三位の四国郵政チーム



## お通杯大会

### お通杯個人優勝

警察支部 平野 千尋



十月二十三日、岡山県武蔵武道館において総務大臣賞争奪第十五回お通杯宮本武蔵顕彰女子剣道大会に出場しました。

この大会は、個人戦と団体戦の全てにおいて年齢別で行われます。個人戦は十八歳から二十九歳、三十から三十九歳、四十から四十九歳、五十から五十九歳、六十歳以上の部の五つに区切られ、全国各地から女性の剣道家が集まってきます。また、団体戦は三人制で行い、メンバーの合計年齢が一〇一歳以下、一〇一歳以上で分けられ、トーナメント戦で行います。

徳島県の女性剣士も毎年出場している大会となりますが、オーブン参加で出場する選手も様々であることから、思い切り自由に試合できる機会と捉えて、伸び伸びと技を出し切ることを心がけて臨みました。

また、一昨年から第三位、ベスト八と結果にも繋がっていたことから、今年こそはと強い気持ちをもって臨みました。ただ一つ、

他の大会と大きく違うのが、準決勝まで判定があるということです。判定でも勝てるということは、一本に近い技、すなわち積極的に勝負をして中で得られるものがあるということですので、判定を変に考えずに自分の剣道をやりきろうと気持ちを一つにまとめて臨みました。

試合当日は出場者が多いため、試合前のアップは満足に出来ません。今回も例年と同じように防具をつけて、十分足らずのアップで終了となりました。いつものことながら、試合までの時間の中で心と体を整えていくしかありません。私が出場する十八から二十九歳の部門では、一九二名の選手が参加しており、とにかく目の前の一つ一つの試合に集中して挑みました。この日は、特別に調子がいいことはなく、むしろ思うように動けないと感じていたのも、とにかく必死に気持ちを奮い立たせていたことを覚えています。相手を知ってる知らないに関わらず、全て自分のペースに持っていくことが一番です。そのためにも、先手先手の気持ちを欠かすことなく、苦しい時こそ自分のペースを貫く気持ちで戦いました。

気がつけば、次は準決勝です。試合は次々と進んでいたため、正直なところ体力的に厳しい状況でした。しかし、チャンスをものにしたいという気持ちから、集中力を高め一心不乱に戦いました。結果、最後の決勝戦まで、今回の課題とした一本に対する執着心を欠くことなく戦えたことにより、優勝へと繋げることが出来ました。



これまでの大会で優勝という経験は、学生時代の関西選手権優勝以来です。もちろん、何の大会でも同じですが優勝は一人だけです。限られたチャンスを確実にするために、一つ一つの試合に対して必死に挑戦することが大切であると思いました。

この度の優勝は、私自身にとっても大きな自信になりましたので、今後一つ一つの試合に対してももっともっと貪欲に挑戦したいと感じています。

この場をお借りして、日頃にお世話になっております先生方に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございます。



\*なお、母親の平野悦子選手は五十〜五十九歳の部で準優勝されています。

## 平成28年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	片岡俊人	徳島
2	熊橋知晃	徳島
3	井原拓己	徳島
4	高橋和也	徳島
5	後藤高志	那賀川
6	松山知樹	那賀川
7	齋幸佑	那賀川
8	飯田翔太	那賀川
9	小山田慎介	那賀川
10	河野寛之	那賀川
11	吉田晴哉	阿波
12	山添龍也	阿波
13	岩佐陸生	阿波
14	木村隼	阿波
15	一楽泰志	徳島文理
16	東内元気	徳島文理
17	中山颯大	徳島文理
18	中田洸輝	木頭
19	披田好誠	石井
20	三宅諄紀	脇町
21	末光春樹	北島
22	桂林太郎	小松島
23	炭元裕	鳴門第一

No.	女 子	学 校 名
1	檜田胡桃	那賀川
2	朝田萌香	那賀川
3	齋和佳奈	那賀川
4	馬見恵理子	那賀川
5	藤澤結菜	那賀川
6	藤原優	那賀川
7	藤田芽生	那賀川
8	青木風香	那賀川
9	堀内梨乃	那賀川
10	増井樺乃	阿南第一
11	桑村美妃	阿南第一
12	賀上沙由里	阿南第一
13	加美風花	阿南第一
14	村本歩美佳	石井
15	篠原若葉	石井
16	峰慶乃	石井
17	堀井乃々花	石井
18	千葉美波	鳴門第一
19	和田津凜紅	鳴門第一
20	高瀬桃	徳島
21	田村眞尋	小松島南
22	岡部晴奈	木頭
23	後藤玲香	江原
24	三笠志織	江原
25	岡本志織	城東

## 平成28年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	湯 浅 滉 平	阿 南 工
2	竹 森 阿 航	阿 南 工
3	富 田 涼 太	阿 南 工
4	松 本 和 暉	阿 南 工
5	福 田 大 貴	阿 南 工
6	鳴 川 了 介	城 北
7	美 馬 州 一	城 北
8	村 本 惠 太	城 北
9	山 田 健 太	城 北
10	高 瀬 陽 平	城ノ内
11	岸 本 大 希	城ノ内
12	木 原 奨 郷	城ノ内
13	高 砂 淳之介	城ノ内
14	川 田 航 大	富 岡 西
15	谷 本 真 宏	徳島文理
16	川 田 将 也	徳島文理
17	秋 田 修 平	徳 島 北
18	平 井 稜 一	徳 島 北
19	宮 川 弘 大	鳴 門
20	北 村 怜 暉	川 島

No.	女 子	学 校 名
1	丸 岡 由 理 奈	富 岡 東
2	福 崎 ひかり	富 岡 東
3	猪 野 明日香	富 岡 東
4	高 野 加 奈 子	富 岡 東
5	田 湊 南 帆	城 北
6	堤 綾 乃	城 北
7	太 田 あかり	城 北
8	東 條 愛 果	城 北
9	行 譜 巴 望	城 北
10	丸 山 純 弥	川 島
11	岩 崎 華 織	川 島
12	長谷川 瑞 実	富 岡 西
13	湯 浅 麻菜美	富 岡 西
14	石 田 貴 夕	富 岡 西

# 先生を偲ぶ

## 剣道範士 勝浦守先生を偲んで

川 田 武 志



勝浦守先生の突然の訃報を知ったのは、平成二十八年十一月二十七日で徳島県社会人剣道大会開催中の鳴門ソイジョイ武道館でした。勝浦先生はすでに十一月四日に他界され、十二月十八日に四十九日の法要を執り行うとのことでした。ご遺族の方は大きく派手にするのではなく、簡素で静かにお送りするのを望まれておられ、県剣道連盟三木会長のご計らいで四十九日の法要に、剣道関係の各代表者をもつてご焼香をさせていただきました。勝浦守先生のご冥福をお祈りさせて頂きました。

勝浦守先生は、大正七年五月六日に徳島市勝占町でお生まれになり、昭和十一年三月徳島県立徳島農業学校農業科を卒業されています。農学校時代は、剣道部に在籍し、当時農学校の剣道師範である松尾誠一先生より指導を受けておられます。その後、徳島農業学校剣道部助手を務められ、昭和十三年三月に徳農剣友会を創設されています。

昭和十四年一月から徳島歩兵四三連隊に入隊、直ぐ満州に派遣、タイ国進入・ビルマ各地の作戦に参加するなどし、昭和二十年八月終戦となりました。しかし、敗戦後直ぐ、ビルマ作戦における戦犯容疑で拘束（当時連隊副官）され、昭和二十二年三月二十三日によく戦犯容疑が解除、復員しました。

復員後は家業の農業兼種苗会社で、これらに従事しながら剣道を再開していました。先生は生死の境を生き抜き剣道という道を歩んでこれ、人生の最高の道であったと言っておりました。その後の剣道指導は、恩師高島永吉範士先生、竹原常雄先生、石井克太郎先生（武道専門学校卒）にお願いされたそうです。

そして、昭和二十四年三月、竹原常雄先生が私設剣道場「親道館」を創立され、竹原常雄館長をはじめ勝浦守先生、西野四郎先生が中心になり指導に当たられた。さらに高島永吉先生と石井克太郎先生が指導に加わり、数多くの剣士を育て、又、多くの指導者を育てられています。特に、高島永吉範士を岡山から本県にお迎えし、本県剣道界を全国レベルに発展させていただいたことでした。

勝浦守先生は、範士高島永吉先生を恩師と仰ぐのは、あの均整のとれたお体から醸し出される心技の捌きは、神業のようで何時も謙虚な中に素晴らしい指導力が温存されているように見受けられるからとおっしゃっています。高島永吉範士先生に、教えを乞うと「観て習え」とのことでした。勝浦守先生からは、先人、剣豪、先生方の遺訓や主眼は共通しており、これらはすべて修練の賜で

あると思ひ、老いてもなお強い「年輪の美」を熟す気構えで取り組み邁進する旨、力よく語っていた記憶があります。

戦後、教育改革に伴い、徳島農業学校が県立城西高等学校となり、さらに、昭和三十一年四月、県立徳島農業高等学校と改名されます。昭和三十年、昭和三十一年度の剣道部は、恩師下村富夫先生、山田仁先生が率いり、県下各種大会はもとより、四国、全国、国体等、常時上位に位置する強豪となり、後輩も先輩に負けずと努力しておりました。

その当時の卒業生は、各地域において少年剣道を指導し青少年の健全育成のため献身しています。このため、徳農剣道部の卒業生が指導している子供達に、剣道発展と普及のため剣道大会を開催すれば、なお一層の効果が現れるのではないかと、恩師下村・山田両先生に御指導いただき、剣道大会を実施することとなりました。剣道大会を開催するには組織を結成し、代表者を決めなければならず、徳農剣道同窓会を徳農剣友会に改名し、会長には、勝浦守先生になっていただきました。

昭和五十八年三月末、第一回徳農剣友会少年剣道錬成大会が、徳島農高体育館において開催の運びとなり、勝浦守会長の基に新旧の徳農剣友会会員が、一致団結し遂行した賜となりました。当時は、一高校の部活剣道部の卒業生のみで県下大会を開催すると云うことは、県下では過去に例がなく、マスコミに取り上げられ少年剣道の発展と普及に貢献しました。徳農剣友会大会の記念品として「手拭い」を作ることになり、大会長である勝浦守先生が

自ら直筆されました。先生は、戦争体験から教訓として、「世界平和」「人類平和」等書かれ、さらに剣人訓として「人は人 人は人並 人は武士」「一眼 二足 三心」との教訓を書かれました。先生御自身は昭和天覧試合の優勝者である望月正房先生から「百鍊自得」の書を頂き、自ら率先垂範し永く後進の指導に生かされています。

又、勝浦先生は、会員が中央審査において昇段合格すれば、その者に対し祝いとして竹刀を贈呈していただきました。毎年五月上旬に開催される全国武道演武大会（通称京都大会）に連続四十回以上出場するなど、自ら率先修行する姿は会員の範であり、多数の指導者を育成した功績は多大であります。

私は、勝浦守先生が体調を崩し療養中、毎年のように京都大会に参加しプログラム等大会資料を持ち帰り、先生に参加出場した結果報告を致しておりました。勝浦先生に、京都大会プログラムを差し出すと「おお、待っていた、これを見るのが楽しみじゃ」と笑みを浮かべすぐさま範士先生方の対戦相手の氏名をご覧になられて楽しんでおられました。

これからは、再び剣理に通暁し、成塾し識見卓越かつ人格徳操、高潔な先生の温顔に接することが出来ないと思うと、人間生別の悲しみを一人深く致します。この上は先生のお諭しをいつまでも胸に留めて、先生を偲ぶことと致します。先生のご冥福を改めてお祈り申し上げます。



### 勝浦守先生の主な経歴

昭和十一年三月 徳島県立徳島農業学校農業科卒業  
昭和三十五年～四十六年 徳島市立方上小学校PTA会長、  
内二ヶ年南部中学校PTA会長  
昭和二十三年～平成七年 徳農種苗(株)二代目代表取締役・現  
初代表取締役会長

### 勝浦守先生の主な剣歴

昭和十年・十二年 明治神宮全国青年剣道大会出場  
昭和十一年～十二年 徳島県立徳島農業学校剣道部助手  
武徳祭徳島支部大会個人、四国青年  
剣道団体優勝  
昭和十三年三月 大日本武徳会剣道四段、徳農剣友会  
創設委員  
昭和十五年 聯隊対抗剣術大会団体、聯隊軍旗祭  
個人優勝  
昭和二十五年 第三回全日本剣道選手権大会出場  
昭和二十五年 全国都道府県対抗剣道大会、国体剣  
道出場  
四国四県対抗剣道大会選手、監督出

場（優勝）

京都会大会（全国剣道祭）連続四十一

回出場

第十回全日本高齢者武道大会剣道A

組優勝（衆議院議長杯）

全日本高齢剣友会副会長

徳島県剣道連盟審議員長・顧問

徳島県高齢剣友会会長

徳農剣友会会長

財団法人全日本剣道連盟剣道範士号

受称

財団法人全日本剣道連盟剣道有功賞

受賞

平成九年十一月三日

平成七年五月八日

平成七年四月現在

昭和六十三年六月

## 勝浦先生を偲んで

徳島支部 忠 津 和 憲



徳島の剣聖、剣道範士勝浦守先生が平成二十八年十一月四日に亡くなられた

先生は徳島農業高校卒業後、昭和十四年一月から昭和二十年の終戦まで、タイ、ビルマ（現ミャンマー）で軍人として参戦し、大変ご苦労され、陸軍大尉までなられたと聞いております。

終戦後は徳島ビルマ会会長、勝占地区遺族後援会会長とお世話をされ、また仕事では、徳農種苗(株)代表取締役、初代取締役会長を歴任し、徳島の農業の発展に尽力されました。

先生の剣歴は、全国大会では昭和十年の明治神宮全国青少年剣道大会出場から始まり、全日本剣道選手権大会出場、全国都道府県大会団体出場、又、四国四県対抗剣道大会には選手および監督として優勝されておられます。京都大会においては連続四十一回出場と、輝かしい剣歴があります。また、ご高齢になられてからは、昭和六十三年六月全日本高齢者武道大会において、A組で個人優勝をされました。

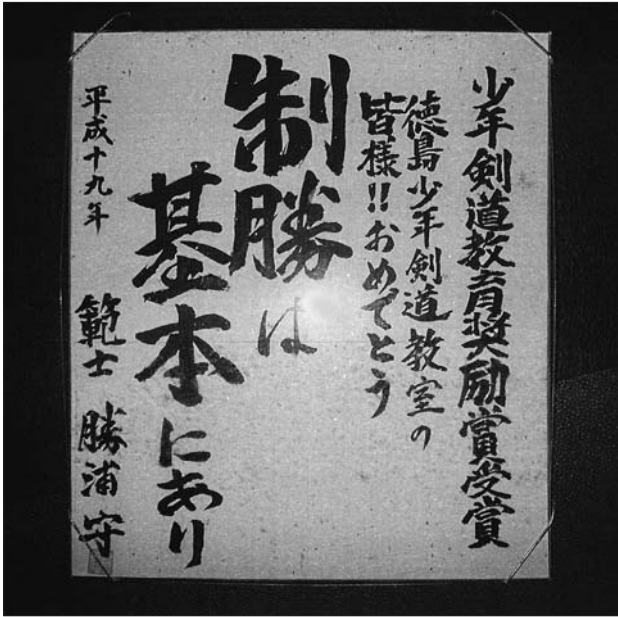
剣道の役職では、全国高齢者剣友会副会長、徳島県剣道連盟審議員長、徳島県高齢者剣友会会長と数多くの役職を務められ、剣道発展に御尽力されました。

私と先生との出会いは中学生の時です。竹刀の握り方も知らず、一からの始まりで、道場もなく運動場での素振り、教室の机を片付け、打ち込み稽古をしたことを思い出します。私が社会人になってからは、親道館（故範士竹原常雄館主）に來いと誘われ、道場には故範士石井克太郎先生、西野四郎先生もおいでになり指導を受けました。

先生は六十才を過ぎていたのに、竹原先生に掛かり稽古、打ち込み稽古をしていた姿が脳裏に焼き付いています。また、先生に稽古中に道場の隅まで攻められ、たまらず面を打とうとした一瞬に小手を打たれ、右手が痺れ、感覚がなくなつた事を忘れられません。稽古が終わり一緒に風呂にも入りました。風呂の中で『今日の打ちは、まあまあやなあ』と言ってくれるだけで、稽古のことは何も細かな指導はしてくれませんでした。今思えば自分で研究習得しろという事だったと思います。

親道館の稽古のないときは中央武道館で、徳島少年剣道教室でも子供達の指導をしておられました。現在は生田先生、磯部先生に引き継がれ脈々と続いています。少年教室が全日本剣道連盟より少年剣道教育奨励賞をいただいた時に、記念の色紙「制勝は基本に有り」を中央武道館の師範室に残されております。

私事ですが、八段審査受験の時に『生死のつもりで行って来い』と言われたのを思い出します。先生、ご指導頂き、有難うございました。ご冥福を心よりお祈り致します。



竹原常雄館長剣道範士号  
受称記念写真の勝浦守先生（前列より二人目）  
昭和55年 8月31日

## 勝浦守先生を偲んで

徳農城西剣友会 立川信彦



私が、勝浦先生の訃報に接したのは、平成二十八年十一月二十七日の事でした。十二月十八日に徳島県剣道連盟会長三木先生、徳農城西剣友会会長川田先生、徳島支部支部長磯部先生とともに勝浦先生のお宅で営まれた四十九日の法要に参列させていただきました。

先生は、大正七年五月六日に徳島市大谷町にお生まれになり、昭和十一年に徳島県立徳島農学校農業科を卒業されました。その後昭和十一年から十二年、母校の剣道部助手を務められ、四国青年剣道大会団体優勝を初めとして数々の大会に出場され、優秀な成績を収められました。昭和十三年に徳農剣友会の創設委員になられた後に昭和十四年からは、陸軍に入隊され、当時のビルマ（現在のミャンマー）に派遣されました。この地での悲惨な体験は後の先生の人を思いやる気持ちに大きく影響を与えたのではないかと推察します。

戦後の剣道禁止の後、昭和二十五年の剣道復興後、第三回全日本剣道選手権大会出場を皮切りに数々の大会に出場され、平成七年には全日本高齢剣友会副会長、徳島県剣道連盟審議員長、徳農剣友会会長にも就任されました。さらに財団法人全日本剣道連盟

より剣道範士号を受称されています。

思えば、勝浦先生との出会いは徳農城西剣友会主催の剣道大会でした。その大会には母校のOBが集まり、さらにその弟子たちが集う剣道大会でした。毎年三月の下旬に行われる大会は小学校一年生から出場でき、各剣道教室にとっては人気の高い大会の一つでありました。その大会に勝浦先生は私費を投じて賞を創設され、それぞれ小学生の団体、中学生男子の部、女子の部に優勝カップを寄贈していただき、その名前を勝浦杯と命名させていただきました。

私は数年間この大会の事務局でお手伝いをさせていただきました。その折りに大会の運営等について先生宅に相談にお邪魔したことが何度かありました。いつも温厚で優しいお人柄の先生でしたので、我々後輩にとっては親しみやすく時には先生のご厚意に遠慮無く甘えさせていただいたこともありました。先生は我々徳農城西剣友会の会員にとって雲の上の存在でありながら、我々と同じ目線に立ってくださり、後輩を思うお気持ちは誠に慈愛に満ちたお方でした。

大会の後に徳農城西剣友会の総会並びに懇親会があり、私は何度か先生の送迎をさせていただきました。その際にも先生は少しも偉ぶることなく私に対しても「ありがとう」や「申し訳ないなあ」とお言葉をかけてくださいました。立場が上であることにおごらず、対等に接することを旨とされた先生の人物の大きさに常日頃から頭が下がる思いでした。このような方であるからこそ皆



から慕われる存在であったのだと思います。  
 勝浦先生を初めとしたたくさんの方々が作られた徳農城西剣友会を引き継ぐためにも我々後輩はその趣旨を理解して今後ますます発展させて行く事が勝浦先生に対するご供養であると考えます。心より、ご冥福をお祈りいたします。



徳農剣友会総会 昭和58年 1月 8日



## 竹原実太郎先生を偲んで

徳島支部 親道館 矢 武 秀 生

親道館剣道場館主、竹原実太郎先生は、平成二十七年十二月十八日、九十歳にて肝細胞がんのためご逝去されました。在りし日の先生は、口数も少なく温厚なお方でありました。ご自身は経歴などほとんどお話になりませんが、お父様である竹原常雄先生(初代館長)が昭和二十三年二軒屋町に設立された有限会社丸共青果問屋(柑橘類の卸業)を若くして引き継がれ、昭和四十八年小松島市に移られた工場では、すだち、ゆず、ゆこう、やまもも等の果汁を材料とする製造メーカーへと事業を拡大されました。またその間、役員をされていた徳島市中央卸売市場の徳島青果株式会社では、昭和四十五年から二十年間、専務取締役として手腕を発揮され、徳島県剣道連盟では理事としてご尽力をなさいました。



ありし日の竹原先生

若かりし頃の剣道でのご活躍は数多くの表彰状が物語ります。三十歳代には、山田新六郎、長岡淳一、勝浦守、西野四郎の各先生方と、親道館また徳島東支部

としてチームを組まれ、県下剣道大会で優勝・準優勝を重ねられ、居合道も四段を取得、昭和三十三年の第十三回徳島県体育祭剣道五段選手権においては優勝なされ、二年後には六段を取得されています。その後も、個人戦また団体戦で上位入賞を続けられましたが、ある時、社業の関係からか剣道を中断されました。

道場は常雄先生(範士)の指導のもと時は流れ、古参となられた西野先生と勝浦先生を筆頭に、忠津先生はじめ私ども十数名がひしめき合い汗を流しました。

常雄先生が九十歳にならんとする時、ドクターストップがかかったことから、平成四年に休館とされ、私どもは親道館剣道継承会と称し武道館に通いました。数年後、実太郎先生は青少年の育成を目的とし道場を再開され、ご多忙中、充実した日々を過ごされました。ところがある時期、難病である大腿骨頭壊死症(大腿の骨頭が壊死する病)を発症し、年と共に次第に悪化、平成十一年には人工骨頭に置き換える大手術を受けられました。体調も回復された頃、糸田川先生よりお誘いを受け、私も指導に加わりました。勝負稽古では、不自由なお身体ながら、若いころ習得された得意技であろう、体を左に開く出鼻の小手は見事でありました。常雄先生が百三歳でご逝去された頃、杖を使われるようになられた先生は再手術を希望。徳島の医療機関では受け手が無いことから、平成二十年大阪にて二度目の大手術を受けられました。長い入院から帰られたのち、リハビリを続け、竹刀を握られました。が、金属である骨頭は冬場痛みが出るとのこと、次第に稽古は困

難となりました。それでも稽古日には急な階段を手摺をつかみながらゆっくりと道場に上ってこられ、道着をはおられ、肘付椅子にお座りになり、時に竹刀を手に指導をされました。

道場での先生は、常に温和な表情で子供たちの指導に当たられ、私どもが厳しく指導するも「興味を持たせ。続けさせることが一番：」とよく話されたものです。

夏場の夕刻、道場に入ると窓際に道着が干され、その脇には竹刀が立てかけてあり、打ち込み台も移動してることがよくありました。不自由な身体が齒がゆく、お一人で打ち込みをされていたことは容易に推察できました。生涯剣道を貫くに、憎むべきは病でした。

近年、先生が肝がんを患っておられたことは私にも知らされていませんでした。幾度か入院なされ見舞いにも参りましたが、ご本人に告知がなかったのか、病状を聞くにも「たいしたことないわ：」とおっしゃっていました。何よりご自身の頭には「死」という文字はなく、「父親同様に百歳を超えて生きれる」という思いが強かったようで、一度も弱音を聞いたことがありません。実際、がっちりとした体格は病人とも思えず、顔色もよく十歳以上若く見えたものです。

葬儀には諸先生方のお見送りを頂きました。ご子息の英介様のお話しでも、「本人は父親ぐらいは生きるといのが口癖だった」とのことでした。

お別れして早くも一年が過ぎました。ご愛用された剣道具は先

生方にもらっていたいただき、お座りになられた肘付回転椅子が道場の窓際に残されています。練習風景をご覧になっていることでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。



道場を再開した頃

## 恩師高橋憲司先生との思い出

居合道部 満 壽 良 史



平成二十七年三月、兄弟子の斉藤吉明さんから高橋先生が亡くなられたとの連絡があり、衝撃を受けました。すぐに斉藤さんと高橋先生のお宅を訪問し、奥様から亡くなられるまでの状況についてお話を伺いました。高橋先生が脳梗塞で倒れられてからは、稽古をつけていただくこともなく、ご無沙汰していたため、それほど悪くなっていたとは全く知りませんでした。

先生と初めてお会いしたのは、昭和六十一年の夏でした。当時、徳島中央公園東北隅にあった旧県立武道館前の植え込みに設置されていた看板で居合道の練習日を知った私は、旧武道館を訪ねました。旧武道館では、毎週月曜日の夜、県内各地の道場から先生方が集まって稽古をされていました。そこで、最初にお会いしたのが高橋先生でした。

旧武道館での稽古には毎週参加していましたが、週一回の稽古では物足りず、どこか教えていただけるところはないかと前田健志先生にご相談したところ、「満壽さんは家が上板町だから石井町の高橋先生の道場が近くていいのではないか」と勧めてくださいました。高橋先生にお願いすると快くお引き受けいただき、土曜

日の夜に初歩から教えていただくようになりましたが、その頃は高橋先生に弟子入りしたとの自覚は全くありませんでした。

しばらくして、先生から高知居合道大会に行かないかと誘われ、先生の師匠であった故澤田友信居合道範士のご自宅を訪問し、高橋先生から「弟子の満壽です」と紹介されて初めて、「高橋先生の弟子になっていたのか」と思ったものです。

以来、香川大会や宇和島大会、別府大会や金刀比羅宮の奉納居合、四国四県の持ち回りで開催されるようになった合同稽古会など各地方大会や講習会には先生のお供をさせていただきました。入門当初、高橋先生の弟子は斉藤さんと私の二人だけでしたので、大会等に出かけるときは三人、斉藤さんが都合で行けないときは先生と二人きりで行くことも少なくありませんでした。各地の大会で度々優勝されていた斉藤さんと違い、刀は振っても、成績は全く振るわなかった私でしたが、先生と一緒に各地に出かけ、道中、いろんなお話を伺うことが楽しみでした。

かつて高橋先生は紹介状を持たずに澤田先生をいきなり訪ね、入門を断られたこと、入門を許されてからは弁当を二食分持ち、始発の汽車に乗って澤田先生のもとに通われたこと、さらには、大会前夜の懇親会で飲み過ぎ、試合に出られなかった失敗談まで聞かせてくださいました。

道場での稽古も、土曜日に加えて水曜日の夜も行われるようになりましたが、水曜日の稽古は、自宅が遠い斉藤さんはあまり来られなかったので、ほとんどマンツーマンで行われました。稽古



は深夜に及ぶことも多く、日付が変わっているのにも気づかず、稽古をつけていただいたこともありました。

先生は、体調がよくないときでも、私が訪ねて行くと道場の壁に寄りかかるようにしながら、稽古を見て下さいました。

居合道に人一倍の情熱を持って取り組みまれ、澤田先生から学んだ古流をととても大切にされてきました。

また、居合を学ぶ者の気構えとして次のような話をしてくださいました。「いくら立派な柄杓でも底の抜けた桶に水を溜めることはできないが、桶さえしっかりしておれば、底が抜けた柄杓でも一滴ずつ水を溜めることができる」というような内容でした。

先生は多くの事を私に伝えようとしたはずですが、底が抜けた桶だった私は十分学び取ることができませんでした。もう少し先生のもとに通い、ご指導いただきたかったのに残念でなりません。

高橋先生には、本当に可愛がっていただきましたのに、何一つ恩返しできませんでしたが、これまで先生から学んだことを思い起こしながら、修練してまいりたいと思います。

先生、本当にありがとうございました。



ありし日の高橋憲司先生

## 高橋憲司先生との思い出

居合道部 村井恒治



本来ならば、亡き高橋憲司先生を偲ぶには、若き日から居合道に精進されてきたお姿の変遷を紹介するのがふさわしいでしょう。しかし、僕は、晩年のお姿しか知らないため、僕の中にある先生との思い出を語りたいと思います。

僕が初めて先生にお会いしたのは、今から十三年ほど前になります。僕自身、武道の経験もなく、興味ありませんでした。たまたま、職場で、同僚数人との雑談中に、吉原さん（今も一緒にお稽古しています）が始めた居合道が話題にのぼりました。吉原さんは、模擬刀を見せて、「これで型をするんよ。」と話しました。僕は、「へー。すごいなあ。一度、見てみたいもんやなあ。」と、その気もないのに発言しました。これがきっかけで、吉原さんに強く勧められ、お稽古を見学することになりました。先生の道場は、ご自宅に併設され、二人で型をするのが精いっぱい広さです。先生宅にお邪魔すると、「まあ、ゆっくりみていきや。」と、くだけた感じで声をかけてくださいました。お稽古が始まると真剣そのものです。僕もずっと緊張し、カチカチになって見学してました。先生は僕に技をみせるために、「附込」を抜いてくだ

さいました。滑るように前に切り込む迫力に思わずのけぞってしまいました。決して大きくない体のどこにそのような迫力があるのか不思議に思ったのを覚えています。帰り際、先生は、「まあおいで。」と声をかけてくださいました。しかし、「この迫力、真剣さ。とても居合を始めるのは無理だ。」と僕は思っていました。数日後、高橋先生から電話があり、「他に始めたい人がいるので、村井君も一緒に始めなさい。刀を一度に買うと安くなるので。」と言われ、断ることもできず居合道を始めることになりました。後で、この話を先生にすると「ああ、ちょっと強引に誘ったら乗ってくるかなと思って……。」と笑っておられました。これが先生との最初の出会いです。最初は怖かったのですが、実はとても洒落っ気のある人だなというのが第一印象でした。

先生との稽古で印象に残っているのは、先生の前で技を抜きます。抜いた後、何か指導があるかと期待するのですが、首をひねりながら「違う……。」と言いつ残すということが度々あります。この「何も言われない……。」というのが、自分でいろんなことを考えるきっかけになったし、「次は……。」という気持ちになりました。また、先生は、よく一緒に技を抜いてくれました。先生と向かい合っているのが、先生の雰囲気、迫力が伝わってくるので、必死でした。先生の前で技を抜くのはとても緊張するのですが、集中し、頭の中が真っ白になります。その後、先生の指導を真剣に聞いていると、仕事であった嫌なことやストレスが解消されていくのを感じ、いつの間にか、居心地の良さを感じていました。稽

古の時の高橋先生の前は、僕にとっては、とても大切な居場所だったなあとは感じています。

晩年、ご病気により、刀も握れなくなりましたが、先生との交流は途絶えず、居合の話や世間話で楽しい時間を過ごさせていただきました。療養中も、先生のご気分がよい時は、僕の稽古を見てくれました。先生は、木刀を握ると、おぼつかなかった足取りもしっかりし、背筋も伸ばし、僕にダメ出ししてくれます。その姿を見て、「ああ。先生は根っからの居合人なのだ。」と思います。その姿も今はもう拝見できなくなってしまいました。

最近、なぜか、先生のことを思い浮かべることが多くなりました。仕事も忙しく、私生活もバタバタしているはずなのですが、ふと思いつくことがよくあります。

この文章を書いていて思ったのですが、居合を始めたころの気持ちをお忘れずに、時々高橋先生に僕の前に座っていたとき、一緒に技を抜いていただこうかと思っています。もちろん僕の頭の中ですが…。きっと「人使いの荒いやつよ。」と叱られるでしょう。いつまでも先生の面影をお忘れずに、精進してまいります。



香川大会にて 右から3番目が高橋先生、4番目が筆者

# 山田仁先生を偲んで

板野東支部 伊賀雅人

山田仁先生の訃報に接したのは、平成二十八年八月七日です。九十三歳のご長寿でした。

山田先生は徳島市北田宮の大農のお生まれで、昭和十六年三月の徳島農学校の卒業です。在学中は徳島農学校の戦後剣道の第一期黄金時代を作り上げた一員で、同期には元剣道連盟審議委員長で剣道教師七段・居合道範士八段の故平尾勝美先生がおられ、共に活躍されています。五年先輩には勝浦守剣道範士（元剣道連盟審議委員長）、大先輩には元旧制協町中学校（現協町高校）剣道教師であった須見善富先生や、母校の徳農剣道教師の松尾誠一先生の有名剣豪を輩出している。勝浦範士・山田先生・平尾範士等は、松尾誠一先生の指導を受けてその剣豪の流れを汲んでおり、居並ぶ戦前徳農剣道家の一員であります。

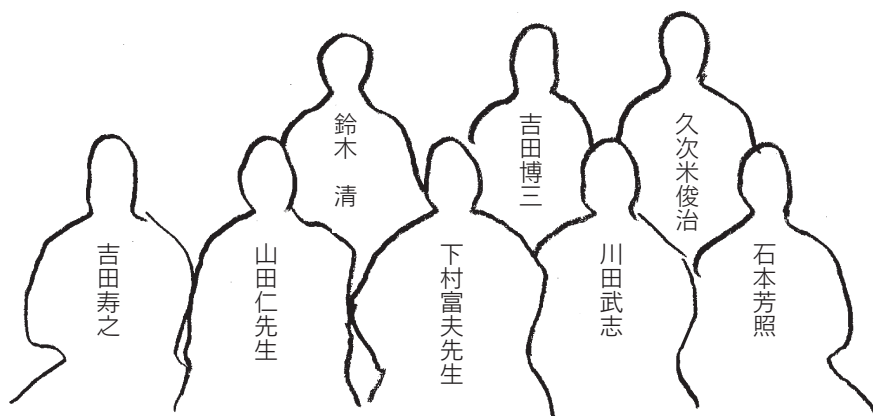
御子息・山田和弘氏（徳島県発明協会事務理事・事務局長）より生前の山田先生についてお話を伺いました。御子息には三十年位前に山田仁先生の個人道場が出来た折りに、ご自宅に訪問した時以来、実に三十年ぶりの再会でありました。

山田先生は県立農学校から青年師範学校に入学し、卒業後は陸軍に入隊、騎兵隊や戦車部隊の少尉として満州で活躍したとの事でありました。復員後は母校の徳島農業高等学校（昭和二十三年

四月）昭和五十八年三月徳農在職）で農業教員として勤務され、一時期は徳島県教育委員会管理課におられました。母校に再赴任してからは徳農一筋で退職まで母校の勤務を貫き通し、ガンとして徳農より動かないことで有名な名物教員でありました。

その間、故下村富夫剣道範士・居合道教師七段（昭和二十八年八月）四十九年三月まで徳農在職）と共に剣道部の指導をし、戦後の徳農剣道の黄金時代を築かれました。写真はその時の活躍した昭和三十二年三月の卒業写真です。上段左から鈴木清（元鴨島商業高校副校長）、吉田（藤田）博三（元法政大学剣道部監督）、九次米俊治（農業自営）、下段左より吉田寿之（元徳島市役所勤務）、メガネの人物で紺色の剣道着姿が故山田仁先生であり、当時徳農剣道部部长でした。その右が故下村富夫顧問で元高校校長・徳島文理大学教授で、国体出場十回、全日本剣道大会連続十回出場とあまりにも有名です。その右が、川田武志（元徳島県警警部補で現徳島県剣道連盟の審議委員）で、一番右側が石本芳照（商業自営・上勝の林業家）の若き日の姿です。

その当時の特筆すべき活躍は、国体出場で徳島県選手団として優勝戦まで出場したことを徳島県剣道連盟の剣道三十年誌（昭和五十八年）の対談の中で下村先生が発言されています。徳島県始まって以来の第三位の輝かしい快挙を果たしています。このことについて当日の監督の山田先生はいつも口癖のようにある大先生から「貴方たちが優勝ですよ」と言って頂いたと、筆者の伊賀は徳農教員時代に何回も聞かされました。その事を裏付ける話とし



て、当時の先鋒鈴木清はその当日を振り返り、決勝戦は3チームのリーグ戦となり、先鋒鈴木は敗れ、中堅川田は勝を治め、大将戦となり、吉田は見事な諸手突きを放ったが、審判員の旗は上がらなく、結果として三位になっています。鈴木の話によれば、その時の審判員の一人が宿舎に訪ねて来て、生徒達の前で突きが決まっているのになげれなかったと詫びを入れに来たのことでした。その時のその先生の表現が、「貴方たちが優勝ですよ」と生徒に言ったことを、山田先生が口癖の裏付けであり、下村先生、川田・吉田も同席をして聞いておられます。

一方、山田先生は徳農にフェンシング部が徳島県で初めて設立されると、同時にフェンシング部の顧問も兼務（昭和四十年〜四十六年）され、華々しい活躍をして多くの国体選手を排出しており、現在の徳島県のフェンシングの基礎を築き上げた牽引役の一人でもあります。また、山田仁先生の高校の農業授業は有名でした。授業の内容は野菜が専門でしたが、農業授業そっこのので戦争の話が半分を占めており、毎時間生徒達を喜ばしていたとのことでした。さらに、人生論を話し出すとその話が長時間なり、吉田と鈴木は脇町まで帰る汽車の時間を乗り過ごすほどであったそうです。徳農の教えは「土を作る前に心を作れ」であるが、校門を入ると「我らは時代のリーダーである」の言葉が目飛び込んでくる。正に徳農魂たるや人間性についての裏打ちによるこの教えに従い、山田先生は授業を展開し生徒を喜ばして人生論を説いていたのです。

退職後は徳島市農協加茂名地区の農協の理事をされ、地域の農業振興に大きく貢献されました。同時に加茂名少年剣道教室設立の為に尽力され、初代の代表指導者となっておられます。指導者の中には徳農剣道部教え子である横山国治・石本芳照、藤本俊夫等と共に指導に励み、多くの少年剣士を育成した功績は多大であります。

特筆すべき事は、少年剣道指導で大きな業績となった徳農・城西少年剣道錬成大会であります。山田仁先生は、故勝浦守剣道範士で初代の徳農剣友会会長の呼びかけに応じ、昭和五十八年三月の第一回徳農剣友会主催の少年剣道錬成大会（孫大会）を開催し、その大会が三十三回にも及び、平成九年からは勝浦杯を創設し、小・中学校の団体戦を実施されています。十五回大会からは総勢四六三名出場の一大会にまで育て上げたことです。

大会設立の発端は、下村富夫範士や山田仁先生の教え子で、少年剣道教室に関わっている者が、山田先生のお世話で月に一回練習会を実施しました。その時の徳農剣友会の会長が勝浦守範士であり、谷本修（元徳島県刑務官）佐古剣道教室代表等が中心となり、常時六・七名での稽古会でした。その時に下村先生の教え子で、少年剣道教室の指導者をしている各剣道教室の少年剣士も参加し、合同稽古会をするようになっていました。その練習会の時に、加茂名少年剣道教室の山田仁先生や石本芳照・横山国治と共に下村富夫先生や勝浦守範士等に相談し、下村先生・山田先生教え子指導の各道場の子供達の大会として、徳農剣友会孫大会を表

施してはどうかとの話が持ち上がり、昭和五十八年徳農剣友会少年剣道錬成大会と銘打って、第一回大会を母校の徳農体育館で実施となりました。

以来三十回大会までは母校の体育館で実施されたが、この大会を徳農関係者だけでなく各道場の全ての子供が出場が出来るようにしてはどうかと山田先生の発案で実施され、全ての子供の出場機会があると云う事で非常に人気を博しました。その後は段々と規模が大きくなり、会場が徳農体育館では狭くなり、三十一回大会からは松茂町の体育館で実施し、県下でも屈指の規模の大会にまで成長したのでした。

大会開催の資金面に関しては、当初、勝浦範士を中心に平尾範士や山田先生が大体的にバックアップして頂き、第一回徳農剣友会少年剣道錬成大会が実現したのでした。その後、学校改革の渦の中にあり徳農に総合学科を設置し、校名も戦前に校名変更があった城西高校となり、徳農・城西少年剣道錬成大会と名称を変更しています。また、大会運営経費についても、勝浦・平尾・山田先生等の御指導で、当初は卒業生の道場ばかりであるので、各道場から参加人数による協賛金の形と、個人参加費を徴収して運営すればよいとの御指導を頂き、その形で大会運営が出来るようになった経緯があります。

平成九年からは中学校の参加も始まり小・中学校大会に発展し、団体戦については男女の優勝カップと小学校の優勝カップ作成の話となり、再び勝浦範士・平尾範士・山田仁先生等によって、小・

中学校男女の三組の優勝カップ作成の資金を出して頂きました。平成九年には大会名称も第十五回徳農・城西少年剣道錬成大会・第一回勝浦杯として実施されています。

山田先生は徳島県剣道連盟の役員として発展に寄与した人物の一人である。県下の剣道の大会と言えば徳農で実施され、山田先生はその時のお世話役を率先して実施し、剣道連盟の常任理事業務部長を平成六年まで勤め、平成八年までは常任理事広報部長を務めるなど、徳島県剣道連盟の重鎮として長期にわたって務めた功績は大きい。徳農の剣道碑、「剣道の中興は落羽の森より」は校門右側の徳農落羽松の並木道に往時を偲ばせる。

## 山田仁先生を偲ぶ

徳島支部 櫻 本 英 夫

私が山田先生に初めて出会ったのは、昭和四十四年四月に徳島農業高校に入学し暫くしてのことでした。ある日、がっしりした豊かな体躯に鋭い眼光で剣道場においでになりました。相生中学時代に県大会で優勝していた私は少々鼻っ柱が高くなっており、勢い込んで稽古をお願いすると、構えられた先生は大きな山の如く迫力がありました。こらえきれず竹刀を打ち落として面を打ちましたが、小細工なしにまっすぐに打つ先生の面は破壊力十分で、打たれた本人が「なるほど」と納得する見事な剣道をされる先生でした。当時、全国的にも有名な顧問の下村富夫先生が「山田先生が本気で剣道に取り組まれていたら勝てる人は居ないでしょう」とおっしゃったのを思い出します。

先生は昭和十六年に徳農を卒業後、師範学校へ進まれ、その後、善通寺の騎兵連隊から昭和十九年に満州へ出兵。終戦後、徳農の教員として奉職。戦後数年はGHQから剣道を禁止され、雌伏の時代がありました。が、剣道を許された時、下村先生ほか有志と勤務が終わった後、教室をかたづけ、連日夜中まで稽古に励んだそうです。その後の徳農剣道部の黄金期を築き、国体・インターハイの常連校になるとともに徳島県の剣道発展に多大な貢献をされました。

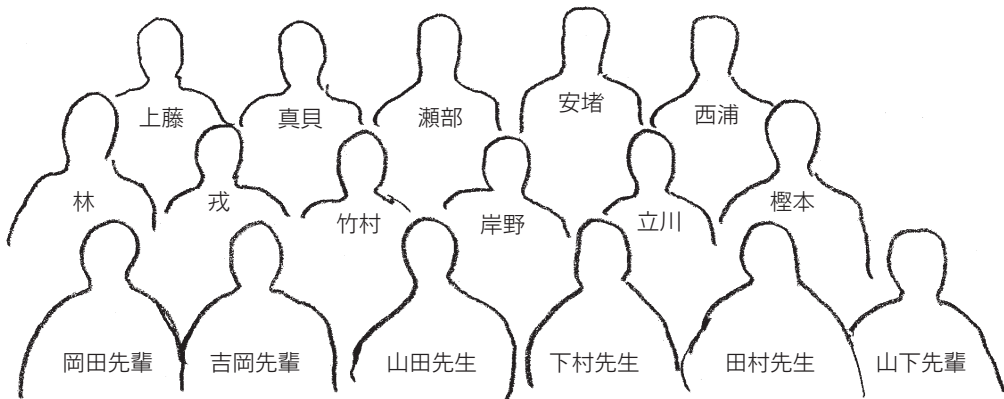
農場長としての公務が多忙なため減多に稽古に出られませんでした。が、たまに稽古においでたときは一年生の私たちにもにこやかに世間話や戦争体験のお話を、口角泡をはむほど熱心におもしろおかしく話してくださいました。特に乗馬が得意だったそうで、同じ話が何度ありましたが、辛い稽古も癒やされる楽しいひとときでした。下村先生は優しくも気高く、厳しい父親役でしたので、山田先生は母親役に徹してください。大きな愛で気安く接してください。適度な距離がありながら私たちの悩みや気持ちを聞いて頂きましたので、皆から慕われる先生でした。また、顧問の下村先生が審判や役員で出られていたので、山田先生が私たちの監督として四国や全国のインターハイにもお世話になりました。

私が奉職した木頭中学校や那賀川中学校で四度全国大会に出場することができたのも、先生の生徒に対する愛情の注ぎ方を言葉ではなく身をもって教えて頂いたおかげです。その後、私は徳島市に住所を移し、上八万中学校に奉職しましたが、当時は生徒指導で大変な日々でした。そんな中、徳島市で初めて女子団体が優勝することができました。そのとき丁度、山田先生が剣道連盟徳島市支部長をされており、優勝を殊の外喜んでいただいたのが強く印象に残っております。次の津田中学校も同様で生徒指導に明け暮れる日々でしたが、先生の示された子どもへの愛情の注ぎ方はそのまま立派に生きました。教員生活三十五年間、かかわったどの子も私の自慢の教え子となっています。

お会いすれば温かく声をかけていただいた山田先生。人生の節



目節目にかかわって頂いた大切な先生をまた一人亡くし寂しい限りですが、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。



## 西浦新先生を偲んで

丹生谷支部 野村幸大



西浦新先生は那賀郡那賀町朴野に生えうけ、平成二十八年八月に百一歳で天寿を全うされました。先生は昭和三年に剣道に恋し、自らの研鑽の傍ら、このすきんだ社会、一死奉公の気持ちにて剣道を執りあげ、その半生を「龍虎館」で少年たちの指導育成に力を捧げられました。

「龍虎館」は、昭和六年に朴野地区青年団有志が集まり「朴野龍虎館」として活動が始まりました。「龍虎館」の名については、当時神官補助をして、また富岡中学校の剣道有級者であった藤本幾久氏を始めとして、西浦新先生、中川清氏、山崎常磐氏、閑崎利男氏など、剣道の猛者たちが集まり話し合い、朴野の「龍王神社」にあやかり「龍」の一字を、「龍虎相打つ」の連想から「虎」を抽出して「龍虎館」の名が選出されたのでした。以降、事変や敗戦等による間隙期間もありましたが、剣道の気脈は、いち早く復活を遂げ、昭和三十九年、日野谷小学校での剣道活動が再興され、その館名を「龍虎館」とし、初代館長を藤本幾久氏とし、野々宮英富氏、西浦新先生が指導に当たられました。

昭和五十四年、西浦新先生が龍虎館館長を受け継ぎ、指導され

ました。平成十三年四月、旧相生町の四小学校統合に伴い「相生龍虎館」として活動しています。平成十四年、西浦新先生は永年にわたりスポーツ少年団の育成指導に尽力され、少年スポーツ活動の振興に多大な貢献をされ、財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団から、スポーツ少年団功労賞を授与されました。平成二十八年から山下勝也先生が館長をされています。

西浦新先生は小柄ではありますが、「山椒は小粒でピリリと辛い」のごとく、背筋をびんと伸ばし、善悪の判断をきちんとして対応される人でありました。悪いことには烈火のごとく怒り、まさにその様は「怒髪冠を刺す」のごとくでありました。また、小さい子どももいる少年剣道なので、厳しい稽古をクリアすれば楽しみがあったりで、アメとムチを使い分ける上手さもありました。先生の教え子は三百余名にも達し、それぞれの職場で活躍されており、西浦先生の思い出を教え子は『普段はいつもニコニコして優しい表情をしていましたが、剣道の稽古になると別人のような厳しさを持っていました。本当に剣道が好きなのだなあと子ども心に思っていたのを今も覚えています。』『正座や礼に始まり礼に終わるといふ作法を通じて、自分たちに教えてもらった事がそれぞれの心の中になきゃついてるのが、忍耐力、礼儀作法の大切さだと思います。社会で挫けそうになった時思い出して頑張っています。』等述懐しています。

先生は短歌にも秀でられ、事あるごとにその気持ちを表現されておられました。剣道における先生の功績は、お人柄や生き方は

勿論、ご家族のご理解やご支援のたまものでもあると思います。  
先生長い間のご指導ありがとうございました。安らかにお休み下  
さい。

(抜粋・参考資料「龍虎館の歩み」平成十六年刊)



さざれいし

俱に磨きし

龍虎館

来し方はるか

今を暉やく

朴  
堂

西浦新先生と短歌

## 西浦新先生を偲んで

相生龍虎館代表者 山下 勝也



お祈り申し上げます。

県剣道連盟事務局より、私が代表者ということで執筆の機会を与えていただきましたが、私は先生と直接の接点がなかったので、私が剣道に出会った頃を思い起こして綴らせていただきます。

それは、日野谷小学校（現相生小学校）六年生の頃、当時PTA会長をされていた故藤本幾久先生から「皆さんは中学校に進んで剣道をやりなさい。私が剣道を教えましょう。」と言った旨のお話から、土曜日の午後から日野谷中学校の講堂に集まって、剣道の手ほどきを受けることとなりました。この稽古には、男子同級生二十一名のうち十名程が参加し、中学校の竹刀を拝借して、礼儀作法から始まり、足捌き、素振り等を習いました。当時は、剣道人形（打ち込み台等）の使用や剣道具を着けての稽古までは進みませんでした。故藤本幾久先生から熱心にご指導いただいたと記憶しています。

このような取り組みが、後の龍虎館の設立へ繋がって行くこととなります。

私が本格的に剣道を習ったのは、相生中学校（昭和四十年四月、日野谷、相生、延野の三中学校が統合）の剣道部に入学してからですが、小学校時に手ほどきいただいたお陰で最初の部活動はスムーズに取り組むことができたと思います。当時は、地元出身の故新居英男先生はじめ諸先生・先輩方からご指導いただきました。入学当初は、優勝旗が幾つもありましたが、三年生の頃には無くなっていました。また、その頃はグラウンドで運動靴を履いて稽古する等、部活動の環境は良くなかったように思います。その中で、丹生谷地域の各校が驚敷町（現那賀町）の振武館館長の故山家雪蔵先生はじめ諸先生方から剣道講話をいただいた夏季合同合宿は懐しい思い出です。

私は農林水産省を四年前に定年退職し、第二の人生として故郷に帰って就農しました。社会人（転勤族）になって、仕事にかまけて剣道から遠ざかっていましたが、剣道に出会った頃を思い起こして再いや再々度、剣道をやってみようと思っていました。丁度、同郷の先輩である野村幸大先生（現丹生谷支部長）が龍虎館の代表者を務められていた縁から、私も子ども達と一緒に汗を流しながら稽古のお手伝いをさせていただいていました。そして、本年度より私に代表者を託されることとなりましたが、諸先生・先輩方から学んだ半分もできていないという自責の念を拭えないまま今日に至っています。

西浦新先生が龍虎館代表者を務められていた頃は、四十名程の豆剣士のかげ声が体育館中にひびきわたっていたことと思いますが、地域の過疎化、少子化は加速しており、今では八名と寂しさは隠せません。しかし、当初目標とした「子ども達の体位の向上と健全なる精神の育成、善良なる人間形成」をしっかりと受け継ぐとともに、剣道を学ぶ子ども達を確保していくと言った課題に指導者、保護者、学校側と一体となり、努力して参りたいと思っています。

終わりに、これまで長きにわたり諸先生先輩方からは、剣道を通して剣道人、社会人としての歩み方をご指導いただき心より感謝とお礼を申し上げますとともに、皆様には、今後ともご指導とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。（なお、これまで多くの先生、先輩方にお世話になりましたが、紙面上、名前等は割愛させていただきました。）



昭和41年（中学2年生） 夏季合同合宿（振武館にて）

# 全国講習会報告

剣は心なり

～フランス剣道指導から学んだこと～

徳島県警機動隊剣道特練監督 山 室 雅 幹



## 1 はじめに

このたび全日本剣道連盟と警察庁からの推薦を受け、平成二十八年二月七日から五月八日までの九〇日間、フランス共和国への剣道指導者派遣を命ぜられました。

フランス同時多発テロによる非常事態宣言発令中、日本から単身で向かうことに不安は多少なりともありましたが、このような重責を任されたことに、徳島県警察の警察官として誇りを持ち、フランス剣士の指導にあたろうと強く決意しました。

フランスでは、少年剣士から各クラブチームの剣道愛好家、フランス代表チームに至るまで幅広く指導にあたることになりました。

## 2 フランス剣道のはじまり

フランス剣道が興じたきっかけは、戦後アルジェリア出身のフランス人が日本人の武道家に剣道を師事し、始まったとされています。

ただし、その武道家の先生は剣道専門家ではなく、様々な武道を修得する中に剣道も含まれていて、その一つとして剣道を習ったようです。

## 3 フランス剣道人口

フランスでは一九七三年に連盟が発足しました。フランスでの剣道人口は、初段九六六名、二段六六一名、三段四九九名、四段一八九名、五段一二七名、六段五六六名、七段二七名、八段一名（好村兼一先生）、無段、少年剣士を含めると約一万人（居合道、なぎなた等含む）を数えます。剣道人口のみであれば約六千人くらいとなります。（二〇一五年フランス剣道連統計資料による）

全般にいえることは、剣道に取り組む姿勢がとても真面目で基本的に忠実です。稽古や試合などでの礼法や剣風にも現われ、正々堂々として勝っても負けても相手を讃え尊敬した態度で接します。

## 4 言葉の壁

各道場には日本語を話せる方がいましたので、こちらから指名してお願いすれば問題なく通訳交えて指導することができました。

遠慮なく阿波弁で厳しく指導しましたので、通訳人はまず標準語に変換し、その後フランス語に訳さなければならなかったのかかなり大変であったと思います。

しかし、言葉が通じなくても気合いと情熱で、なんとか乗り切ることができました。

## 5 フランス国内大会全般

少年や一般の試合も盛んであり、一般の部においては年に一回、フランス剣道の活性化を図るため、一部と二部の入れ替えの試合があります。

また、今年開催のフランスオープン大会終了後、フランス初の七段戦が計十五名で行われ、格調高い熱戦が繰り広げられました。観客席をも一体とした緊張感漂う、最高の雰囲気の中で行われました。

決勝戦の主審は好村兼一先生が務められ、私も副審をさせていただき本当に光栄でした。フランス剣道に新たな歴史が刻み込まれ、第二回大会以降もかなり期待が持てる試合であると思われる。

## 6 審判員

審判員に採用されるまで多くの審判講習会があり、研修生として各試合で副審のみを繰り返し行った後、主審が務められる権利が与えられるようです。



有効打突の判定、所作は試合者のレベル（少年から一般）に応じて充分、対応していたと思います。

## 7 昇段審査

五段までの審査員をさせていただきました。審査方法は切り返し後、立会いを2回実施し合格発表後、形審査となっています。

三段以上は日本の合格基準と変わらないと思いましたが、初段、二段の審査が日本と比較して、合格基準が高いところにあると感じました。

## 8 フランスでの指導方法

全体的には、分かりやすく丁寧に、系統立てて理解させることが重要だと判断し、形稽古の大切さもしっかり指導しました。

剣道は礼法というものを抜きには考えられませんが、海外は文化的背景が全くことなるので、日本人が当然だと思ってしまうことが当然ではないということもあります。

フランスでは道場とプライベートは割り切って考えているようです。ひとたび道場を出たら年齢に関係なしに友達関係です。よって文化の違いを認識し、ケースバイケースで判断していく必要があります。

そして、基本動作の重要性や構え方など「なぜ、どうして、理由は？」などの質問も多く、理解してもらえよう辛抱強く説明し、ひとつひとつの動作を見せて指導していくことを心掛けまし





た。

○少年剣士には、今後のフランス剣道が発展するため、大きな発声、基本を中心とした真っ直ぐな剣道を

○一般の剣道愛好家には肩の力を抜いた足さばき、そして全般的に右手の握りが強く、左足の引きつけが遅いのでそこを重点的に

○代表チームの選手には、試合では気持ちを充実させ、十分な気合いを出してから自分の持ち味や個性を出すように  
ということを念頭に指導を進めていきました。

### (1) 少年剣士

少年剣士(幼年〜一九歳)には、フランス在住の日本人指導者やフランス人指導者が礼法や基本動作、精神面について熱心に指導しています。

日本語で「気合い」という言葉は共通なので、「気合いじゃー!!」と熱く指導すると充分、期待に応えてくれます。

保護者が子供に求めていることは、礼法や精神面を強くし、目の前の相手から逃げない、立ち向かって行く強さです。

フランスでの指導者は勝つための剣道ばかりではなく、精神面等を強くするため様々な工夫を凝らしており、ある道場では稽古後、先生から指名されたフランス人少年剣士が、島田虎之助先生の格言を日本語とフランス語で唱和し、心身を鍛えています。

『剣は心なり 心正しからざれば 剣また正しからず剣を学

ばんと欲すれば まず心より学ぶべし』

また、少年剣道からの育成がスムーズに進んでいるため今後、期待できる次世代の代表チームの選手(特に男子)が数多く、後に控えています。

### (2) 剣道愛好家

日本の綺麗な真っ直ぐな剣道に憧れて、始めた剣道愛好家の方達が数多くいます。所作や礼法を重んじ、真面目に稽古に取り組む姿勢が見受けられます。

フランス剣士の矯正すべき特徴は右手の握りがかなり強く、左足の引きつけがスムーズにいかないことです。

その中、男性剣士に見られがちなのが、「竹刀で面や小手を打ち砕いてやろう」、「体当たりで場外に吹っ飛ばしてやろう」という剣風です。強気で攻めることは非常に大事なことです。基本動作の重要性や正しい構え方など辛抱強く説明し、大切なのは「そこではないですよ」、というところから、ひとつひとつの動作を見せて剣を交えながら、粘り強く指導していきました。

指導への情熱が、言葉の壁を越えて納得してくれたとき、さらに本気になって稽古に取り組んでくれます。指導内容が伝わったとき、ほんとうの意味での「交剣知愛」を感じられました。また指導者として心の底から感動することができました。

### (3) フランス代表チーム

男女ともに二〇〜三〇歳で構成されており、厳しい稽古にも

充分耐えられる気力・体力・精神力を備えています。掛かり稽古、追い込み、区分稽古等に対しても、それぞれ約一時間を越える稽古もこなしていきますが、当然、気持ちを高めていくような雰囲気づくりは不可欠です。

## 9 ヨーロッパ剣道選手権大会

本大会は一九七四年より、ヨーロッパ剣道連盟により開催されています。開催年は、三年に一度開催される世界選手権大会の谷間の二年となります。

今回は第二十七回大会となり四月一日から三日まで、マケドニア共和国の首都スコピエのボリス・トライコフスキースポーツホールで開催されました。

同国のエミール・ドミトリエフ首相もご臨席いただき、三八八カ国から約五〇〇人の代表選手が参加し、熱戦が繰りひろげられました。

前回は地元フランス（クレルモン＝フェラン）で開催された大会において男子団体が準優勝、女子団体が第三位ということもあって、なんとともに男女団体ともに優勝させてほしいと、指導陣から強く要請されていました。

本大会に向けての強化合宿では選手達に強い気持ちを培ったうえで、自分の個性や得意技を出して行くよう指導しました。

しかし、ヨーロッパ剣道選手権大会前のフランス国内大会で、代表メンバーの二名が、自分の得意技だけで勝つてやろうという

気迫も緊張感もない、不甲斐ない試合をしました。この二名に再度、「強い気持ち」で大会に臨むよう気合いを入れ直させたところ、本戦ではチームを勢いづける一二〇パーセントの働きをしてくれました。とにかく気が付いたことがあれば、遠慮せずに適格に伝えました。

選手全員に、「まずは強い気持ち、足を止めない、構えを崩さない」こと、その上で「個性や得意技を出して行け」と大会当日まで言い続けました。

その結果、女子団体戦準決勝（イタリア）、決勝（セルビア）ともに五―〇で圧勝し、男子団体戦にあっても準決勝（スペイン）五―〇、決勝（ポーランド）四―〇と完璧な試合を展開し、六年ぶりに男女団体戦とも圧倒的な強さで優勝することができました。

男子団体戦で優勝が決まった瞬間、控えの選手に日本語で「先生ありがとう!!」と言ってもらえたことに心の底から感動し、涙が溢れ出るほどでした。

ヨーロッパ剣道選手権大会直前にベルギーでのテロ、そしてフランス同時多発テロをはじめヨーロッパ近隣でテロ騒動があり、大会の開催や選手の参加等に影響がでるのではないかと心配されていました。幸い大きな影響もなく、スムーズに、そして和やかな雰囲気の中で大会が進められたことは本当に良かったと思います。

二〇一八年に韓国で開催される第一七回世界剣道選手権大会では、男女ともフランス代表チームの選手の入替えは、ほぼない

と指導陣も言っていましたので、かなり上位進出の期待が持てるのではないかと思います。



## 10 フランス人剣士から学んだこと

フランスの人々の剣道に対する姿勢については、日本人である私も含めて見習うべきところが多くありました。

指導に携わった場所では剣道場という専門の道場はありませんでした。板張りのクッション製を備えた体育館はなく、コンクリー

トの上に堅く分厚い板が直接敷いてあるバレリーナ専用の稽古場、バスケット専用の強化ゴムや石面の体育館で、熱心に稽古に励んでいます。

努力をしなければ剣道ができない環境にあるので、フランス剣士が剣道に取り組む真摯な姿勢は、いつでもどこでも剣道ができる環境にある私たち日本人は見習うべきだと感じました。

## 11 おわりに

この度、フランスの地で指導をさせていただく機会をあたえていただきました。皆様方には本当にお世話になり深く感謝しております。

フランス剣道連盟スーラス会長をはじめ、多くの方々に本当に親切に接していただき、生活面等におきましても、快適に過ごさせていただくことができました。時間が空いているときなどは、ヴェルサイユ宮殿やオランジュリー美術館等の観光地を案内していただくこともありました。

また、パリの中で最も治安が悪い一九区管轄のフランス警察署（約五〇〇人体制）や、指導していた道場の近くにフランス同時多発テロ等の事件が発生した現場（シャルリー・エブド襲撃事件、バタ克蘭劇場襲撃事件）を訪れる機会もありました。現場付近や主な観光地、警察署周辺では、兵士や警察官が機関けん銃等を持って警戒にあたっており、一九区の警察署の玄関には暴動があった際の弾痕が残った状態であり、日本では考えられない光景を目

の当たりになりました。

最後になりますが、フランスでの貴重な指導経験を生かし、さらなる技能の向上に努め、剣道特練員監督として選手達が各種大会において活躍できるよう指導していきたくと思います。そして、フランス人剣士との交流を持てたことで、これからも剣道を通じて友好関係を築いていきたくと考えております。

今後さらに、日本とフランスの剣道関係がより一層近いものとして「交剣知愛」の精神が発展するように私自身、初心を忘れることなく、精神面や技術面の錬磨に励み、精進してまいります。



## 第五十一回 剣道中央講習会（西日本）に参加して

鳴門支部 木原資裕



この講習会は毎回、年度初めの土曜・日曜に開催されている。全日本剣道連盟が実施するその年度最初の行事であり、新しい年度の剣道指導の方向性を徹底する講習会でもある。今年度も平成二十八年四月二日（土）・三日（日）に神戸市立中央体育館で実施された。徳島からは車で二時間（私の自宅・鳴門からは一時間半）で行けるありがたい会場である。

指導陣も副会長兼専務理事の福本修二先生、担当常任理事の奥島快男先生はじめ、講師として、範士八段の網代忠宏・小坂達明・三宅一志先生が当たられ、最峰の先生方から直接指導をいただく、至福の講習会とも言える。参加者は西日本の各府県および学剣連・高体連等の関係団体より、教士七段以上の五十七名（内教士八段が二十三名）が招集されている。徳島県よりは富田正先生と私・木原が参加した。

中でも、初日の最後には稽古会が企画されており、福本先生はじめ範士八段の指導陣と受講生が入り交えてのまわり稽古があり、受講生の八段とも数多く稽古ができ、私自身にとって、この講習

会に参加できた意義は大きいと感じている。

この講習内容は、各都道府県で伝達講習することが義務づけられており、徳島県剣道連盟においても、平成二十八年五月八日に鳴門ソイジョイ武道館において、富田先生が中心となり、実施していただいた。私は本務のため、都合がつかず、柴田宗忠先生に代行をお願いした。

以下、富田先生に作成していただいた伝達講習資料の概要を転記する。

### 一 趣旨説明

（一）平成二十八年年度の全日本剣道連盟の事業計画

#### 一 基本方針

「剣道の理念」に基づき、社会から高く評価される活力ある剣道界のさらなる発展の実現を目指し、国内外各層への剣道普及を図る。

#### 二 指導委員会の重点方策

指導・教育体制の強化を通じて、質の高い剣道を育てる。

#### 三 指導委員会の重点事項

剣道を正しく普及させるための指導法についての研究および検討を行う。

① 「剣道理念」、「剣道修練の心構え」、「剣道指導の心構え」

に係わる制定経緯の理解を深め、その内容の具現・具象化を推進する。

②本連盟刊行の「剣道指導要領」、「剣道講習会資料」「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」、「剣道社会体育教本」、「剣道授業の展開」の活用を図る。

③講師要員（指導法）の講習・研修を実施し、指導法講師の育成を図る。

④女子指導者講習会を開催し、より高い剣道の技術ならびに指導力の向上を図る。

⑤「日本剣道形」の位置づけと内容の理解を踏まえた指導法の研究を行う。

⑥「木刀による剣道基本技稽古法」を基盤にした効果的な指導法の普及を図る。

## (二) 平成二十八年年度の「指導目的」「技能の目標」

一 指導目的：我が国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を図り、「剣道の理念」に基づき高い水準の剣道を目指す。

### 二 技能の指導

①初心者：剣道を楽しく受けとめられるよう興味や関心を高める。

：剣道の基本的な動作や作法を正しく身につける。

②初級者：生涯を通して剣道に親しみ、修練を通して、豊かな生活をつくり出すための基盤的な態度や安全に対する態度を養う。

：対人的技能を身につけさせ、気剣体の一致した、しか

技を主に指導する。

③中級者：現代社会に必要な社会的態度の向上につとめ、自己の確立を図る。

：熟練度を高めることにより、技に対して自信を持ち、懸待一致の剣道ができるようにする。

④上級者：人格を高め、社会貢献と剣道の正しい伝承に寄与する態度を養う。

：理合を熟知し、高段者に相応しい心気力一致の剣道を目指すとともに審判能力・指導力を高める。

## (三) 指導の手立て

一 全剣連刊行文献を活用した指導

「剣道指導要領」、「剣道講習会資料」「日本剣道形解説書」、「木刀による剣道基本技稽古法」、「剣道社会体育教本」、「剣道授業の展開」、その他 試合や称号段位級規則書等

二 講話を通して剣道への意欲・関心・態度の向上を図る指導。

「剣道理念」、「剣道修練の心構え」、「剣道指導の心構え」の理解を図るとともに対象者の資質を勘案し、意欲・関心・態度などを高める。

## 二 指導法

一 礼法：正座（跪居）

二 基本動作：構え、素振り等

三 木刀による剣道基本技稽古法の展開

① 制定の趣旨等について

② 全体指導と対人指導（基本一〜九までの打突の仕方、打たせ方、受け方）

#### 四 剣道実技（剣道具を着装して）

① 木刀による剣道基本技稽古法を活用した指導等

② 稽古法：打ち込み稽古、掛かり稽古等

### 三 日本剣道形

#### 一 共通理解

① 中段の構えの延長とは、棟の鏝元と切っ先を直線で結んだ延長をいう。

② 太刀一本目、打太刀正面打ちを抜かれた剣先の高さは下段程度。

③ 太刀四本目、双方切り結ぶ位置は、およそ刀の中央部、剣先は、正面の高さ。

④ 太刀五本目、仕太刀の中段の構えは、一挙前に出し刃先は、やや斜め下。

⑤ 太刀六本目、仕太刀がすり上げ小手を打った時、右足を踏み出し左足を引きつけるのを原則とするが、間合いによって引きつけなくても、踏み出したと解釈する。

⑥ 太刀七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つ時の方法。

○ 右足を右前にひらいたとき、刀を左肩上に振り上げ左足を踏み出すと同時に胴を打つ。

○ 右足を開いても（体は移動させない）刀を振り上げず、

左足を踏み出すと同時に振り上げ振り下ろす。一拍子で打つ方法（修練者の練度に応じて指導する）

⑦ 小太刀半身の構えの刃先の方向

○ 中段半身の構えは、刃先をやや斜め下に向ける。

○ 下段半身の構えの刃先は、真下とする。

### 四 審判法

○ 審判法講習における重点事項

審判員は、剣道試合・審判規則の理解のもとに、下記の事項に留意して、適正な試合運営に努め、試合の活性化を図る。

一 試合内容を正しく判定する。

二 有効打突を正しく見極める能力を養う。

（一）有効打突の条件と諸要素の理解

（二）技の違いと練度に応じた打突の見極め

三 禁止行為の厳正な判断と処置をする。

（一）行為の原因と結果の正しい見極め

（二）禁止行為に対する的確な処置

上記二

① 有効打突

〔第十二条〕 有効打突は、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものとする。

## ②玄妙な技

### 上記三

#### ①禁止行為

〔第十五条〕禁止物質を使用もしくは所持し、または禁止方法を実施すること。

〔細則（第十四条）〕規則第二十五条の禁止物質および禁止方法とは、世界ドーピング防止機構（WADA）の最新の禁止表に掲載されているものをいう。

〔第十六条〕審判員または相手に対し、非礼な言動をすること。

〔第十七条〕試合者が、次の各号の行為をすること。

一、定められた以外の用具（不正用具）を使用する。

二、相手に足を掛けまたは払う。

三、相手を不当に場外に出す。

四、試合中に場外に出る。

五、自己の竹刀を落とす。

六、不当な中止要請をする。

七、その他、この規則に反する行為をする。

細則〔第十六条〕規則第十七条七号の禁止行為は、次の各号などをいう。

一、相手に手をかけまたは抱えこむ。

二、相手の竹刀を握るまたは自分の竹刀の刃を握る。

三、相手の竹刀を抱える。

四、相手の肩に故意に竹刀をかける。

五、倒れたとき、相手の攻撃に対応することなく、うつ伏せになる。

六、故意に時間の空費をする。

七、不当なつば（鍰）競り合いおよび打突をする。



## 居合道中央講習会に参加して

居合道部 福井 勝

平成二十八年九月三日から四日にかけて京都府の武道センターで実施された全剣連の中央講習会に参加しました。全国からの指導者が参加しますが、東日本の先生とは全国居合道大会と中央講習会しか会わないため、有意義な講習会です。毎年夏に東日本と西日本に分けて講習会を実施しているため、全国的に全剣連居合の統一化が図れており、中央講習会は十月に実施される全国大会の審判員の意識合わせが重要な目的です。また、全国大会では各県監督も判定後の異議申し出ができることから、どのタイミンングでするのかも全国统一が必要になります。審判講習の一試合ごとに居合道委員から判定の理由を審判員に問うため、審判員の判定基準が理解でき、非常に参考になる講習です。

今年の全国大会では徳島県の前田勝範士が審判長を務めることから、審判講習では全国大会で審判担当の八段の先生が実施する判定に原田先生は中央にて真剣な表情で見守っていました。四日に台風が九州に上陸したため、講習会は十四時でとなりました。

伝達講習会は九月十八日と十一月十三日の二回実施。内容は実技を福井、解説を原田範士が実施しました。審判講習も五段以上の講習受講者に実施、審判の着眼点等を講習しました。徳島県は八段審査員である原田範士の理合いに基づいた解説を受講できる

ことから他県に比べて非常に恵まれた環境にあり、会員一回二回の講習会を真剣に受講しました。



# 徳島県剣道連盟秋期講習会報告

理事長 西谷肇 一

期日 十月二十三日(日)

会場 鳴門ソイジョイ武道館

講習科目および講師 指導法・審判法 大嶽將文

今年は、剣理に適った指導法と審判法の両立が大切であると考えて、全県連派遣講師に愛知県より大嶽將文先生をお迎えして開催した。

講話では、近年剣道が世界大会を重ねるごとに世界で普及発展して来ている。選手の強化や剣道の質の向上が顕著に見られる国も多数出て来て日本も安閑としていられない状況であり、今まで以上に真剣に剣道に向き合う必要があると述べられて、講習会の意義をとかれた。

指導法では、木刀による剣道基本技稽古法に重点を置き、要点を一本ずつ丁寧に指導された。

審判法では、審判員は試合・審判規則を熟知して、重点事項に留意するとともに適正な運用ができるようにすることと説かれた。

審判実技においては、有効打突の見極めや位置取りを中心に、審判員の姿勢態度・所作、旗の表示・宣告等事象の都度指摘しながら指導された。その後、合同稽古を実施した。

最後に、「審判上達には、範となる審判員から学び、数多く体

験することが必要である。」と述べられ、講習会を終了した。以下に大嶽先生より提示いただいた資料を転記しておく。

## 木刀による剣道基本技稽古法

### 確認事項

○「木刀による剣道基本稽古法」における「元立ち」と「掛り手」の関係は同等である。

日本剣道形における打太刀と仕太刀の関係ではない。

○基本動作は「剣道指導要領」「剣道講習会資料」などを参考に  
にする。

○帯刀した場合、右手は大腿のやや前面にある。

○抜刀する場合、鯉口を切って抜きつける動作は自然の流れでよい。左斜め上から抜くようにすることが大切である。

○基本一・二・七は、元立ちが打つべき機会を与えるが、これは「合気となり」という考え方を基本にして双方が協調しながら行う。

○元立ちが胴を打たせる場合、手元をまっすぐに大きく上げる。

○「払い」の要領と「すり上げ」の要領の異同は、「払いは、点」「すり上げは、面」という理解になる。「払い」と「すり上げ」の動作形態は同じであるが、「先」にかかっているかどうかで、「払い」か「すり上げ」かの違いになる。

○打った後、掛り手が戻る場合、間合の調整は双方が協調して行うようにする。

○子供たちに「木刀は怖い」という意識がある場合、段階的な手段として木刀の代替えも考えられる。

## 審判法

### 一 審判法講習における「重点事項」

審判員は、剣道試合・審判規則の理解のもとに、下記の事項に留意して、適正な試合運営に努め、試合の活性化を図る。

#### 記

一、試合内容を正しく判定する。

二、有効打突を正しく見極める能力を養う。

(一) 有効打突の条件と諸要素の理解

(二) 技の違いと錬度に応じた打突の見極め

三、禁止行為の厳正な判断と処置をする。

(一) 行為の原因と結果の正しい見極め

(二) 禁止行為に対する的確な処置

### 二 審判の目的（運営要領の手引きP4）

審判の目的は試合・審判規則を正しく運用し、「試合による全ての事実を正しく判断し、決定する」ことである。

### 三 審判員の任務（運営要領の手引きP4）

審判員の任務は適正な試合運営に努め、試合の活性化を図ることである。さらに、審判員の「使命は何か」「任務は何か」「資格は何か」を自覚する必要がある。

そのためには、自らが稽古を積み重ねて自己の技術を高める

とともに、審判技術の向上に努めなければならない。

### 四 審判員の心得（運営要領の手引きP5）

一、一般要件

(一) 公平無私であること。

(二) 試合・審判規則及び細則、運営要領を熟知し正しく

運用できること。

(三) 剣理に精通していること。

(四) 審判技術に熟達していること。

(五) 健康体で、かつ活動的であること。

二、留意事項

(一) 服装を端正にすること。

(二) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。

(三) 言語が明晰であること。

(四) 数多く審判を経験し、反省と研鑽に努めること。

(五) よい審判を見て学ぶこと。

### 五 有効打突の見極め（試合・審判規則十二条 P6）

#### 理合

#### 要素

(一) 間合 (二) 機会 (三) 体捌き (四) 手の内の作用 (五)

強さと冴え

#### 要件

(一) 氣勢 (二) 姿勢 (三) 竹刀の打突部 (四) 打突部位

(五) 刃筋

## 残心

(一) 気構え (二) 身構え

※ 打突そのものが軽くても、「玄妙な技」などは技の質として、一本に採れる場合がある。「軽いから一本にならない」とせずに、技の違いによる有効打突を見極めることが大切である。(運営要領の手引きP6)

## 六 禁止行為(試合・審判規則P8)

第十五条(禁止物質の使用)

第十六条(非礼な言動)

第十七条(諸禁止行為) 一〜七項目

細則十六条にも禁止行為 一〜七項目

※ 不当な行為を見逃すと不当な行為が増幅してくるので、厳格に見極めるようにする。(運営要領の手引きP9)

## 七 規則の解釈と運用

※ 鍰競り合いの解消について

「運営要領の手引き」

P11 判定に関する権限は審判員三人が同等であるが、膠着や不当な鍰競り合いに関する処置は、試合の運営にかかわる主審に専決権限の事項である。したがって、副審は「止め」を宣告することができない。

P27 〈事例8〉鍰競り合いが解消したと判断するのはどのよ

うな時か。

〈解説〉①鍰競り合いから打突の行動に移った時、または何らかの行動を起こした時が鍰競り合い解消の端緒となる。

◎ 平成二十七年三月

上記(事例8)の解説のように、鍰競り合い解消した後は、単なる「競り合い」であり副審にも同等の権限が生じ、不当な行為を認めた場合「止め」を宣告できるものとする。

## 現行の解釈

鍰競り合いの判断は、主審の専決権限の事項である。

※運営要領の手引き〈事例8〉

鍰競り合いが解消したと判断した場合、反則の事実があれば、副審も「止め」をかけ合議をすることができる。

(主審は、見過ごし・見落とし・見まちがいに注意する。)

# 第一回女子剣道指導法講習会に参加して

女子部 竹内 佳代子

全日本剣道連盟が、今年度より女性だけを対象とした「剣道指導法講習会」を実施してくれました。近年、子どもを剣道の練習に送迎をしているお母さんたち自身が、剣道を始めることが増えてきているそうです。そういった傾向の中で、これからの剣道の普及・発展のためにも、女性の指導員を育てようという目的で実施することになったそうです。

以下、その講習会の報告です。

一. 日程 平成二十八年三月二十六日(土)～二十七日(日)

二. 会場 ぶんぶ東京スポーツ文化館

三. 参加者 三十八都道府県から一一一名の五段以上の女性剣士が参加。(年齢も二〇代から六〇代までさまざま)

## 四. 講師

全日本剣道連盟副会長兼専務理事 福本修二先生

指導委員会委員長 網代忠宏先生

剣道範士 加藤浩二先生

遠藤勝雄先生

中田琇士先生

小坂達明先生

## 五. 日程に従い流れの要約

### 一日目

① 剣道指導のあり方について (福本修二副会長より)

指導するうえで大切な基本となるご講演をいただきました。

「教育」とは……「教」知識・技能を教える

「育」教えることによって人を育てる。

その人が持っているものを引き出す。

○ 剣道を通して指導 ↓ これからめまぐるしく変わっていく社会の中でどう生きていくか、どう成長したらいいかを指導する。

・ 瞬間的な判断力

・ 問題解決力

○ 指導で大切なこと

・ 個性に応じた指導ができる。

・ スキルにあった指導 (段階的にその子の技能にあった指導) ができる。

・ 分かりやすい言葉で丁寧に伝える。

・ 示範ができる。正しいことをきちんとみせられる。

・ 精神的な面で安定している。

・ 感覚的なものを適切に活かせられる。

たゆまざる研究はうまさを生む

たゆまざる努力は強さを生む

②意欲・関心を高める指導例の理解（加藤浩二先生より）

練習に入る前の体力作りを、楽しく行うことができました。

その具体例をいくつか紹介します。

○ランニング中に指示に合わせてグループ形成（二人組や五人組など）

\*最後まで組ができなかったら腕立て伏せ。

○じゃんけんで負けたらおんぶ

○ダッシュ、スキップなどの競争（グループ対抗）

③〈実技〉指導内容Ⅰ 礼法・基本動作（網代忠宏先生より）

正座の仕方など、習慣化していることを改めて確認することができました。

④木刀による剣道基本技稽古法（遠藤勝雄先生・小坂達明先生より）

一番正しい「木刀による剣道基本技稽古法」を学ぶことができました。

⑤まわり稽古 約三〇分

～二日目～

① 日本剣道形（中田琇士先生・小坂達明先生より）

礼法にはじまり、小太刀まで、細やかな指導をしていただきました。

②〈実技〉指導内容Ⅱ 応用動作・しかけ技（網代忠宏先生より）

防具をつけて、木刀による剣道基本技稽古法を実践の形で行

いました。

③〈実技〉指導内容Ⅲ 応用動作・応じ技（網代忠宏先生より）

出小手 返し胴などの応じ技の実践。

打ち込み稽古 かかり稽古の実践。

④まわり稽古 約三〇分

六．参加してよかったところ

・全日本剣道連盟の指導法で中心となっている範士先生から直接、一番正しい剣道を教えていただける。

・その講師先生と一緒にお酒を飲んで、雑談ができる。

・他県の女性の先生方と交流ができる。いろいろなお話ができ、刺激になる。

・実技稽古も充実している。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

## 社会体育指導員剣道（上級）

### 養成講習会を受講して

板野東支部 武 田 修 典

本年度は、社会体育指導員剣道（中級）の更新年であり、再度受講しようと考えていました。しかし、同年に上級養成講習会が開催され受講資格が剣道錬士六段以上（以前は錬士七段以上）になっていたこともあり思い切って受講することといたしました。

全日本剣道連盟主催による養成講習会の目的は、地域指導者として、各都道府県の講習会等で、指導法・審判法・日本剣道形の実技・理論および剣道に係る学科を指導できる指導者を養成することです。なお、本養成講習会は全日本剣道連盟独自の資格として開催されています。

今回平成二十六年二月二十八日（金）～三月二日（日）二泊三日滋賀県立武道館（滋賀県大津市）にて実施されました。

日程および科目として（日程は後述いたします）

本講習会の受講者は、事前に課題学習をし、講習会受付時に指定の論文を提出し、日程に従い課題学習試験を受験しなければなりません。

#### （一）課題学習

①日本剣道形・試合審判の実技に習熟してくること

②全剣連発行の関連書籍を学習し、理解してくること

「社会体育教本」「講習会資料」「日本剣道形解説書」「剣道試合・審判規則とその細則」

「剣道試合・審判・運営要領の手引き」「木刀による剣道基本技稽古法」「称号・段位審査規則」

「剣道和英辞典（日本語文の部）」「剣道医学Q&A」「剣道授業の展開」

③古典学習……「兵法家伝書」「五輪書」「不動智神妙録」のうち一つ以上を学習してくること。

#### （二）論文提出課題

指定された論題二つに対し、それぞれ一二〇〇から一六〇〇字でまとめて講習会受付時に提出する。

私が選択した論文は①必修課題の「あなたが、剣道講習会の講師を担当する時、『最も重要と考えている留意点を書いてください。』②選択課題の「五輪書」です。

養成講習会で特筆すべきは、本講習会を受講し合格した者には、全剣連社会体育指導員剣道（上級）の認定証、合格証（ワッペン）が授与されます。なお七科目試験中三科目以上の不合格科目がある場合は不合格となり、中級更新の終了扱いとされます。不合格者の追認は、七科目中二科目以内の不合格である場合に限り、上級講習会においてその科目試験を二年以内に受け直し合格した者に対してのみ行なわれます。

上級講習会は事前に難度が高く不合格になるものも数名いると聞いており、受講にあたりかなりの緊張感をもって臨み

ました。今回は四十九名で合格者四十三名（内女子七名）で六名が不合格となりました。\*合格者は剣窓で確認\*

認定者の特典として本講習会に合格した者は、教士申請における要件の一部または全部の免除の対象者とし、各都道府県剣道連盟より全剣連に申請された者の教士筆記試験が免除されます。

今回開催された養成講習会の日程・テスト内容を記述いたします。

#### 一日目 八時三〇分～一九時一五分

①受付・ガイダンス

②開講式

③課題学習テスト（論文審査）：事前課題学習および論文による

④剣道指導者のあり方（剣道授業の展開）

- ・授業協力者に求められること
- ・授業協力者活用の効果

・指導上の留意点

・適切な指導の在り方等

⑤木刀による基本技稽古法

⑥日本剣道形実習・指導法

⑦日本剣道形実習および指導演習テスト

指導演習の方法として三組の演技者の指導を五分程度で行う。

（各本数における技の仕組み、要点の説明）\*私の指導形は

四本目でした。

指導演習の要点は、理合の説明ができる・示範ができる・指導の手順が良く、効果的な指導ができる・言語活動が適切なこと。

⑧剣道技術および指導法一

⑨剣道技術および指導法二

⑩実技実習

#### 二日目 六時三〇分～一九時一五分

①トレーニング実習（トレーニングウェアによるストレッチ方法等）

ストレッチ体操の基本二十五種類中十種類実施

②審査員のあり方

③剣道技術論

④審判指導法

試合・審判規則の重要性（剣道審判規則の意義と役割・審判員の使命・任務・資質）

審判実技指導の主なる事項（審判上の所作・位置取りと移動・有効打突の判定）

⑤審判法実習および指導演習テスト

審判（主審・副審）を行い有効打突・禁止行為・所作事・位置取り等の実習

指導演習として有効打突の要件・禁止行為を見逃していないか説明を行いました、旗の表示から位置取り、所作事を理解し



たうえで指導を行う。

⑥ 剣道技術および指導法三

⑦ 剣道技術および指導法四

⑧ 剣道技術テスト

⑨ 実技実習二

(実技) すり足で基本打突の示範・しかけ技と切り返し  
の示範・踏み込んだの技(面・小手・突き)に対する応じ技の示  
範

三日目 六時三〇分〜一五時三五分

① 実技実習三

② 剣道指導の心構え

③ 剣道安全管理およびトレーニング理論

④ 理論テスト

⑤ 剣道現代史

⑥ これからの剣道……福本副会長講話

⑦ 閉講式

⑧ 判定会議

以上三日間の過密日程により座学&九回におよぶテストを受講  
し頭の回転がついていかず、肉体的・精神的にも旗(赤・白)を  
両手目一杯上げていました。

本講習会の認定者の発表は、講習会修了後の判定会議において  
可否を決定し、後日各人に連絡するとともに全剣連月刊「剣窓」に  
その氏名を掲載することとで、講習後数日間ドキドキしながら

通達を待っていました。後日合格通知によりホッと胸をなで下ろ  
しました。

今回の上級認定により自分の剣道を見直すきっかけを得たと  
もに今までの自分の指導法を反省した次第です。今後において上  
級者にふさわしい自分の剣道・現在実施している小・中学生の指  
導のレベルアップを目指して努力していきたいと思っております。  
徳島県剣道連盟での上級取得者は、米倉先生・久保先生に次い  
で私が三人目ですが、剣道連盟の諸先生方も是非取得して頂けた  
らと思うところです。

## ドイツ・ニーダーザクセン州との 剣道交流に参加して

城北高等学校教諭 福 多 雅 英

平成二十八年十二月一日より一週間、米倉滋先生と二名で徳島県の国際交流事業として、ドイツ・ニーダーザクセン州（以下ND S州と記載）での剣道交流に参加させていただきました。徳島県とND S州との交流は、第一次世界大戦時の「板東俘虜収容所」でのドイツ人俘虜と地元住民の交流の歴史を受け継ぎ、鳴門市とND S州リュネブルク市が姉妹都市の協定を結び長年交流を続けていることを背景として、平成十九年に鳴門市・リュネブルク市の属する県・州である徳島県とND S州が「交流に関する共同宣言」に調印して交流が始まりました。

スポーツの交流としては、柔道やマラソン等の交流が始まり、平成二十五年にドイツ・ND S州剣道連盟の役員四名が来県し、次年度は本県から訪独するといった方式での剣道交流が行われるようになり、昨年度は州剣道連盟指導者三名が来県し、城北高校の部活動に参加され一緒に稽古をしました。今回ドイツでの滞在期間は五日間と大変短かったのですが、この度の剣道交流について報告いたします。

十二月一日（木）朝六時、高速バスで関西国際空港へ、KLMオランダ航空でオランダのスキポール空港を経由し、徳島を出て

二十時間後、八時間の時差があるので十二月一日十八時にND S州の州都ハノーバーに到着しました。空港を出ると冷たい雨でしたが、オルデンブルグ市在住四十年の大橋英治氏が迎えに来てくださり、氏の運転で今回の宿泊地である Goslar 市までアウトバーン（ドイツの高速道路）を約二時間かけて行きました。大橋氏はオルデンブルグの交響楽団に所属しているプロの音楽家で、同市の剣道クラブ誠剣塾で稽古をされていて五段の腕前です。今回の剣道交流では、ご多忙の中、通訳や車の運転等で奥様の純子氏とお二人に大変お世話になりました。

ND S州は北ドイツに位置し、北ドイツ平野のニーダーザクセン低地からドイツ中部のハルツ地方にまで広がるドイツで二番目に広い州です。平野に農地が広がり、街と街が離れていて移動には時間がかかります。また緯度が高いので寒さが厳しく、北海道と同じような気候です。

二日（金）昨夜遅く到着したので回りの風景に気がつきませんでした。石畳の道とドイツの伝統的な建築物である木組みの家が美しい旧市街地の一角にホテルがあり、十六世紀以前に建てられた建物も多く、この旧市街地全体が世界遺産に登録されているとのことでした。

この日の交流稽古会は夜なので、ハルツ地方で最も標高の高いブロッケン山（標高一四二m）に案内していただきました。山頂までは蒸気機関車で行くことができ、魔女伝説が残るこの山は、古来よりこの地方に住む人びとにとっては神聖な場所で、観光名

所でもあります。霧が立ちこめる山頂に光が水平に差し込むときに光を背にして立つ人の影が霧の壁に映り、影の回りに光の輪が現れる現象を「ブロッケン現象」といいますが、この山でよく観察されることからこの名前がついたようで、一年のうち二百六十日は霧が出るようですが、この日は快晴で山頂からの三百六十度の眺めは壮観でした。この場所からは、ドイツ中央部が見渡せることから、冷戦下の旧東ドイツ時代にはソ連の軍隊がレーダー基地として支配していたそうです。

山頂にあるレストランでNDS州剣道連盟のボード・セバステイアン副会長、ヒューガー・マルクス氏、ゴスラー市の指導者カール・ハインツ・ボアシャーズ氏、通訳をしていた大橋英治氏、そして米倉先生と私で今後の剣道交流について懇談しました。州側の三名は来県して交流に参加した経験があり、今後も交流の継続と発展を熱望しているとのこと、州での剣道セミナー（講習会）や稽古会を通して正しい剣道の技術の修得や武道としての剣道の精神を学び州剣道連盟の発展・拡充に努めたいということでした。

この日の交流稽古会は、十九時よりブラウンシュバイク市の体育館で行われました。バスケットボールコート一面（二十八m×十五m）の広さで、同市の剣道クラブが普段稽古している場所です。屋外の気温は零度以下でしたが、室内は暖房により快適でした。参加者は二十名で、米倉先生の指導の下、準備体操・素振り、面をつけての基本技を一時間実施しました。米倉先生は訪独して





の剣道指導が今回で十五回目ということで、ドイツ剣士によくわかるように基本動作を丁寧に説明をされていました。号令は「アインス・ツバイ・ドライ」ではなく、「イチ・ニイ・サン」で号令や技の名前等も全て日本語です。まわり稽古・指導稽古を終えたときには二十一時をすでに過ぎており、参加者の皆さんは熱心に稽古に取り組んでおられました。基本稽古では大きく竹刀を振り、真っ直ぐに打突し、地稽古においても正しい構えから正しく打突しようとする姿勢が感じられました。

三日（土）二日間にわたり剣道セミナー（講習会）が開催されました。会場となったゴスラー市の体育館は、ハンドボールコート一面（四十m×二十m）がとれる広さのフロアで、暖房設備の整った快適な場所でした。セミナーに参加する為にNDS州の各地から、九歳で六級の小学生から八十一歳七段の高齢者の方まで五十三名が参加されました。ドイツ剣道連盟からヴィエブランズ・デトレフ会長（教士七段）・前会長のデメスキー・ヴォルフガング氏（教士七段）とフーレン・レネ氏（錬士七段）が参加されました。ほとんどの参加者が自家用車で来られていたので、アウトバンの凍結により、開始時間を少し遅らせて十一時から始まりました。午前中のセミナーの内容は、米倉先生の指導により素振り、広い体育館をいっぱいに使っての足捌き・追い込み、切り返しを一時間みっちりを行い、休憩をはさんでしかけ技の稽古をしました。昼休みに地元の新報社から、剣道の特性や徳島との交流の状況等について取材を受けました。午後の部は十五時から



十八時まで、応じ技、上段技の稽古をした後、まわり稽古・指導稽古を実施しました。運動量の多い稽古内容でしたが、最後まで全員が熱心に参加して一日目の日程を終えました。

この日の夕食会は体育館のエントランスホールで開かれ、参加者が持ち寄った料理や近くのレストランからテイクアウトした料理を食べながら懇談しました。参加者の内、半数ぐらいの人は、広い州の遠い所から来ているので、寝袋持参で体育館に宿泊するとのことで、今回の剣道セミナーに参加することへの強い熱意を感じました。

四日(日)セミナー二日目は九時から十二時まで実施しました。州側からの要望で「木刀による剣道基本技稽古法」の指導を習熟度別に二時間実施しましたが、小学生の参加者でも一通りの所作は理解しており、普段の稽古でも重要視して取り組んでいるようでした。全員でまわり稽古をした後、高段者もと立ちの指導稽古をしてセミナーの全日程を終了しました。通訳として帯同していただきました大橋英治氏がお仕事の都合で帰られ、午後からはセミナーにも参加されていた奥様の純子氏(初段)にお世話になりました。

二日間のセミナーを通して、参加されたNDE州剣士の皆さんの剣道に意欲的に取り組み、正しい剣道を学ぼうとする真摯な態度に感銘を受けました。剣道を愛する者のひとりとして、遠い他国に於いて日本の伝統文化として継承されてきた剣道の良さを理解しようとする姿勢やその取り組みに感動しました。



コスラー市庁舎訪問

五日（月）ゴスラー市の市庁舎訪問が午後からなので、午前中はヴェルニゲローデ市にあるヴェルニゲローデ城の見学案内していただきました。丘の上にある古城からは、街を一望することができます、オレンジ色の屋根の古い家並みと街を見下ろすようにそびえ立つブロッケン山が印象的でした。ゴスラー市へ向かう道中、都市部とは違い見渡すかぎり広大な農地が広がり、古い教会を中心とした小さな集落が点在していました。農業大国としてのドイツの一面を見ることができました。

午後からはゴスラー市庁舎を表敬訪問して、副市長に面会しました。副市長はスポーツ少年団を引率して、他県ではありませんが来日した経験があり、今後もこの交流が続くことを希望しているとのことでした。対談の後、副市長にゴスラー市の小高い丘にある皇帝居城に案内していただきました。十一世紀に皇帝ハインリヒ三世が築いたドイツに現存する宮殿様式の建物のなかでは最も規模の大きい建築物で、現在の城の大部分は十九世紀に再建されたそうです。大広間にドイツの歴史を表した巨大な壁画があり、圧倒的な存在感がありました。

この日の交流稽古会は二十時からで、ゴスラー市の剣道クラブが普段稽古している場所で行われました。この場所では、剣道だけでなく合気道や柔道、韓国武術なども行われているようで、それぞれのクラブが熱心に活動しているとのことでした。広さは剣道の試合場よりも少し狭い部屋でしたが、参加者が大人だけの六名だったので、基本稽古から指導稽古まで二時間にわたり十分に

稽古することができました。

六日（火）滞在最終日、午前六時にホテルを出発、大橋純子氏にハノーバー空港まで送っていただきました。帰路は来たコースをそのまま辿り、KLMオランダ航空でオランダのスキポール空港を経由し、関西空港へ、高速バスに乗り帰県しました。時差の関係で徳島への帰着時間は七日の午後になっていました。

この度の剣道交流は、私にとりまして本当に貴重な経験となりました。我が国固有の運動文化である剣道が海外でも普及し、発展して行くことは素晴らしいことだと思いました。「交剣知愛」という言葉がありますが、竹刀を合わせて立ち会うことで言語の必要のない交流が図られ、親交を深められることに剣道の魅力を再確認することができました。また、今回の剣道セミナーにおいて、海外での剣道指導経験の豊富な米倉先生の指導を間近で勉強させていただいたことは、私自身の剣道修行において大変ありがたく思いました。

私の勤務している城北高校では、NDS州のリーゼ・マイトナー・ギムナジウムと姉妹校としての交流をしており、毎年来校した生徒や先生が剣道体験をしています。短時間の取り組みですが、剣道の伝統文化的な行動様式に興味関心を持っていただいているようです。今後も剣道を通しての国際交流に貢献できるように取り組んで行きたいと思えます。

最後にこのような素晴らしい国際交流の機会をいただき、お世話いただきました徳島県国際企画課・徳島県剣道連盟・NDS州



剣道連盟の皆さんに紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。  
また、本県剣道連盟とNDS州剣道連盟の交流がこれからも継  
続し、発展して行くことを祈念いたします。





# 大会・行事所感

## 第五十一回

### 全日本居合道大会を終えて

審判長 原 田 勝



平成二十八年十月二十二日(土)

第五十一回全日本居合道大会が東京

武道館に於いて開

催された。居合道の大会では、規模・内容ともに世界一の大会である。五段、六段、七段の三部門により各都道府県對抗優勝試合が行われた。参加者は監督を含め選手一八八名、審判団は顧問を含め三〇名、個人演武者は、五段より範士八段までの合計四三八名であった。

全日本剣道連盟松永政美副会長が開会の挨拶を行い続いて、東京都剣道連盟浅野直道会長より歓迎の挨拶があった。次に審判

長の私が試合上の注意点並びに試合要領の説明を行った。居合道試合・審判規則及び細則に従って試合に係る所要時間は、主審の始めの宣告より最後の正面の礼を終え携刀姿勢になるまでを六分以内とした。技の抜き本数は合計五本とし、最初の二本は各自が修練した古流の技を抜き、残り三本は全剣連居合の技十二本の中より三本の技を審判長が指定をした。

審判長の「正面に礼」の号令により、審判長、審判主任、審判員、試合者、監督、全員揃って正面に対し礼を行った。審判長の試合開始の笛を合図に、各試合場の主審が一斉に「始」の宣告をした。肅然たる緊張を切り裂く秋水の刃音も鋭く気魄溢れる熱戦が開始された。審判団に於いては左右の手に持つ紅白の審判旗は単に試合の勝敗を表示するだけの物にあらず、今後の居合道が発展して行くか否かを分ける旗でもある。勝者も敗者も共に益々やる気を起こさせるような判定でなければならぬ。それを審判団全員が肝に銘じ取り組んだ。

五角の勝負であっても居合道の試合に引

き分けは無い。居合道試合、審判規則の第三条に明記されてるように使用する刀は真剣であり、つまり生か死かの何れかである。それ故に審判員は伯仲した試合であっても、居合道試合規則及び細則を順守し、それらを正確に見極め公明正大に適正なる判定能力と確固たる信念を持って判定を下さなければならぬ。試合者が全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で臨むなら、審判員も常に真剣勝負の精神でなければ務まらない。また大会が盛会に終わるか否かも全て審判員の双肩に掛かっており、そしてその全責任は全て審判長にある。

また審判長は各試合場の進行状況、審判員の姿勢態度はどうか、判定状況等は適正か、審判主任のあり方等一瞬たりとも気は抜けない。審判員は六試合ごとに交代ができ控えの席もあるが、各試合場の審判主任三名と審判長には控えの席はなく交代要員もない、開会式より決勝戦終了までの約六時間、端正なる姿勢を保ち続け水分補給も昼食も取らずトイレにも行けない、今時まれに見る正に行そのものである。これを

超えなければ全日本剣道連盟の居合道の試合に係る審判員を卒業する事が出来ない、全日本居合道大会の審判長を努める事は正に審判員卒業の最終審査の様なものである。

## 第八回徳島県三者対抗 剣道大会に参加して

教員チーム監督 塩 田 善 治

第八回徳島県三者対抗剣道大会は平成二十八年十月一日池田市で開催された。場所は池田高校体育館であり、審判長を務められた中尾正輝先生の母校である、また高校野球の名門で全国制覇を為し遂げ、野球の聖地といわれている学校である。二十六年間中断していた大会が昨年より復活し、また熱い戦いが繰りひろげられた。特にチーム編成が多くの人が出場できるよう工夫されている（半数の選手が連続出場不可）。大会後の懇親会はできるだけ全員参加を旨とし、交剣知愛を実践している大会である。私は今大会、監督をさせて頂いたが、教員チーム念願の初優勝を飾ることができ、選手の健闘を称えたいと思います。

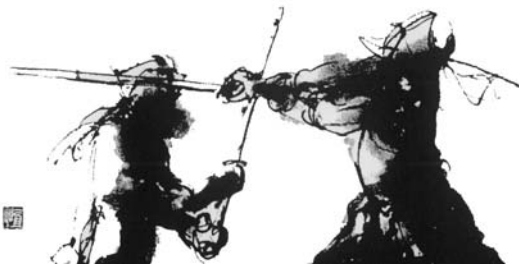
最優秀試合は増田和広選手（実業団）対吉田彰夫選手（警察）の試合が選ばれた。

各対戦とも緊迫した一瞬も気の抜けない、



観戦者も物音一つたてない、選手、観客が一体となった立派な大会でありました。今後はこのような立派な大会は、一部支部長だけでなく、多くの支部長の参加と剣道修業者の道標としてもらいたいと念じる次第です。

終了後の懇親会では剣道の話で花が咲き、笑いの中で時間のたつのを忘れさせられ、本当に充実した一日であった。



## 試 合 結 果

		先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
第一試合	実業団	園山	井口	猪野	片山	近藤	白木 健	山本 泰	北村	白木	高木	増田	森	藤本	合田	原田	4	7
	警察	一本勝 木浦	一本勝 平野 千	一本勝 篠	▲(×) 一本勝 村井	(×) 一本勝 宮本	(○) 一本勝 岡山	△	△	(○) 一本勝 佐野	(×) 一本勝 青木	(○) 一本勝 吉田	▲▲ (○) 一本勝 木下	(×) 一本勝 乾	△	△		

		先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
第二試合	教員	山本 千	前田	白木 恒	岸野	大石 洋	大石 真	佐藤	磯部	岩原	玉田	富浦	福多	柴田	西谷	影山	7	12
	警察	一本勝 木浦	一本勝 平野 千	(○) 一本勝 篠	▲ (○) 一本勝 村井	△ 一本勝 宮本	(○) 一本勝 岡山	(○) 一本勝 佐野	(○) 一本勝 島田	(○) 一本勝 佐賀	(×) 一本勝 青木	(○) 一本勝 吉田	(○) 一本勝 木下	(×) 一本勝 乾	(○) 一本勝 藤川	(○) 一本勝 美馬		

		先鋒	次鋒	十三将	十二将	十一将	十将	九将	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数
第三試合	教員	山本 千	前田	白木 恒	岸野	大石 洋	大石 真	佐藤	磯部	岩原	玉田	富浦	福多	柴田	西谷	影山	7	12
	実業団	一本勝 園山	一本勝 井口	(○) 一本勝 猪野	▲ (○) 一本勝 片山	(○) 一本勝 近藤	(○) 一本勝 白木 健	△ 一本勝 山本 泰	(○) 一本勝 北村	(○) 一本勝 白木	(○) 一本勝 高木	(○) 一本勝 増田	(○) 一本勝 森	(○) 一本勝 藤本	(○) 一本勝 合田	(○) 一本勝 原田		

## 第八回徳島県三者対抗 剣道大会を振り返って

三好支部 湯 岑 昭 彦



まずはじめに、第八回徳島県三者対抗剣道大会の会場として、池田高校体育館の使用を

快く了解していただいた結城孝典校長先生、お手伝いいただいた岡久先生、本当にありがとうございました。また、本大会の主管

を三好支部が務めるにあたり、徳島県剣道連盟をはじめ多くの先生方のご指導、ご協力がありましたことに深く御礼申し上げます。このような大会の運営は三好支部員にとっても経験したことのないものであり、至らない点等多々あったと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、このたびの第八回徳島県三者対抗剣道大会の主管を三好支部が受け持つようになったと聞いたのは、まだ新年度になる

前のことでした。合田秀實支部長に電話で連絡を受け、三好支部で本当にそのような大会が開催できるのだろうかと不安に感じたことを覚えています。

三好支部は三好市と東みよし町からなり、有名、無名、自然物、人工物を問わず観光資源に恵まれ、二〇一七年にはラフティング世界選手権も開催されることが話題となっています。このように観光産業も盛んで宿泊施設もありますが、それは観光名所に集中しており、大会を開催するにあたって一番不安に感じたのはこの宿泊施設の問題でした。

試合会場となる池田高校の付近に大人数を収容することができ、懇親会場も完備している宿泊施設は、一つだけです。早急に部屋を押さえるべく予約をしました。大会はまだ半年以上先のことでしたが、もしその施設が予約できなければ会場から車で約三十分以上かかってしまうところになっていたので、予約を取ることができ安心しました。

その後は事務局の熊澤信行先生に運営上

の細かな点を習い、そして支部員にも協力してもらいながら、パンフレットの作成や、当日のスケジュールの摺り合わせ等を行っていききました。

大会当日は、運営等に大きなミスも無く、懇親会も盛大に行われ、あっという間の一日でしたが、大変貴重な経験をする事ができました。

剣道人口が年々減少していく中、今回頂いた貴重な経験を活かし、三好支部員一丸となり更なる発展を目指して精進していきたいと思えます。

## 三者対抗剣道大会に参加して

実業団チーム先鋒 園 山 由 華



平成二十八年十月一日に第二回徳島県三者（警察・教員・実業団）対抗剣道大会が徳島

県立池田高等学校校体育館において開催され、私は実業団チームの先鋒として出場させていただきました。この大会は、徳島県の警察と教員と実業団の三社の友好的な交流と競技力の向上を目的とされた大会であることを胸に刻み、参加させていただきました。

初戦は、警察チームの木浦選手と対戦しました。前半に相手との攻め合いが続き、惜しい飛び込み面もあったものの、なかなか一本には結びつくことができませんでした。後半、出小手に対して小手面を合わせられ一本先取されました。そのまま惜しくも負けてしまいました。相手との力の差はあまりないものの、相手の一本に対する執

念と気合いに圧倒されてしまい、悔しい結果となりました。

二戦目は、教員チームの山本選手と対戦しました。何回か試合で対戦したこともあり、山本選手の面の速さには警戒していません。相手は、手元を一切あげず、崩れないため、打てる隙がなくなかなか攻略できませんでした。そのまま時間がきてしまい、引き分けという結果になりました。

また、試合後の稽古会では沢山の先生方に指導をしていただき、大会後の慰労会では普段なかなかお話ができない先生方の貴重なお話を聞くことができ、とても貴重な経験をさせていただきました。今大会は、「初の教員チームが優勝」という歴史に残る結果となり、改めて徳島県全体の競技レベルの高さ、剣道に対する強い思い、を感じるとともに自分自身の技術面・精神面の課題を見つけることができました。この大会で得た経験を、今後の私の剣道人生の中で生かし、精進し続けていきたいと思いません。

最後に、私は県外出身（島根県立大社高

等学校から広島文教女子大学へ、現在鳴門教育大学大学院生）ということもあり、この三年間、徳島県剣道連盟様には多くのことを教わり、育てていただいたことにも感謝しています。この四月より郷里の島根県で中学校体育教員として勤務することになりました。数々の稽古会、女子稽古会、大会等でご指導いただきました先生方には、この場をお借りして御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



## 西日本医科・医療系学生 剣道大会を終えて

徳島大学医学部剣道部部长

久保 宜明



平成二十八年八月二十、二十一日に鳴門大塚スポーツパークアミノバリュールホールにお

いて、第六十八回西日本医科学生総合体育大会剣道部門（通称、西医体 にしたい、二十、二十一日）と第十九回西日本コメディカル学生剣道大会（通称、西コメ、二十日）を徳島大学歯薬学部（蔵本）剣道部が主管しました。大会が無事終了し、大会委員長として部員とともに安堵しています。

西医体は、医師をめざす医学科学生の大大会で、全国を東西二つに分けた西側、具体的には富山、岐阜、静岡県以西の四十四大学の医学科学生が参加します。医学科学生にとって一年で最も大きな大会で、多忙な

学業の傍ら、西医体での好成績を目標に稽古に励んでいます。先輩方によれば、昭和二十九年に第六回西医体を徳島で開催するにあたり、剣道種目を新競技として追加したそうですので、徳島は六十二年前の西医体剣道の発祥の地ということになります。勝沼信彦先生が大会委員長を務められた第四十二回大会（平成二年）以来、二十六年ぶりに徳島で開催させていただきました。

西コメは、医学科以外の医療系スタッフをめざす学生（医学部医科栄養学科・保健学科、歯学部、薬学部）が参加する大会で、西医体と同じ地域の学生が参加します。西医体には二十一種目の競技があるのに対して、西コメのある競技は剣道を含め数競技で、諸事情により西医体と西コメの共催は今回が最後でした。

西医体に男子三四七名、女子一二九名（計四七六名）、西コメに男子七四名、女子一四〇名（計二一四名）のエントリーがあり、西医体と西コメをあわせて出場者は六九〇人でした。一日目には、西コメの女子団体戦と男女個人戦、西医体の男女個人戦、

二日目には西医体の男女団体戦が行われました。一日目のスケジュールは非常にタイトでしたが、昨年から導入された個人戦での判定制度（準々決勝まで延長は一回のみ）により、試合は比較的スムーズに進行しました。大学から剣道を始める学生も珍しくなく、参加学生の技量にばらつきはありましたが、二日間にわたり熱戦が繰り広げられました。西医体の女子団体戦では人数が揃わず棄権する大学が多く、予選リーグの組み合わせ再抽選に時間を要したこと、団体戦で各チームが着座するスペースを十分確保できなかったことなど、いくつかの課題も残りました。剣道部OBも一名、緊急時に対処する医師として参加していただきましたが、選手に大きな怪我やトラブルはなく、二日間を終了することができました。

徳大では、西コメ男子個人で前田康輔君（薬学部三年）が三位に入賞しました。西医体男子団体はベスト八でした。男子団体は昨年の大阪大会では四位入賞でしたので、今年はそれより上をめざしていましたが、

残念ながら昨年に及びませんでした。西医学男子団体でベスト四に入ったチームは、どのチームも強く地力の差を感じました。競技責任者を務めた佐藤勝哉君（医学科三年）や主将の岩川陽介君（医学科四年）をはじめ部員は、多大な労力を要した大会の準備、運営に忙殺されながらも、各人の持てる力を十分発揮してくれたと思います。また、西医体や西コメに出場できない部員も大会の準備、運営に裏方として頑張り大会を支えてくれ、医歯薬学部剣道部のチームワークの良さも実感しました。部員（写真）にとって記憶に残る大きな経験になったことと思います。

最後になりましたが、高島稔之先生をはじめご出席いただきました来賓の先生方、審判長をお務めいただきました医歯薬学部剣道部師範の河田清実先生、大会の準備、運営をご指導いただき、副審判長をお務めいただきました徳島県剣道連盟大学連常任理事の木原資裕先生、審判員をお務めいただきました徳島県剣道連盟の諸先生方には心より御礼申し上げます。



鳴門大塚スポーツパークにて 平成28年8月21日

## 西医体・西コメ主管を終えて

徳島大学医歯薬学部剣道部

佐藤 勝 哉



平成二十六年八月二十日、二十一日、鳴門アミノバリーホールに於いて第六十八回西

日本医科学生総合体育大会剣道競技部門並びに第十九回西日本コメディカル学生剣道大会を開催いたしました。本大会は、西日本四十四大学の学生が主体となり開催しています。今回、その剣道競技部門を徳島大学医歯薬学部剣道部(蔵本剣道部)が主管させていただくこととなり、私は剣道競技責任者の任を賜りました。

徳島大学では、平成二十六年六月に中国医科学生剣道大会、同十月には四国医科学生剣道交歓試合の主管をさせていただいた経験があります。今回の西医体も規模が大きいだけで、さほど違いはないだろうと

安直に考えていました。しかし実際はそのように単純ではなく、大会規模が変わると運営方法が大きく異なり、またそれにくわえて、全競技同時に開催するが故のさまざまなルールや制約もあります。特に予算や決算といった会計業務、熱中症や緊急時の安全対策は想像以上に準備が必要で、責任の大きさを実感いたしました。これらは厳正な大会運営のために必要な手続きであり、参加者からすれば安心や公平性に繋がることですが、運営側にとっては仕事が膨大で、想定を上回る大変さでした。

準備が始まったのは大会の二年前。といっても、会場の選定や、漠然とした準備計画を立てる程度で、特に忙しいということはなく、まだ主管をするという実感はありませんでした。大会の半年前くらいになると、徐々に仕事が増えてきます。エントリーの開始や、団体戦の組み合わせ、審判員・補助員の依頼など。しかし、まだ多忙というほどではありません。もう少し忙しくなれば他の部員にも手伝って貰おうと、このときは考えていましたが、思い返せばこれが

大きな過ちでした。大会まで一ヶ月半を切ったところで、やっとエントリーが揃います。審判員は必要数に満たず、さらに広くお願ひする必要があります。また、キャプテン会議・審判会議の準備、会場設営、補助員の配置、さらに、パンフレットも作らないといけません。それらに加え参加大学からはエントリーを変更してくれ、開場時間はいつか、検量場所はどこかと次々にメールが届きます。これまでは、ほぼ自分ひとりで準備してきましたが、一気に仕事が増えると、とても手に負えません。一方で、他の部員に一から説明して手伝ってもらうくらいなら、自分でやったほうが早いというジレンマに陥りました。このため仕事の分担当が上手くいかず、当日までに間に合わなかった部分もあります。

また、運営のことに精一杯で、稽古に十分な気を配れなかったことも悔やまれます。西医体男子団体戦は、前年の第四位から順位を落とし、ベスト八という結果になりました。徳島で開催されることは、ずいぶん前からわかっていましたが、計画的な稽古



が十分にできていなかったように感じます。当部では、師範やOBの先輩方から多くのアドバイスをいただけますが、高校までのように長期間付きっきりで面倒を見てくれる、顧問のような人はいません。ゆえに稽古内容は、その年のキャプテンが中心となって決めていますが、交代するたびに方針が変わってしまいます。もう少し一貫性のある稽古をすべきではなかったかと反省しています。

最後に、二日間という長時間にも関わらずご協力いただいた、審判員の先生方、補助員の皆様に心より感謝申し上げます。とりわけ、徳島県剣道連盟大学連理事の木原資裕先生には、中四国、四国大会に続き、親身になってアドバイスをいただきました。もう少し自分がしっかりしていれば、これほどお手間を取らせなかったのと思うばかりです。大会を無事開催することができたのも、ひとえに皆様の多大なご支援の賜物です。ありがとうございます。

蔵本剣道部は一年生から六年生まで約三十五名の部員が所属しており、週四回の稽

古を行っています。またOBに限らず、外部から多くの方にご参加いただいています。もしお時間がありましたらご指導にお越しいただけると幸いです。

剣道部ウェブサイト [http://tokushima.](http://tokushima.ame-zaiiku.com/newpage1.html)

[ame-zaiiku.com/newpage1.html](http://tokushima.ame-zaiiku.com/newpage1.html)



# 徳島清風館道場

## 創立二十周年記念

### 稽古会開催にあたって

徳島清風館道場館長

久保隆司

平成二十八年八月十三日徳島県立中央武道館をお借りして、徳島清風館道場創立二十周年記念稽古会を開催致しました。我道場は、香川県観音寺市（財）玄武道場初代理事長（故）森川竜一先生より命名頂き、玄武道場（故）森川先生、梶先生、恩師（故）高下正義先生、徳島から玄武道場へ修行に通う道友、四国郵政武道会のメンバーと十一人の幼少年少女の門下生の参加により、平成八年四月十三日に徳島市国府町府中の小さな稽古場をお借りして、道場開きを行いました。

昭和五十六年十一月より神山町下分で神山錬成会を開会し、平成十年五月の休会まで十七年間活動中、神山で週二回、国府で週二回三年間重複して活動致しました。国

府町の小さな小さな道場から一人でも多くの剣道を愛する人材を育てる思いで、三十五年間私の生きてきた人生の半分以上剣道を通じ真剣に「正しく！楽しく！仲良く！」の精神で指導して参りました。

二十一年間で指導した、少年少女また一般青壮年の門下生が、個人的にも団体としても数え切れない活躍と実績を上げてくれました。

平成二十九年一月、私も六十歳（還暦）を迎え、三月には十八歳から四十二年間勤めた郵政人生も節目の時期となります。

中学入学（神山町下分中学校）から（故）多田三美先生に導かれ四十八年間私の人生を支えられ応援して頂いた、恩師、先輩、道友、門下生、後援会の皆様のお陰と深く感謝致しております。

そして感謝の思いを開館二十年の節目に我が道場及び私自身を支えて頂いた先生方、先輩、道友、後輩、門下生と共に「心の汗が流せる稽古会」を行い、ご参加頂いた皆様の心に深く残る、徳島の暑い思い出のページにして頂きたく、お盆のお忙しい中

開催致しました。

お忙しい中、遠方は東京都から原嶋先生、馬岡先生、大阪府から佐藤先生、滋賀県より八木先生、福井県から猿渡先生、山口県より京條先生、香川県から小田先生、小林先生、吉川先生、高知県より井口先生、そして徳島県剣道連盟理事の木原先生、佐藤佳宏先生、玉田先生、武田先生、佐藤光太郎先生、名西支部長大西先生、四国郵政武道会メンバー、高校剣道部松田先輩、道友、そして我が道場の門下生と後援会、大勢の皆様のご参加を得て、徳島清風館道場二十周年記念稽古会を開催できましたことを、心より御礼申し上げます。

開会式では道場顧問の、原嶋茂樹教士八段、道場相談役、名西支部長大西正範教士七段には、ご丁寧なるご祝辞をいただき誠にありがとうございます。

稽古会に先立ち、四国郵政武道会仲間であり玄武道場同門生、そして道場相談役の、青木茂生先生による居合演武を見せていただき、さらに、全剣連中堅指導者剣士柳生四十四期同期生である佐藤誠教士八段と友

好道場、滋賀県目求館道場館長の八木克潔  
教士八段による剣道形の素晴らしい演武を  
御披露いただきました。

稽古会一部は、教士八段、七段の先生方  
元立ちによる指導稽古を四十分間、二十分  
の休憩後、原嶋先生を中心とした八段、七  
段先生方三分刻み回り稽古四十分間、内容  
の濃い思い出深い熱い稽古会となりました。

閉会式においては、剣道日本特集で「誠  
先生による剣道練習法、一挙動による打突」  
等で活躍中の佐藤誠先生より、参加者全員  
の心に響き渡る御講評頂き誠にありがとう  
ございました。

平成二十五年五月体調を崩し、二度の手  
術と入院をし多くの方々にご迷惑ご心配を  
お掛け致しましたが、皆様のご支援ご指導  
応援をいただき、今元気に剣道ができる事  
に、日々感謝し「一期一会」これからも出  
会いを大切にし、(故)森川先生から七段  
昇段祝いいただいた言葉「正しく、楽し  
く、仲良く」の精神で、年齢、職業を問わ  
ず、剣道を求める人全てに剣道の楽しさ、  
喜び、感動をみんなで楽しめる、アットホー

ムな徳島清風館道場を、これからも継続し  
て行きたいと思えます。

そしてこの清風館道場の精神が次世代に、  
継承されて行く事を願いたいと思えます。

合掌





## 清風館道場二十周年に寄せて

元徳島貯金事務センター所長

原 嶋 茂 樹

(剣道教士八段 東京都在住)

清風館道場二十周年誠におめでとうございます。  
います。

平成二十八年八月激暑の中、二十周年記念稽古会に参加させていただき、私にとっても重要な思い出となりました。一口に二十年と言っても、久保館長にとってはいろいろな苦労とともにあったという間に時が過ぎてしまったことと思います。

同じ郵政の人生を過ごした久保館長は徳島県内の郵便局勤務。そして、余った時間に清風館で少年、少女の剣道育成と自己修行に時を費やし、その少年少女たちが成長、現在の徳島県剣道連盟の若手として、社会人として社会で活をしていると聞いております。

「剣道道場を開館する」、私にとっては郵政の仕事をしなからでは到底、考えられ

ない行動。強い意思。何か、大切な先生との出会いがあったのでしょうか。そのあたりは久保館長とは会話しておりませんが、中途半端な思いでは道場を続けていくのはできないものであり、賞賛するしかありません。

私と久保館長はお互い六段の頃から全国郵政武道大会で知り合い、また、偶然にも平成二十一年から徳島市のゆうちょ銀行に二年間の単身赴任をした際、土曜日、日曜日、時間のある限り清風館に寄せていただき、少年達と稽古し、清風館の一員として籍を置いておりました。

久保館長が必ず実施したこと、それは稽古の最後に子供達に、私との十分間の稽古を正座させて見せること。二年間で三十回くらい五角稽古をしたでしょうか。久保館長には大きな目標がありました。ひとつは普段見ることができない稽古、特に久保館長が真剣に稽古で私と対峙し、館長の「一生一打」の撃ちを見せること。ふたつ目はこの稽古を通じ、彼の「目標」八段合格を実現させること。そのことをお互いの稽古の中で私は感じとり、より真剣に、そして、

私の持っている限りの気力、技を出し、両者の心技体を高めることができました。現在まだ、館長は目標に向かって修業中ですが、是非、あの三十回の「十分間稽古」を思い出していただき、大きな壁を乗り越え、目標を達成してください。

徳島の剣道人口は多いとは言えませんが、剣道に対する取組みは真剣で、剣風は鋭く、正攻法の先生方が多いと感じています。平成十六年から平成二十八年の間、若手八段の先生方が続出。他県を圧倒するような勢いのある県です。その中で、清風館や徳島県警道場などで、稽古させていただいた私は良い剣道修業ができ、自信にもなっております。今後、清風館三十周年に向け、ご発展を祈念するとともに、久保館長の目標達成及び徳島剣道のご発展をお祈り申し上げます。また、こんな私ですが、徳島にも寄せていただき、皆様と稽古をお願いする次第です。

最後になりましたが、このたびはこのような寄稿の機会を与えていただいた徳島県剣道連盟の各先生に感謝申し上げます。

## 清風館道場

### 二十周年記念を祝賀して

八木克潔

(剣道教士八段 滋賀県在住)

徳島の堀江幸夫先生と私の父(八木謙一)とは、互いに相手の人格を認め合う老朋友

であり、その関係で徳島県の先生方から久しくご交誼をいただいております。三十年

ほど前、五月の京都大会で徳島の先生方は、東山仁王門の洛東道院のお寺で寝泊まりされており、奥の間で堀江先生と父が楽しそうにお話しされていた事を思い出します。

年号が平成に改められた頃、近江剣友会

(父を代表とする県内剣道愛好者の集まり)

二十名余りで徳島へ遠出稽古に伺ったことがあります。行きのフェリーの中で、父から徳島県の面積、人口、有段者数等の説明

があり最後に「恥ずかしくない稽古をするように、気を引き締めお願ひ下さい。」

と檄があり、一同緊張しつつ四国に向かいました。当時から二十数年が経ち、今も変

わらず久保先生にはお稽古をいただき、永くお付き合いさせていただいております。

また、この度の二十周年記念稽古会にお声をかけていただき有難うございました。

父と共に伺った時を思い出しつつ、一生懸命お稽古させていただきました。今後、両県益々武道を通じ繁栄することを念じ、ご挨拶とさせていただきます。



## 徳島清風館道場

### 二十周年を迎えて

徳島春風館道場館長

青木茂生

この度は、徳島清風館道場設立二十周年を迎えられましたこと衷心よりお慶びを申し上げます。また、平成二十八年八月十三日（土曜日）には、設立二十周年記念稽古会・お祝い会が、盛大に開催されましたことに対しても心からお慶びを申し上げます。その折には、稽古会・祝宴会にご案内をいただきまして誠にありがとうございます。ました。

私と久保先生とは、(財)玄武道場の同門であり、また、道友でもあります。私は、久保先生より一年遅く(財)玄武道場入門、平成四年六月一日に入門をさせていただいたと思います。当時は、久保先生のワゴン車で、来代先生・佐藤先生・吉永先生・松田先生・三好先生等大勢で剣道・居合道範士故森川竜一先生を慕って剣道の稽古に

週一回観音寺市まで通いました。

久保先生は、徳島市内から片道二時間三十分ぐらいかけて観音寺市まで週一回の稽古をほとんど休まずに十数年通われました。本当に頭が下がる思いです。冬になるとあの猪鼻峠が、雪でカチカチに凍り滑りながらも稽古に通って行った時もありました。また、稽古の帰りに雪で猪鼻峠が通れなかったら、大回りで塩江・引田の方まで回って夜遅く帰ってきた時もあり、命拾いした時もありました。久保先生は、いつも午前一時を回って家に帰宅をされていたと思います。本当に、私には真似ができないぐらい大した人だと思っております。

森川先生からは「久保ちゃん」といつも気安く呼ばれていました。それぐらい久保先生は、森川先生からも信頼されていたと思います。清風館道場も森川先生の命名です。森川先生が、亡くなられても毎年一月二日には、玄武道場の初稽古に参加し、必ず森川先生のお墓参りは欠かさずなさっていると聞いております。久保先生の師匠に対する思いは、本当に真似ができないぐらい

いのです。心から久保先生を尊敬いたしております。

今後、清風館道場が三十年・四十年・五十年と歴史を作り益々ご発展をされます事を心からご祈念申し上げますと共に森川先生からご指導されましたことを後輩の指導者・先生方に継承され正しい剣道を伝えていただきますように心からお願いを致します。

久保先生、清風館道場設立二十周年記念、誠におめでとうございました。

# お寺剣道場「寶壽館」開館

日和田 慈 海

平成二十七年七月に私の自坊（お寺）であります醫光寺内に剣道場「寶壽館（ほうじゅかん）」が完成し開館いたしました。

私の剣道人生において剣道場の開設は夢のひとつであり、この度家族をはじめ多くの方々のご支援とご協力をいただき実現できましたことに心より感謝申し上げます。

寶壽館は、お寺の檀信徒会館として檀信徒の皆様や地域の方々に仏事や多目的施設として利用していただく目的があり、剣道場としての利用もお寺での精神修行の一環として考えております。

本来道場とは、お釈迦様が悟りを開いた場所のことであり、仏道を修行する場所のことを指す仏教用語です。精神修行の場という性質から転じて武道などの稽古をする場所も指すようになりましたので、お寺に道場があるというのは本来のカタチといえるでしょう。

そのことから当道場名の「寶壽館」という名前も私が高野山（和歌山県）で仏道修行していた道場「大本山寶壽院」から初心を忘れず精進する心を持ち続けていくという思いを込めて名付けました。

さて、私はこの寶壽館道場に大きく三つの願いを込めて開館いたしました。

一つ目は、剣道を楽しみ長く続けてもらえるための生涯剣道の場としての道場です。私自身が剣道を続けていくために最も重要なことは稽古ができる環境づくりであると

感じています。子どもから社会人に至るまで家庭や仕事、また心身の事情等で指定の場所（稽古会）や日時と合わなかったり、集団での稽古に参加することが困難な方々もおられるのが現状です。そのような方々でも剣道を続けるのを諦めてほしくないという思いから、いつでも誰とでも気軽に稽古ができる環境をつくり一人でも多くの方に剣道を続けてほしいと考えております。

二つ目は、日本の伝統武道を通じて人間力を高めていくための学び（修練）の場としての道場です。当道場は道場建築専門家

である北辰一刀流第七代宗家椎名市衛成胤先生に監修をいただいた剣道専用の古式型床道場です。体に負担が少なく安心して稽古に励んでいただけます。また宗家とのご縁から北辰一刀流四国本部道場に認定され、古流剣術の指南所としても開かれています。北辰一刀流は現代剣道の祖といわれており、古流を学ぶことで剣道の歴史と技術をより深く習得することができ、人間形成にもつながっていくものと確信しています。

三つ目は、剣道を通じてたくさんの方とつながりを築けるご縁の場としての道場です。剣道には「交剣知愛」という言葉があるように、剣道を通じての出会いひとつひとつが人生においては宝物です。お寺という場所自体も人が集まりご縁を結ぶ場所です。私は人はたくさんのお出会いによって成長していくものと考えています。そして当道場が皆様にとっての希望の場所にしていききたいと思っています。

次に道場の利用についてですが、剣道の稽古をされる方には基本的にいつでも無料で開放していますので気軽にご利用ください。



い。(お寺の行事等と重なる時もありますので事前にご確認いただいた方が確実です。) また、少年や一般の方々にお寺での修行体験もできる剣道合宿などご利用いただくこともありますので、ご希望の方はご相談ください。

北辰一刀流の稽古につきましては、入門制としています。月1回の宗家指導稽古会をはじめ定期的に稽古を行っていますので興味のある方はお問合せください。

以前に「剣道日本」でも取り上げていただきましたが、当寺院では剣道具供養を行っています。剣道具には動物(植物)の革を使用しているものが多いため、まず購入されましたら使用する前にいただいた「いのち」を供養し、武運長久を御祈願いたします。私たちが日頃当たり前のように使用している剣道具には大切な「いのち」が存在しているということを再認識していただき、剣道具を大事に稽古してほしいと思います。

以上、寶壽館道場について簡単に紹介いたしました。これからの時代の中で人間



力を向上させていくのに昔から受け継がれてきた剣道の教えは大きな役割を持っています。剣道はすべての人を幸せにする教えです。剣道で楽しい人生を共に送っていきましょう。

なお、寶壽館道場の稽古日と時間ですが、剣道の稽古は日を決めて行っておらず、好きな方が好きな時に利用するというかたちをとっています。

ですから年中(お寺の行事以外)利用でき、時間もいつ使っても構いません

ん。(朝六時〜夜一〇時ぐらいまで) ※事前に空き状況を確認いただくと確実です。最後に剣士の皆様の今後ますますのご活躍とご多幸を心よりお祈りいたしております。

寶壽館道場

住所 吉野川市山川町久宗一五〇

瑠璃山薬師院 醫光寺

電話 〇八八三(四二) 三六〇五

フェイスブック 寶壽館道場



# 各種大会に参加して

## 第三十八回全国スポーツ少年団

### 剣道交流大会に参加して

監督 蘆田 裕彦

平成二十八年三月二十六日～二十八日まで鹿児島県鹿児島市「鹿児島アリーナ」にて全国スポーツ少年団剣道交流大会が開催されました。

まず、本大会に参加した徳島県選手団の紹介をします。

監督 蘆田 裕彦

(那賀川剣道教室わかあゆ会)

団体戦(小学校)

先鋒 倉橋 秀汰(わかあゆ会)

次鋒 松葉 佳香(徳島至誠館)

中堅 尾畑 翔(わかあゆ会)

副将 山田 莉子(徳島至誠館)

大将 田上 力(那賀川少年剣道教室)

個人戦(中学校)

男子 飯田 翔太(那賀川中学校)  
女子 朝田 萌香(那賀川中学校)

大会一日目は、各県の代表選手たちとの交流やレクリエーションなどを行いました。

いよいよ大会二日目、予選リーグがスタートしました。まずは団体戦、初戦の相手は神奈川県。続く二戦目は宮崎県でした。共に二〇で敗れてしまい予選リーグを突破する事が出来ませんでした。チーム一丸となり戦いましたが、緊張のせいか本来の力を発揮することができず悔しい結果となりました。

しかし、次の個人戦では飯田選手、朝田選手が予選リーグを突破し、決勝リーグに進出しました。大会三日目の決勝トーナメントで共に接戦の末敗れてしまいましたが、ベスト十六(敢闘賞)と健闘しました。

試合結果は悔いが残るものになりましたが、大会三日間で監督・選手共に得たものは多く、貴重な経験をさせて頂きました。また、本大会参加にあたり、たくさんの方々からご支援ご協力を頂きましたことを心より感謝しております。ありがとうございます。



した。



## 剣道八段戦、いざ参戦。

警察支部 平野 誠 司



一月二十七日、  
全剣連より一通の  
手紙。全日本選抜  
剣道八段優勝大会  
への推薦状であり

ました。一瞬凍りついた後、思わず歓喜の  
声が入り上げてきました。

ご存知のとおり、本大会の前身は平成十  
四年まで二十六年間行われてきた「明治村  
剣道大会」であります。私自身も実際に拝  
見したことはなく、当県の堀江幸夫先生、  
大澤譲二先生のご活躍されたお話を伺った  
程度でありました。剣道選抜八段戦として  
継承された後も観戦したことはなく、年齢  
的にもまだまだ遠い存在という認識があっ  
たように思います。

出場をお受けした後は、暫く自分なりに  
この大会の存在意義を考えるようになって  
いました。勝利至上の時代、競技性の進ん

だ剣道界において、この大会はどういう場  
であるべきなのか。単なる個人の勝敗だけ  
でいいのだろうかという葛藤も湧き出てき  
ました。

「勝負の行方より伝承の場だろ？」

ここ数年、「剣道伝承の真髄とは」とい  
うことについて考えるようになっていたこ  
ともあり、このまま競技性に傾けば、スポー  
ツ化の歯止めがきかなくなりかねないと。  
剣道の文化的価値「剣の奥義（理法）」は  
消え去るのではないか。時代を遡ればそう  
いう社会的価値観にも戻れるが、将来に向  
けてこの問題をどう考えるかは喫緊ではな  
いだろうか。

「そんなことはお前の考えることではな  
いよ、もっと上の偉い方が考えればいいこ  
とだ」という声も聞こえてきそうですが、  
私はそうではないと思っています。剣道家  
一人一人の剣心に関わらないと剣道の進む  
道は全く違った方向に傾いてしまいます。

もともと剣道の稽古は、「古（いにしえ）  
を稽（かんが）える」ということを軸とし  
て修練し、剣の理法を追体験することであ

りました。競技性に傾く現代は、勝つことばかりがもてはやされるようになっていきます。私たちの年代も先輩方からすればそう見えたであつたように、このままでは将来に向けてますます剣の奥義から遠ざかってしまうのではないかと危機感や焦燥感で一杯になります。

勝負の価値観には様々な意見があります。勝負の中にキラリと光る剣の奥義が表現できれば最高です。大会趣旨にある「剣道の真価を問う」とはどういう勝負なのか、出場者は心して来いと突きつけられているようでした。

明治村大会を剣道雑誌等で振り返っていると、大澤先生が大会に出られていた当時の想いが「徳島の剣道」に投稿されていました。

「推薦していただいた先生の恩義に応えるためにも、一つでも多く勝つことを胸に大会に臨んだ。」

勝つことで応える。当時の先生方には個性豊かな剣風が多く、対戦が決まると自ずと深い興味に取り憑かれてしまうという魅力がありました。その先生方の真剣勝負の

中には当然ながら剣の奥義があつたのです。

……一ヶ月後、対戦表が送られてきました。気になる一回戦の相手は、「東京 石田利也」。知つての通り、石田先生は大学の二つ上の先輩で、現在は警察大学の教授として警察剣道界を牽引されています。世界大会の男子監督という要職も兼ねており、まさに剣道界の第一人者となりつつある先生です。

対戦が決まってからは、普段やり取りするメールも滞っていましたが、大会の二ヶ月前に石田先生からメールをいただきました。「どうか思いのままの剣道で対戦し、私たちが（作道）先生から教えて頂いた剣道を見て頂けたらと思つています。」心が弾きました。ここにお互いが追求してきた剣道が表現できる。今の自分にできることは、今の自分を全て出し切ること。ここに何かがあると……。

大会前夜の手帳には、「日々自らの剣行に没頭し、上向下向を両立する。ここに存在する自己を全うし、創造、継承する気概で澁刺と。気負わず、背伸びせず、今の自分を精一杯。花は自分を花と思わず、精一

杯に咲いているだけ。」とあり、気持ちは整っていました。

第十四回全日本選抜剣道八段優勝大会結果

#### 一回戦

平野誠司（徳島） ツドーム

石田利也（東京）

#### 二回戦

小山正洋（静岡） メメード

平野誠司（徳島）

大会後、審判を務められた先生から自分の心を見透かされたようなご指導をいただきました。「一回戦は見事に戦気と先の方が張り詰めていてとてもいい試合だった。でも、二回戦になると先の方が弱くなり受けが多くなつていった。勝負の分かれ目は一瞬、技には先後があるけど、戦気には先しかない。最後は遅れたな。」

今後、修練の課題として大切にしたいと思ひます。また、徳島からたくさんの方が応援に来てくださいました。この場をお借りいたしました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 第三回四国高齢者剣道 交流大会 三連覇成らず

徳島県高齢剣友会

理事長 美馬 勝行

四月二十三日(土)第三回大会が四国中央市川の江体育館において、全日本高齢剣友会から高崎慶男名誉会長、岩立三郎会長、岩尾征夫副会長兼理事長、支倉真人専務理事の御参列のもと、我が徳島県が二十一名、地元愛媛県が三十一名、香川県が十五名、高知県が十三名の総勢八十名の高齢剣士が、武を以て、友と集う「友剣知愛」の輪のもとに剣技を繰り広げた。

大会は、日本剣道形演武のあと、各県代表選手十名編成の、五チーム(開催県は二チーム出場)による団体戦がリーグ戦方式で実施された。

徳島県チームは

先鋒 乾 清孝、木下裕康

次鋒 六条一博、藤川和秋、藤本辰夫、

松村和宏

八将 栗野佳明、藤本義文、藤川和秋、  
藤本辰夫

七将 東 徳美、合田秀實

六将 日野利之、兵頭新平

五将 日野浦正一、谷 博

四将 笠井 勝、美馬勝行

三将 澤井勝之、高島稔之、三木 毅

副将 川田武志、澤井勝之

大将 東内 勉

の二十一名が参加、三連覇を目指して各員一層奮励努力の意気込みで試合に臨んだが、初戦で、優勝した地元の愛媛Aに四一二で破れ、惜しくも準優勝という結果であった。

## 《試合結果》

優勝 愛媛六十路会Aチーム(勝点四)

準優勝 徳島県高齢剣友会(勝点三)

第三位 土佐生涯剣友会(勝点一)

第四位 香川県高齢者剣道有志の会

(勝点〇)

第五位 愛媛六十路会Bチーム(勝点〇)

## 《戦評》

第一試合 愛媛六十路A戦

愛媛四(七本)ー徳島二(五本)

初戦ながらメンバー的に実質の優勝戦。三連覇の決意も新たに戦いに臨みました。

高齢剣では新人の先鋒木下選手、軽快な動きと安定した試合運びで、小手を先取し、これをしっかり守り切って、幸先の良い出足を切った。

しかし、次鋒から五将までに三ー一とリードを許し、四将美馬選手が三ー二まで持ち込んだが、三将高島選手が、愛媛県警で選手として活躍した経験を持つ山内選手に、見事な面を先取したが、守りきれず惜敗、この勝負二ー五で初戦を落とした。

先手を取りながら、逃げ切れなかった高島選手、無念さを滲ませ、反省の念しきりであった。

第二試合 土佐生涯剣友会戦

土佐一(一本)ー徳島六(八本)

先鋒乾選手から七将東選手までに四ー〇と順調に戦いを進め、この一戦は六一と快勝した。

第三試合 愛媛六十路B戦

愛媛B三(四本)ー徳島三(六本)

先鋒から四将まで、東選手と笠井選手が勝ち名乗りを上げるも、二ー三とリードを許し、その後、三将、副将と引分け、実質大将戦となった。

こうなると頼りになるのが東内選手、その剣風は到底八十歳とは思えない軽快な剣捌き、三好選手を寄せ付けず小手、面と連取して、我がチームを本数勝ちに導いた。

頭の下がる大将戦であった。

第四試合 香川県高齢者剣道有志の会戦

香川二(五)ー徳島五(一〇)

大会最後の香川戦、先鋒木下選手の二本勝ちに続き、次鋒藤川、六将兵頭選手も勝ちを収めた。

その後も順調に、副将川田、大将東内選手も勝ち名乗りを上げて快勝して最終戦を飾った。

最後に、月二回の稽古日にご指導をいただいた先生方、また在県応援していただいた会員の先生方に感謝とお礼を申し上げます。

来年は優勝を!!

以上をもって、第三回四国高齢者剣道交流大会の報告といたします。

第 1 試合

	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数	勝敗
徳島	木下	藤本辰	藤川	合田	兵頭	谷	美馬	高島	澤井	東内	2	5	×
	コ		メ				コメ	メ					
愛媛A		コ	コ		メ	メメ		メメ			4	7	○
	高市	向井	田辺	佐伯	徳安	黒田	織田	山内	川村	竹内			

## 第 2 試合

	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数	勝敗
徳島	乾	松村	藤本辰	東	日野	谷	美馬	高島	澤井	東内	6	8	○
	ドメ	メ	メ	コ			メコ			メ			
土佐					コ						1	1	×
	山中	梅原	土居	小松	山本	長崎	中野	橋本	岡本	常光			

## 第 3 試合

	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数	勝敗
徳島	乾	六條	藤本文	東	日野	日野浦	笠井	澤井	川田	東内	3	6	○
				コメ			ココ			コメ			
愛媛 B		コ			メ	メメ					3	4	×
	渡部	高須賀	村上	鎌倉	鎌田	浜田	高岡	古谷	向井	三好			

## 第 4 試合

	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	勝本数	勝敗
徳島	木下	藤川	栗野	合田	兵頭	日野浦	美馬	三木	川田	東内	5	10	○
	メメ	コメ	メ	メ	メメ				コ	コ			
香川		メ	ココ	メ		コ					2	5	×
	六車	前田	小西	伊賀	山田	上山	浅野	小川	福浦	小田			



## リーグ戦結果

チーム名	徳島	香川	土佐	愛媛A	愛媛B	勝点	勝者数	得本数	順位
徳島		5(10)	6(8)	2(5)	3(6)	3	16	29	2
香川	2(5)		3(5)	2(6)	3(5)	0	10	21	4
土佐	1(1)	3(6)		3(4)	1(3)	1	8	15	3
愛媛A	4(7)	5(11)	4(6)		5(7)	4	18	31	1
愛媛B	3(4)	3(5)	1(3)	1(1)		0	8	13	5

第六十四回全日本都道府県  
対抗剣道優勝大会に出場して

副将 鳴川 善人



平成二十七年十月二十日、都道府県対抗剣道優勝大会徳島予選、副将の部に出場しました。

出場のきっかけとなったのは、息子が同年十一月に行われた徳島県高等学校剣道選手権大会に優勝し、都道府県大会に先鋒として出場することが決まったことでした。全国大会予選会出場に消極的であった私でありましたが、「親子で出場できたらいいな。」と安易で自分勝手な動機ではありませんでしたが予選会に出場しました。結果、運良く優勝することができ、都道府県大会出場が決まりました。

出場が決まり本戦までの四ヶ月間、徳島県剣道連盟の稽古会を中心に、奈良県との練習試合、京都遠征等、代表選手全体での

強化練習、また各自が時間をみつけ、個人練習に励みました。

そして迎えた平成二十八年四月二十九日、大阪エディオンアリーナでの、第六十四回全日本都道府県対抗剣道優勝大会本番となりました。徳島県は一回戦不戦勝、二回戦で山梨県を下し、勝ち上がった岩手県との対戦でした。岩手県は同年の国体開催県であり、勢いのあるチームでした。先鋒・鳴川選手、相手の勢いに圧され二本負け。次鋒・西田選手、上段を見事にさばき二本勝ち。五将・片山選手、惜しい場面もあるが引き分け。中堅・大石選手、胴を先取するが二本取り返され惜しくも負け。三将・山本選手、果敢に攻めるも引き分け。副将・鳴川、いいとこなく二本負け。大将・高木選手、すでに勝負は決定しており、慌てることなく試合を展開するが二本負けとなり、岩手県に二対四での敗戦となってしまいました。

私が負けるとチームの敗戦が決まる大事な場面で面を二本取られてしまい、チームの敗戦を決めてしまう不甲斐ない結果となっ

てしまいました。

本大会は、親子で出場できた喜びと、自分の剣道の修練に対する取り組みの甘さを反省させられる大会となりました。

今後は強化練習で先生方から御指導頂いた剣道修練の心構え、稽古法等を念頭に置き、日々の稽古に精進し、自己の研鑽に努めていきたいと思えます。

最後に本大会の出場にあたり、御指導いただいた監督の平野先生をはじめ徳島県剣道連盟の先生方にお礼とお詫びを申し上げ乱文ではありますが大会参戦記とさせていただきます。

第六十四回全日本都道府県対抗剣道優勝大会

徳島県チーム

監督 平野誠司 教士八段

選手 先鋒 鳴川了介 三段

次鋒 西田凌介 四段

五将 片山将志 四段

中堅 大石真也 六段

三将 山本義征 五段

副将 鳴川善人 教士七段

大将 高木壽史 教士七段



# 第64回全日本都道府県対抗 剣道優勝大会

日時…平成二十八年四月二十九日(祝)  
開会…午前九時三〇分  
会場…エディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)

主催…全日本剣道連盟・毎日新聞社  
主管…公益社団法人大阪府剣道連盟  
後援…大阪府・大阪市

# 矯正武道について

刑務所支部長 森 直 行



この度、『徳島の剣道』に寄稿させて頂いていただきありがとうございます、あまり知られていない刑務所

関係の矯正武道について、その説明と本年度の試合結果について報告させていただきます。

刑務所は、法務省内の矯正局が所轄しており、刑務所を矯正施設、職員を矯正職員と称されています。毎年、四国管内で行われる柔剣道の大会として、全国大会出場の予選を兼ねた団体戦である「管内矯正職員武道施設対抗試合」及び個人戦である「管内矯正職員武道選手権大会」並びにこれらの大会に出場していない無段者や新拜命職員が出場する「管内矯正職員武道奨励大会」が実施されます。

平成二十五年には、管内の団体戦におい

て

先鋒 近藤 徹

次鋒 玉井 翔

中堅 片山 将志

副将 金野 卓司

大将 前田 秀一

の最強メンバーで出場した際、見事に優勝し、四国一位となって、東京拘置所で行われた全国矯正職員武道大会に出場したものの、翌年以降は優勝を逃しており、本年度は、

先鋒 猪野 翔太

次鋒 玉井 翔

中堅 近藤 徹

副将 片山 将志

大将 善家 純一

が出場し、第一試合は高知刑務所に二対〇で負け、第二試合は松山刑務と一対一の引き分け、第三試合は高松刑務所に二対〇で負けて、管内最下位となりました。次に行われた管内矯正職員武道選手権大会においても、住友、善家、近藤、片山、猪野の五名が出場したものの、上位三位以内には入

賞できず、大阪刑務所での全国大会出場を勝ち取ることはできませんでした。

奨励大会については、管内一位となり、どうにか当初の面目を保つことができましたが、新人が頑張ってくれているのに一軍が結果を出せなかったことが悔やまれます。平成二十九年年度の団体戦は、徳島刑務所が主管となって開催することから、より一層気を引き締め、全国大会出場を目指してまいりますので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

もう一つ、毎年、府中刑務所において、全国の矯正職員のうち四十五歳以上で七段の者から選抜により、「全国矯正職員武道東西対抗試合」が行われており、平成二十五年度に私が、平成二十七年度に片山尊史が西軍の選手として、それぞれ出場し、私が得意技の小手、片山が見事な抜き胴を決めて勝利し、西軍の優勝に貢献することができました。

なお、最後になります。矯正武道大会を開催するに当たり、徳島県剣道連盟三木毅会長を始め、部外審判員として審判の労

## 平成28年度 対抗試合結果

### 〈第2試合〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
徳島刑	猪野	玉井	近藤	片山	善家
	X				▲ ⊗
高知刑	⊗	X		⊗	メ
	桐野	姉帯	伊藤	継枝	牛崎

を取ってくださっている先生方には、この誌面をお借りしまして厚くお礼を申し上げますとともに、矯正武道発展のため、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

### 〈第6試合〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
高松刑	五島	岡西	岩雲	小野	松永
	X				⊗
徳島刑	X				
	猪野	玉井	近藤	片山	善家

### 〈第3試合〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
松山刑	山本	松本	寺尾	片上	白石
	▲	⊗	X		
徳島刑	X				⊗ ▲
	猪野	玉井	近藤	片山	善家

	松山刑	高松刑	徳島刑	高知刑	勝ち数	分け数	勝者数	取得本数	順位
松山刑	/	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$	1	1	2	3	2
高松刑	$\frac{0}{0}$	/	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{1}$	1	0	3	4	3
徳島刑	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$	/	$\frac{1}{0}$	0	1	1	2	4
高知刑	$\frac{6}{3}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$	/	3	0	8	13	1

## 奨励大会剣道団体リーグ戦成績表

### 〈第1試合場〉

施設名	松山刑	松山学	徳島刑	勝 数	勝 点	勝者数	総本数	順 位
松山刑		$\frac{7}{4}$	$\frac{0}{0}$	1	1	4	7	2
松山学	$\frac{2}{1}$		$\frac{1}{0}$	0	0	1	3	3
徳島刑	$\frac{3}{2}$	$\frac{7}{3}$		2	2	5	10	1

### 〈第2試合場〉

施設名	高松刑	高知学	四国少	勝 数	勝 点	勝者数	総本数	順 位
高松刑		$\frac{5}{2}$	$\frac{9}{5}$	2	2	7	14	1
高知学	$\frac{3}{1}$		$\frac{4}{2}$	1	1	3	7	2
四国少	$\frac{1}{0}$	$\frac{2}{1}$		0	0	1	3	3

## 決 勝 戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
徳島刑務所	高 田	高 島	廣 田	杉 山	上 田
	Ⓣ 反	ⓧ		Ⓣ	ⓧ ▲メ
高松刑務所	▲▲		ⓧコ	ド	コ ▲
	四 宮	竹 中	中 塚	山 本	福 岡



## 第八回全日本都道府県 女子剣道大会に参加して

大将 北村 環

平成二十八年は、七月十六日に日本武道館において、本大会が開催されました。本県チームは平成二十五年に三位入賞、昨年はベスト八という成績を残しており、本年も続けと監督の竹内佳代子先生や強化委員長の平野誠司先生、コーチの平野悦子先生という充実した指導陣に支えられ、当日を迎えました。大会出場にあたり、たくさんの方々が稽古は勿論のこと、様々な形で応援してください、心から感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

以下、参加選手のそれぞれの感想です。  
**先鋒 長谷川瑞美選手（富岡西高校）**

私は先鋒として、チームに良い流れを作れるよう、先生に言われていたことを心掛けて試合に臨んだ。開始十秒で対戦相手の松本さんに引き面を取られてしまったが、

でも何とか取り返そうと思い、前に出た。その結果、自分の得意技である面を二本取り、勝つことができた。代表の皆さんと同じチームで戦うことができて嬉しかった。

**次鋒 玉田理沙子選手（日本体育大学）**

対戦した選手は大阪体育大学の大将をしている体の大きな選手でした。都道府県前に行われた全日本女子学生選手権大会では、満足のいく試合ができず負けてしまったこともあり、勝てる自信もありませんでした。これまで稽古してきたことに自信を持って後悔のない試合をしようと挑みました。結果は引き分けでしたが、持てる力を全て出すことのできた試合でした。緒戦敗退となりましたが、とても良い経験になりました。

**中堅 平野千尋選手（警察支部）**

私の相手は大阪府警の豊丸選手でした。中堅は三十五歳未満の成人で、特に勝負の厳しいポジションですので、どのような流れになっても後ろに繋げることが大きなポイントになります。豊丸選手とはこれまで何度か試合をしたことがあったので、この試合はお互いに警戒して慎重な展開とな

りました。結果として、両者ともに有効打突に届かず引き分けとなりましたが、今後の課題としては「ここぞ」という試合で一本を決めることを目標に頑張りたいと思います。

副将 近藤夏子選手 (名西支部)

先鋒が勝ち、次鋒・中堅がトップクラスの選手を抑えて、有利な形で副将まで回してくれました。この波を大将にまわす！気持ちは集中できていました。

一本目、立会いから飛び込み面が決まりました。相手は馬場さんです。受けに回ればすぐに取り返されるということは分かっています。攻める気持ちを変えずに前に出ました。相手が引き技で下がったところを追い込んで、小手に潜るところを自分の面が決まったと思いましたが、そうではなかったことで気持ちが焦ってしまいました。結果二本を取り返され、有利な形で大将に回すことができませんでした。このチームでもっともっと戦いたかったというのが本音です。悔しかったですが、今の自分の実力を知る機会を与えていただき、とても良

い経験になりました。この経験を活かして、今後に取り組んで行きたいと思います。

大将 北村 環 (阿波支部)

今回のメンバーも試合経験が豊富で実績もあり、本当に頼もしいチームでした。対戦相手は優勝チームの大阪でしたが、自分たちの力をしっかりと出し切り、見事な戦いで繋いでくれたと思います。この都道府県大会は大将戦になることが多く、また代表戦も大将が務めることになっています。それだけ大将の責

任は大きいと改めて感じました。

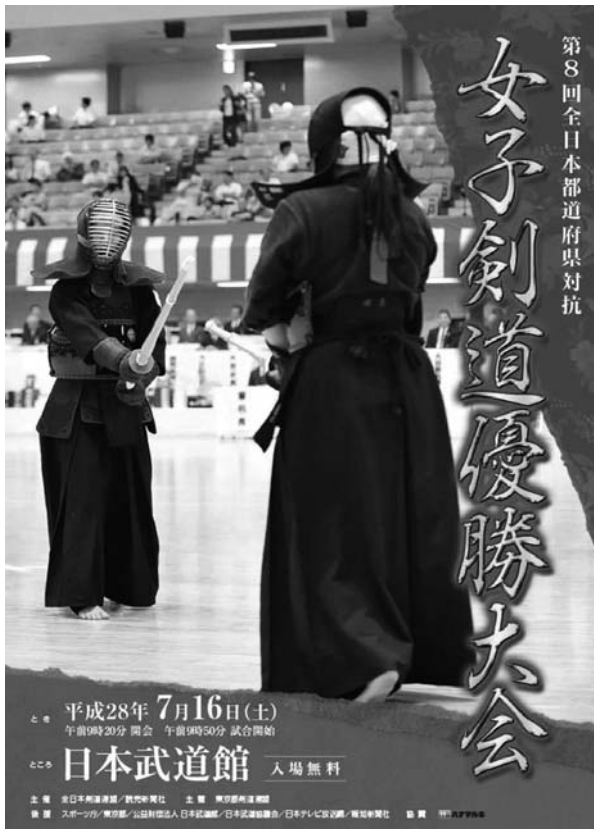
今回の大阪戦も

大将戦でした。相手は石田選手でした。東京国体での対戦でも同じく大将戦で負けており、今回は勝つぞ！という強い気持ちで臨みましたが、小手と引き面の二本

を奪われ、緒戦敗退となりました。せっかく繋げてくれたのにという悔しい気持ちと、大将戦で勝ちを収められない自分の情けなさが強く残りました。

毎回遠征や稽古をはじめとし、支えてくださる方々や、家族の協力があり、大会に出る機会を与えてもらっていることを忘れず、今後に向けて自分ができることを一生懸命取り組んでチームに、徳島にお返しができるよう努力したいと思います。

第8回全日本都道府県対抗  
女子剣道優勝大会



平成28年 7月16日(土)  
午前9時30分 開会 午前10時30分 試合開始  
日本武道館 入場無料

主催 全日本剣道連盟、剣道研究社 主審 東京都剣道連盟  
後援 スパコン/東京臨大/公益財団法人日本武徳会/日本武徳連盟/日本剣道連盟/徳島県剣道連盟

# 全国選抜大会に出場して

城北高校剣道部主将

美馬州一

私たちは、平成二十八年三月二十七日、二十八日の二日間、愛知県春日井市で開催された第二十五回全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。

入学当初からの目標であった全国大会出場への道のりは、決して楽なものではありませんでした。練習はほとんど休みがなく、多くの県外遠征にも参加しました。苦しい時もありましたが、仲間を支えられ、乗り越えることができました。選抜予選まで稽古を積み自信を持って予選に挑むことができました。今までやってきたことを出し切ることができ、県予選決勝戦では接戦の末、優勝を勝ち取ることができました。チーム全員で喜びを分かち合えた歓喜の瞬間でした。そして、喜びは束の間、選抜大会へ向けての練習が始まりました。次は“全国で勝つ”を目標にし、さらに気の引き締まっ

た稽古を積み、努力を重ねました。大会が近づくにつれ、緊張感も増し気合いが入りました。

前日に会場入りをしました。会場を見た瞬間、「やっとこの舞台へ立つことが出来た」という実感が湧いてきました。そして、試合当日を迎えました。試合は、三校の予選リーグが行われ、私たちは、三重県代表の三重高校、和歌山県代表の近大和歌山高校と対戦しました。三校とも力が似ており、決勝トーナメントへの進出も狙えるグループでした。まずは、三重高校と対戦しましたが、全員が引き分けという結果になりました。続く近大和歌山高校との試合は、〇―三で敗れました。会場の雰囲気にも圧倒され、自分たちの力を発揮することができませんでした。全国の大舞台で自分の持っている力を全力で出し切ることの難しさを感じました。また、全国トップクラスの迫力ある試合も間近で見ることができ、この大舞台に立つことができただけでも、私たちにとって貴重な経験となりました。

このような経験を通して改めて感じたの

が「感謝の心」です。顧問の先生方や保護者の方々、仲間の支えがあってからこそ成し遂げることができたと思います。特に仲間が存在が大きかったと思います。一つの目標に向かって全員が真剣に取り組み、お互いに声をかけ励まし合いながら、お互いがライバルとして、自分自身を高めることができました。そして、先生方も熱心にご指導してくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、大学でも剣道を続け、さらに精進していきたいと考えています。次の目標は“日本一”です。全国の舞台で負けた悔しさを胸に焼きつけ、日々稽古に励みたいと思います。そして、たくさんの方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございます。





第60回 徳島県高校新人大会  
兼 全国高校選抜大会県予選  
男子団体 優勝 平成28年1月17日 於・県立鳴門ソイジョイ武道館



## 仲間

### ―全国選抜大会―

富岡東高校 福崎 ひかり



私は、小学一年生の頃から剣道を始めました。小・中学校の九年間、先生方の熱心なご

指導のもと練習に励み、「もっと強くなりたい」という思いで富岡東高校への入学決意しました。富岡東高校は伝統のある高校のため、不安でいっぱいでしたが、先輩方が時には厳しく、時には優しく教えてくださいました。中学校の時には、先輩がおらず、後輩が入ってきてやっと団体戦に出場できる人数になりました。また、県大会に出場しても、二回戦まで進めるか進めないかという状態だったので、高校に入学した時は、一緒に思い切って練習ができる先輩、同級生がいて、とても嬉しかったのを覚えています。

私が一年生の時の全国選抜大会。私は、補欠で先輩、同級生の果敢に戦う姿を近くで見て「私も大舞台で戦いたい」と思いました。それから日々の稽古により一層励み、一つ一つの練習試合を大切にしてきました。そして今年の県選抜予選大会。「レッツエッジョイ剣道」をモットーにチーム一丸となり、全国への切符を手にすることができました。私には初めての全国大会出場でも嬉しかったです。

そして迎えた全国高等学校剣道選抜大会。平成二十七年三月二十七日、二十八日の二日間、愛知県で行われました。夢にまで見た全国大会は独特の雰囲気で緊張しましたが、みんなで気持ちを一つに試合に臨みました。予選リーグ一回戦は、富山県代表の富山北部高校でした。先鋒一本負けで流れをつくれませんでした。続く次鋒が一本勝ち、中堅引き分け、副将一本勝ち、大将引き分けの二―一で勝つことができました。チームに迷惑をかけてしまい、次こそはと気持ちを切り替え、二回戦は沖縄県代表の小禄高校。ここで勝たなければいけない

という強い気持ちと、相手が上段ということとで苦手意識があり、焦りと不安で気持ちが弱くなっていました。しかし、チームに迷惑はかけたくないと強く粘りましたが一本負け。続く次鋒は引き分け。中堅も一本負けで前が負けても、副将一本勝ち、大将引き分けと最後まで果敢に戦ってくれました。一―二で予選リーグに勝ち残る事ができず、結果は予選敗退となりました。全国大会では自分の無力さを痛感しましたが、一本の大切さなど、自分の課題がたくさん見つかり、次に繋がることのできたと思っています。

高校三年間の剣道生活は、あっという間で、日々のきつい練習も共に乗り越えた仲間がいました。楽しさの中にも厳しさがあり、出来ていないことに注意し、励まし合えた仲間がいたからこそ、ここまでくる事ができました。入学時の私とは違い技術面でも精神面でも強くなれたように思います。ご指導してくださった長井先生、吉田先生、ありがとうございます。また、小さい時から教え、支えてくださっ



た指導者の先生や先輩方に全国出場と感謝と共に報告する事が出来ました。そして、見守り続けてくれた両親、仲間にも感謝しています。この三年間を糧に次に繋がってきたいと思えます。本当にありがとうございました。



## インターハイに出場して

阿南工業高校剣道部

主将 湯 浅 晃 平



私たちが阿南工業高校剣道部は今年、県高校総体団体の部で宿敵城北高校を代表戦の末に下し、昨年に続き二年連続でインターハイに出場することができました。この結果に至るまでの道のりは厳しいものでした。

私は小さい頃に剣道を始め、小学校・中学校と続けるうちに、高校でも剣道をしようと思ひ、阿南工業高校に入学しました。ただ、剣道をするのでなく、やるからには全国をめざし、日々の稽古に励みました。また、先生方の熱心なご指導に応えたいと思ひ稽古に取り組みました。

昨年の夏、先輩から阿南工業高校剣道部を引き継ぎ、木頭合宿、校内合宿、遠征、稽古、学校生活、家庭生活を含め、誰より

も汗をかき、誰よりも努力してきました。

三年生になり、最後の県総体が近づくにつれ、練習にも熱が入りチームの意識も高まっていきました。新チームになってからは、県内の大会では一度しか優勝したことがありませんでした。しかし、最後の総体は必ず優勝するという強い気持ちで臨みました。試合当日は緊張で体の動きも悪く、不安もありましたが、先生の言葉で緊張もほぐれ、いつも以上の力が発揮できたと思います。そして、この優勝は阿南工業高校剣道部が一丸となれたからこそ勝ち取れたものだと思います。

インターハイは岡山県で行われました。チームの目標は「ベスト八以上」でした。しかし、全国大会の独特の雰囲気と緊張に吞まれて、本来の力を十分に発揮することができませんでした。予選リーグの相手は東京都の国士館高校と山形代表の酒田光陵高校でした。結果は国士館高校に負け、酒田光陵高校には勝利しました。残念ながら勝ち点〇・五の差で国士館に負け予選リーグを突破することができませんでした。し

かし最高の舞台で阿南工業高校として最後の試合を勝利で終われたことを大変嬉しく誇りに思っています。

私たちがインターハイという最高の舞台で戦うことができたのも、日々の稽古で厳しく熱心にご指導くださった佐々木先生・岩原先生・谷先生、火曜日の一般稽古で指導してくださった先生方、先輩方をはじめ、私たちをすべての面で支えてくださった保護者の方々、共に頑張ってきた部員のお陰だと思ひます。

「生活即剣道、剣道即生活」。日常生活の取り組みが、必ず剣道に活かされると信じ自分なりに充実した高校生活を過ごし、人間的にも成長できたと思ひます。これからは剣道で学んだことを生活に活かしながら社会人として頑張っていきたいと思ひます。

お世話になった多くの方々、本当にありがとうございました。

男子団体予選リーグ

I リーグ	酒田光陵	国士館	阿南工業	合計点	勝者数	本数	順位
酒田光陵 (山形県)		$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{2}$	0.5	3	3	3
国士館 (東京都)	$\frac{1}{1}$		$\frac{5}{3}$	1.5	4	6	1
阿南工業 (徳島県)	$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{1}$		1	3	5	2

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数 勝者数	勝敗
国士館 (東京都)	曾我部	金沢	伊藤	八木	落合	$\frac{5}{3}$	○
			⊗	⊖ メ	⊗ メ		
阿南工業 (徳島県)		⊗		メ		$\frac{2}{1}$	△
	松本	中村	竹森	富田	湯浅		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	取得本数 勝者数	勝敗
酒田光陵 (山形県)	小松	長谷川	白崎	桜井	今井	$\frac{2}{2}$	△
				⊗	⊗		
阿南工業 (徳島県)	メ ⊖		⊗			$\frac{3}{2}$	○
	松本	中村	竹森	富田	湯浅		

## 三年間

### インターハイ

富岡東高校 丸岡 由理奈



剣道部とともに  
過ごした私の高校  
生活は、たくさん  
のことを経験でき  
た価値のあるもの  
でした。

顧問の長井先生のご指導のもと「Let's  
enjoy 剣道」をモットーに大きな壁も厳  
しい練習も笑顔で乗り越えてきました。ま  
た、数多くの遠征を経験することができ、  
そこで多くの先生方・仲間に出会い、つな  
がりを得ることができました。県外の仲間  
と「全国大会で会おう」という約束をし、  
それを果たすためにお互い切磋琢磨してき  
ました。また、先生方にはアドバイスをい  
ただき、自分の剣道の考え方を幅広くする  
ことができました。こういった経験をさせ  
てくださった長井先生にはとても感謝して

います。チーム全員で日々の稽古・遠征を  
必死に取り組んだ結果、県総体当日は緊張  
もありましたが、いつも通り笑顔で試合を  
楽しむことができ、全国への切符を手にし  
ました。春の選抜大会では全国大会の厳し  
さを痛感し悔しい思いをしたので、高校最  
後の大会インターハイには特別な思いを胸  
に挑みました。

平成二十八年八月二日から四日間、岡山  
県でインターハイが行われました。やはり  
高校最後の大会は独特の雰囲気があり、と  
ても緊張しました。試合前いつも通り笑顔  
で円陣をし「自分たちのやるべきことをや  
ろう。」と声をかけて試合に臨みました。  
予選リーグ初戦は埼玉県代表埼玉栄。先鋒  
引き分け、次鋒・中堅一本負け、副将引き  
分けで大将にまわってきました。ここでチー  
ムの負けは決まっていたましたが、リーグ戦  
は勝者数・勝ち本数が鍵になってくるので  
私は必死に竹刀を振り、意地で一本勝ちに  
なりました。二戦目は鹿児島県代表錦江湾。  
先鋒一本負け、次鋒一本勝ち、中堅引き分  
け、副将一本負けで大将にまわってきまし

た。初戦と同じように必死に一本を取りに  
いきましたが引き分けに終わり、負けてし  
まいました。悪い流れを引きずってしまい  
予選リーグ敗退となり、私たち三年生は富  
岡東として出場する最後の大会が終わりま  
した。私自身、納得のいく結果とはほど遠  
いものになりました。

私は大学でも剣道を続けます。高校での  
悔しさ、また支えてくださった方々への感  
謝の気持ちを忘れず、一生懸命取り組み、  
結果を残すことが恩返しにつながると思い  
ます。また、この三年間で学んだ、人との  
つながりを一生大事にしていきたいと思ひ  
ます。

長井先生、たくさん経験をありがとう  
ございました。剣道だけでなく人として大  
事なことを学ぶことができました。保護者  
の皆さん、いつも陰で支えてくれてありが  
とうございました。観客席から見える応援  
してくれている姿は何よりも安心できまし  
た。最後にチームのみんな、こんな頼りな  
いキャプテンについてきてくれてありがと  
う。みんなだったからこそ笑顔で苦しいこ



とも乗り越えられました。みんなで良かったです。  
本当にありがとうございました。

## 全国中学校剣道大会に出場して

〜日本一から学んだこと〜

徳島中学校 片岡 俊人



私たちは、平成二十八年八月十九日〜二十一日「君の夢 努力の蕾

！」のスローガンのもと行われた、第四十六回全国中学校剣道大会に出場することができました。

今年の私たちの目標は、昨年先輩方と共に成し得ることができなかった四国総体優勝と全中ベスト八入賞でした。この目標を達成するために毎日の稽古に全力で取り組みました。チーム全体で互いにライバル意識を持って緊張感のある中で稽古を続けました。また、遠征で強豪校と剣を交え、自分の弱点に気づき、修正してきました。こうして、私たちは夏の県総体を制し、全中への切符を手にすることができました。

出場が決まってからは、目標に向かってさらに気合いを入れて稽古に励みました。基本練習を入念に行い、実践練習の中では、豊田先生や兼松先生に教わったことを試しました。素早い試合展開に対応できるようになり、打突の機会が増えてきました。そして、四国総体優勝という一つの目標を達成し、全国の舞台で最終目標に挑戦することとなりました。

八月に入り、全中での対戦相手が決まりました。予選リーグの相手は、山口県代表野田学園中学校、そして、優勝候補の一角、福岡県代表玄洋中学校でした。簡単に勝てる相手ではありません。相手を知るために、全国道場少年剣道大会の決勝戦で玄洋中学校が戦っているビデオなどを何度も見て研究しました。玄洋中学校の特徴は、柔軟な動きの中で相手に打突機会を与えず、チャンスがあると爆発力のある打突で一本をとることです。そこで私たちは、少ない打突機会の中で確実に一本にするための基本練習、堅い守りを崩すための足さばきや試合展開を意識して稽古に取り組みました。で

きることはすべて行い、万全の状態で全中に臨みました。予選リーグ初戦、野田中学校との対戦は、一対〇で勝利することができました。全員落ち着いた試合運びで、気合いも入っていました。初戦を勝利し、予選突破まであと一勝という昨年と同じ展開となりました。ここで敗れた悔しさや反省を思い出し、今までやってきた稽古、対策、気持ちの持ち方を確認し玄洋中学校との大一番に臨みました。実際に対戦して、スピードや技は、研究したとおりであり対応できましたが、予想以上の打突の強さや体当たりの強さを感じました。チーム全体として、惜しい打突は、徳島中学校のほうが多かったですが、少ないチャンスを確実に一本にされ、二対〇で敗れてしまいました。

昨年と同じく、全国の舞台の厳しさを痛感することになりました。しかし、この後日本一に輝いた玄洋中学校と対戦したことで大切なことを学びました。チャンスを確実にものにするために、崩れない体と正しい打突ができるような基本稽古を今まで以上にしっかりと行わなければならないとい

うことです。そして、打つ機会や自分が有利になる試合運びも毎日の稽古で意識して学んでいかななくてはならないと感じました。この貴重な経験をこれからの剣道に生かし、さらに精進を重ねていきます。

Kリーグ	野田学園中 (山口)	徳島中 (徳島)	玄洋中 (福岡)	合計点	勝者数	本数	順位
野田学園中 (山口)		$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	0	0	3
徳島中 (徳島)	$\bigcirc \frac{2}{1}$		$\triangle \frac{1}{0}$	1	1	3	2
玄洋中 (福岡)	$\bigcirc \frac{2}{2}$	$\bigcirc \frac{3}{2}$		2	4	5	1



最後に、これまで私たちを支え、指導してくださったすべての方々へ心から感謝したいと思います。ありがとうございました。



# 全国中学校剣道大会に参加して

那賀川中学校三年

檜 田 胡 桃



私たちにとって最後の全国大会は平成二十八年八月十九日から二十一日、長野県で開催されました。三度目の優勝を目指してチーム一丸となって厳しい稽古を積み重ねてきました。

予選リーグでは、青森県代表の堀口中と山口県代表の萩東中と試合をしました。全中特有の緊張感の中で試合が始まりました。私たちは開会式直後の第一試合でしたので、余計に緊張しました。遠方にかかわらず試合に出ない同級生が長野県まで応援に来てくれていました。ミーティングを行い、みんなの気持ちを一つにして試合をしました。結果、二勝し、リーグを上がり、昨年に続きベスト一六に入ることができました。

そして決勝トーナメントでは、石川県代表の宇ノ気中学校と対戦しました。結果は一本差で負けてしまいました。キャプテン・大将として「自分の責任」を感じていました。

最後の試合が終わった時、悔しくてたまりませんでした。私たち三年生の思いは後輩の皆さんに託したいと思います。

最後になりましたが、稽古をつけてくださった先生方や先輩方、ついてきてくれた後輩のみんな、三年間一緒に頑張ってきた同級生、そして、何よりずっと支えてくださった保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

また、いつもお世話になった剣道連盟や関係の皆様、本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。これから、この経験を生かして日々成長していきたいと考えています。ありがとうございました。

## 予選リーグ

堀口（青森）〇一五那賀川（徳島）  
萩東（山口）〇一二那賀川（徳島）

## 決勝トーナメント

那賀川（徳島）二一二宇ノ気（石川）

本数負け



# 第五十八回全国教職員 剣道大会に出場して

阿波中学校教諭 前 田 奈々枝

「四年後は、沖繩での大会ですよ。」

「沖繩大会まで、がんばらないかなあ。」

ある先生とのこの会話は、今でも覚えて  
います。

二〇一六年八月九日、沖繩県立武道館ア  
リーナで全国教職員剣道大会が開催されま  
した。

今年の予選会は、たくさんの先生方が出  
場され、沖繩への思いを気合いに込めて激  
しい試合が展開されました。予選を勝ち抜  
き、沖繩への切符を手にしたのは次の先生  
方です。

監督 福多雅英

〈団体〉

先鋒 白木恒二郎（城北高校）

次鋒 大石真也（国府支援学校）

中堅 大石洋史（文理中学校）

副将 玉田晋作（文理高校）

大将 福多雅英（城北高校）

〈個人〉

幼・義務教育の部

大石洋史

高・大・教委の部

白木恒二郎

女子の部

前田奈々枝（阿波中学校）

## 個人戦の成績

女子の部

前田奈々枝

一回戦

延長

二回戦

三回戦

延長

ベスト一六

幼・義務教育の部

一回戦

二回戦

三回戦

延長

大石洋史

山下恭平（京都）

鶴田信元（鹿児島）

木内悠介（埼玉）

## 団体の部

一回戦

白木

大石真

大石洋

玉田

栃木県

北條

鈴木

佐藤

宮脇

準々決勝

準決勝

決勝

優勝

千葉大輝（北海道）

對馬悠大（滋賀）

渡邊達郎（岩手）

高・大・教委の部

一回戦

二回戦

三回戦

延長

準々決勝延長

ベスト八

白木恒二郎

米村浩司（千葉）

寺島光紀（富山）

金内琢馬（山形）

菅野 隆介（岩手）

福多	4	3	1	塩澤
二回戦				
白木				宮崎県
大石真				星山
大石洋	⊗			川端
玉田		⊗		永野
福多	⊗		⊗	河野
4	2	2	1	甲斐
三回戦				
白木				広島県
大石真	⊗			井村
大石洋	⊗			鳥村
玉田				吉岡
福多				佐々木
3	2	0	0	高橋
準々決勝				
白木		⊗		間込
大石真		⊗		村瀬
大石洋	⊗			久保
玉田	⊗			岡村

福多 | 松井

代表

福多 | ⊗ 松井

ベスト八

優秀選手賞

大石洋史先生

個人団体とも、上位に進出することができました。大石洋史先生は、徳島県勢としては、平成十五年の坪井さくら先生（現・静岡県 内田さくら先生）以来、十五年ぶりの個人戦優勝となりました。全試合、圧倒的な強さでした。

団体戦では、準々決勝の代表戦、福多先生の見事な小手が決まり、準決勝に進出！！と、誰もが思いましたが、旗が一本しかあがらず、残念ながら準々決勝で敗退となりました。しかし、徳島県の選手団の層の厚さ、実力が十分全国で通用するということが証明された大会であったことは間違いのないと思います。今回、選手団が決まり、全員で上位入賞に向けて稽古を積ん

できました。私事ですが、初任研・全中への参加・子育てと、なかなか皆さんと一緒に稽古に参加することができませんでした。しかし、学校剣道連盟の先生方・女子部の先生方・剣道連盟の先生方・西部地区で共に汗を流している先輩や後輩の皆さんの温かいご支援のおかげで、思い切った試合をすることができました。多くの方々に支えていただいたこへの感謝の気持ちを胸に、今後の稽古や後世の指導に励んでいこうと思います。本当にありがとうございました。



## 第三十六回四国教職員 大会に参加して

国府小学校 教諭

十一将 森 康 二



私は、平成二十八年八月二十二日に愛媛県で行われた第三十六回四国教職員大会に出場

させていただきました。教員になって何かもが初めてのことばかりで不安でした。何より不安だったことは、稽古量です。昨年まで大学でしていた稽古量と比べて圧倒的に少なかったからです。しかし、先輩の先生方の稽古に向かう姿勢を見るとそんなことを言っている場合ではないと感じました。「四国大会までの間に自分にできることを一生懸命にがんばろう」と心に決め、一本でも多く稽古ができるように道場に足を運ぶよう心掛けました。

そして、大会当日。試合は、一チーム十

三人の団体戦で行われ、四県のリーグ戦で勝敗を決します。会場は、思っていたより和やかな雰囲気で見事な試合でした。しかし、いざ試合になると、さっきまでの和やかな雰囲気とは一転し、レベルの高い白熱した試合が繰り広げられていました。徳島県は、初めに愛媛県と対戦し、本数差で勝利を収めることができました。二試合目は、香川県と対戦し、僅差で勝つことができました。最後に、高知県との対戦でした。惜しくも敗れてしまい、徳島県は、二勝一敗という結果に終わりました。香川県と接戦となり、本数差で優勝することができました。徳島県が優勝するのは十年ぶり？の快挙で、私もそのような体験ができたことを大変嬉しく思います。しかし、私自身、まだまだ反省するべき点があると感じました。間合いの攻防や打ち切る姿勢など自分自身の剣道を見直していくいい機会になったと思います。この大会で得た経験を活かし、日頃の稽古を高い意識を持って取り組んでいきたいと思えます。また、指導してくださる先生方や周囲の方々への感謝の気持ちを忘れ

ずに日々の修練に励んでいきたいと思えます。また、ご指導のほど宜しく願っています。



大会結果

第一試合	県名	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	愛媛県	源代	俊野	青野	片岡	武田	森	富永	渡辺	嶋家	今宮	池田	梅本	渡部	△ 5 — 4
					⊗			△ ⊗	⊗					⊕ メ	
徳島県	⊕					⊗	メ ⊗	△ △				メ ⊗	メ	○ 7 — 4	
	長谷川	伊藤	森	林	大石	大石	山本	佐藤	磯部	河野	玉田	山田	富浦		

第二試合	県名	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	徳島県	長谷川	伊藤	森	林	大石	大石	山本	佐藤	磯部	河野	玉田	山田	富浦	○ 8 — 4
		⊕				△			⊗	⊗ メ		⊕	⊗ コ	⊗	
香川県	メ	メ ⊗		⊗			⊗						メ	△ 6 — 3	
	橋本	田中	雉鳥	山下	山神	大林	小林	久保	鳥居	竹下	楠見	香川	大山		

第三試合	県名	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	徳島県	長谷川	伊藤	森	林	大石	大石	山本	佐藤	磯部	河野	玉田	山田	富浦	△ 8 — 4
					⊗	⊗ メ	⊗ メ	⊕				⊕ メ			
高知県			メ ⊗		△			メ コ		メ ⊗	⊕		⊗	○ 8 — 5	
	津野	甲田	川田	岡崎	山沖	宮崎	森	竹田	山本	戸田	宇賀	岡本	中越		

## 対 戦 表

	香 川	徳 島	高 知	愛 媛	勝 数	勝者数	取得本数	順 位
香 川		$\frac{6}{3}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{9}{6}$	2	12	20	2
徳 島	$\frac{8}{4}$		$\frac{8}{4}$	$\frac{7}{4}$	2	12	23	1
高 知	$\frac{3}{2}$	$\frac{8}{5}$		$\frac{5}{3}$	1.5	10	16	3
愛 媛	$\frac{3}{3}$	$\frac{5}{4}$	$\frac{5}{3}$		0.5	10	13	4

### 心に残った都道府県大会

先鋒 富 田 将太郎

ぼくは、第十一回都道府県大会に出してもらいました。ぼくが都道府県大会にださしてもらっているのは、父や母のおかげでもあり、先生方が日ごろから教えてくれているからだと思います。

一日目、ぼくはあまりきんちょうはなくふつうに、会場に着きました。でも会場に入ったしゅんかん空気が一変しました。こんな所でいつも通りの試合ができるのかとかいやな不安がわきあがってきました。でもいままでいっしょに練習してきた仲間がいるからそんな心配は無用でした。一日目の前日練習が終わり、みんな体を休めていました。そして一日目はすぐに終わりました。

二日目、朝早くから会場に行き練習をして最終ちょうせいをしました。そして、開会式も終わり、いよいよ試合

のときがきました。すると、かんとくの先生が「気合入れていけよ」と声をかけてくれました。ぼくは、先鋒で自分の出せるものすべて出して行こうと決心しました。そしていつも、試合後に適くなくアドバイスをくれる先生やいっしょに戦った仲間達のおかげでいい結果をのこせることができました。この大会で学んだことは、協力する大切さと、一人では剣道はできないという重要さです。今年、初めての特別いいこでもそういう所を学べたと思います。この大会で学んだことは、今後の剣道に生かしていきたいです。

### 全日本都道府県対抗

### 少年剣道優勝大会

次鋒 千 葉 陸 登

ぼくは、代表になってうれしかったです。試合ではとても緊張すると思うけど友達と泊まれるのは、とても、楽

しみでした。

大会前日の錬成は、都道府県の代表の強い人と試合が出来るのが楽しみでした。岡山との錬成で、相手のペースに合わせてしまって、負けてしまったので、試合では、そんな事がないようにしようと思いました。

宿泊は中学生と同じ部屋でした。先ばいはとても優しく、小学生のみんなども仲良く泊まりました。

大会当日は、絶対に勝つ、と思いつながらアップをしました。一回戦の青森は、一本負けでくやしかったです。二回戦の岐阜は、みんなに「次鋒で勝つ」と言われ、自分の次鋒戦で一本勝ちで、みんなも勝ってくれて、みんなの力で、リーグを勝ち上がりました。とても、うれしかったです。

その次の相手は、岡山錬成で負けた京都でした。ぼくは、とても緊張して新造がドクドクしていました。試合では二本勝ちで、チームは準々決勝にすすみ、一番うれしかったです。石川との準々決勝は、絶対に三位になってや

る、と思いながらしたけど、一本負けでチームも負けて残念でした。

大会でも参加できてとてもうれしかったです。先生、チームのみんな、ありがとうございました。

## 都道府県大会に出場して

中堅 松山 若樹

私は、徳島県代表の中堅として出場させて頂きました。

前日は錬成をしました。会場の広さで緊張してしまい、思うように体が動きませんでした。でも、先生方が内容は悪くなかったと言ってくれたので少し安心しました。ホテルに帰って、錬成の反省をしました。あと、どうしたら勝てるのか?など考えました。

開会式が終わり予選リーグが始まりました。初戦の相手は、青森でした。前日より緊張しませんでした。チームは一勝一負の本数勝ちで回って来まし

た。私は、「この流れを絶対に止めない。少しでもチームを楽にしよう。」

と思い試合にのぞみました。その結果一本勝ちでした。チームも勝ちました。次は、岐阜としました。みんなの気持ちに乗っていたので勝ちました。リーグ突破してとてもうれしかったです。でも、次の京都戦も絶対に勝つと思って試合をしました。一勝二本勝ちで回って来ました。初め、足が止まったところに、引きメンを打たれ一本を取られてしまいました。「なにくそ」と思いました。相手が足をすべらせたところに体当りでくずしメンを決めました。結果は引き分けでした。あとの子達も、千葉君の二本勝ちを守り、チームは勝ちました。あと一回勝ったらメダルがもらえる。絶対勝つぞ!!と思い、石川戦にのぞみました。二敗で回って来ました。「この悪い流れを止めるぞ」と思ったけれど、引き分けてしまいました。チームは負けてしまいました。

この大会で、流れを止めない、つなぐ、流れを変えるなど、いろいろなこ

とを学びました。この経験を忘れず、これからもがんばって行きます。先生方を始め、保護者の方々、いっしょに練習をしたみんな、チームメイトのみんな本当にお世話になりました。ありがとうございました。

## 初めての都道府県大会

副将 添 木 陽 仁

今年で十一回目を迎えた、全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に徳島県代表として出場させていただきました。リーグ突破を目指し、チーム一丸となっ

てがんばりました。ぼくは五月にひざを骨折し、代表選手に選ばれるか不安でした。一ヶ月間は、タイヤ打ちに専念し、そのおかげで、より早い面打ちができる様になりました。

初の都道府県であり、不安でいっぱい、青森県と岐阜県に勝ってリーグ

突破できるかななどと思っていました。しかし、チームが一つとなって試合に望むことができました。

ぼくは副将なので前の試合の流れによって、頭を使わないといけないのでとてもむずかしい役でした。でも、先生からの信らいにこたえるために一生けん命がんばろうと思いました。しかし、あまりその信らいにこたえることができなかつたのでショックでした。

でもチームとして勝利を収めることができたのでうれしかったです。京都とやるときはきちんと役目を果たすことができましたのでうれしかったです。特にうれしかったことは、岡山えんせいで負けた京都に勝つことができたことです。徳島県代表のキャプテンとして、チームを引っ張っていくことができたのでうれしかったです。都道府県にいくまでにご指導いただいた先生方や特別強化をして下さった山本先生や松村先生、臼木先生ありがとうございました。

## 第十一回日本都道府県対抗

### 少年剣道優勝大会に参加して

大将 岩 原 千 佳

今回、都道府県大会の選手に選ばれるまでは、毎月行われる強化練成会に参加し、基本練習や試合練習をがんばってきました。

また候補選手に選ばれてからは、印南遠征や岡山遠征に参加し、たくさん練習試合をしました。自分の試合としては、絶対に負けないという強い気持ちで行い、大将としては、チームが勝利するためにどんな試合をするかという二つを考えながら取り組みました。

選手に選ばれてからは、松村先生の道場で毎週一回特別強化練習が行われました。三木会長や臼木先生、山本監督に指導していただきました。この強化練習のおかげで、選手同士の会話も増え、添木君を中心にチームワークがとれたことが一番良かったと思います。大会当日、みんな緊張していました。



が、初戦、ムードメーカー富田君の二本勝ちでみんなリラックスできました。予選リーグ、決勝トーナメントと勝ち進みました。準々決勝で石川県と対戦し、惜しくも負けてしまいました。試合が終わった後、三木会長や松村先生から「初めて予選突破してベスト八になった、よく頑張った。」と言われてうれしかったです。

私は、これからも剣道を続けます。そして中学校でもこのメンバーで参加して、次はメダルがもらえるよう練習を頑張りたいです。最後に今まで指導していただいた三木会長、松村先生、臼木先生、寒川先生、山本監督はじめ多くの先生方がありがとうございました。



## 第11回 全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会

と き 平成28年9月18日(日) 午前9時開会  
と ころ 府民共済SUPERアリーナ(舞洲アリーナ)  
主 催 第11回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会(大阪市、公益社団法人 大阪府剣道連盟)  
後 援 スポーツ庁、大阪府、大阪市教育委員会、全日本剣道連盟  
公益財団法人大阪体育協会、大阪市体育協会

大会特設ページ <http://osa-kendo.or.jp/syonen11/index.html>



スポーツ振興基金助成事業  
独立行政法人日本スポーツ振興センター

# 第11回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

## 小学生の部 予選リーグ

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	富田	千葉	松山	添木	岩原	2	3
	⊗メ		㊦				
青森		⊗				1	1
	高橋	田中	太田	音坂	福原		

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	富田	千葉	松山	添木	岩原	4	7
	⊗メ	⊗	⊗メ	メ	⊗		
岐阜				⊗メ		1	2
	古田	江幡	樋口	小谷	森園		

	青森	徳島	岐阜	得点	勝者数	総本数	順位
青森		$\frac{1}{1}$	$\frac{5}{2}$	1	3	6	2
徳島	$\frac{3}{2}$		$\frac{7}{4}$	2	6	10	1
岐阜	$\frac{3}{1}$	$\frac{2}{1}$		0	2	5	3

## 決勝トーナメント

### 1回戦

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	富田	千葉	松山	添木	岩原	1	3
		⊗メ	メ				
京都		⊗			⊗	1	2
	山本	新本	清原	内藤	池田		

### 2回戦

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	富田	千葉	松山	添木	岩原	0	2
			ド		メ		
石川	⊗	⊗	ド	⊗	⊖コ	4	6
	横山	和住	松本	指本	福原		



# 第十一回都道府県対抗 少年剣道大会に参加して

中学校の部

監督 齋 浩 市

平成二十八年九月十七日(土)から十八日(日)の日程で標記大会の中学校監督として、コーチである阿波中学校の前田先生と一緒に参加させていただきました。昨年に引き続き三度目の参加になります。

昨年は北海道に競り勝ち、岐阜に惜敗し一勝一敗で予選リーグ敗退でしたので、「今年こそは」という気持ちで臨みました。

組み合わせは「長野・福島」と一緒にリーグになりました。長野は今年の全中開催前であり、数年前から強化しているということと、何度も練習試合をしているのでお互いの手の内も分かっているという「やりにくさ」もありました。また、福島は全く情報がないチームでした。前日の練習試合は数名のものが体調不良ということで、二試合できりあげ、調整をしました。

長野県との試合は開始直後の第一試合でした。会場全体にまだ「緊張」が漂う中、試合が始まりました、先鋒・朝田の初太刀「相小手面」は機会を捉えたすばらしい打突でしたが、一本にはなりませんでした。そこからは、双方激しい攻防が続きました。が、全く旗があげられない展開になり、先鋒から副将まで引き分けとなりました。

大将・吉田は大会前日に足を痛めていたのですが、試合直前にアドバイスをした時、眼の中に「静かな闘志」を感じましたので、大丈夫だと思いました。

試合は中盤、相手の出小手を捌いてすばらしい面を決めた吉田が値千金の一本を先取しました。その後、相手が吉田の首を「抱え込み」引き倒す(確認しましたが、試合の流れの中の行為なので反則にならず)ことで、足を痛めてしまいました。一瞬「ヒヤッと」しましたが、抗議の最中に吉田は自ら屈伸等をしていましたので安心しました。試合が再開され、焦った相手から二本目の相小手面を決め、チームの危機を救った二本勝ちを決めてくれました。

福島県との試合でも審判は全く同じでしたから、旗があげられない接戦が予想されました。先鋒・朝田が面をとり一本勝ちの後、予想通りの膠着状態となりました。檜田の打突も旗が上がりそうになるのですが、一本にはなりません。逆にそんな流れを変えようと中堅・松山が思い切り打った飛び込み胴が空を切り、引き面を奪われてしまいました。さらに、焦ったところに面を追加され、残念なことに二本とられてしまいました。そこからは、副将・後藤、大将・吉田と一本を取るため果敢に攻めたのですが「引き分け」られ、悔しい本数負けになりました。福島に長野が勝ったため1勝1敗で並び、長野が勝ち人数差でリーグを抜けることになりました。

今回は、勝利のチャンスが十分にあったと感じました。一本のこわさ、リーグ戦の難しさを味わうことになり、全力で試合してくれた選手に、監督として申し訳なく思いました。「あと少し」の悔しさは来年のチームに託したいと思います。小学生の皆さんが見事に予選リーグを勝ち残ってくれ

たことは「チーム徳島」の一員として本当にうれしく思いました。

最後になりましたが、三木会長、松村先生をはじめお世話になった関係の皆様方に心より感謝申し上げます。かえささせていただきますと存じます。ありがとうございます。しました。

今回、監督を体験させていただいて、選手個人への指導の際のアドバイスの大切さを感じました。選手それぞれには個性があり、そのパフォーマンスを引き出すためには監督としての配慮が必要です。今回は石井中学校の白木先生に度々お願いし、アドバイスをいただき指導の際に大変参考になりました。コーチの労をとっていただいた松本先生とその情報を共有できたことがチームとしての収穫になったように思いました。選手には悔しい思いをさせて監督の力不足を痛感しますが、前向きに来年以降に繋がる点もあったように思います。

審判については「変形の構え」指導等、様々な場面で中体連の大会との違和感を感じましたが、それはどの県にも「平等な条

件」だと考えます。上位に残るチームは道場連盟その他の

大会など、様々な種類の大会を経験している生徒が多く、大会や審判を「よく知っている（経験値が高い）」印象を受けました。今後、徳島県の

チームが上位を狙うためには「どんな場面でも動じない」心構えと、「チームとして戦う」戦略が必要だと感じました。

小学生の部の指導の先生方や松村先生、熱心に応援いただいた保護者の皆さんにはチームとしても、私個人としても大変お世話になりました。最後になりましたが、徳島県剣道連盟のご指導やご援助にも心より感謝いたしながら御報告にかえさせていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。



第11回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 平成28年9月18日(日) 大阪府・府民共済 SUPERアリーナ

# 全日本女子剣道選手権大会

警察支部 平野千尋



全日本女子剣道

選手権大会に四  
ぶり四度目の挑  
戦をすることが出来  
ました。過去の三

度の出場は、学生時代であり、私の剣道人生の中で大変貴重な経験となっています。全日本選手権は他の大会とは全く違った舞台であり、誰もが憧れる舞台であります。選手一人一人の格別な思いが結集したこの大会は自分自身を初心に返してくれる思い入れのある場所です。

今振り返ると、前回の大会からの四年間は私にとって非常に苦しい時期でありました。学生の身から警察官となり、教養期間と職場実習の中で自分自身を振り返る時間でもありました。稽古不足は否めないとしても、勤務と剣道の両立は難しいなあと感じていました。でも全日本へのこだわりは

外せません。それほど全日本女子剣道選手権大会にかけるといっては、自分を強く持つていなければいけない大会、どの選手も簡単に出場を手に入れてはいない大会であると思います。

今回の大会直前のスケジュールはとても厳しいものがあり、警察官は全国警察選手権大会の一週間後に全日本選手権大会を迎えます。あまりにも近い大会にどう調整すればいいのかわからないまま警察選手権大会を迎えていました。警察選手権大会は一本勝負、四回戦まで進みベスト一六でした。全日本へは気持ちを上手く繋げ、そして切り替えること、よかったところは繋げて、いやなところは捨ててしまおうと自分の中で気持ちの整理をしました。ちなみに、今年も選手権大会に出場している選手の三分の一は警察官、三分の一を学生が占め、平均年齢も若返っていました。

また会場は、今年から長野県に変わる節目の大会です。そのため、会場の雰囲気は新鮮で、また四年振りの全日本となると緊張感強く感じていました。

初戦は、千葉県代表の森選手です。試合は両者ともに、一試合目であり、相手の剣風があまりわからない状態であったため、序盤は警戒した展開となりました。五分の試合時間内には、何本か機会をとらえた場面もありましたが、決め手なくなかなか一本にすることが出来ません。そして延長に入り、数分も経たない間に、相手が小手に打ち込んできたところを溜めて面を返し一本を取ることが出来ました。

続いて二回戦は、京都府代表の長澤選手です。この選手は、同じ警察官で、また年齢も同じという馴染みの深い相手です。これまで何度も試合を重ねてきているため、警戒しながらどのようにして技を決めるかが問題となります。根本的に剣道スタイルは真逆で、身体能力の高い勝負剣道であるため、相手に合わせてしまうと受け身となって打突されると警戒していました。そのためにも、まずは先手先手を考え、相手の出方を探るイメージを持って挑みました。

結果としては、お互いが出頭の機会に相手は面、私が小手に差し合いとなり、旗は

相手の面を有効打突と判断しました。振り返ってみると、最後は上から乗った方が有利になると反省しました。相手のこの技を警戒していたつもりでしたが、私は面技に對して反射的に小手を出す場面が多々あり、このような長い展開になると、勝負の甘さを痛感させられたように思います。

頭でイメージしたように体が動く、反射的に体が動く、思うように竹刀操作ができるなど、体で覚えることがどれほど大変なことか、まだまだ課題は山積みです。

最後になりましたが、日頃から御指導いただいております先生方に感謝を申し上げ、ご報告いたします。



第 55 回

# 全日本女子剣道選手権大会

平成28年  
日 9月11日 午前9時 開会  
会 場 ホワイトリング  
長野市真島総合スポーツアリーナ

主催 全日本剣道連盟  
主 幹 一般財団法人 長野県剣道連盟  
後 援 大塚一ツ行・長野県・長野県剣道連盟・公益財団法人 長野県体育協会・長野市・信三新聞社

# 全日本東西対抗

## 剣道大会に出場して

警察支部 平野 誠 司



今年の全日本東

西対抗は、九月十日、福島県郡山市において開催されました。私は一

昨年に引き続き推薦を受け、西軍七将として出場が決定しました。

平成六年に六段で初出場、七段で五回、八段で四回目となり、この十回の出場は自分自身の剣行を振り返る大きな財産となっています。

私は剣道を十歳で始めてますので、今年で四十三年目となります。自分の中でこの四十三年間を振り返ってみますと、小学生から高校生までが一つ、大学四年間で一つ、警察特練時代が一つ、指導者となった平成十三年から現在までが一つと、四つのステージに分かれるように思います。

特に立場的にも指導者となった頃から、

剣道の真髄についていろいろと模索し始め、年齢と段位を掛け合わせた等身大の剣理を追求しながら、未熟ながらも自分の修行と指導に一貫性ができるように取り組んでまいりました。

その自分の中にある剣道観を東西対抗の結果に照らして振り返ってみますと興味深いことに気がつきました。

平成六年 山口大会

六段 ● 宮崎史 (神奈川)

平成十三年 群馬大会

七段 ● 出崎 (東京)

平成十四年 静岡大会

七段 ● 宮崎正 (神奈川)

平成十六年 愛媛大会

七段 ○ 湯沢 (秋田)

平成十八年 新潟大会

七段 ● 宮崎正 (神奈川)

平成二十一年 埼玉大会

七段 ○ 吉田 (新潟) 優秀選手賞

平成二十二年 佐賀大会

八段 ○ 柿原 (千葉)

平成二十四年 宮崎大会

八段 ○ 金田 (埼玉) 優秀選手賞

平成二十六年 島根大会

八段 ○ 清野 (山梨) 優秀試合賞

平成二十八年 福島大会

八段 ○ 土屋 (福島)

平野誠司 (徳島) ドー 土屋勝 (福島)

剣道とどのように関わっていくか、またどのように修練を重ねていくか、その真摯な想いを継続することは大切であり、その修練の度合いが勝負の勝敗にも繋がっていると実感できれば多少たりとも嬉しいものです。

今大会は地元福島から出場されました土屋勝先生との対戦。先生とは過去に一度、都道府県対抗剣道大会の大将として対戦し負けています。試合時間一〇分、後半の八分過ぎに面を胴に返しそのまま一本勝ちとなりましたが、土屋先生の先が強く、どんどんと前へ前へ攻めてくる中、なかなか合気とはなれず技の機会が訪れませんでした。ここ数年の取り組みは、兎にも角にも構えた時に無心になることから始まります。



勝った、負けた、強い、弱い、優劣を争う  
相対的な心ではなく、敵もなく、我も無い、  
絶対的な境地なるものを追体験することが  
目標です。

若い時分には試合が長引くと、勝ちたい、  
負けたくないという心に偏り、守りになっ  
たり、簡単に踏ん切りをつけて勝負に出て  
いたように思います。でも今回も無の境地  
となる集中力は最後まで途切れませんでした。  
日々稽古の積み重ねが習慣となってきた  
ように感じています。術としての刀法、  
身法、そしてこれらを貫く心法、この剣の  
真髓を探求していくことが伝承にも繋がる  
ものと信じます。

今回のように、修練の成果を表現できる  
場を与えていただけることは本当に幸せな  
ことです。推挙していただきました先生方  
に心より感謝申し上げます。ありがとうござ  
いました。

## 第七十一回

### 国民体育大会に出場して

警察支部 宮 本 靖 之

平成二十八年十月八日(土)から十月十  
日の三日間「広げよう感謝。伝えよう感謝。」  
のスローガンの下、希望郷いわて国体(第  
七十一回国民体育大会) 剣道競技が三戸市  
総合スポーツセンターにおいて行われまし  
た。

西谷肇一先生を監督に

大将 福多 雅英(教員)

副将 平野 誠司(警察職員)

中堅 山名 信行(警察官)

次鋒 宮本 靖之(警察官)

先鋒 白木恒二郎(教員)

の五名が本県の選手として、私は次鋒とし  
て出場させていただきました。

私は国民体育大会に出場させていただく  
のは初めてであり、平素からご指導してい  
ただいている先生方と共に試合に出場させ  
ていただく事に感謝の気持ちを持ち、大会

に出場させていただきました。

大会一回戦、徳島県はシードで福井県と  
茨城県の勝った方との試合になっていまし  
た。私はどちらの県が上がってきてもいい  
ようにと両者の試合を見て気持ちを作って  
いました。二回戦が上がってきたのは福井  
県を圧倒した茨城県でした。茨城県、次鋒  
の海老原選手は茨城県警を代表する選手で  
何度も全日本選手権に出場している強豪選  
手です。

私は気持ちが高鳴るのを抑え、自分の全  
てをぶつける気持ちで臨みました。

試合が始まり、先鋒の白木選手が相手を  
果敢に攻めるも有効打に繋がらず試合が膠  
着。延長に入り一瞬の隙をつかれ、面を取  
られ一本負け。次鋒の私は一本を取り返す  
ために相手を果敢に攻め一本先取るも、  
その後気持ちが受けに回り二本取り返され  
負け。中堅の山名選手はもう後がないとい  
う事もあり慎重に試合を運び延長線にもつ  
れ込むも胴を取られ一本負け。この時点で  
徳島県の負けが決定してしまいました。そ  
の後、副将戦が一本勝ち、大将戦が引き分

けと、後ろに繋がれば勝てたかもしれないという試合内容だっただけに悔しい気持ちで一杯になりました。

今回の試合で私は自分の未熟さを改めて実感しました。試合の立ち上がりは無心で相手を攻め、一本先取することができたのにも関わらず、二本目の声が掛かった瞬間、このまま逃げ切ろう、無理をせず一本を守り抜こうという邪念が心に入り、結局受けになったところを打たれ、結果的に逆転負けをするという選手としてやってはならないことをやってしまいました。剣道の試合は技量の差よりも気持ちの差の方が結果を左右すると私は思います。一本を守ろうという後ろ向きな気持ちが結果に繋がったのだと思います。

今回の大会で学んだことを糧に、剣道の技量の向上はさることながら、心を鍛える為にはどうしたらいいのかを考え、今後の稽古に励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の国体出

### 第71回岩手国体剣道競技 試合結果 (平成28年10月10日)

#### 成年男子2回戦 茨城ー徳島

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
茨城	山下	海老原	小磯	有田	西野	△ 5 — 3
	⊗	⊗ ⊗	⊕		⊗	
徳島		⊗		⊕	⊗	○ 3 — 1
	白木	宮本	山名	平野	福多	

場際にしご指導、ご協力をいただいた先生方、この場をお借りしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後もしご指導、ご鞭撻の程よろしくお願  
い致します。



第71回国民体育大会剣道競技 H28.10.8～10

## 第五十一回全日本

## 居合道大会の報告

監督 坂本 憲 一

平成二十八年十月二十二日(土) さわやかな秋空の元、東京武道館において各都道府県代表の精鋭剣士一四一名により、第五十一回全国居合道大会が盛大に開催されました。

大会までの過程を振り返って見ますと、徳島県の選手および監督の選考について、二月の県下居合道大会での優秀賞者を対象とし、全国大会に出場可能か、強化練習に参加出来るかなどの条件を参考に、役員会議で協議し、五段の部は内海直也選手、六段の部は一村昌和選手、七段の部には福井勝選手、監督は不肖坂本に決定されました。

強化練習は代表選手を中心としたこれまでの方針を改め、本年度からは、居合道部員全員を対象とし、全部員の資質向上をめざして、代表選手と選手外部員の二組に分けて実施することに致しました。期間は、

七月より大会開催月の十月までとし、月一回、午前九時より午後四時までを設定、選手団は前回の成績を上回ることを目標に掲げ、基本練習に加え、古流二本・制定居合三本を想定した実践練習を繰り返し行うことといたしました。

居合道における全日本の試合方法は、剣道と異なり、真剣による形演武五本で行われます。

各連盟の代表選手三名を各段ごと、三試合場に分けて抽選、トーナメント方式により試合を行い、勝者(不戦勝も含む)には、勝つごとに一点を与え各連盟選手三名の得点合計点を以て団体成績が決定されます。

かくして、試合当日の九時、静寂と緊張のなか、正面への礼の掛け声と共に五・六・七段の試合が一斉に始まりました。

一回戦、五段の部の内海選手は第四十七回大会ではベスト八、第四十八回大会ではベスト四の実績を残す精鋭で大いに期待できたのですが、福岡の精鋭荒木選手との対戦となり甲乙付けがたい内容でしたが、惜

しくも二対一の僅差で敗戦となりました。対戦相手の荒木選手は、その後、順調に勝ち進み準決勝まで進みました。

六段の部の一村選手は、強化練習で痛めた膝をかばいながらの出場となり、一回戦突破の目標もむなしく群馬の菊池選手に三対〇で敗れました。七段の部の福井選手は、山梨の島田秀夫選手との対戦でしたが三対〇で破れました。

帰路、大会の審判長を務められた原田勝範士から、福井選手の場合、技は互角だが、着装に目立つ乱れがあったとのことご講評を伺い、待機前における監督としての配慮がたりなかったことを多いに反省した次第です。

総合優勝は、地元の東京都で、各段の代表選手は開催地の威信をかけた戦い振りを見せ、見事三対〇の完全優勝でした。二位は、安定した力量で常時入賞を果たしている神奈川県、第三位は、今回五段の部と六段の部の活躍が目覚ましかった京都府でした。

ちなみに本県の総合順位は、強化練習の成果むなしく四十七都道府県中、三十九位

という成績に終わってしまいました。しかし、今回の大会は、監督という立場の私に、多くの課題を与えてくれました。順位躍進を目指すための長期間にわたる強化練習の必要性、特に四段位の若手選手を全日本の代表選手として育成する必要性等々です。

最後になりましたが、大会に向け暖かいご支援を頂きました皆様方にお礼申し上げますと共に、次回の大会に向けて尚一層稽古に邁進し、捲土重来を期して大会結果の報告とします。

第五十一回  
全日本居合道大会  
都道府県対抗優勝試合

日時 平成28年10月22日(土)  
午前9時開会  
会場 東京武道館

主催 全日本剣道連盟  
主管 東京都剣道連盟  
後援 東京都  
読売新聞社

# 全日本剣道選手権大会に臨んで

徳島文理中・高等学校

教諭 大石 洋 史



平成二十八年十一月三日、日本武道館に於いて第六十四回全日本剣道選手権大会が開催

されました。私は十一年ぶりに帰郷した、徳島県の代表として憧れの舞台に初めて立つことができました。

今まで予選には山口県時代を合わせて八度チャレンジしてきましたが、いずれも県予選で敗れてきました。県予選の厳しさは今まで嫌というほど経験してきましたので、徳島予選でも万全の準備をして臨みました。厳しい戦いが続きましたが、なんとか代表の座を得ることができました。ここからが本番だと自分に言い聞かし、全日本選手権への稽古にとり組みました。

日頃の稽古は教員という立場なので、限られた時間しかありません。一度の稽古に意識する部分を沢山持ち、質の良い稽古を目指しました。徳島県警の朝練や、香川県警、母校の大阪体育大学にも足を運び、自分を高めることに努めました。また大会直前に玉田晋作先生、吉田茂生先生の計らいで壮行試合を行って頂きました。このお陰で充実した最終調整ができたと思います。忙しいなか相手をしてくれた、県警の山本君、村井君、教員の白木君、兄の真也に感謝します。

徳島県の剣道関係者の期待を背負い武道館の舞台に立ち、いよいよ本番となりました。一回戦は新潟県警の西野選手でした。思い切りが良い選手で、その入りに勝つべく、延長で西野選手が強引に突きにくる打ち終わりに面を合わせ勝負がつきました。

二回戦は東レ滋賀の榎原選手でした。一回戦で勢いよく二本勝ちをしており、引け

ば勢いでやられると感じました。中盤引き技を出した所を追ってきたので、そこを逆に出小手を打ち一本、中盤に引き面を取り二本勝ちでした。

三回戦は山形県のベテラン川木選手でした。守る力と柔らかさがある選手です。手元がよく上がっていたので、変化で崩そうと組立て、中盤で引き面を取りました。

準々決勝からは一試合場で、試合時間は十分で行われます。テレビで見た憧れの場所で、今から自分自身が試合するのだと思うと、言葉では表せない喜び、これまで指導や支えてくれた方達への感謝の気持ちでいっぱいになりました。今思えば試合をする前にどこか満足していたような気がします。

そして、試合相手は神奈川県警の勝見選手でした。同級生でもあり、幼い頃からのスター選手です。その選手と大舞台で出来ることを本当に光栄に感じました。全日本強化合宿でも何度も手合わせしており、稽古や試合を通算しても勝ったことは一度もなく、技も常に完璧に見切られていました。

その先入観を払拭することが出来ないまま立ち会ってしまい、中盤に逆胴に打って出た後の面打ち、さらに中途半端に入ってしまった所の出頭面をとられ完敗でした。

試合を振り返り、現段階で出来ることはやりきったように思います。しかしまだまだ改善点はありますし、その気づきというものとは剣道人生においては一生続いていくものだと思います。今後も試合にはチャレンジし、生徒の指導と自分の剣道を両立していけるように頑張っていきたいと思えます。そのためにも、常に向上心を持ち続け、感謝の気持ちを忘れることなく、日々精進していきます。

#### 試合結果

一回戦	メ延	西野	(新潟県)
二回戦	メコ	榎原	(滋賀県)
三回戦	メ	川木	(山形県)
準々決勝	メメ	勝見	(神奈川県)



## 第六十八回四国四県 剣道大会に参加して

大将 富田 正



「剣を交えて、  
惜しむを知る」、

平成二十八年五月  
十五日（日）、第  
六十八回四国四県

剣道大会が本県鳴門ソイジョイ武道館で開催されました。各県年代別に女子三名（先鋒（十三将）、男子十二名（十二将（大将）の合計十五名で構成し、四県のリーグ戦で行われました。また、前日午後には、徳島市体育館第二アリーナで、四国四県の役員及び選手の合同稽古会も開催され、一時間ほどの汗を流し、交剣知愛の精神を高めました。私自身も、学生時代の級友と久しぶりに剣を交え、さわやかな汗を流すことができました。

さて、地元開催ということで、四年ぶりの優勝めざし、選手一丸となり挑んだ大会

でしたが、最終戦、共に二戦全勝同士の対戦となった香川戦に惜敗し、準優勝という結果に終わりました。リーグ戦終了後、優勝チーム（香川県）には対戦で負けたものの、トータルでのリーグ戦勝人数・勝本数は上回っていたことを思うと、悔いの残る結果となりました。しかし、選手は一人ひとりには持てる力を十分に発揮し、精一杯頑張ったと思います。

大会から半年以上経ち記憶も薄れている中ですが、私なりの観点で思いつくままに試合を振り返ってみたいと思います。

### ○第一試合 対高知戦

「始め」の主審の合図で試合が開始。先鋒・平野千尋選手、これまで多くの大会に出場し実績ある選手、最先良くスタートを切り、調子を上げたいところでしたが、相手も試合巧者でなかなか攻めきれず引き分け。次鋒・伊藤選手、長身より技を繰り出すが不十分、その攻撃に対してコテを先取され一本負け。十三将・金野選手、お互いに技を繰り出すが一本に繋がらず引き分け。これより男子戦、十二将・山本選手、共に

警察官同士で落ち着いた構えから技を繰り出す中で、中盤に一瞬の隙をつきメンを先取、そのまま時間切れで二本勝ち。十一将・大石洋史選手、本年四月に山口県（元世界選手権候補選手）より帰県した期待の選手、前半戦では確実に勝ち星がほしい位置でしたが、相手も高知県屈指の選手、お互いに鋭く技を繰り出す、なかなか一本に結びつかず引き分け。十将・白木選手、数少ない社会人からの選出、得意な間合いからコテを先取するも、メンを取りかえされ引き分け。九将・大石真也選手、このところ安定感が増し気迫を持って挑んだがメンを取られ一本負け。八将・善家選手、唯一刑務官からの選出、中盤戦に入り、そろそろ巻き返したいところでしたが、先で技を繰り出すがそこを凌がれメンを取られ一本負け。ここまで二勝三敗の負け越し、いよいよ後半戦、七将・山名選手（二刀の名手）、相手の剣を制しながら間合いに入りメンで一本勝ち。ここで同点。六将から四将においては、これまでの試合とは異なりやや落ち着いた着きのある試合展開となりました。しかし、

試合の流れを変えることはできず三引き分け、三将・平野誠司選手、無駄な動きなく余裕を感じさせる構えで相手をうまく引き出しメンで二本勝ち。副将・福多選手、上段の構えから相手が攻めてしようとしたりとこを捉えメンとコテで二本勝ち。ここまですべて四勝三敗と勝ち越し。大将・富田、全体の勝敗を強く意識せず、普段の稽古どおりに努めた結果引き分けとなり、高知県には勝利しました。

### ○第二試合 対愛媛戦

二試合目ということもあり、全体的に堅さもほぐれ、動きも良くなってきました。また、愛媛県チームは、警察官も少なく、教員とその他の公務員等が主体であったため、本県チームとしても比較的やりやすかったように思います。ただ、先鋒と十三将の女子戦においては、相手もかなりの実力を持っており苦戦を強いられましたが、十二将以降は、それぞれが自身の力を十分に発揮し、有利に試合を進めることができ、結果八勝三敗の圧勝で終わることができました。

### ○第三試合 対香川戦

最終戦は、共に二戦全勝同士の対戦となり、勝った方が優勝となるため、先鋒戦からより白熱した試合展開となりました。まず、先鋒が引き分けたものの、次鋒は長身を生かしメンで二本勝ち、ここから一気に勝星を稼ぎたいところでしたが、逆に十三将が二本負けを喫し、女子戦では互角の結果となりました。ここから男子戦、十二将と九将までは、大石兄弟の活躍も有り一進一退の試合が続きました。有利に後半戦に入るが、しかし、八将と六将については、やや気持ちが先行し焦りが見られ三連敗。特に六将・山室選手においては、立ち上がりから積極的に攻め、有利に進めていただけに終了間際の一本負けは残念でした。ここまで、三勝五敗と負け越し戦況はやや厳しくなりました。五将と副将までは、両県とも八段の先生方を配置するなど、注目すべき試合となりました。まず、五将・吉田選手、ここからは、一本が勝敗を左右するため、慎重な攻めとなり、また、相手選手もチームが有利に展開していることから

無理に技を仕掛けてくることなく、そんな一進一退の攻防が続き引き分け。四将・白木選手、ここで負けると勝敗が決定してしまうことから、慎重かつ積極的に攻めるがここも引き分け。いよいよ本県にとって、後がない戦いとなりました。ここは三将・平野選手に託し、試合の行方を見守りました。しかし、相手も八段の実力者、かなりの苦戦が予想されました。厳しいせめぎ合いから、お互い一本ずつ取り、引き分けでしたが、その攻防は心技体共に見応えのある試合でした。いよいよ副将戦、この時点ではまだ勝敗は決定せず。両者共に教職員大会でこれまでも何度に対戦したことがあり、お互いに手の内も知りつくした対戦でした。福多選手が幾度も上段から技を繰り出す、相手選手も間合いを切り無理に攻め込んでくることなく時間切れで引き分け。この時点で香川の優勝が決まりました。大将戦にあつては、チームの順位が決定したこともあり、比較的落ちついた気持ちで挑むことができました。

私が今大会の出場に至ったのは、「四国



四県大会の大将として参加してもらったかもわからんけん」という事務局からの冗談めいた一言からです。年齢が参加資格に到達したからだと思うのですが、結果的にそれが現実となりました。最初、本県主催と言うことで「負けられない試合になるな」「これは断ることが最良の礼儀だ」と考えたのですが、時をおき「せっかく機会を与えてくれたのだから、勝負は別として自分なりに一生懸命やってみよう」という考えに切り替え、僭越ながら参加させて頂きました。まず、参加させて頂いたことに心より感謝致します。それは、この大会を通じ、何よりも多くのことを学ばせて頂いたことです。特に「日々の稽古と探究心」の大切さです。

最後に、このような機会を与えていただいた徳島県剣道連盟を始め、本大会をスムーズに運営していただいた役員の方皆さん、更には共に出場した選手の皆さんに重ねて感謝致します。本当にありがとうございます。

### 大会結果

第一試合	県名	先鋒	次鋒	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	副将	大将	得点
	高知県	山本	山本	松本	松田	川澤	中澤	野崎	中山	西山	宇賀元	大崎	小笠原	宮本	宇賀孝	田村	野中
徳島県	平野千	伊藤	金野	山本	大石洋	白木	大石真	善家	山名	山室	吉田	白木	平野誠	福多	富田	7-4	

第四試合	県名	先鋒	次鋒	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	副将	大将	得点
	愛媛県	佐野	馬越	西原	松本	森	高橋	白石	藤田	日野	近田	山崎	近藤	片上	菅	向井	3-3
徳島県	平野千	伊藤	金野	山本	大石洋	白木	大石真	善家	山名	山室	吉田	白木	平野誠	福多	富田	10-8	

第五試合	県名	先鋒	次鋒	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	副将	大将	得点
	香川県	伊藤	吉田	谷本	森本	森塚	木下	岡西	小川	小野	坂口	井口	西本	桑原	井上	藤井	8-5
	徳島県																
		平野千	伊藤	金野	山本	大石洋	白木	大石真	善家	山名	山室	吉田	白木	平野誠	福多	富田	8-4

第68回 四国四県剣道大会成績表

	香川	愛媛	高知	徳島	勝数	勝者数	得本数	順位
香川		8/5	7/4	8/5	3	14	23	1
愛媛	4/2		6/4	3/3	0	9	13	4
高知	4/2	10/6		4/3	1	11	18	3
徳島	8/4	10/8	7/4		2	16	25	2

## 全国警察剣道大会を終えて

徳島県警機動隊 剣道特練員

監督 山 室 雅 幹



平成二十八年十月十八日、第六十三回全国警察剣道大会が日本武道館で開催されました。

本大会は皇宮警察本部及び各都道府県からそれぞれ一チームが参加し、一部（七人制）は十二チーム、二部（六人制）三部（五人制）はそれぞれ十八チームで編成されています。

私たちは、昨年二部に昇格できなかった悔しさを忘れることなく、特練員全員で力を合わせて優勝を目標とし、日々稽古を積み重ねてきました。

本大会に向けて、さらに、切り返し面打ちなど基本をしっかり体得し、あわせて体力面の強化をするため追い込み稽古、区分稽古などを重点的に行いました。また、諸

先生方からは、多大なる御指導を賜り、良い状態で本大会を迎えることができました。

本大会は、三チームのリーグ戦から始まり、一位チームが次のトーナメントに出場できます。対戦相手は静岡県警と福井県警で、戦力は拮抗しており、まずは先手を取って流れを掴んでいきたいところです。団体戦では先鋒から副将までが、しっかりと大将まで繋ぎ、勝利することが最も重要となってくるので、それぞれのポジションでの役割を再確認し試合に臨みました。

しかしながら、二試合とも苦しい試合展開が続く、静岡県警に二―一、福井県警に二―一で敗れ、二部に昇格することができませんでした。結果は残念ながら二敗となりましたが、それぞれの戦いは僅差でした。しかしその僅差が勝敗を分けます。今回の結果を真摯に受け止めると同時に、そこをいかに稽古で埋めていくかが、これからの課題です。

今後の取り組みとして大切なことは、特練員全員が、自分の責任や使命を自覚し、あるいは自分に課題を課し、何をここでな

すべきかを考え、行動に移すことです。

そして、日々の稽古で全員がひとつの目標に向かって取り組みことで、チームのレベルアップにつながっていくと確信しております。

剣道は、気持ちのまとまり、心の成長がなければ、技の成長もありません。「心技体の一致」という言葉をよく口にしますが、そう簡単なものではありません。

日常の稽古を修羅場と課し、そこを越える覚悟を持って取り組み、その中で自分が決めている限界の領域を抜けて、「一皮むける」経験をし、一〇〇パーセント以上の力を引き出してやるのが監督としての使命です。

そして試合という非日常のなかで、特練員個々が、「日々の自分に負けない」ように一〇〇パーセント以上の力を出すことが、「本番で捨て切り、一本となる有効打突」を引き寄せるものだと考えております。

平成二十九年全国警察剣道大会優勝を目標に情熱を持って指導して参りたいと考えております。

今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしく  
お願い致します。

## 第二十三回徳島県健康 福祉祭剣道交流会

徳島県高齢剣友会

事務局長 乾 清 孝



台風一過の秋空  
の下に、平成二十  
八年九月二十五日  
(日) 第二十三回  
県健康福祉祭剣道

交流大会が松茂第二体育館において、徳島  
県高齢剣友会会員の剣士四十四名が選手と  
して集い、「友愛知剣」の輪の元に開催さ  
れました。

高島稔之会長挨拶の後、会員による日本  
剣道形に続き、居合道教士八段坂本憲一先  
生による無双直伝英信流の演武が披露され  
ました。

大会は、十五チームが参加する団体戦  
(年齢制限なし)と年齢に応じて組分けし  
た個人戦が行われました。

団体戦では、昨年の決勝戦での対戦と同

じ、徳島支部Aと小松島支部との対決とな  
り、小松島支部が去年の雪辱を果たし優勝  
しました。

個人戦特組では、参加選手中最高齢の東  
内選手(八〇才)他三名による三つ巴のリー  
グ戦が繰り広げられ、品位と闘志あふれる  
戦いぶりに、全選手が注目する、まさに健  
康福祉祭に相応しい試合となりました。

個人戦A組みでは六月の全国高齢者武道  
大会個人戦で準優勝の美馬選手と同組ベテ  
ランの中村選手が準決勝で対戦し、開始早々、  
中村選手が機を見ての思い切りの良い飛び  
込み面を放ったのに対し、美馬選手の出小  
手が僅かに及ばず、面が決まったのが印象  
的でした。

B組では、十九名の選手が出場し、予想  
どおり激戦が繰り広げられ、なかでも同組  
ベテラン北條(憲)選手と若手大貝選手と  
の二回戦は、延長線までもつれ込み、大貝  
選手の攻めに対して北條選手が下がったと  
ころに、思い切った小手・面の二段打ちが  
決まりました。

次に、若手C組の決勝戦は、元特練同士



の藤川選手と藤本選手の対戦となり、時間無制限の延長戦でも両者決め手なく、気力・体力勝負となり、途中休憩三回の後に、藤川選手の攻めに藤本選手が下がり、応じようとわずかに剣先が上がりかかったところに藤川選手の小手が決まりました。

対戦結果

〈団体戦〉

優勝・小松島支部

澤井勝之、立川信彦、富田 正

準優勝・徳島支部 A

東内 勉、東 徳美、久保雄二

第三位・阿南支部

北條憲治、平 正明、北條雄司

板野西支部 A

久次米繁興、佐野博志、藤本辰夫

〈個人戦〉

特組（七五才以上）

優勝・川田武志

準優勝・東内 勉

第三位・張西政晴、福永 徳

A組（七〇才〜七四才）

優勝・中村稔裕

準優勝・澤井勝之

第三位・三木 毅、美馬勝行

B組（六五才〜六九才）

優勝・大貝美治

準優勝・磯部洋一

第三位・日野利之、谷 博

C組（六〇才〜六四才）

優勝・藤川和秋

準優勝・藤本辰夫

第三位・富田 正、長崎秀信



ねんりんピック

## 長崎剣道交流大会に参加

木下 裕 康



第二十九回全国健康福祉祭ながさき大会、ねんりんピック長崎二〇一六剣道交流大会に

本県選手の一員として参加させて頂きました。

さて、大会会場となった五島市について少し説明させて頂きます。五島市は九州の最西端、長崎県の西方海上約一〇〇キロメートルに位置し、大小一五二の島々からなる五島列島の南西部になって、十一の有人島と五十二の無人島から構成されている国境の島です。市内各地には、二十一ものカトリック教会が点在し、隠れキリシタンの島であり、クロマガゴの養殖基地として、また、日本一の椿の島としても知られており、面積は四二〇・〇四平方キロメートル、人

口約三万八千人の居住する島であります。

剣道交流大会は、五島市中央公園市民体育館で十月十六日予選リーグ、十七日決勝トーナメントが実施され、優勝は長崎県Aチーム、準優勝山口県、第三位茨城県・熊本県という結果となりました。

徳島県は予選第二試合場第八ブロック、秋田県・奈良県・長崎県Cと同じ組となり、その内、長崎県Cチーム・奈良県チームと対戦することとなりました。

第一回戦長崎県Cチーム、このチームは開催地である五島市の選りすぐりの剣士で編成されたチームであり、その士気は高く強豪揃いでありました。対戦結果は、四対〇で完敗ではありましたが、先鋒から中堅まで小手の一本負けであり、小技にやぶれた感がありました。

第二回戦は奈良県チームであり、このチームはオーソドックスな剣道をするチームであり、三対一で勝ちを収めることができました。奈良県戦で特筆すべきは、中堅・磯部選手が長崎県Cチームとの対戦中、右足ふくらはぎを肉離れし、立っているのも苦

痛であったと思われるにもかかわらず果敢に気で攻め、面二本で勝ちを収めた事でした。これには驚きと感動を覚えました。

対戦結果はブロック二位、決勝トーナメントには出られませんでした。予選、決勝とも大会を通じ感じたことは、最年長九十一歳、八十歳以上が五名出場しており、どの選手も気迫に満ち凜としており、動きに無駄が無くその一振一振に年輪を感じ、剣道は生涯出来るスポーツであると実感することができました。また、どのチームも大体中堅までは六十五歳位であり、その動きは若者と変わらないくらい速く、二本三本と相手を攻め、最後に一本を決める打ちをしており、六十歳を過ぎたからこれ位で良いと思わず、常に攻める気持ちを忘れずに稽古に励まなければと決意を新たにいたしました。

最後になりましたが、大会参加に当たりご指導、ご支援を賜りました先生方に深く感謝を申し上げ報告とさせていただきます。ありがとうございました。



### 予選リーグ戦成績表

【第2試合場】

8ブロック	秋田県	奈良県	徳島県	長崎県C	勝数	負数	勝者数	総本数	順位
秋田県		$\frac{3}{2}$		$\frac{1}{0}$	1	1	2	4	3
奈良県	$\frac{0}{0}$		$\frac{2}{1}$		0	2	1	2	4
徳島県		$\frac{6}{3}$		$\frac{0}{0}$	1	1	3	6	2
長崎県C	$\frac{4}{3}$		$\frac{5}{4}$		2	0	7	9	1

【第2試合場】第8試合

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島県	木下	武田	磯部	原田	川田	0	0	負
					引き分け			
長崎県C	コ	コ	コ	ドメ		4	5	勝
	深松	山田	上原	中村	木本			

【第2試合場】第16試合

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
奈良県	才木	鍵田	下地	永井	安藤	1	2	負
		ココ			引き分け			
徳島県	メメ	メ	メメ	コ		3	6	勝
	木下	武田	磯部	原田	川田			



# 第三十八回全日本高齢者 武道大会に参加して

徳島県高齢剣友会事務局

乾 清 孝



全日本高齢者武道大会は、昭和五十四年に第一回大会が開催され、今年第三十八回大会は六月六日（月）日本武道館において開催されました。

本大会には、高齢者の活動として次代に継承する大切さが問われる中で、「交剣知愛」の下に全国の剣友が集い、その輪を広げていこうとする趣旨に賛同する男女七二〇名の剣士が参加し、本県からは、高島稔之会長率いる一一名が参加しました。

団体戦には、

監督・高島稔之、大将・東内勉、副将・

川田武志、中堅・美馬勝行、次鋒・東

徳美、先鋒・乾清孝

個人戦には、

寿B組八〇歳〜八四歳（四八名）・東

内勉

特組七五歳〜七九歳（二〇一名）・川

田武志

A組七〇歳〜七四歳（二一名）・三

木毅、高島稔之、笠井勝、美馬勝行

B組六五歳〜七〇歳（一三七名）・兵

頭新平、東徳美

C組五五歳〜六四歳（二一九名）・藤

本辰夫、大貝美治、乾清孝

が、それぞれ出場しました。

さて、団体一回戦は沖縄県と対戦し、一

〇で降して二回戦へと駒を進めたものの山形県には〇一で惜敗しました。

個人戦では、参加十一名中五名が予選リ

グを勝ち抜き、決勝トーナメントに上がる

という好成績を残しましたが、なかでも個

人戦A組に出場した美馬選手が五年前の剣

道B組優勝に次ぐ準優勝という快挙を成し

遂げられました。

準優勝では、本大会での活躍が目立つ二

刀の鈴木選手（東京都）に対し、美馬選手

も臆することなく右上段で対峙し、太刀の右小手を見事に二本決めて決勝戦に駒を進めました。

決勝戦は、大柄な加藤選手（神奈川県）

と対戦。果敢に出ばな小手、面フェイント

小手と技を繰り出すも、いずれも不十分、

両者相譲らず膠着状態が続くなか、竹刀を

表から押さえての面により一本を先取される。

美馬選手、残り時間を意識して取返しに

転じ、右上段での構えに変えたが、時は既

に遅しで無念の時間切れとなり、優勝は神

奈川県へ。時間調整の難しさを痛感させら

れた決勝戦でありました。

〈参考〉

大会プログラムでの挨拶文の中で、全日

本高齢剣友会岩立三郎会長は、

・近年各地において高齢剣友会の設立な

どシニア世代の活動が活発化しはじめ、

武をもって友と集う「交剣知愛」の輪

が広がりを見せ始めており、その一例

として

「四国全土の対抗戦が開催されてい

る。」

と四月に愛媛県川之江市で開催された「四国高齢者剣道交流大会」が紹介されております。

全体の要旨としては、「次代に継承する」という高齢者の責任を全うするためには、全日本高齢剣友会の組織を拡大して、今異常に確固たるものにする必要があると強く訴えられております。

さて、この報告を読まれる現会員の皆様にもこの趣旨に賛同をいただき、来年の大会には今年以上の参加者を募って参りたいと考えておりますので是非ご参加ください。試合翌日、既知を得た衆議院議員のご案内で、首相官邸、国会議事堂等を見学しました。

特に首相官邸では入館チェックが予想以上に厳しく、事前に書類を提出し、免許証等で本人確認を十分に行った上での入館となり、内閣の組閣時に記念撮影する階段や記者会見場等を見学しました。

その後、国会議事堂を見学して自民党本

部に移動し、テレビなどで見る名物カレーを堪能するなど、この間、日本政治の中枢における現在の動きやこれからの方向性についても聞くことができ、これまでにない充実した時間を過ごして一連の大会行事を終了しました。



# 随想

## 青春の一齣 コマ

徳島支部 中尾 正輝



私は、五十八年前の昭和三十四年四月徳島県立池田高等学校に入學しました。その頃、

ペギー葉山さんの「南国土佐をあとにして」、舟木一夫さんの「高校三年生」等々が巷に、朗々と歌われていたように思います。

入学時、各部活の先輩から入部の勧誘がありました。中学生の頃、軟式野球武に所属していたので、郡の大会でも、かなりの成績を収めていたので、野球をやるうと思っていました。しかし、グラウンドで、故・薫文也先生の厳しい指導を觀てあきらめました。

ある日、体育館の前を通りかかった時、

中から裂帛の気合いと激しい竹刀を打ち合う音が聞こえてきました。初めて見る剣道でした。

「やりたいな」と思いながら次の日も、また次の日も、次の日も覗きに行っていました。そんな時、通りかかった人が「剣道をやりたいのか」と話しかけてきました。「やりたいです」と返答しました。後に、この方は、私が一生尊敬する故・國金唯義先生でした。

松端先輩が直接教室に訪れて、稽古にくる様に言って下さいました。入梅の頃であった様に思います。青春時代を費やした私の剣道は、この日から始まりました。

この頃のわが剣道部は、四国大会等に出場する強豪チームでした。國金先生から「剣道の修練の心構え」を、叩きこまれました。



昭和34年11月当時の池田高校剣道部員  
松端先輩（前列左端）國金先生（後方中央）筆者（右端）

高校卒業後、本県警察官を拝命、何気なく始めた「剣道」が私の一生涯の仕事になってしまいました。  
懐しい青春の一齣を思い出しながら終わりといたします。

# 自転車旅

阿南支部 大石 正志



教員を退職して二年目が終わろうとしています。昨年度は自転車での場所に行き、

かけがえのない体験ができました。自転車旅ではスマートフォンでの自転車ナビに頼りながら道を進めていきましたが実際に走ってみると、交通量の多さ等、不具合があり途中から「道を探ねる」に変更しました。そのことにより貴重な出会いがありました。新潟県では日本一周に挑戦している若者、愛知県では東京日本橋から東海道五十三次を歩き旅している人生の先輩、それぞれの強い意志や行動力に感動を覚えると同時に、心が折れそうになった自分に力と勇気をいただくことができました。

秋田県では農作業するご老人に、道を尋ねたところ、言葉は、ほとんど理解できま

せんでしたが、とにかくこの道を真っ直ぐに行くと国道に出ると言ってくれていることが分かりました。自然体であり、立派に育った野菜を収穫している姿に、気位を感じることができました。これらの出会いは一人旅する自分にとって大きな収穫となりました。

自転車旅で感じたことは「体験したことのない遠い距離でも、唯々、自転車を踏み続けることにより目的地に着くことができる。」ということでした。旅を続けることで出発前の自分と比べ少し我慢強くなれたような気がしました。体調管理など十分な計画をしたつもりでいたものの、愛知県立市（ちりゅう）では無理な走りと水分不足で熱中症に近い症状になり苦い思いを味わうことにもなりました。次回機会があればもっと年齢・体力・気候など考慮して綿密な計画立てたいと考えています。

今回の出会いで感じた「強い意志や行動力」「続けることにより目的地に着く」などは生徒の指導に通ずるものがありました。進路や部活動の目標を決め、それを達成す

るためには、今、何をすればいいのかということに気付かせ、それを支援していくことが教師の仕事であること。常に自己評価させ、課題が発見できれば、目標に向かい地道に努力を続けさせる。高い意識を持ち諦めずに粘り強い取り組みをすることが実力を養成に繋がる事などを再認識することができました。

本年度、放課後児童クラブにお世話になる機会をいただきました。小学生と接するのは初めてのことで、戸惑いもあり緊張の連続でしたが、純真な児童と接する度に、多くの発見や感動があります。クラブで宿題の難しさ、特に算数の難しさに驚かされながら日々過ごしていますが、保護者から宝物を預かっていることを、しっかり自覚し児童と共に学べる日々を大切に楽しんでいこうと思っています。

# 『徳島の剣道』と『交剣知愛』

徳島支部 杉浦佳夫



二〇一五年四月に転勤により、徳島県に赴任してきました、徳島支部に所属しております

す杉浦佳夫と申します。高砂香料工業株式会社という会社に勤めており、主に加工食品用香料の営業をしております。徳島に来て、早二年弱となりました。おかげ様で徳島の先生方の温かいお声かけもあり、稽古場所を確保する事ができ、仕事の都合上、なかなか稽古に参加できないものの、なんとか週一〜二回は稽古するように励んでいます。今回の寄稿にあたり、私なりの『徳島の剣道』そして、『交剣知愛』について僭越ながら述べさせていただきます。私は、徳島に来る前は東京都大田区剣道連盟の所属しておりました。稽古場所は、大田区内の剣道教室や東競武道館、そして、

懇意にしている実業団剣道部に出稽古しておりました。可能な限り稽古に参加するという体制で週二〜三回の稽古でした。稽古場所までは電車と徒歩で行き、稽古後はかならず、残心という名の第二道場でお酒を酌み交わし、口が滑らかになった先生方から色々アドバイスをいただくという、二部練が主流でした。私はどちらかというと、第二道場が楽しみで稽古に参加しておりました。

徳島への転勤が決まった際、仕事や生活の不安はありましたが、私には剣道があったので、まずは稽古場所（＝精神安定剤）を確保する事から始めました。幸い徳島県立中央武道館が比較的、家から近い事もあり、縁あって徳島支部へ登録させていただきました。

私が徳島で稽古をしていて感じた事がありません。それは、

①車社会なので、第二道場がない。（仕方

ないので、家で一人第二道場。）

②段位に関わらず、『捨てきる』『打ち切る』方が多い。

③年齢に関わらず、動きが良くて、鋭い打突の方が多い。

④待ち剣ではなく、打ち込んで来る方が多い。

当然ですね。私のような不純な動機ではなく、純粹に稽古を求め道場に足を運び、稽古に取り組んでいるので。

そのため、私も徳島に来て、稽古に対する意識が非常に変わりました。疲れている稽古に行くのが面倒だと感じていても、第二道場がなくても、自分を奮い立たせて稽古に向かう。このように剣道によって変わった意識は普段の生活や仕事にも非常に活かしております。また、私なりの『交剣知愛』について少し述べさせていただきます。私が剣道を続けている大きな理由の一つは、剣道を通じて楽しい出会いがあるからです。一つの事に色々な年代の方が熱中して、利害なく出会い、会話が成り立つ。このような性質の趣味はあまりないと思います。私は小学三年生から剣道を始めて、大学まで継続しました。しかし、社会人になってから、仕事も忙しくなってきたり、剣道の

## あれから四十年

徳島支部 手塚 十三子

ある生活から遠のいていきました。仕事はどうしても利害関係が生れます。また、仕事終わりで飲みに行けば、会社の愚痴もできます。そのような状況では純粹に楽しい人間関係を築くのはなかなか難しいと感じておりました。そんな時、ある切っ掛けからまた剣道を再開する事になり、純粹な人間関係の存在する剣道の魅力に取りつかれて今に至っております。

二〇一七年は稽古回数を増やして、より一層、交剣知愛を楽しみたいと思っております。家族の理解ある限り稽古に参加させていただきますので、皆様稽古にお誘いいただけたら幸いです。

私事で恐縮ですが、平成二十八年三月、県立富岡西高等学校を最後に定年退職をいたしました。三十七年間の勤務を無事に卒業できましたことは、ひとえに今日までご指導下さいました多くの方々のお陰と心から深くお礼申し上げます。

現在私は、小動物に関するボランティア活動が元となり、近隣地域の方々と触れ合い、学びの機会をいただいています。また、専門家のご指南を受けながら、家庭菜園一年生として自然の中で楽しく学んでいます。そこで収穫した野菜や果物を用いて、お花見や芋煮会、季節の催しなど、さらに和やかで楽しい時間を得ています。時にユーモアを交え、豊富な人生経験に裏打ちされたご年配の方々の会話に聞き入る私は、「なるほど」と納得させられ、「はい」と答えるばかり。まさに六十歳にして新人です。

「野菜作りは土作りから」と言われる専

門家の方の見事な手捌きを拝見していると、そこでは個々の特徴をよく見極め、よりよく育つための「愛情」という肥料も惜しみなく、たっぷり注がれていることに気がかされます。何事によらず、愛情こそ成長に欠かせない存在であると再確認です。

今日までの私は、生徒の皆さんと切磋琢磨、保護者の方には常に支えていただき、先生方からは日々導いていただきました。今後はこの貴重な体験を礎に、領域を少し拡げて地域社会という場で自己を見つめてみたいと思います。

長年学んでいる剣道も現在一つの岐路に立っています。私の中では「できているつもり・やっているつもり」のつもりつもりの稽古は、いつの間になら本心に積もり積もって「悪癖」となり、前途を阻む大きな要因です。二年前、右膝後十字靭帯断裂という文字通り痛い目に遭いました。そのことも今日までの自身の稽古を振り返り、心と技と体を整えた、剣道が本来在るべき姿を示唆される契機であったとようやく気が、重なる痛い思いをしています。

『徒然草』の章段に「ある人の訪問を受けた女性が、その方を送り出した後の妻戸を、さらに少し押し開けて、さりげなく月を眺める様子であった」という内容の文があります。帰っていく人は、まさか自分を見送ってくれるとは思ってもよらないことでしょうか。そこには、女性の月への興味や風流心だけでなく、去る人に対する慈しみや敬い、もっと深い人間愛が、日々の心がけとなって自然な形で表現されたものだと思像します。物陰から見守る第三者の胸に去来する熱い思いが、そのままこちらに伝わってくるようです。

徳島でお世話になって早、四十年余りが経過しました。その間、様々な活動の場を与えていただき、多くの方のお力添えで今日を迎えております。泣きたい気持ちをグッとこらえて天を仰ぎ、我慢の数値は限界を超えながらも辛抱し、忍の一字を求められたのは言うまでもなく周辺の方々です。『徒然草』の章段は、その意味も含め、読み返すたびに自我と感謝の思いを一層強めます。

今後は、剣道はもとより、日常生活の万般にわたり「残心」を肝に銘じ、真摯に自分磨きに努めて参りたいと思います。



## 岐路となった高校時代

徳島支部 吉 田 昌 彦



### 一 はじめに

「石の上にも三年」私が剣道を始めて早五十年の月日が経とうとしています。

この間、剣道を通じていろいろな方との出会いがあり、そして、剣道により導かれた場面が何度かありました。

剣道の素晴らしい教えの一つに「礼の精神」があり、その教えを会社運営に取り入れ成功されている大学の先輩がおられます。正に「剣道は万事に通じる」ということを実践されておられます。

そうした先輩を見習い、一歩でも近づこうとすることは、私がそうであるように「剣道が続けてきて良かった。」と感じる場面にきつと皆様も遭遇されるでしょう。

### 二 高校時代の思い出

中学・高校・大学・社会人（警察官）、そして退職した今も剣道が続けることができておりますが、この度、県剣道連盟事務局から「徳島の剣道」への随想を投稿するよう依頼があり、いろいろと考えた末に、あの当時、一番心に残っている高校時代の思い出として、本県で皇太子殿下、同妃殿下（現天皇・皇后両陛下）が御臨席を得て開催されました「第十八回全国高等学校総合体育大会剣道競技」について記憶をたどることとしました。

私の中学時代は、郡大会を勝ち抜くことができなまま昭和四十四年に脇町高校剣道部に入部し、剣道部顧問として今は亡き滝下勝先生の指導を得ることができました。文武両道を目指す剣道部の宿命として、常に補習と部活の両立が求められ、とりわけ部活では、当時十一年連続の四国大会出場の伝統を守るべく、先生や先輩方からも厳しい稽古をつけていただきました。

その甲斐あってか、昭和四十六年八月に

本県で開催された全国高校総体（会場は城北高校体育館）に向けての強化合宿にも召集されました。

県下の同級生では、現在も剣を交えて交流させていただいている阿波支部長の藤井利一先生、審議員の富田正先生、監事の立川信彦先生そして阿南市部長の坂本信幸先生等がおられます。

当時の剣連は、既に鬼籍に入られております滝下勝先生、下村富夫先生、松本一城先生、清原栄先生、井上建二先生等そうそうたる先生方を指導陣に配して選手強化を図るなど相当な力の入れようでありました。そして、こうした先生方のご指導に加えて、県警機動隊の特練の先生方からも猛烈な稽古をつけていただきました。

この合宿の中では食事の時間が特に待ち遠しく、旧武道館前にあった「なると食堂」で定食をいただく時が唯一、身体と心が休まる時間であったことが今でも鮮烈な記憶として思い出されます。と申しますのは、武道館二階の和室で雑魚寝して寝泊まりするのですが、一日の稽古が終わってやっと



一息つけると思っていたところ、各先生からの剣道講話が始まるのです。

下村先生からは、「竹刀は相手の竹刀と平行に打つ。」といった話や、滝下先生からは「悟りの寓話」や「目付け」といった内容のお話を伺いました。そして、いざ就寝となると、蚊に刺されて寝付かれずという毎日を繰り返していました。今となればこれも良い思い出です。

総体の県予選が近づくと、春休みには和歌山の和歌山工業高校や大阪の清風高校等にも県外遠征に出かけて、他県の同じ高校生の剣道を見てそのレベルの高さに驚き、また、非常に参考になりました。

さて、高校三年生となりよいよ県予選に臨むこととなりましたが、剣道競技については前から県予選のテレビ中継や新聞でも予想記事が掲載されるなどしており、県下でも注目をされておりました。

そして、男子の団体優勝は阿南工業高校が、二位が富岡西高校、三位が徳島農業高校と新野高校が勝ち上がり、個人戦は優勝が阿南工業高校の金國明彦選手、二位に徳

島農業高校の樫本英夫選手でありました。

私はというと、団体・個人とも敗退し、会場でお会いした下村先生から、「早や、負けたんか。」と声を掛けられ、返答に窮した記憶があります。しかしながら、選手としては出場できませんでしたが、総体当日は時計係を仰せつかり、しっかりと任務を全うしたことを付け加えておきます。

全国高校総体剣道競技の試合結果は、男子優勝は鹿児島商業高校だったと記憶しております。団体戦では残念ながら本県チームは入賞を逃がしましたが、個人戦では新野高校の初田選手が八位入賞をしております。また、この総体に出場したメンバーには、米倉滋副会長、河田清美先生、近藤巨先生等もおられました。

### 三 おわりに

過日、立川先生と歓談の機会があり、高校総体に向けた記憶を探る中で、高校時代のあの時に流した汗の記憶が一人ひとりの胸の中にしっかりとしまひ込まれていて、目に染みる汗やその汗の辛さが、現在の私

達の剣道だけでなく人間性までも形成していることと確信できるようになってまいりました。また、別の機会に、当時出場された先生方からこの時の話をお伝えいただければと考えております。

さて、剣道の修行には、肉体的にも精神的にも「我慢」が必要です。確かに一口では伝えきれない部分があり、「我慢」というものを私自身が手本となり、後輩の皆様にもこれを受け継いでいってくれば幸いです。

今後とも微力ではありますが、剣道発展のために傾注してまいれる所存です。

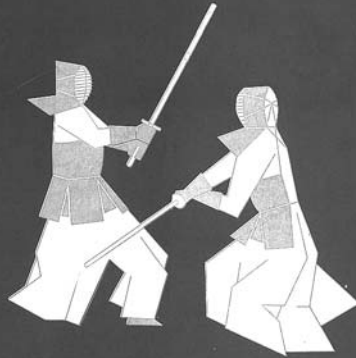
最後になりましたが、これまで諸先生や先輩・同僚の皆様の暖かいご指導とご協力により、剣道を続けることができたことに感謝申し上げます。



昭和46年度  
全国高等学校総合体育大会  
第18回全国高等学校剣道大会

会期／昭和46年8月2日→8月4日

会場／城北高校体育館



主催／全国高等学校体育連盟 全日本剣道連盟 徳島県 徳島県教育委員会 徳島市 徳島市教育委員会  
後援／文部省 日本体育協会 NHK 徳島県体育協会 徳島市体育協会  
主管／全国高等学校体育連盟剣道部 徳島県高等学校体育連盟 徳島県剣道連盟



## 師を思う

警察支部 山名 信行

平成二十七年十二月二十二日、師と仰ぐ戸田忠男範士が逝かれました。御年七十七歳でした。

戸田先生との出会いは、今から二十一年前、まだ、二刀を始めて十日ほどのころです。その出会いは今の自分にとって、奇跡だったと思います。

私が二刀を構えだしたのは、大学二年生から三年生になる春休みの期間です。当時私が通う国際武道大学には、四百名あまりの剣道部員が在籍しており、各が選手を目指し稽古に励んでいました。その中で中段の選手として稽古に励んでいましたが、選手には到底及ぶものではありませんでした。しかし、決して裕福な家庭ではないのにも関わらず、自分のわがままを聞いて大学に通わせてくれる両親に何らかの形を残したいと思っていました。そんな矢先、授業の映像で二刀の剣士の映像を目にしま

した。その瞬間、自分の中で「これだ。」という直感が走ったことを今でも鮮明に覚えています。直ぐに大学の師範、監督に「二刀をとらせて下さい。」と思いを告げましたが、中々許しが降りず、説得を続け、何とか許しをいただきました。ただ、そのときに監督から言われたのが、「独学になるぞ。それでも覚悟があるのか。」との一言でした。

それから、自分の試行錯誤の日々が始まりました。今とは違い当時はインターネットも普及しておらず、二刀について記した書籍と授業で見た映像が全てでした。そんなおり、同級生からある合宿の誘いがありました。その合宿とは高校時代の先輩が企画した合宿に戸田先生をゲストに招くというものでした。

自分にとってはまさに「渡りに船」でした。合宿に参加し、先生から二刀をとるに当たっての心構えと基本操法について教わりました。これが私と戸田先生との出会いでした。

それから二十一年がたちました。三年前

から、東京都の宇賀神先生（正二刀）と山口県の藤井先生（逆二刀）という方が中心となり、年に一度「二刀サミット」と題し、二刀の講習会が行われています。この講習会には、全国の二刀剣士だけでなく海外からの参加者もあり、毎年約五十名の二刀剣士が集まります。

講習内容も戸田先生指導のもと気構えや、技法について講習が行われます。また、一年に一度ということ、それぞれが一年間修練してきた成果を披露する場でもあり、先生も毎年楽しみにしておられました。

昨年最後

に「来年の成長を楽しみにしている。」

とおっしゃっていた先生の笑顔が忘れられません。先生が逝かれて、今改めて「剣道」の「道」という字を見て、よく言われることですが、人と人は道と同じで繋がっているのだなと感じています。この道は自分が修行していく中で、真っ直ぐな道だけではなく、時には曲がりくねり、また、アスファルト舗装されたような走りやすい道だけでなく、獣道や、道とも呼べないような草木

が覆い茂った道もあり、それらが他の道と時には交差して行きます。

私は二刀を構え、様々な評価を得てきました。賞賛もあれば罵倒もありましたが、戸田先生という大きな道導のおかげで、様々な方と道が交わり、竹刀を交えることでお互いを知る切っ掛けができました。

戸田先生は、

「剣道はただ単に竹刀で相手を打ち据えるのではなく、竹刀を通じて会話をしなければならぬ。」とおっしゃっていました。

また、葬儀でご家族の方からの最後の挨拶の中で先生が生前

「上段は火の構え

二刀は水の構え」

とおっしゃっておられたことを聞きました。

私は、本当に深い言葉だと思いました。

これらの言葉を胸に改めて剣道を続けて行きたいと思いました。



二刀サミットでの戸田先生



# 出 会 い

徳島科学技術高等学校

教諭 曾 根 徳 治

小学校六年生から剣道を始めて四十二年  
が経ちました。きっかけは、体力づくりの  
ためでした。そして、長い剣道人生の中で  
素晴らしい先生方と出会い、現在に至りま  
した。先生方には、大変感謝しています。

現在は高校で剣道を指導しており、多く  
の方と剣道について話す中でヒントを得た  
り、ご指導いただいたことを自分なりに理  
解して取り組んでいます。しかし、指導方  
法や技術向上について悩むことも多く、自  
分自身が反省し、問題点改善に向けて取り  
組んだり意識改革を行ったりの連続です。  
そのような中で、近年大学時代ご指導いた  
だいた三橋秀三先生の剣道に関する理論的  
な教えと指導方法が意義深いことに気づき  
ました。

三橋先生は、明治三十七年に愛知県岡崎  
市にお生まれになり、岡崎中学校、東京高

等師範学校体育科及び研究科を卒業されま  
した。その後、岐阜県師範学校で教鞭を執  
られ、母校東京高等師範学校において剣道  
の教官として奉職されながら高野範士のも  
とで理論研究に取り組みされました。東京体  
育専門学校兼東京高等師範学校、静岡大学、  
岐阜大学、中京大学で教授や学部長を歴任  
され、定年退職後は中部工業大学（現在の  
中部大学）で剣道部の師範を務められまし  
た。

私が三橋先生に初めてお会いしたのは、  
昭和五十七年四月に入学した中部工業大学  
の剣道場に、当時監督をしていた渡邊香先  
生と一緒に来られたときでした。そのとき、  
百八センチを超える長身で、ブレザーを  
着用し、首元にはネックチーフを巻き、ハッ  
トをかぶられていました。私達学生が挨拶  
をすると、ハットを右手で軽く持ち上げ挨拶  
に返してくれました。タバコはケントを  
吸われ、七十歳後半でありましたが仕草が  
自然で、かっこ良かったことを覚えていま  
す。稽古は一週間に二回道場に來られたと  
きにつけていただきました。稽古の合間に

講義をしていただいたこともあります。  
「切り返し一回の運動量は、水泳で言えば  
クロールで二十五メートルを全力で泳いだ  
ときと同じである」というように剣道を科  
学的に観ることや「攻めとは最小限度の動  
きで相手に最大限の影響を与えものである」  
などと理論的に教えていただくことは初めて  
で、貴重な体験でした。また、三橋先生は  
非常に穏やかな方で、剣道の指導も「君の  
構えは良い。だが、打突が弱い。打突を強  
くするためには……」「これを直せばおま  
えはもっと強くなる。」など、最初に学生  
の良いところを褒め、その後で改善点を言  
われていました。優しさの中に厳しさの有  
る指導でした。

剣道について学生時代には考えなかった  
ようなことも年齢とともに気づけるようにな  
ったことが多くあり、今思えば、先生に  
ご指導いただいているときにもっといろい  
ろなことを伺っておけば良かったと悔やむ  
ばかりです。直接稽古していただいた期間  
は二年あまりですが、私にとっては生涯の  
宝だと思っています。先生から教えていた

だいたことを胸に、自分なりに生徒とともに取り組んで行きたいと思えます。

最後になりますが、今回、随想を寄稿する機会をいただいたことで、三橋先生との思い出を振り返ることができたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



ありし日の三橋先生



三橋先生（写真中央・長身白髪）とともに（筆者左端）

## 徳島に来て

居合道部 内 海 直 弥



私が徳島県剣道連盟居合道部に入会したのは、会社の転勤で徳島に異動してきた二〇〇

七年のことなので、今年で十年になります。十年の間にもあちこち異動を繰り返して、県外へ転居しながらも徳島に所属させていただきました。今は京都に居住していますので、一、二カ月に一回程度、講習会や稽古会などの機会にしか徳島にいられていませんが、いつも厳しくも温かいご指導をいただく原田先生をはじめとした先生方、また、剣友の皆様には大変感謝しております。

私は大学の部活動で居合道を始め、大学と大学院の合計六年間を京都で過ごしました。就職に伴い、配属となった福岡では二年間、居合道から遠ざかっていましたが、その後、徳島に異動となり、居合道を再開

した次第です。改めて振り返ってみると、いつの間にか徳島の所属として過ごさせていただいた期間が最も長くなっており、月日の流れの速さに驚きました。

実のところ、私は徳島に来た当時は落ち込んでいました。もともと徳島は縁もゆかりもない土地でしたし、勤務地としても希望していた大阪への異動ではなかったためです。

私生活では身近に友人もおらず、職場では五十代の先輩社員ばかりの中ただ一人の二十代若手社員として、孤独な日々を過ごしていました。私が学生時代に居合道部に入っていたことを知った職場の先輩から、会社の先輩である福井先生を紹介していただき、就職してからすっかり離れていた居合道を再開することになりました。

他にすることもなかった私は、ふたたび居合道にのめり込んでいきました。学生時代にオーバーワークのため両腕にコンパートメント症候群を患い、いつときは日常生活を送るのも困難なほどに痛めていたので、もう刀を振ることはできないのではないかと諦めかけていたこともあったのですが、居合道から離れていた二年の間にそれが治っており、何の痛苦もなく刀を振れることが楽しくて仕方なかったことが居合道への傾倒に拍車をかけました。

一方で、試合勘はすっかり鈍っていましたが、もともと大会では緊張することが多かったのですが、久々に出場すると緊張してガチガチになってしまい、まったく思うように動かせませんでした。

大会に行っては負けて、の繰り返しでしたが、県立中央武道館で坂本先生、前田先生の両先生に励ましていただきながら、稽古をつけていただき、少しずつですが、試合勘を取り戻していきました。また、阿波洗心館の皆様が稽古に誘っていただき、故高橋先生にもお世話になりました。おかげさまで、二〇〇八年の徳島県下大会で優秀賞をいただき、またそれを励みに稽古を続け、次の大阪大会でも入賞することができました。

今でも相変わらず、大会ではうまくいったり、緊張してしまうように動けなかったり

の繰り返しではありませんが、大会や講習会、稽古会へ行くたびに先生方や剣友の皆様にかけていただく声を励みに稽古を続けます。

この十年の間に四段、五段をいただき、四度の全日本大会出場をはじめ、あちこちの大会に出場させていただきました。最近は大大会で全国各地の先生から「徳島の内海君」と声をかけていただくことも多くなりました。

勤務地、居住地はあちこち変わりながらですが、今では徳島の所属であることが居合道における私のアイデンティティーとなっており、徳島を第二の故郷と思うようになりました。今後も「徳島の内海」として歩んでいきたいと思えますので、引き続き変わらぬご厚情を賜れば幸いです。



写真提供：剣道日本



## 稽古の中で

居合道部 林 由美

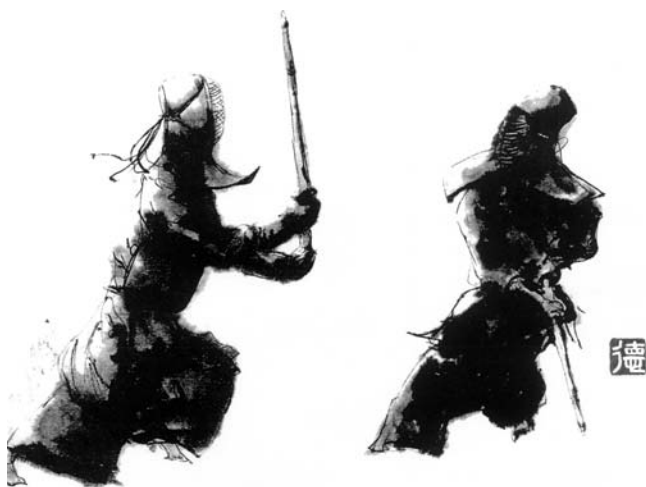
居合の業は不意の攻撃や待ち伏せ、複数の敵による襲撃などの状況が想定された構造のものが多くのが特徴である。刀（日本刀）を鞘に納めた状態から瞬時に敵に抜きつけ、一撃で敵を倒す。しかし、そこには「和」を求めるものであって何が何でも敵を殺すという業ではなく、必要に応じて敵が切りかかってくるのでやむにやまれず敵を切るのだと教えられた。

居合の稽古はひとりだ。そこに「仮想敵」をつくる。相手を想定した命のやり取りを想定、表現する。いかに自分の中で作り上げるのか、表現するのが難しい。適当に想像しているのは「踊り」になってしまう。日常の生活、人としての道理、そして刀剣による攻防の理法が加わることでやっと自分の仮想敵が作り上げられるのではないかと思う。

居合を始めて十五年余りになるが、未だ

に私の仮想敵は技の最後までなかなかそこに存在させる事が出来ない。稽古は孤独、だと思ふ。まさに自己の修練だ。時々、技の途中で小さく声を上げてやめてしまう時がある。そんな時は亡くなられた先生のおひとりに「途中でやめるのは料理を作るのをやめるのと同じこと。声が出るのは腹に力を入れてないから」と、よく諭された。そして仮想敵を作れていないからなのだ。

大会で上位の方々の試合を見ているところには確かに仮想敵が存在しているのがわかる。私がそこに立てていない多くの理由のひとつだ。その度、居合を続けていっている家族の理解、先生方のあたたかくも厳しいご指導、時間にも恵まれていながら結果を出せていない不甲斐なさに申し訳ない気持ちでいっぱいになる。そのことを忘れないよう、今日こそ良い稽古が出来るようにと稽古場に向かう。



# 称号・段位合格者

## 七段審査に合格して

県立三好病院 外科医

篠原 永光



平成二十八年八月二十七日に山口で行われた七段審査にて念願の合格を頂くことができました。

ました。これまでご指導下さいました諸先生、諸先輩、剣友の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

私の剣道経歴は小学校二年生から始まり、剣徳館剣道教室で来代真治先生の御指導を受け、稽古を積んできました。その後、徳島大学医歯薬剣道部にも所属し諸先生、諸先輩、仲間のお世話になり現在に至っております。転勤の多い職業柄現在は高松市中勤務しており三年が経過しております。隣

県でもあり恩師のもとで稽古に励んでおりますが、四月よりは県立三好病院で勤務します。

今回、六段合格を頂いて六年ぶりの審査受験となりました。その間に稽古を続けていく中で心の構えや、さらにはアクシデンともあり稽古の内容も変化しました。懸る稽古を主体にする、初対面の方との稽古を大事にするということを中心に常に意識するようにしました。その中でいろいろな反省が生まれ、課題ができた稽古へと繋ぐことができました。

さらに大きなアクシデントとして右足骨折という怪我のため約一年間の稽古ができない期間があり、大きな焦りも経験しました。しかし周りの先生からのアドバイスもあり自分自身の剣道を見直す時期になりました。特に足さばき、右足の運用については今までのように無理が効かない状態でどう運用するかについてはよくよく考えさせられました。

審査が近づくにつれ大事にしたことは集中力を高めることに最も重点を置きました。

あれやこれや考えず持っているもの出す、これにつきました。

今回の審査立ち合いの内容は幸いなことに審査会場にいらした剣友に撮影していただき、後で客観的にみる事ができました。長所も短所も嘘がなくいい勉強になりました。六段審査の時もそうでしたが、限られた一分三十秒の中の初太刀、その後の流れ、最後の一太刀の重要性を認識できました。また自身が感じていたよりも遠間になっていることに気づき、そこは我慢のしどころ、攻めどころと反省させられました。

審査に合格し気がつけばあっという間に時間が経っていました。まだまだ段位に恥ずかしくない剣道をするために模索中、課題は山積みです。しかしその点が剣道のやめられない点でもあり今後も修行を継続するのみです。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

## 剣道七段に合格して

板野東支部 岩 本 一 彦



平成二十八年八月二十七日、山口県審査会におきまして剣道七段に合格することができ

ました。これも一重にご指導くださいました板野東支部・阿波支部の先生方、並びに県剣道連盟の先生方のお陰と感謝し心から御礼申し上げます。

今回の受審にあたり私は、資格が出来ても七段を受けるのは、まだ早いのではないかと迷っておりました。稽古については、六段に合格する少し前から七年ほど、高校時代の恩師である阿波支部の塩田善治先生のところへ習いに行っておりましたが、立ちはだかる高い壁の前で超える自信を持っていませんでした。そんな私に背中を押す電話をしてくれたのが、山口県徳山大学で三年間、一緒に過ごした徳島水産高校出身で

山口県で刑務官をなさっておられる森崎善之先輩でした。審査一年ほど前から「来年、山口県で審査があるから七段を受けに来い。」という内容の電話を審査申し込み締め切り真近になるまで忘れずに頂いておりました。そこで私の腹も決まり板野東支部支部長の伊賀雅人先生に申し込みをお願いしました。それからは、自分なりに少しでも稽古が出来る時間を作りました。それともう一つ私が受審前にしたことは、郷里へ帰っての墓参りです。実家の墓は勿論、家内の家の墓にも「七段審査に行つて来ます。」と線香をあげて来ました。頼れるものには、頼りきったというところです。

稽古では、塩田先生のおっしゃる正しい剣道が出来ていたとは言えませんが、何人かの人から「少し塩田先生に似てきましたね。」と言われて、稽古で岩のような先生の前に立っているだけで、何も出来ない稽古であっても続けていれば少しは身につけているのかもしれないと思うようにしました。

そして、いよいよ山口県へということな

のですが、三十年ぶりの徳山大学剣道場の前日練習からはじまりました。山口に着くと森崎先輩と山口県警察学校教官で教士八段の稲田豊先生が迎えに来てくれていました。稲田先生は、私の二年後輩なのですが駆け寄って来るなり懐かしい笑顔で出迎えてくれ、三人で大学へ向かいました。大学の道場では、森崎先輩から声を掛けられた山口・広島先輩や後輩が平日にもかかわらず集まってくれていて、さすが若い六段・七段という稽古をしていたかったです。道場では着装から実技までの指導を、帰つてからは撮影していただいた、立ち合い稽古のビデオを見ながら注意点のご指導をお二人からしていただきました。翌日、審査会場には前日の練習と夜の歓迎会に参加してくれていたOB会のメンバーが私の実技会场上段の客席に陣取り、実技審査を見守ってくれていました。その中には森崎先輩や稲田先生の顔もあり、審査に臨む私にとって心強い応援となりました。実技審査の発表の後、客席が上がっていくと森崎先輩から電話を渡され、今年から徳山大学OB会

会長に就任された小松島支部の高木壽史先輩から、お祝いの言葉を頂戴しました。その

夜は、祝賀会で盛り上がり、次の日の六段受審者の応援をして徳島に帰って来ました。本当に楽しい三日間でした。

剣道は上に教わり、下に学ぶものだと教わりましたが、これまで恩師や先輩、県剣道連盟の諸先生方に教わるばかりが、私の剣道でした。これからは、伊賀先生が実行なさっておられる剣道を教えるのではなく、剣道で教えるというご指導のお手伝いが出来ますよう、努めてまいりたいと思っています。

私にとりまして、この度の昇段は七段になる為の資格を頂いたものと心得、精進を重ねて行きたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 七段審査に合格して

警察支部 佐野 伸 治



平成二十八年十一月に愛知県で開催された剣道七段昇段審査に合格することができました

た。これも偏に平素から御指導を頂きました近藤巨先生、平野誠司先生、西谷肇一先生、そして北井上剣道教室の美馬勝行先生を始め、道場指導者の諸先生、諸先輩方の御指導のおかげであり、改めて御礼申し上げます。

剣道六段を取得して十一年が経過してました。その間、仕事の都合上、竹刀を握る機会が減り、剣道に専念していた当時と比べると体重も年々増加し、冗談でも「剣道をしています。」と言えない体型になりつつありました。

そんな中、再び稽古ができる環境になった際に、お会いする諸先生方から「今しか

ないぞ、審査は」と発破をかけられたのが稽古を再開する発端でした。

ちょうど時期を同じくして平野先生が出場された全日本選抜剣道八段優勝大会を会場で見学する機会に恵まれ、名だたる先生方の強烈な剣道を目の当たりにしたのも大きな刺激となりました。

剣道から離れていた期間、稽古から逃げていた訳ではなく、剣道に関する書籍に目を向けるようになっていました。今思えば、剣道関係の書籍に目を向けたことが、剣道の知識が深まったと思います。例えば「基本技は『大きく打ちなさい』と指導を受けるが、その理由を説明される方は少ない。何故大きく打つ必要があるのか。」

「打突は臆（ひかがみ）を伸ばし、踵（きびす）を踏んで打てと言われるのが何故」といった至極基本的な疑問について己の剣道と比較し、私なりの解答を見つけるなど、剣道を客観的或いは俯瞰的に考察する機会となりました。新たに発見する課題や収穫が剣道の魅力や奥深さであり、「剣道」への意識が変化しました。

他方、増えすぎた体重は稽古、食事管理、筋力強化により、約一〇キロ減りました。何より一番変化したのは、剣道観、体重の変化とも繋がりますが、稽古環境が変化したことにより、「己から稽古を求め」ようになり、一回一回の稽古を大事にするようになったことです。

結果、昇段審査に合格し、稽古から離れていた期間における取り組みも強<sup>アチガ</sup>ち間違いではなかったと思えます。

剣道の目的は、日本国家武道の礎を築いた武士が剣を使った戦いを通じ、剣の理法を自得するために歩む道を指し、剣道を学ぶということとは、この剣の理法を学ぶことを意味します。敢えて言えば、剣の理法の奥にある武士の精神を学ぶことが重要で、剣の操法を厳しい稽古を通じて学ぶことは、その為の一つの手段と見られています。

以前、本誌に寄稿した際に、表題を「不咲花」（さかずばな）と記載したところ、「縁起が悪い」とのご意見をいただきましたが、

不咲花は寿命が大変長く、過去に、誰も花

を見た者がおらず且つ発見から一〇〇年以上経った今も成長を続けている花のことで、文献上では永遠に枯れず繁栄の象徴とされた花です。

花言葉の中に

咲かずして散る花はない

努力なく挫折はない

挫折なくまた咲く花もなし

とあります。人の肉体は年齢と共に栄枯盛衰を迎えますが、精神は違います。

己の剣道は未だ未熟そのもので、これまでに花が咲いたと思ったことはなく、今後も成長が続く「不咲花」でありたいと切に願いつつ、精進を重ねる覚悟です。



平成26年11月 社会人大会優勝

## 感謝の剣道七段

三好支部 喜 多 一 幸

平成二十八年十一月十二日名古屋にて、実施された剣道七段審査会において、合格することができました。

剣道との出会いは、中学校に入学前、兄が学校から竹刀を持ち帰り、「竹刀を振ってみないか」と、言われるまま竹刀を振ってみると、「上手な、素質がある」と兄のおだてに気をよくし、野球部に入室するつもりでしたが、兄の言われるまま剣道部に入室していました。試合に出れば負けてばかりでしたが、三年間どうにか続けることができました。

兄の後を追うように、同じ高校に入学し、剣道部に入室、卒業時には、二段まで昇段しました。もうこれで剣道にかかわることもないだろうと思っていました。息子が幼稚園の年長になると、兄の子供が川崎少年剣道クラブで剣道を習っていて、息子も剣道を習いたいといい、一緒に習い始める

ことになりました。道場の送迎は、妻にまかせて道場に行くこともなく過ごしていました。夏休みに道場のバーベキューがあり、参加することになり、先生方や保護者の方に挨拶をして回っている時に、藤本常己先生から、「おまはん、剣道しよったん？」と声をかけられ「してました。」と答える、「じゃあ剣道しいや。」息子の為にもなるから剣道を再開してはどうかと誘われ、体が動くか心配しながらも、三十三才で川崎剣道クラブに入室し、道場長平田先生、山下先生、藤本先生、掘川先生に基本から指導をいただき、三段、四段、五段と昇段を重ね、四十九才で六段、五十五歳で七段と昇段することができました。

平成二十五年川崎小学校が少子化の為休校、川崎少年剣道クラブも休部となり、指導者、子供達は、島尾先生が道場長である山城町剣道修練クラブに移り、子供達の指導に当たりながら稽古を積み重ねてきています。このたびの七段合格もひとえに、三好支部の先生方、西部地区の先生、今までご指導いただいた先生、川崎少年剣道クラブ、

山城町剣道修練クラブ、東祖谷剣道クラブの保護者、子供達、池田高校、岡久、秋田両顧問の先生、剣道部員、皆様の温かいご支援を頂きまして、昇段することができました。支部長合田秀實先生には、熱心にご指導していただきありがとうございます。紙面をお借りしましてお礼を申し上げます。これからは、生涯剣道を目指して頑張ってまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



喜多幸一氏七段昇段三好支部祝賀会



## まさかの合格

板野西支部 月 岡 陽 市

天変地異、晴天の霹靂、トランプ効果、如何なる形容が正しいのかわかりませんが、本人も含め大方の予想に反し、十一月十二日の愛知審査におきまして七段位に合格することができました。これもひとえに今日までご指導賜りました徳島県剣道連盟の生方、鳴月会、板野東支部、県庁稽古会、加茂名水曜稽古会、板野西支部の先生方、全ての先生方ご指導のおかげかと思えます。心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

特に、伊賀先生におきましては、審査前に先生のご自宅に招かれ、審査のビデオを見せて頂き、立会いの立礼、蹲踞を含め立会いにおける注意点、攻めからの打突への移行、ならびに残心まで全てについて御教授いただきました。また、あらゆる相手に対応できるようにと、女性の井口先生、宮田先生、岩本先生、武田先生にご協力頂き、

模擬審査をさせていただきました。上げ膳据え膳なるご指導を賜りましたことに感謝し、深く御礼申し上げます。

審査の立会いにおきましては、【自分から仕掛ける。迷わず打ち切る】【相手との気持ちの間を切らない】という事を念頭に置き臨みました。立会いの内容については、はっきり憶えていませんが、以下に列記します。

一人目は、背の低い女性で欲が出て、【面が打てる】と思い、通常は小手から入るのですが、思い切って面にでました……が、きっちり受けられました。僕も同じですが、背の低い人は、面を打ってくる人には慣れてる。また面調子で立ち会うのは僕らしくない。と気持ちを切り替えて、小手を頂きました。

二人目は、相手は前に出ようとはするのですが、こちらが前に出ようとすると退る。なかなか気持ちを合わすことが出来ず、打ち合うことが出来ませんでした。思いを決し、少し深く攻め入って面を打ちました。しかし、相手が、余したところを打ちまし

たので、面金を思いっきり打ちました。後半、面返し胴も打ちましたが、間合いが近く元打ちになりました。けど、無理やり太刀を抜きました。相手から仕掛けられることはなく、出ばな技も応じ技も全て自分から仕掛けて打ちました。また、相手との気持ち間が切れることなく立会いは出来たと思えます。しかし、これといった決定打もなく、内容的には決して納得の出来るような立会いではありませんでした。

完全にいきらめておりました。ところが、結果発表の時に、何故か僕の番号があっぴっくり、「何かの間違い?」「うそやろ?」と思いながらあわてて垂れをつけ形審査に望みました。

全て無事に終わりましたが、まさか合格できるとは思っていませんでした。今でも何が評価されたのかはつきりしませんが、結果が良いほうに転んだことを神様に感謝しております。

思いおこせば、増え続ける体重、超メタポのおなか……このままではまずいと思い、平成九年、娘に剣道を習わすことをきっか



けに、二十年ブランクを置いて再開しました。他人の迷惑省みず、何かに取り憑かれたように貪欲に稽古をむさぼり、突き進んできたように思います。それから約二十年の月日が流れました。私にとっては決して長い月日とは思っていません。剣道というものに集中できましたから……。

しかしながら、体の方がもたず、右ひじの関節が変形し曲げ伸ばしの角度が極端に少なくなり、剣道のみならず一般生活にも支障をきたすようになりました。二年前に思い切ってひじの手術を行いました。さほどの改善は見られず、このひじがいつまでもつかわりませんが、まだまだ剣道を続けて行きたいと思っております。

今回まぐれ当たりで合格させて頂いたようなものですから、審査の前にご指導頂いた事や、指摘された悪い癖は何一つ治っておりません。七段位を恥じかしめる事のない様、指摘事項を治すべく稽古を積んで行きたいと思えます。今後また、いろいろご迷惑おかけするかと思えますが、御指導の程よろしくお願致します。

うちわの話で恐縮ですが、

【平常心 可能性はゼロじゃない！】……  
審査当日、出かける前、玄関の扉に書いて貼ってありました。我が家の師匠（妻）にも感謝しております。失礼しました。

また、最後まで読んでくださいますようお願いがございました。



## 六段審査に合格して

警察支部 宮 本 靖 之



平成二十八年十月十三日、愛知県枇杷島スポーツセンターで行われた剣道六段審査会

において合格させていただきました。これもひとえに、日頃よりご指導頂いている県警に先生方をはじめ、剣道連盟の先生方、剣道特練の先輩方、同僚達のおかげであると感謝し心から御礼申し上げます。

私は今回の六段審査が初めての挑戦でありどのような立ち合いをすればいいのかわからない不安で一杯でした。又、私は普段から上段の構えを取っているということもあり、上段の構えのまま合格するのだろうかという不安もありました。過去の審査会の結果を見ても上段で受審した方々の合格率は簡単に考えても低いように感じましたし、今まで六段審査を受けてこられた

方々の話を聞いても上段の構えを取っている人の合格率は低いとのことでした。そして最後まで考え抜いた結果、自分にできる事を精一杯やって、それでも不合格ならもう一度考えようと開き直り上段の構えで受審することを決意しました。

審査当日、不思議と気持ちは落ち着いて心地いい緊張感で会場入りすることができました。「後は自分の剣道を貫き通すだけ。」と心の中で何回も復唱し気持ちを高めると共に、上段の特性を考え、「下手に仕掛けず出頭技を主体に技を出している。」と心に決め立ち合いに臨みました。

一人目、二人目共に自分の思うような立ち合いができたように思います。先をかけた、相手が出てきた所を打つといった場面が何度もあり、自分の剣道を貫き通せたという達成感があったものの、結果が出るまでは不安で一杯でした。実技審査の合格を確認したときは安堵感で一杯になったことは今でも覚えています。

形審査では落ち着いた気持ちで形を打つことができ、無事に合格する事ができまし

た。

今回の六段審査は自分の剣道を見直す良ききっかけになったと思います。一言に剣道といいますが、追い求めれば終わりのない階段を一段ずつ上がっていくようなものだと感じます。

これから、自分の剣道を見つめ直し一段でも多く上がっていけるよう日々の稽古に取り組み精進して参りたいと思います。

今後も変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 剣道六段審査

警察支部 仁 科 文 宏



平成二十八年十一月、愛知県枇杷島スポーツセンターで行われた六段審査会に挑戦しました。

私は今回が初めての六段審査だったこともあり、当然どういった雰囲気か分からず、先輩方に色々審査の話を聞いてイメージを持ちました。そして聞けば聞くほど不安になりそうでしたので、頂いた助言を元にとにかく審査までしっかり稽古に打ち込むことにしました。

審査を受けるにあたり、どういった剣道をすればいいのかと考える事もありましたが、比較的早い段階で、自分の場合は考えても仕方がないと思い、審査で持てる力を最大限に発揮するために、いい意味で開き直り、精神的な部分から纏める取り組みを

始めました。

そして、県警の先生方、先輩方、同僚に稽古をつけて頂き、発声・打突・時間の感覚を指導して頂きました。又、連盟の皆様も稽古をつけて頂いたことで、心身共に充実して審査に臨むことが出来ました。本当にありがとうございます。

審査を振り返りますと、先ず受審者の多さに驚きました。私は、一番年齢の若い組の最後の方でしたので、待ち時間も十分にあり、審査の流れも見ることができ、体を慣らして気持ちを作る時間がありました。

審査は、順番が近づくこと待機場所で待機しなければならぬので、それまでにしっかり体を温め、気持ちの面では、緊張し過ぎないよう何度も頭で立ち合いをイメージして気持ちを作りました。

その甲斐あってなのか、一人目から気持ちを落ち着かせ、焦らず、とにかく先を掛け、機会とみたら全力で打突することが出来た様に感じます。二人目も、相手の動きに集中し、腹を決めて全力で打突したように感じています。出遅れてもそこでしか

り捌き、次の体制を作り直ぐさま相手に圧を掛け、相手に打突する機会を与えない様心掛けました。

そして、立合いの結果が貼り出され、自分の番号があるのを確認したときは、安堵しました。その後、形審査も終え、「合格です。」と発表された時、やっと嬉しさが込み上げたのを覚えています。

今回六段審査に合格出来たのも、日頃から稽古をつけてくださる先生方、先輩方、同僚、連盟の皆様方、又、剣道をさせてくれた両親、自分を支えてくれる家族のお陰だと思ひ、本当に感謝しています。

これからも剣の道は続きます。「剣道に終わりは無い」と笑顔で言っていた祖父の言葉を胸に、これからまた剣の道を自分なりにしっかり進み、人間的に成長していきたいよう頑張る所存です。そして、少しでも徳島の剣道に貢献出来るよう頑張りますので、これからも、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

## 六段に合格して

三好支部 庄 嶋 亮



この度、名古屋での審査会にて六段に合格することができました。これもひとえに、私

が剣道を再開するきっかけとなった、東みよし淳志館の増田和広先生はじめ、三好支部の先生方のご指導のおかげです。本当にありがとうございます。

私は小学二年生から高校まで、佐賀県で剣道をやってきました。九州では当時から剣道が盛んで、小中学生時代は毎週のように大会に出かけていた記憶があります。高校卒業後は東京の大学に進学し、剣道からは離れてしまいましたが、次に剣道具を着けて竹刀を持つようになったのが、平成十六年四月、妻の実家である三好町に引っ越してきてからのことです。実に十年ぶりの再開でした。当時私は二十九歳、剣道二段

でした。

「近くで増田くんが剣道を教えているから行ってみたら？」という義母の話聞き、佐賀の実家から色あせた剣道具を取り寄せ行ったのが、淳志館でした。そこで増田先生と出会い稽古をしたことが、その後剣道を続けていくきっかけとなりました。「こんなに強い七段の先生がいるのか。」初めて増田先生に掛かっていったときの感想です。スピードに頼った二段程度の剣道では手も足も出ない、剣道の奥深さに触れた気がしました。それと同時に、「いつか自分も先生のような強い七段になりたい」という目標ができました。

それから淳志館で稽古を重ね、三段、四段と昇段していききましたが、当時はブランクを埋めるため、とにかく体を動かし、相手より先に、より遠くから、より速く打つ、そのためにどうするか、ということしか考えていませんでした。きっとそのような時期も必要だったとは思いますが、今冷静に分析すると、要は相手の都合はお構いなし、自分が打ちたいからとにかく打つ、と

いう、攻めのない一人よがりな剣道だったなと思います。

そんな自分の剣道を変えなければいけない、攻めとは何か、を考え始めたのは五段に向けての修行中でした。高知県で開催された勤労者大会に参加したときのことです。相手は同年代の六段の方でした。構え合っただとたん、嫌な感じがして、打たれたくないという恐怖心で一杯になりました。結果、届かない打ちを繰り返り出し、ことごとくかわされ、捌かれます。相手の打ちには構えを大きく崩して頭を振って避けるのが精一杯というバタバタした試合内容でした。何とか引分けたものの、「こんな剣道ではいかに」と自分の剣道の未熟さを痛感しました。それ以来、構え、間合を見直し、何より「打たれることを嫌がらない」を課題としました。打たれても構わない、むしろ自ら打たれに出て、打とうとした相手を打つ。そう意識すると不思議とこれまで先生方に注意された、もう半歩間合を詰める、下がない、点でなく線で打つ、などが実感として理解できるようになりました。なかなか

か常に実行できるわけではありませんが、  
そうあろうと意識して稽古をすることで、  
少しずつ剣道が変わっていったように思  
います。

今回六段に合格できたことは、これまで  
の稽古、そして意識して変えてきた剣道が  
正しかったのだと認めていただいた気がし  
ます。今後六段として稽古をしていくにあ  
たり、また、「これではいかん」と痛感し、  
課題を突きつけられることがあると思いま  
す。そんな自分を叱咤激励してくれる先生  
方、また一緒に稽古してくれる仲間に感謝  
しながら、「心を打つ剣道」を目指して日々  
精進していきたいと思えます。

十二年前、新参者であった私を温かく迎  
え入れてくださった三好支部の先生方、本  
当にありがとうございます。剣道が続け  
きて良かったと思えます。今後もよろしく  
お願いします。



## 六段審査に合格して

名古屋支部 近藤夏子

十一月十三日、少年剣道の大会と重なっており、どちらにも行きたい私は今回審査を受けに行くことをためらっていません。そちらのことが気になって集中できないと思っただけです。しかし、審査に集中してくれたいよと夫が言ってくれたので、思い切って名古屋へ行くことに決めました。前日の夜稽古から帰ってきた子どもの道着を洗濯、明日の大会の準備をしてから、あとは夫に任せ、零時の夜行バスに乗り込みました。

夜行バスで六時間、名古屋駅に到着すると、防具を担ぎ四十分、会場まで歩くことにしました。こんなことをしている受審者は私ぐらいだろうなと思いつながら歩いていくと、もうひとり防具を担いで前を歩いて行く仲間らしき人がいました。

枇杷島スポーツセンターに着いたときにはすでにアップ完了。もう体は温まってい

ました。本番ではもちろんですが、とにかく怪我をしないことが第一の目標です。少しでも動いておく意味では結果良かったと思います。

今回が初めての挑戦であり、何が良くて何が悪いのかを考えても仕方がないので、審査だからと意識せずにいつも通り、今できることを一生懸命やろうと決めていました。

特に審査に対して準備するのではなく、普段自分が大事にしていること、いつもの稽古で教えていただいていることを表現できたらという思いから、どうしたらいいのかなど、人に聞かずに挑戦したいと思いました。

そうは言っても不安な気持ちもあり、夫に言われたのは「六段にふさわしいかどうかは審査員の先生が決めること。いつも通り思い切ってやってきたらいいよ。」ということでした。

また、受審することを知っている先輩が、「けがせんように」と私の心を察し、気遣って下さり、あえてアドバイスなどをせず背中を押してくださったことにも感謝してい

ます。

合格して心に浮かんだのは、ただただ感謝の気持ちばかりでした。小学一年から始めた剣道、土日もなく毎日稽古をしていた陰には、休みなく教えて下さる先生がいたこと。中学・高校・大学、大人になってから、それぞれの時期に大切にしなければいけないことがあることを教えて下さる先生がいつもいること。すばらしい先生方に教えていただき、剣道を続けさせていただき、ありがたいと思う気持ちでいっぱいになりました。

今回挑戦できましたのも、日頃からお世話になっております先生方先輩方、未来に向かってがんばる子どもたち、家族、そして徳島女子に昇段への道を自ら切り開いて下さった女子の先生方、みなさんの姿があったからです。ありがとうございます。

これを一つのきっかけとして、剣道をまた違った角度から見られるように、もっともっと剣道を楽しみながらより深く学んでいきたいと思えます。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

## 六段に挑戦して

阿波支部 北村 環



平成二十八年十一月、名古屋で行われた審査会において、六段をいただくことができた

した。剣道を今まで続けてこれましたのも、一から御指導くださった中尾誠先生、教員としての道を導いてくださった塩田善治先生をはじめ、様々な場面で本当に多くの方々が御指導下さり、支えて下さったお陰と心より感謝いたしております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

五段をいただいてから五年、今回の十一月に六段に挑戦できると日数の上では分かったものの、私の気持ちは決して前向きではありませんでした。「足が痛いので稽古が十分でない。」「どうせ受からないだろう。」「と、自分の中で先延ばしにするための理由付けをたくさんしていました。しかしその

反面、ここ四年、国体や都道府県大会の女子部強化の遠征等で他県の選手と剣を交える中で、段位の大切さを感じていた自分もいました。

「とりあえず申し込んでみたら？審査がどんなものか見に行ってみなかだ。」という主人の後押しもあり、挑戦しようと心を決めました。

当日は受審者の多さにまずは驚きました。開場後は受付・更衣・審査までの待ち時間の過ごし方等、分らないことばかりで、

周囲の方に聞きながらバタバタしているうちに審査が始まりました。立会いは二人とも男性でした。「相手の出る所を逃さず集中して、今まで自分が学んできたことを出すだけだ。」ということだけを考えて礼をしました。内容はあまり覚えておらず、合格者の中に自分の番号があったことに驚きました。実感がないまま、塩田善治先生に報告をすると、大変喜んで下さったことで、ジワジワと嬉しさが出てきました。

今回このような報告をさせていただけるのも、家族の理解・協力と、月一回稽古を

共にしてくれている先輩・後輩、阿波支部の稽古会でお世話になっている先生方、剣道連盟の先生方、大学の先輩方や川島高校の生徒たち、本当にたくさんの方々のお陰だと改めて自分の恵まれた環境に、心を引き締めたいと思います。これからもお世話になっている方々に少しでも恩返しができるという思いで、努力していきたいと思えます。今後も変わらぬ御指導を宜しくお願いいたします。

## 剣道錬士に合格して

徳島支部 小倉 武雄



平成二十八年五月の京都での審査会においてお陰様で剣道錬士合格をいただきました。

ご指導いただきました先生方にあらためて深く御礼申し上げます。

錬士の審査は予備審査を経て小論文、テーマに沿って原稿用紙二枚程度にまとめよ、というものであります。テーマは、「平成十九年三月十四日制定の『剣道指導の心構え』の要点を記し、それを踏えたうえであなたの剣道修行について述べなさい」です。

制定され決まったものを記して述べるなら簡単にできるだろうと思っていました。でも大間違いでした。

まず、「平成十九年三月十四日制定の『剣道指導の心構え』」なるものがあること

を知りませんでした。それでも、それを記せばなんとかなるかと思ひ、忠実に原稿用紙に丸写しすると紙面がほとんどなくなりました。全体を調整するには『心構え』を要約しつつ自身の剣道修行を述べていかねばなりません。

次に、『心構え』を読んでいくと、その一つ一つについて自分あまり気にも留めずにやってきたことに気が付きました。加えて、読めば読むほどに奥が深くなっていくような気がして、要約して記すのが難しくなってきました。

すっかり手が止まってしまいました。当初の甘い見込みは全く通じず二枚の原稿用紙を前に四苦八苦の数日となりました。

錬士は、「剣理に錬達し、識見優良なる者」とあります。とてもこれには及ばずほど遠いことが身に沁みます。ただ、無知と不明を恥じるばかりの錬士受審でありましたが、このように『心構え』が制定されて存在するということや、関連して『剣道の理念』はじめ少ですが色々な資料や教えに出会うことができ非常に良い勉強になっ

たと思ひます。

これを機会に、剣理に錬達し識見優良となれるよう一層精進したいと思ひます。

錬士をいただければ京都大会に参加できます。よい出会いがあるのを楽しみに武徳殿の空気を思い切り吸ってきたいと思ひます。

今後もし指導を賜りますよう、よろしく願ひいたします。



## 剣道錬士の称号を

### 授与いたしました。

徳島支部 福永康浩

平成二十六年の八月に福岡での六段審査で合格し、一年が過ぎ、称号とは何なんだろうと思い全日本剣道連盟ホームページを見ると、段位は「剣道の技術的力量（精神的要素を含む）」、称号は「これに加える指導力や、識見などを備えた剣道人としての完成度」を示すものとなり、剣理に錬達し、識見優良なる者とありました。そこで思い切って錬士の称号を受験してみようと思ひ徳島剣道連盟に問い合わせしてみると、年二回ある講習会を受講しないと受験資格が無いとの事でした。

平成二十七年の講習会を受け、二十八年二月の審査で立ち合いと剣道形を行い、小論文を提出し、二十八年五月の京都にて剣道錬士称号をいただきました。

先輩から錬士の試験も悪いと落ちる事もあると言われ、それなりに稽古も行いまし

た。合格できたのは、今までで指導いただいた先生方々のおかげだと思ひます。本当にありがとうございました。

称号に合格してからは、右膝を痛め、一時は正座も蹲踞もできなくなり、私の剣道はもうこれで終わったと思ひました。剣道を辞めてしまうのは簡単ですが、ここで終わることはできません。七段審査と言う次の目標があります。幸せな目標です。健康でないと剣道も仕事もできません。体をケアしながら頑張っ

て行こうと思つてます。剣道では私はまだ鼻たれ小僧です。これからもいろんな方々と稽古し、いろんな事を学び反省し、一日でも長く剣道が続けていけるようがんばっていきななと思ひます。今後共ご指導のほど宜しくお願い致します。



平成二十八年年度

# 称号・段位合格者一覽

— 剣道 —

【錬士】

【教士】

五月六日

磯部 健治

十一月二十三日

富田 圭介

池田 洋一

熊澤 信行

五月六日

小倉 武雄

福永 康浩

十一月二十三日

玉田 真理

【八段】

五月二日

富浦 廣志

【七段】

八月二十七日

篠原 永光

岩本 一彦

十一月十二日

佐野 伸治

喜多 一幸

月岡 陽市

【六段】

十一月十三日

近藤 夏子

北村 環

宮本 靖之

仁科 文宏

庄嶋 亮

【五段】

五月二十九日

蘆田 裕彦

九月十一日

大城 健作

谷本 浩志

生田 圭

十一月二十日

中島 知彦

平成二十九年

二月十九日

吉岡 陵次

大城 幸子

安藝 智子

【四段】

五月二十九日

福本 正教

高橋 麻美

九月十一日

田上 和男

十一月二十日

廣井 大晃

高島 京太郎

酒卷 奈暉

株田 憲一

寺野 仁

受川 東

森 肥佐雄

平成二十九年

二月十九日

前田 宗太郎

株田 圭悟

米崎 信弥

近藤一志  
十川千吾  
金山史郎  
松本美紗樹  
栗野安香音  
楠本由美菜  
井上亜美

【三段】

五月二十九日

久米都晏  
山本晃大  
三宅凜  
坂野弘気  
近藤堪太  
島口開  
木内拓実  
富永陽介  
竹崎真帆  
富田瑠莉  
山崎舞  
片岡瑞季  
生田朱音  
佐藤真美

九月十一日  
檜森大知  
前田宗一郎  
横手悦子

十一月二十日

和田津皓也

西條賢太

喜多佑輔

井地岡勇人

青木羽海

岡本和真

井川友暉

小谷怜史

藤本隆

三宅遥稀

田上将大

田上雄大

服部比加留

矢代宗一郎

熊橋凌司

木内捷人

安澤樹一

亀井大志

後藤雄喜

赤川喜

岡田健

西名晴輝

北村怜暉

森涼太郎

原拓巳

森政悠

北林大輔

海北勝弘

中石昭

西角春那

平成二十九年

二月十九日

西田光俊

大津大輔

中山孝太郎

中村隼人

中須大晟

佐藤裕次郎

受川士

井原裕一

安田明博

山下芽実

【二段】

五月二十九日

末光春樹

植村太陽

石川楽人

儀宝聖大

中川一樹

林正隆

熊橋知晃

山下雄大

大坂悠馬

炭元裕

藤崎輝

稲葉京祐

田岡正義

中田洗輝

井原拓巳

岩佐祐誠

早岡翔太郎

佐藤祐樹

吉岡有朔

植田涼矢

植村友飛

山口雅也

迎直樹

和田津凜紅

玉置樹里

岡部晴奈

千葉美波

蔭山夢

堺麗美

永井萌花

國平恵理

大平恵美

九月十一日

仁木悠人

山添龍也

福島真生

渡辺敬介

上原憂晟

前山拓光

木村隼

今津礼登

披田好誠

吉田晴也

瀧下航希

村上琉晟

桶川純聖

沖川拓也

泉仁平

矢野真一

細川大介

西岡卓馬

峰慶乃

斎藤愛子

谷綾乃

村本歩美佳

篠原若葉

瀧本水結

堀井乃々花

田口ひかり

猪口育秀

森本夢

十一月二十日

椎橋海斗

井藤想真

北林葵	三宅輝	檜原勝志	岩崎洋介	服部良介	桑村拓実	金子颯真	佐藤大翔	飯田翔太	後藤高志	前田和志	松山知樹	原健太郎	近藤翼	田上步夢	上条亮太郎	近藤稔晃	豊崎玲音	上村雄虹	小山田慎介	河野寛之	後藤昂介	北林翔
富田哲平	福田建	長尾遼	眞貝晴樹	山尾鍊輝	村上純平	飯尾陽祐	平成二十九年 二月十九日	吉川みかげ	田村純佳	富田真帆	岩崎華織	榎本優花	岩崎妙香	齋和佳奈	朝田萌香	馬見恵理子	藤澤結菜	檜田胡桃	藤原優	青木風香		
			東條優果	古川美温	桑村美妃	蔭山愛	田邊望恵瑠	福山花純	山本美翔	浪花孝一	川口浩一郎	堂岡俊介	谷尚貴	赤川優太	原田和佳	津山幸也	筒井雅也	松田匠輝	北條琢己	北條智士	住友由記哉	川口新太
大岩恒輝	本木惣歩	宮田太	橋本竜馬	吉田麗矢	福井蒼哉	鳥海空	澁谷幸之介	西岡遥人	山本恭平	住友太洋	細井康平	添木佑翔	岩原潤哉	安藝憲之介	中川和幸	湯浅和眞	武知樹生	山田怜音	野崎陸主	四月二十九日	【初段】	
藤野晃永	尾崎宏平	日下貴行	佐藤寛基	仁井智稀	中窪睦樹	雑賀勇太	黒井啓佑	原西恵希	大島悠頌	中田凜太郎	坂東正比呂	岩佐陸生	岩佐正貴	北岡琉也	國見幸伸	中田裕己	大城穂高	小畠涼	朝桐弘崇	兼松凌真	後藤田凜	福本哲郎
佐藤晴海	六月二十六日		池北実加	尾田美菜子	鷹野晴美	岡田莉奈	石原早夏	横山真樹	八尾萌架	中野優奈	桑原なのは	二宮彩海	福田優那	吉岡萌花	西渕明里	飯田奈々	正木彩加	垣内菜々香	井本萌香	武藏千咲	野崎まひろ	西岡真太郎
丸岡眸美	佐藤祐理	天羽陽菜	出葉比加里	大久保音夢	井内鈴華	宮本由菜	森本乃愛	大西千晴	江角萌子	折野一貴	手塚義樹	大澤論士	鴻野山登	末崎光	横田海希斗	民蒼斗	山下陸斗	榎唯地	山本悠貴	西田望	岡田依吹	米澤侑真

戸田涼太	田村駿輔	川人亮太	山崎和也	山根隆哲	岩塚隆伍	伊月奎伍	岡田飛鳥	笠井晴斗	佐藤廉之助	中川咲陽	富山咲永	殿谷真誠	儀宝真弥	角元伸輔	金森陽大	八月二十八日	坂野由佳	笠井柚季	今田珠希	宮本侑奈	中海花葉
出原柚季	三笠志織	小川琳可	刘美麗洋	米川直子	土井愛子	北島万尋	上野風香	寒川香	三宅衣緒	塚田志緒	今倉菜月	前山帆香	宮本采佳	明比俊賢	田岡竜斗	山口義人	平井翔	朝田圭佑	多田雅紀	上田大貴	宮脇大陽
森上萌斗佳	大西弘	木下耕市郎	南上良晴	山蔭慎太郎	山智也	金澤征一郎	西条尚輝	野崎元哉	川西修羅	堀岡廉	岡野優作	河野航太	中村翔太	四宮翔太	喜多翼	平尾文博	米田賢司	富永翔矢	十月十六日	上田真維	
中東天雅	河野昂己	藤岡直蓮	尾形直紀	宮田滉大	島口朋生	大坂真一	古川佑成	桑原凱吏	野口明伸	三宅明伸	高田迅人	上月優彰	西村天良	大前誠也	花川裕基	工藤誠那	楠本光流	瀬野宗汰	炭宗	谷壮一郎	平成二十九年 一月二十九日
柳田藍	山室愛子	貴島琴音	谷仁音	山本真司	大和建太	坊傳優一	徳弘龍ノ介	谷康平	佐野俊輔	山下直葵	原口竜平	朝日栄成	對馬有哉	中山颯大	久米田員男	河野翔太	中澤優希	松本光輝	久原圭太	三橋巧弥	中川侑雅
								金森純子	富田真野	長井優佳	桑村有妃	五島凜果	古本明里	竹林優希	福池樹璃	上田美紗輝	嶋明日美	今田花穂	上山美月	大森瑞葉	小川莉奈

— 居合道 —

【二段】

十一月十三日

井上 伸英

【八段】

五月三日

坂本 憲一

【初段】

五月十五日

カーマイケル 貴史

【五段】

吉田 英樹

五月十五日

吉田 節雄

十一月十三日

古賀 雅治

【三段】

楠本 由美菜

五月十五日

村上 裕一

十一月十三日

内藤 泰典

木原 資裕



# がんばろう徳島

## 道場連盟体験・実践発表会

### 剣道を通して学んだこと

中学二年 北 林 葵

(鳴門市光武館道場)



平成二十七年十月二十一日。この日、鳴門市中学校新人剣道大会が行われました。この試合は私の生涯において、最も思い出深い試合となるでしょう。

小学校二年生の秋、私は剣道を習い始めました。双子の弟が先に習い始めていて、練習や試合について行っているうちに、その時六年生だった先輩達が、「一緒に剣道しよう。」と、誘ってくれたのが、私と剣道との出会いでした。

いでした。

鳴門市光武館に通うようになり、初めに習ったことは、挨拶をすることと、トイレのスリッパを揃えることでした。剣道とは違うことだったので、その時の私には、なぜやるのか意味が分かりませんでした。今になって考えてみれば、それらのことが剣道につながっているのだと理解することができません。

まず、挨拶をするということは、「礼に始まり、礼に終わる」という、剣道の基本中の基本となるものです。トイレのスリッパを揃えるのは次に使う人が気持ちよく使えるようにするためです。つまりそれらは、自分勝手な思いで行動をせず、他の人のことを尊重し、思いやるということとです。それらの約束を守ることが、剣道のみならず、私生活においても大切なことだと感じています。

それから、すり足、竹刀の握り方や扱い方、防具を着けての稽古へと進んでいきました。

そして、試合に出させてもらえるように

なりました。勝った時には嬉しきで心がいっぱいになり、楽しいと思えました。反対に負けた時は、悔しさが込み上げてきました。そんな時は、家に帰ってテレビを見ていても面白くなく、落ち込んでいました。そんな私を、誰よりも優しく励ましてくれたのが祖母でした。祖母は、試合に勝っても負けても

「ようがんばったな。」

と、優しい口調で声をかけてくれました。私が四年生の頃、祖母は病気になるしました。しかし、祖母は体調が優れない時でも、家から近い会場での試合には応援に来てくれ、いつも変わらず前向きに励ましてくれました。

また、優勝することができた時には、心から喜んでくれました。そしていつしか、「私が頑張れば、ばあちゃんが喜んでくれる。喜ばせることで、病気が少しでも良くなるかも知れない…。」と、思うようになりました。

私が中学生になり初めての夏、ついに祖母は入院してしまいました。祖母のお見舞

いに行くたび、

「ばあちゃん、次の試合見に来てよ。」

「ばあちゃん、次は絶対に優勝するけんな。」  
と、今度は私が祖母を、励ますようになっていました。

そして、平成二十七年十一月二十一日、  
鳴門市の新人戦の日。前日から祖母は、呼びかけにも反応が無い状態でした。私は「絶対に優勝する」という強い気持ちを持って試合に挑みました。団体戦では負けてしまいました。個人戦では優勝することができました。

その日の夜、祖母の元へ優勝の賞状を持って報告に行きました。すると、それまで意識の無かった祖母が目を開け、賞状を見てくれたのです。祖母は私を待ってくれていたのだと思いました。そして間もなく、祖母は穏やかに天国へ旅立って行きました。

それから一年がたち、剣道を通して今思うことは、指導してくださる先生方や家族、仲間達に支えられているからこそ、今の自分があるということ。そのことを強く胸に刻み、天国から応援してくれている祖母に

恥ずかしくないよう、初心を忘れることなく、これからも、毎日の稽古に励んでいきます。そして祖母が私にしてくれたように、今度は私が、誰かを励まし、誰かの支えになれるような人間に成長していきます。





## 病気とともに

小学六年 西村 葵

(鳴門市光武館道場)



私はもやもや病という指定難病患者です。これは原因不明の脳の血管の病気で脳に栄養を送る太い血管が詰り、その先の血管が細くなって血流不足を起こすのです。

幼稚園の時、足に違和感を感じ、突然しゃがみ込んでしまいました。一年の時には、風船をふくらませたり、フーフーと息を吐いたりすると左手に力が入らなくなりました。そんな様子を見て両親が私を病院に連れて行き、その結果、もやもや病と診断されました。お医者さんからは「このまま放っておくと脳こうそくや脳出血になる可能性がある。」と言われ、手術をすることになりました。手術は脳の血管をつなげたり、頭皮の下の組織を移植したりする十時間も

かかる難しい手術でした。

手術が終わり家族の顔を見たら、みんなは泣いていました。私が母に話しかけるとさらにみんなが泣いたので、手術は成功したんだと思いました。退院し学校に通えるようになりましたが、激しい運動や楽器を吹いたりすることは禁止されていました。元気に走り回る友達をうらやましく思いながら、静かに毎日を過ごしてきました。

私が四年生になった時、二つ下の弟が剣道を始めました。その道場にある日私も付いて行きました。道場ではみんなが大きな声であいさつをし、一生懸命していました。弟は先生に叱られながらも道場の友達と楽しそうに練習していました。その姿を見て私も剣道をやってみたくになりました。その気持を両親に話しましたが、猛反対されたうえ、お医者さんからも「剣道は頭を打たれる。その衝撃で、手術した脳の血管が切れてしまう可能性があるから危険だ。」と許可が出ることはありませんでした。それでもやりたい気持ちでいっぱいでした。館長先生から「医者さんの許可がなければ防具を

付けさせることは出来ない。だが、そんな

に強い気持ちがあるなら基本だけでもやってみないか。」と言われ、両親を説得し剣道を始めました。剣道を始めて八ヶ月が過ぎたころ、私の中に今よりもっといろんな事がしたい、やっぱり防具を着けたい、みんなと一緒に試合にも出たいという気持ちでどんどん膨らんできました。そんな気持ちを両親や道場の先生、仲間たちが分かってくれ、何かいい方法がないか一生懸命考えてくれました。その結果、武道具店に相談することとなり、四カ月後には打たれても衝撃の少ない私専用の特別な面が出来上がりました。さらに、お医者さんからもようやく許可が出て、私は防具を付けて剣道が出来るようになりました。その時のうれしかった気持ちや私のために協力してくれた全ての人への感謝の気持ちは忘れられません。あれから二年、今その面は私の頭を守ってくれています。そして今、私は個人戦だけでなく団体戦にも出場できるようになりました。病気だからと偏見を持つことなく接してくれる大切な仲間と共に日々

練習に頑張っています。

私の通っている道場では、剣道だけで無く、戦争で犠牲になった方々の忠魂碑の清掃や、「火の用心」を呼びかけ町を歩いて回るなどの奉仕活動を行っています。小さな力かもしれませんが、私も社会に貢献出来ていると感じています。

私は剣道を通して礼儀の大切さ、チームワークの大切さなどたくさんを学びました。今、私が大好きな剣道を続けられるのも両親、道場の先生、大切な仲間が支えてくれたからです。その感謝の気持ちを忘れずにいたいです。

私の夢は小学校の先生になることです。病気だからとあきらめなかったから剣道と出会え、自分自身が成長できたこの経験を、子供たちに教えていきたいと思っています。そして今度は私が誰かの支えになっていきたいと思っています。



# 事務局取材レポート

## 頑張ってます！

### 東祖谷剣道クラブ

取材者 事務局長 藤川和秋

平成二十八年十一月二十五日（金）東京では十一月に雪が五十四年ぶりに降ったというこの日、東祖谷剣道クラブを訪問しました。今回訪問した理由は、祖谷山間部で子供は少ないが熱心に剣道の練習に取り組んでいる剣道教室があると聞いたので「徳島の剣道」編集委員でもある事務局の立場を利用し、こちらから取材に伺い「徳島の剣道」に掲載してもらおうと考えたのです。代表指導者の喜多一幸先生（平成二十八年十一月十二日の名古屋での昇段審査で見事七段合格、おめでとうございます。）の車に同乗し大步危から祖谷の坂道を抜け、午後七時頃稽古場所である栃ノ瀬小学校に到着しました。車から降りたとたん体がブ

ルツとするほど寒く、思わず「寒」と言葉が出たほどです。体育館に入るとクラブ員の皆さんはすでに稽古ができる準備も整っていました。早速礼をし挨拶を行って稽古に入りました。

ここでクラブ員の皆さんをご紹介します。

子供達は中学生三名、小学生三名の六名です。子供達を取材のコメントも含めてご紹介します。

#### ○代表指導者

喜多一幸先生（錬士七段、五五歳）

#### ○指導補佐

梶元幸男先生（初段、六一歳）

#### ○指導補佐

中石 昭先生（三段、四四歳）

#### ○指導補佐

喜多 純先生（三段、四三歳）

#### ○会 員

喜多 翼（初段、東祖谷中学校一年）

中学校では柔道の部活もやっています。

武道が大好きで、また女の子も大好きです。

けれど彼女はまだいません。「誰か彼女を紹介してあげて〜！」

平尾文博（初段、東祖谷中学校一年）

十月に初段を取ったばかり。剣道は小学校三年生からやっています。「彼女はいるの？」と聞いたら、手を何度も振って「いません。いません。」と恥ずかしそうに答えました。

石元貴彦（一級、東祖谷中学校一年）

小学校三年生から剣道を練習しています。女の子には全くもてないそうです。（周囲もみんな納得、納得！）

大森立也（三級、東祖谷小学校五年）

六年生になったら一級を目指して頑張ります。東祖谷小学校は全生徒三十六人で約半分が女の子です。（彼女がほしいな〜！）

石元未咲希（無級、東祖谷小学校四年）

二年生の終わり頃から剣道を始めました。来年は頑張って五級を取りたいです。（クラブ員の中では唯一の女の子です。男の子はどうも未咲希ちゃんに弱いらしい？）

平尾翔太（無級、東祖谷小学校三年）

三年生になって剣道を始めました。こ

れから頑張って級を取っていきたくと思います。

さて、練習風景についてお話しします。全員で元気に素振りを行った後、子供六名は指導者の先生に面打ちなどの基本打ちを行いました。喜多先生は打突後の残心をしっかりとるよう特に注意をしており、子供達も基本に忠実で素直な打ちができていました。その後、指導者への掛かり稽古となり、事務局も面を付け、子供達と一緒に稽古をさせてもらいました。気迫のある稽古ができ、子供達の頑張りが十分伝わってきました。次に指導者同士の稽古となり合気のある充実した稽古ができました。

今回の取材で指導者、子供達の皆さんが少ない人数の中で頑張って稽古している姿を見せていただき、心から嬉しさが湧き上がってきました。東祖谷剣道クラブの皆さん、徳島県剣道連盟の数ある剣道教室の中で「東祖谷剣道クラブは永遠に不滅です。」と言えるような頑張りを期待しています。

最後になりましたが、是非皆さんにご紹介しておきたい子供がいます。事務局が取

材時、体育館の中をところ狭しと走りまわっていた中学生の喜多翼くんの弟で喜多虹雅（こうが）くんです。野球帽がよく似合う笑顔の可愛い四歳の男の子で、事務局の取材に対し「剣道はせ〜へん」とあっさり答え「彼女はおるよ。りりちゃん」と教えてくれました。剣道連盟の面タオルをクラブの皆さんに贈呈したところ、帰る間に虹雅くんが寄ってきて「タオル有り難う。このタオルで面を付けるわ!」と言ってくれました。クラブの子供六名の上に虹雅くんの予備軍一名が加わり頼もしい限りです。体育館を出て車に乗り込んだ時、虹雅くんから「バイバイ、今度彼女を紹介するわ!」と声をかけられ、思わず笑ってしまいました。喜多先生の話では「りりちゃんとは将来結婚するらしいですよ。」とのこと。ほんとうに楽しい取材でした。



# 専門部報告

## 事業部より

事業部長 佐賀博史

事業部では、剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催・運営を主な業務としており、各大会などが有意義かつ安全に開催されるよう活動しています。

平成二十八年度の活動状況は、前述されています「講習会報告」「大会・行事所感」「各種大会に参加して」において、担当者が詳細に報告しております。また、各大会の結果は後述「大会記録」に記載されております。

剣道連盟主催の年二回の講習会は、指導法や日本剣道形の習得、審判技術の向上などに大変役立つ講習であります。是非ともこれまで以上に先生方のご参加を要望します。

また、例年通り「稽古始め」「土用稽古」

「寒稽古」を開催いたしました。これらの大会や講習会などについては、事業部員だけで開催できるはずがなく、審判長をはじめ審判員としてお手伝いをしていただいた先生方や、社会人剣道大会においては、女子部のみなさん、少年剣道錬成大会においては、各道場・剣道教室の保護者の方々のご協力をいただき、まさしく剣道連盟をあげて、すばらしい大会などが開催されたと思っております。皆様方のご協力に感謝するとともに、本誌面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

今後も、各大会及び講習会・稽古会へたくさんの先生方に参加していただき、有意義な大会などが行えるよう事業部員一同精一杯頑張っていきたいと思っております。先生方、関係者の方々におかれましては、これまで以上のご協力をいただきますようお願い申し上げます。事業部からの報告とさせていただきます。



## 審査部より

審査部長 佐藤 佳宏

平成二十八年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（五回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（二回）、日本剣道形講習会（二日間）、居合道の部では、五段以下審査会（四回）等全て無事終えることができました。剣道西部審査会では、今まで穴吹のみの審査会場で行っていたのですが、今年度より美郷、市場、穴吹、三野と四会場持ち回りでの開催となりました。地元役員会、審査員剣道連盟関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼を申し上げます。

今年度の審査会の結果につきましては、居合道の部、受審者十一名、合格者十一名、合格率一〇〇%、剣道初段以下の部、受審者一二五五名、合格者一二一八名、合格率九七%、剣道二～五段の部、受審者二七二名、合格者二二二名、合格率八一%となりました。

また、今年は坂本憲一先生が居合道八段、富浦廣志先生が剣道八段に揃って昇段という快挙が達成されました。徳島県剣道連盟として喜ばしいかぎりです。六段以上の高段位合格者については、剣道教士四名、剣道錬士三名、剣道七段五名、剣道六段四名という結果でありました。合格の先生方は下記のとおりです。

### 〈居合道八段〉

坂本 憲一

### 〈剣道八段〉

富浦 廣志（海部支部）

### 〈剣道錬士〉

福永 康浩（徳島支部）

小倉 武雄（徳島支部）

玉田 真理（徳島支部）

### 〈剣道教士〉

磯部 健治（阿南支部）

熊沢 信行（徳島支部）

池田 洋一（阿南支部）

富田 圭介（警察支部）

### 〈剣道六段〉

宮本 靖之（警察支部）  
仁科 文宏（警察支部）  
床島 亮（三好支部）  
北村 環（阿波支部）

### 〈剣道七段〉

篠原 永光（小松島支部）  
岩本 一彦（板野東支部）  
佐野 伸治（警察支部）  
喜多 一幸（三好支部）  
月岡 陽市（板野西支部）

### 【おしらせ】

初段以下審査会の回数削減について  
今まで初段以下審査会における年間の審査回数につきましては、中央会場で五回、西部・南部会場で四回実施していましたが、平成二十九年度からは中央会場の審査会を一回削減しまして、中央、西部、南部会場共に年間四回（四月、六月、十月、一月）の実施となります。お間違えのないようよろしく申し上げます。

# 強化部より

強化部長 平野 誠 司

## 一、平成二十八年年度実施結果

### (一) 剣道連盟強化稽古会

一月七日(木) ～十二月二十四日(土)  
毎木曜日 一九:〇〇～二一:〇〇  
中央武道館  
毎土曜日 一〇:〇〇～一二:〇〇  
警察学校等

### (二) 地区交流稽古会

○南部交流稽古会  
三月二十五日(阿南市武道館)  
四月二十三日(鶯敷BC体育館)  
十一月四日(阿南スポーツセンター)  
○西部交流稽古会  
四月十五日(阿波中学校)  
十月二十八日(脇町小学校)

### (三) 長期育成強化訓練

○第十七回長期育成強化訓練  
平成二十八年一月三十一日実施  
於:那賀川スポーツセンター

参加:一三四名

### ○第十八回長期育成強化訓練

平成二十八年八月二十八日実施  
於:那賀川スポーツセンター  
参加:一一七名

### 第十九回長期育成強化訓練

平成二十九年一月二十九日実施  
講師:石田洋二先生、大石寛之先生  
(那賀川スポーツセンター)

### (四) 強化遠征訓練

○都道府県選手強化  
京都遠征 四月一日～二日  
○都道府県女子選手強化  
京都遠征 六月十七日～十八日  
○国体女子選手強化  
愛媛遠征 七月二日～三日  
○国体男女選手強化  
京都遠征 八月五日～六日

## 二、大会結果

○西日本勤労者剣道大会 予選敗退  
○全日本都道府県対抗剣道優勝大会  
初戦敗退(徳島〇―五兵庫)

○全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会  
初戦敗退(徳島一―二大阪)

### ○四国四県剣道大会

第二位(二勝一敗)  
○国体(ブロック大会)  
少年男子三位/少年女子二位/成年女子二位

### ○国体(本大会)

二回戦敗退(徳島一―三茨城)

## 三、平成二十九年年度強化計画

### (一) 強化の基本方針

○審判と指導、審査と指導を連携させ、本県剣道総合力の向上を図るとともに、伝承されるべき剣道の神髄に迫る取り組みを展開する。

○心豊かな剣心を育み、生涯剣道を通して剣道理念を高揚させる。

～共導、共習する稽古場の創造(三世代共習)～

～武に向かう心の醸成(魅力ある剣道)～

●愛媛国体に四部門出場をめざす。  
～少年男女、成年男女～





# 少年部より

少年部長 松村 和宏

少年部は例年、月に一度、各教室の小学年を対象に強化錬成を行っております。四月から六月までは、全国大会の選手選考を兼ねて練習試合を何度も行いました。八月に十三人を兵庫県の遠征に、内八人を岡山の剣道連盟主催の練習試合に参加しました。

今年で十一回を迎える全国大会ですが、今まではあと一步の所でリーグを勝ち上がることができず、悔しい思いをしてきました。今年は何週、強化練習を行い、技術と共にチーム力も高め、九月十八日の全国大会に備えました。

初のリーグ突破を期待して、三木会長にも大阪までお越しいただきました。その結果、リーグ突破を果たし、ベスト八まで勝ち進みました。十一回大会を節目に見事な結果をおさめる事ができました。強化練習にご尽力頂いた先生方、保護者の皆さんに感謝致します。

また、来期には、より多くの人に剣道を知って頂くために、徳島新聞社のカルチャーセンターに月二回登録して会員を募ります。指導は、少年部理事平野悦子先生に依頼しております。剣道を継続したい子供達は、自宅近くの教室・道場を紹介する窓口になればと思っております。剣道界発展のために努力して参ります。以上、少年部より報告致します。

石井少年剣道クラブ

小谷 俊彰

小松島少剣クラブ

近藤 正獅

岩原 千佳

桂 大二郎

金澤 怜生

原 拓海

松山 若樹

岩谷 愛夢

松本 怜斗

渡辺 沢巳

西沢 日和

吉田 悠真

佐藤 享祐

香川 柊吾

高田 穂花

藤本 豪太

平成二十八年 少年強化訓練生 皆勤者

海部川剣道教室

北井上剣道教室

富田将太郎

上浦剣道教室

斉藤 佳亮

楠本 匠真

東原 伊吹

内海 翔貴

山本 優光

山尾 心那

紅露 和輝

秋山 颯汰

豊田 雄大

岡崎 進平

浦島 瑛人

大麻錬成館

# 女子部より

女子部長 竹内 佳代子

## 〈女子大会の結果〉

### 県内行事

①徳島県女子剣道大会（九月四日）

中央武道館

団体戦 参加 八チーム

優勝 川島高校剣友会B

（井口・前田・井若）

準優勝 川島高校剣友会A

（森永・竹原・上田）

第三位 小松島支部

第三位 阿南支部

個人戦 区分一（二十九歳未満）

参加十八名

優勝 長谷川愛実（教員剣友会）

準優勝 長地 千景（教員剣友会）

第三位 上田 真菜（川島剣友会）

伊勢有記子（阿南支部）

個人戦 区分二（三十歳以上）参加六名

優勝 前田奈々枝（川島剣友会）

### 県外行事

準優勝 大城 幸子（阿南支部）

①全国都道府県剣道大会（七月十六日）

日本武道館

一回戦 徳島 一―二 大阪

②宮本武蔵顕彰お通杯剣道大会

（十月二十三日）武蔵武道館

個人（二十才代の部）

優勝 平野 千尋

個人（五十才代の部）

準優勝 平野 悦子

## 〈女子部稽古会について〉

### ①参加状況

強化部長の平野先生のご指導をいただきながら、素振りからはじまり、基本を中心とした稽古を行っている。

女子の参加状況

\*（ ）内の人数は女性の参加者のみ

○四月九日 警察学校（十四名）

○五月七日 松茂体育館（十六名）

○六月四日 那賀川スポーツセンター

（十名）

○九月四日 中央武道館

女子剣道大会終了後、審判・役員の方と自由稽古。

○十二月二十四日 警察学校（十五名）

○一月八日 松茂体育館

剣道連盟の稽古始めに参加。

○二月四日 警察学校

○三月十一日 警察学校

### ②成果

○各種大会での活躍

お通杯剣道大会で 個人 二十歳以上の部で平野千尋さんが優勝。五十歳以上の部で平野悦子さんが準優勝。

### ○六段昇段

十一月 北村 環さん、近藤 夏子さん。毎年、六段に昇段される女性が多い。

### ○剣道再開のきっかけ

剣道を再開したいなと思っても、「何年も剣道をしていないので不安」と感じられている方が、女性ばかりの稽古会では、自分の体力に応じて練習をすることができると、剣道を始め

るきっかけになっている。

〈来年度の活動と目標〉

○女子部の稽古会の充実

○県下女子大会の活性化、各種大会、県外の錬成会への積極的な参加のよびかけ。

○全国大会での活躍。 目標は、国体

出場、全国大会での上位入賞。

女子部の活動に今後ともご指導・ご支援  
よろしくお願ひします。



# 居合道部より

居合道部長 福井 勝

優秀賞 福井 勝  
☆十月一日(土)

第四十五回香川居合道大会  
於：高松市香川総合体育館

参加者 一般十二名 少年二名

☆十月二十二日(土)

第五十一回全日本居合道大会

於：東京武道館

監督 坂本憲一 七段 福井 勝

六段 一村昌和 五段 内海直弥

☆一月八日(日)

第五十八回大阪居合道大会

於：エディオン・アリーナ大阪  
(旧大阪府立体育館)

参加者 一名

準優勝 内海直弥

☆二月十九日(日)

居合道県下大会

於：松茂町第二体育館

参加者 二十一名

少年の部：優秀賞 松本琉希

敢闘賞 森本理希

段別優秀賞：二段の部 井上伸英

三段の部 内藤靖二  
四段の部 多田照夫

五段の部 内海直弥

六段の部 一村昌和

☆三月十九日(日)

第四十三回北九州居合道大会

於：北九州市立体育館

参加予定者 五名

## 審査会・講習会等

☆五月十五日(日)

春季講習会・審査会

於：松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 二十七名

受審者 六名

☆七月九、十日(土、日)

全剣連主催 地区講習会

於：高松市総合体育館

参加者 十二名

☆九月三、四日(土、日)

全剣連主催 中央講習会

於：京都市武道センター

参加者 原田 勝、福井 勝

平成二十八年居合道部の事業について、  
簡潔に報告いたします。

## 大会等

☆四月九日(土)、十日(日)

第五十四回高知居合道大会・錬成会

於：南国市立スポーツセンター

参加者 十五名

☆四月十七日(日)

大和郡山市お城祭居合道大会

於：大和郡山市総合公園

優勝 内海直弥

☆五月二日(月)

第一二回全日本剣道演武大会

於：京都武徳殿

参加者 五名

☆五月二十九日(日)

第四十一回東北日本居合道大会

於：三条市総合体育館

参加者 三名

☆九月十八日(日)

伝達講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝、福井 勝

参加者 二十七名

☆十一月十三日(日)

秋季講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 二十三名

受審者 四名

☆二月十九日(日)

審査会 受審者 名

於…松茂町第二体育館

☆三月十二日(日)

四国四県居合道合同稽古会(高知県)

於…場所未定

全日本居合道大会選手強化練習

☆七月、八月、十月に石井町前山総合公園

体育館において強化練習・合同稽古会を

実施した。

中央審査

☆五月三日(土)

八段審査会

於…京都市

八段合格 坂本憲一

☆七月八日(金)

六・七段審査会

於…香川県

☆十一月十九日(土)

六・七段審査会

於…東京都



# 中体連より

中体連部長 佐藤 浩

## ○平成二十八年年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男 子				女 子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	28.5.28	28.7.10	28.11.5	29.1.22	28.5.28	28.7.10	28.11.5	29.1.22
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	43校	27校	35校	38校	23校	17校	24校	25校
優勝	那賀川	徳島	徳島	徳島	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
準優勝	徳島	那賀川	那賀川	那賀川	江原	阿南一	石井	石井
3位	阿波	阿波	小松島	北島	鳴門一	石井	江原	大麻
3位	徳島文理	徳島文理	北島	川内	石井	鳴門一	阿南一	江原

### ○県総体個人戦

平成二十八年七月十八日(月)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 吉田 晴哉(阿波)

準優勝 後藤 高志(那賀川)

第三位 松山 知樹(那賀川)

中田 洸輝(木頭)

女子

優勝 檜田 胡桃(那賀川)

準優勝 朝田 萌香(那賀川)

第三位 塚田 志緒(鳴教大附属)

齋 和佳奈(那賀川)

### ○四国総体

平成二十八年八月七日(日)

高松市香川総合体育館

〈団体戦 男子〉

徳島中学校 優勝

(決勝 徳島 二ー〇 高知)

那賀川中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校 第三位

(準決勝 那賀川 一ー二 高知)

阿南第一中学校 予選リーグ四位

(予選敗退)

〈個人戦 男子〉

吉田 晴哉(阿波) 二回戦

中田 洸輝(木頭) 二回戦

熊橋 知晃(徳島) 二回戦

片岡 俊人(徳島) 一回戦

井原 拓己(徳島) 一回戦

後藤 高志(阿波) 一回戦

松山 知樹(那賀川) 一回戦

披田 好誠(石井) 一回戦

〈個人戦 女子〉

檜田 胡桃(那賀川) 第三位

飯田 奈々(那賀川) 第三位

馬見恵理子(那賀川) 三回戦

福田 優那(那賀川) 二回戦

朝田 萌香(那賀川) 一回戦

齋 和佳奈(那賀川) 一回戦

河野菜々子(那賀川) 一回戦

塚田 志緒(鳴教大附属) 一回戦

○全国中学校大会

平成二十八年八月十九日～二十一日

長野市真島総合スポーツアリーナ

〈団体戦 男子〉

徳島中学校

予選リーグ敗退（一勝一敗）

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校

決勝トーナメント（一回戦敗退）

〈個人戦 男子〉

吉田 晴哉（阿波）二回戦敗退

後藤 高志（那賀川）二回戦敗退

〈個人戦 女子〉

榎田 胡桃（那賀川）三回戦敗退

朝田 萌香（那賀川）一回戦敗退

○全国都道府県対抗少年剣道大会

平成二十八年九月十八日

府民共済スポーツアリーナ

監督 齋 浩市（那賀川）

コーチ 前田奈々枝（阿波）

先鋒 朝田 萌香（那賀川）

次鋒 榎田 胡桃（那賀川）

中堅 松山 知樹（那賀川）

副将 後藤 高志（那賀川）

大将 吉田 晴哉（阿波）

〈予選リーグ〉

徳島 一 一 〇 長野

徳島 一 一 一 福島（本数勝）

（予選敗退）

○県内行事

・県下三地域（中部・西部・南部）で指導者講習会実施

・八月二十七日 第十六回県中夏季錬成会：県内中学校三七校、延べ人数二九七名参加

・徳島県中学校剣道一年生大会

十月八日（土）実施

男子

団体 優勝 那賀川中学校A

個人 優勝 武知 樹生

（鳴教大附属）

女子

団体 優勝 那賀川中学校B

個人 優勝 岡崎 理（那賀川）

・剣道連盟稽古始め参加

・第十二回四国中学校新人剣道大会

平成二十九年三月五日（日）

阿波中体育館

○優秀選手

男子三名、女子二五名（新聞発表済み）

○平成二十八年度中学校剣道部員数

（ ）は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	122人 (127人)	124人 (160人)	162人 (115人)	408人 (402人)
女子	73人 (77人)	71人 (75人)	74人 (75人)	218人 (227人)
合計	195人 (204人)	195人 (235人)	236人 (190人)	626人 (629人)



# 高体連より

高体連専門委員長

玉田晋作

於 高知県立武道館

男子団体 阿南工・城北・城ノ内・富岡

西 予選リーグ敗退

女子団体 富岡東・城北・富岡西・川島

予選リーグ敗退

一 東畑(奈良大附・奈良)

田淵(城北)

一ツ丹野(左沢・山形)

二回戦 長谷川(富岡西)

一メコ嶋(西陵・長崎)

## 一、平成二十八年大会記録

### ○平成二十七年全国剣道選抜大会

平成二十八年三月二十七日・二十八日

於 愛知県春日井市

男子団体 城北(予選リーグ一勝一分け)

予選リーグ敗退

城北〇―三 近大和歌山(和歌山)

城北〇―〇 三重(三重)

女子団体 富岡東(予選リーグ一勝一敗)

予選リーグ敗退

富岡東 一―二 小祿(沖縄)

富岡東 二―一 富山北部(富山)

### ○徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

(詳細は「大会の記録」)

### ○徳島県高等学校総合体育大会

(詳細は「大会の記録」)

### ○四国高等学校剣道選手権大会

平成二十八年六月十八日・十九日

## ○全国高校総合体育大会

平成二十八年八月三日～五日

於 ジップアリーナ岡山

男子団体 阿南工(一勝一敗)

予選リーグ敗退

阿南工 二(本)―二 酒田光陵(山形)

阿南工 一―三 国士館(東京)

女子団体 富岡東(二敗)

予選リーグ敗退

富岡東 一―二 埼玉栄(埼玉)

富岡東 一―二 錦江湾(鹿児島)

男子個人

一回戦 竹森(阿南工)

一メ 多田(高千穂・宮崎)

二回戦 鳴川(城北)

一メ 伊藤(国士館・東京)

女子個人

一回戦 長谷川(富岡西)メ

## ○国体四国ブロック大会

平成二十八年八月二十一日

於 愛媛県武道館

少年女子(本大会出場ならず)

選手 福崎(富岡東)

堤(城北)

長谷川(富岡西)

田淵(城北)

丸岡(富岡東)

猪野(富岡東)

山崎(富岡東)

少年男子(本大会出場ならず)

選手 熊橋(城北)

美馬(城北)

湯浅(阿南工)

高瀬(城ノ内)

鳴川(城北)

西條(城北)

竹 森(阿南工)

○徳島県高等学校剣道選手権大会

平成二十八年十一月六日

於 ソイジョイ武道館

男子個人(一一五名)

優 勝 熊橋(城北)

準優勝 服部(富岡西)

三 位 田上(富岡西)

藤本(徳島文理)

女子個人(四十七名)

優 勝 片岡(富岡東)

準優勝 山崎(富岡東)

三 位 富田(富岡東)

大城(富岡東)

○徳島県高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選会

平成二十九年一月十五日

於 ソイジョイ武道館

男子団体(十八チーム)

優 勝 城北

準優勝 鳴門渦潮

三 位 徳島文理 城ノ内

女子団体(七チーム)

優 勝 富岡東

準優勝 富岡西

三 位 川島 城北

○四国高等学校剣道新人大会

平成二十九年二月四日・五日

於 とらまるてぶくろ体育館

女子団体 準優勝 富岡東

女子個人 ベスト八 山崎(富岡東)

明口(富岡東) 富田(富岡東)

二、高体連強化錬成会

○徳島県国体少年の部候補選手強化錬成会

参加者 約三〇〇人

平成二十八年十二月二十八日・二十九日

於 徳島北高校

招待校 長崎県島原高等学校

千葉県東海大浦安高等学校

青森県東奥義塾高等学校

○徳島県高等学校春季強化錬成会

参加者 約四〇〇人

平成二十九年三月十八日・十九日

於 阿南市総合スポーツセンター

招待校 兵庫県育英高等学校

愛知県桜丘高等学校

静岡県浜名高等学校

福岡県筑紫台高等学校

熊本県菊池女子高等学校

三、総評

平成二十八年度の県高校総体では、男子団体では、阿南工が春夏連続出場を目指した城北を代表戦で下し、一年連続のインターハイ出場を決めた。女子団体では、選抜予選と同じ決勝カードとなり、粘る城北を振り切り富岡東が三十一回目のインターハイ出場を決めた。また、個人戦では男子が鳴川(城北)、女子が長谷川(富岡西)がそれぞれ制した。

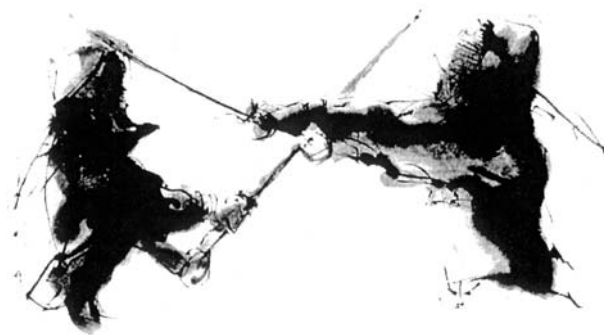
六月の四国総体、八月のインターハイでは、県勢の活躍は見られなかった。また、八月の国体少年男女の四国ブロック予選においても出場権を獲得することはできなかった。前年度二月の四国新人大会では、四部門中三部門を本県が制した結果から見ると、残念な結果と言わざるを得ない。

新チームとなった最初の公式戦である十一月の県高校選手権大会では、男子では熊橋(城北)、女子では片岡(富岡東)がそ

それぞれ制した。一月の県高校新人大会では、男子は城北が二年連続五回目、女子は富岡東が三年連続二十三回目の優勝を果たし、三月に愛知県で開催される全国選抜大会への出場権を獲得している。

高体連では、十二月と三月に県剣道連盟・県高体連等のご支援を頂き、全国大会上位進出校を招待し、練習試合を実施するなど一致団結して強化を図っている。全国大会で入賞する学校が出るよう今後も地道に取り組んでいきたい。特に本年は愛媛国体が松山市で開催される。国体への出場権を是非とも獲得したい。

残念なことに、高校生の剣道人口の減少が進んでいる現状がある。とりわけ女子の高校総体出場校数が全国最少になってしまった。県剣道連盟等と連携を図り、強化とともに普及活動にも力を入れたいと考えている。



# 大学連より

大学連部長 木原資裕

## 三 第六十二回中四国学生剣道優勝大会

(平成二十八年九月四日)への出場

(岡山)

○予選リーグ

・徳島大 一勝一敗 予選リーグ敗退

## 四 第四十二回中四国女子学生剣道優勝大会

(平成二十八年九月四日)への出場

(岡山)

○予選リーグ

・鳴門教育大 ○勝二敗 予選リーグ敗退

## 五 第六十八回西日本医科学生剣道大会

(平成二十八年八月二十一日)アミノバリュー体育館

## 六 第三十五回眉山杯剣道大会(徳島県学生剣道選手権大会)ならびに第十一回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時：平成二十八年十一月十九日(土)

場所：徳島文理大学体育館

参加者数：五十四名(選手三十七名・役員審判十六名)

○選手権大会成績

## 一 第六十二回中四国学生剣道選手権大会

(平成二十八年五月二十二日)への出場(松山)

○一回戦敗退

・中川拓弥(徳大)

・廣田芳之(徳大)

・服部良介(鳴教大)

・半田雅貴(鳴教大)

○二回戦敗退

・中西正和(徳大)

○三回戦敗退

・森悠晋(徳大)

二 第四十七回中四国女子学生剣道選手権大会(平成二十八年五月二十二日)への出場(松山)

○一回戦敗退

・楠本由美菜(鳴教大)

・栗野安香音(鳴教大)

男子 優勝 阿部有矢(蔵本)

二 位 岸野賢太(徳大常三島)

三 位 前田貴紀(蔵本)

森悠晋(常三島)

女子 優勝 栗野安香音(鳴教)

二 位 竹原桃香(文理)

三 位 阿部美月(文理)

黒田木乃佳(文理)

○東西対抗優秀選手 三人抜き

栗野安香音(鳴教) 一人抜き

富田真帆(鳴教) 一人抜き

## 七 神崎浩先生(大阪体育大学)を迎えての大学連講習会

日時：平成二十九年三月三十日(木)

三十一日(金)

場所：鳴門教育大体育館

参加者数：

## 少年部よりの作文集

## ※印南道場（兵庫）

## 遠征に参加して

五年 山 本 優 光

（松紀和会）

八月六日、七日印南遠征では、とても暑い中熱心にご指導していただいた三木先生、松村先生、寒川先生、山本先生、岩原先生、富田先生本当にありがとうございました。また印南道場の阿部先生、貴重な経験をありがとうございました。そして一泊二日という短期間でしたがいっしょに過ごした同級生みんな、楽しい思い出をありがとうございます。五年生のチームでどないか勝とうと作戦会議していた時や、レストランや部屋で話している時が最高に楽しかったです。

このチームで全国に出て勝ちたいと

すぐく思いました。これから次のような課題を克服して一生けん命練習していきたいです。それにしてもこの二日間の遠征での、一番の発見は、スタミナ不足です。印南の剣士たちに思い知らされました。そしてそこからくる集中力や気迫のなさを実感しました。試合が始まったら印南剣士は、気迫十分で大きな声を出すところや試合以外でも生活面で返事や挨拶が僕とは比べものにならないくらいしっかりできていました。印南剣士は基本打ちなど見ても氣勢や先をとる気持ちがよく伝わってきて、これは、ちょっとやさそつとの練習したくらいでは勝てないと感じました。阿部先生の指示にも敏速に対応できる動きなど、全国レベルが実感できました。

二日目は、阿部先生の指揮のもと基本練習が始まり、気の緩みを見逃してくれるわけがなく、しかられたりもしながら基本が終わった時には、もうへたばってしまっていました。

阿部先生の「稽古は試合のように、試合は稽古のように」という言葉がすごく印象に残っています。これからこれを意識して練習や試合に取り組みたいです。

五年生のこの時期にこのような課題を発見させてくださった先生方、保護者の皆さんには本当に感謝しています。

五年 近 藤 正 獅

（石井少年剣道クラブ）

印南道場は、山の中にありました。着いた瞬間に印南の人達がむかえてくれて、ぼくたちの防具を運んで行ってくれました。大きな声であいさつをし、テキパキとした行動にあっとうされながら、ぼくたちも着がえてけい古ができるように準備しました。

まず、試合げい古をしました。印南の人たちは声も大きくはく力がありました。ぼくも気持ちで負けないように力いっぱいがんばりました。得意わざ

の面も何本か決まりました。相手に打たれたわがは、徳島では打たれたことのないようなタイミングのわざでした。よく足が動いてせめも強く、すごいなと思いました。道場はともあつくて、とちゅう頭がフラフラになりましたが、気持ちを強く持って最後までがんばりました。

けい古が終わってから、夕食はみんなでジョイフルに行きました。剣道の仲間と食べるハンバーグはともおいしかったです。おふろにも五年生五人で入りました。ねる前に話をしたりトランプもしました。一緒に宿泊できて楽しかったです。

朝起きてからみんな協力してふとんをたたんだり、そうじをしたりしました。道場につくえをならべ、自分たちで朝食の用意をして食べました。片付けてからその道場でまた試合げい古をしました。

今回の遠征でぼくは、いろいろなわざを打てたり、打たれたりしてとても

いい勉強になりました。そして、印南道場の人たちの行動や、剣道に取り組む姿勢をみて、自分のことは自分で、大きな声であいさつができる、すすんで先に考えて行動できることにおどろきました。こういうことが剣道にもつながって剣道が上手になったり、相手を思いやる人になっていけるのかなと思いました。ぼくもそうなっていけるようにこれからもしゅ行したいと思えます。

帰りのバスではもっとみんなと仲良くなっていました。とても楽しい遠征でした。

### 六年 川村典士

(鴨島少年剣道教室)

八月六日七日の二日間印南道場遠征に参加しました。僕は前日からドキドキして眠れませんでした。印南道場に着いた時、今までにない緊張感が走りまわりました。僕は二日間ここで頑張ってた

くさんの事を学ぼうと思いました。

練習が始まり、声出しから行いました。僕は声を出すのは大好きなので大きな声を出すと緊張がやわらぎました。印南道場のみなさんは僕より声を出し動きも早く、それなのにつかれた顔を少しも見せませんでした。僕も「負けないぞ」という気持ちで挑んでいきましたがなかなか思うように剣道ができず、そのうえ以前から松村先生に注意されている左足を意識はしているのですが、やはりだめな所が出てきてしまいい、わかっていながらできない自分に腹立ちを感じました。

徳島から一緒に来ている六年生の子達とも同じ部屋で過ごし食事をし、お風呂にも入りとても仲良くなれました。僕は鴨島以外の子と仲良くなれてとても嬉しかったです。

二日目は岐阜県から悟道館の道場生も加わり初日とはまたちがう稽古になりました。僕は夜もなかなか眠れず環境のちがいがもあり、自分に負けそうに

なりました。しかし僕が印南まで来られて稽古している事を考え「このまま徳島に帰るわけにはいかない」と気持ちを入れかえました。左足を意識し、相手をよく見て次どうするかを考え剣道をしました。とても良い経験をさせてもらいました。

暑い中遠くまで運転をし、ご指導して下さいました松村先生。寒川先生。稽古中僕達に元気の出るかけ声をかけご指導して下さいました山本先生。大きな声で僕に喝を入れながらご指導して下さいました三木先生。たくさんの事を学べました。本当にありがとうございます。僕は、もっともっと剣道を頑張っていこうと思います。先生方これからもご指導よろしくお願いします。

五年 紅 露 和 輝

(鳴門少年剣道教室)

僕は、八月六、七日に印南遠征に参加させてもらいました。バスの中でも

一緒に行く友達とおしゃべりしたり、一緒にごはんを食べたりしました。

最初に印南の人と試合をすると、足の動きがとても早くて、つばぜりあいのからの引き技もうまくかったです。二試合目も、気合を入れてのぞみましたが負けてしまいました。三、四試合目には、相手の動きになれていくことができました。だから四試合目には印南の子に勝つことができました。僕は、試合をふりかえてみると、面ばかり打っていて、小手や胴などは、あまり打っていませんでした。だから、これからは、二だん技も打っていくようにしたいです。

夜の食事もあり、五年生男子がお風呂に入るじゅん番がまわってきました。僕は、五年全員で一緒に入りました。シャワーを冷たくしようと思ったら思うように調節できて気持ちよかったです。しかし友達が出しているシャワーをあびるととても熱かったです。

二日目は、朝の食事を自分たちで用

意して食べた後、けい古をしてから、試合をしました。ぼくは、岐阜の悟道館の人と二試合しました。一試合目は、自分の得意な面を先に打てました。しかし、相手にとりかえされてしまいました。最後は、合面で勝てうれしかったです。二試合目は、あまり声が出せなくて負けてしまいました。気合いで相手に負けていると勝てないことが分かりました。

ぼくは、これからの試合では、常に、声を意識し、自分が得意な面を速く打てるようにしていきたいです。来年も印南遠征に来れるようにふだんの練習をがんばります。

六年 松 山 若 樹

(小松島少剣クラブ)

去年に引き続き印南遠征に参加できました。去年は、印南の子たちの迫力に圧倒され、自分のペースで試合ができませんでした。今年は、二回目とい

うこともあり、普段に近い感じで試合が出来たと思います。

現在、小松島少剣クラブでは、先鋒をしているので常に自分が勝って、チームを勢い付けることを考えて試合をしていました。今回は中々出ることが多く、本来であればチームのスコアを考えて試合をしなればいけないのに、私は、緊張をされていてそこまでの余裕がありませんでした。もっともっと、強い気持ちを作っていこうと思います。印南の子たちは、みんな勢いがあり、足さばきが速く、声が大きく、てきぱき動いていました。私は、この子たちのようにできていないので、普段の稽古から意識していきたいです。

二日目は、悟道館も来しました。名前には聞いたことがあるのですが、今回初めて試合をしました。印南道場の子供たちと同じような剣風でした。とても振りが速く、打ちが強かったです。

印南で学んだことをいかして、岡山遠征でチームで勝てるようにがんばり

たいです。

五年 香川 柊 吾

(上浦剣道教室)

印南道場に行って、ぼくは、たくさんを学んで帰って来ました。

一つ目は、大きな声です。印南は、試合の時も、練習の時も、応援の時も、返事も、あいさつも、すごく大きな声を出していました。ぼくは、いつも道場で、先生に

「大きな声を出せ」

と言われてますが、自分では出しているつもりでした。でも、印南道場の子が出しているこの声だと分かりました。

二つ目は、足さばきです。二分間休むことなく動かしていました。試合の時はずいぶん見えないので、六年生が試合をしている時に必死で見て勉強しました。

三つ目は、技です。印南の子が出す技は、とても速くて自分が試合をして

いても、取られたのが分からないくらいでした。相手のすきもしっかり見えていて、自分の技がなかなか出せませんでした。自分が得意な小手も全然決まらず、とてもくやしかったです。

この二日間で、くやしい思いをたくさんしましたが、剣道をもっと好きになりました。印南で学んだたくさんのお話を忘れず、くやしさを忘れず、家や道場でしっかり古い古に励みます。

そして、ぼくがいつも目標としている「まっすぐな剣道」の気持ちを忘れず、来年、徳島県代表の選手になれるように、毎日竹刀を振り続けます。

六年 岩谷 愛 夢

(和田島少年剣道クラブ)

八月六日、七日に印南道場の遠征に参加させてもらいました。すごく緊張していて自分の剣道ができるか不安でした。

印南道場に着くと、印南の子たちが



元氣よく気持ちのよいあいさつをして  
くれて、礼儀正しいなあと思いました。

試合では、相手のペースにのみこま  
れて、自分の剣道ができず、すごく悪  
い内容でした。三木先生に、「気迫が  
足りない。」といわれました。

二日目、気迫を意識してやってみて  
一日目よりは出せたけど、気が足りな  
かったです。だから結果もすごく悪く  
て、悔いが残っています。

この印南道場遠征から学んだ気迫や  
足さばきなどいろいろ自分にたりない  
ことを自分の道場に持ち帰って学習し  
ます。

これから小学生で結果を残して、中  
学生になってもがんばります。この印  
南道場遠征に二年連続で参加させても  
らったことに感謝しています。本当に  
ありがとうございました。

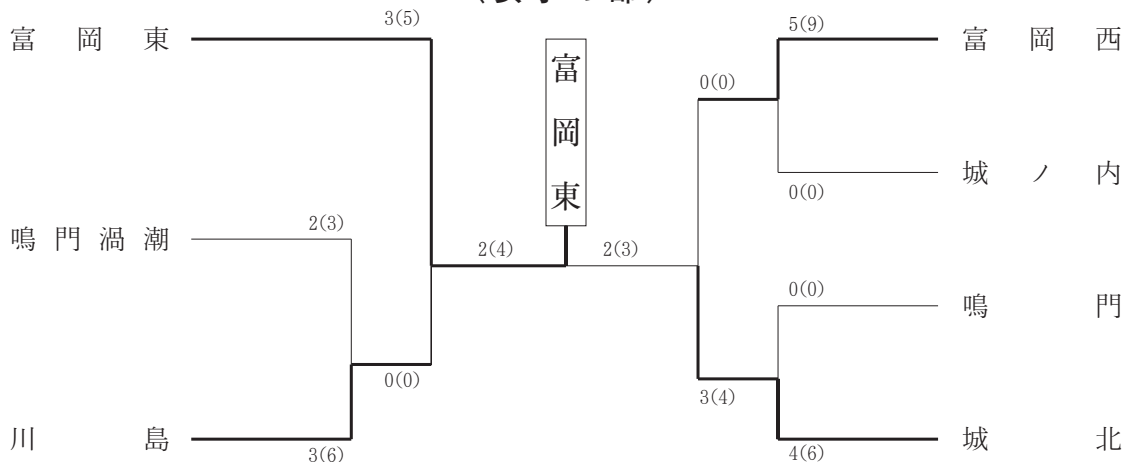


# 平成28年度 大会 記録

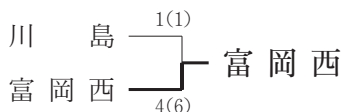
## 第41回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日時 平成28年4月17日  
会場 鳴門ソイジョイ武道館

### 〈女子の部〉



### 順位決定戦



### 〈女子の部〉

#### 決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	福崎	片岡	猪野	山崎	丸岡	2	4	
	延長		延長	⊗ ⊙	⊗ ⊗			
城北	堤	一本勝	⊗		⊗	2	3	
		東條	田	行	太			

#### 順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	岩崎	猪口	丸山	田口	大森本	1	1	
	⊗一本勝	延長	延長					
富岡西	石田	⊗	⊗	⊕ ⊕	⊕ ⊕	4	6	
		川田	湯浅	橋本	長谷川			



# 第70回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

## 【 団 体 戦 】

日 時 平成28年 7月10日(日) 午前 9 時30分開会

場 所 鳴 門 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

順 位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	那 賀 川 中 学 校	阿 南 第 一 中 学 校
第 3 位	阿 波 中 学 校	石 井 中 学 校
第 3 位	徳 島 文 理 中 学 校	鳴 門 第 一 中 学 校

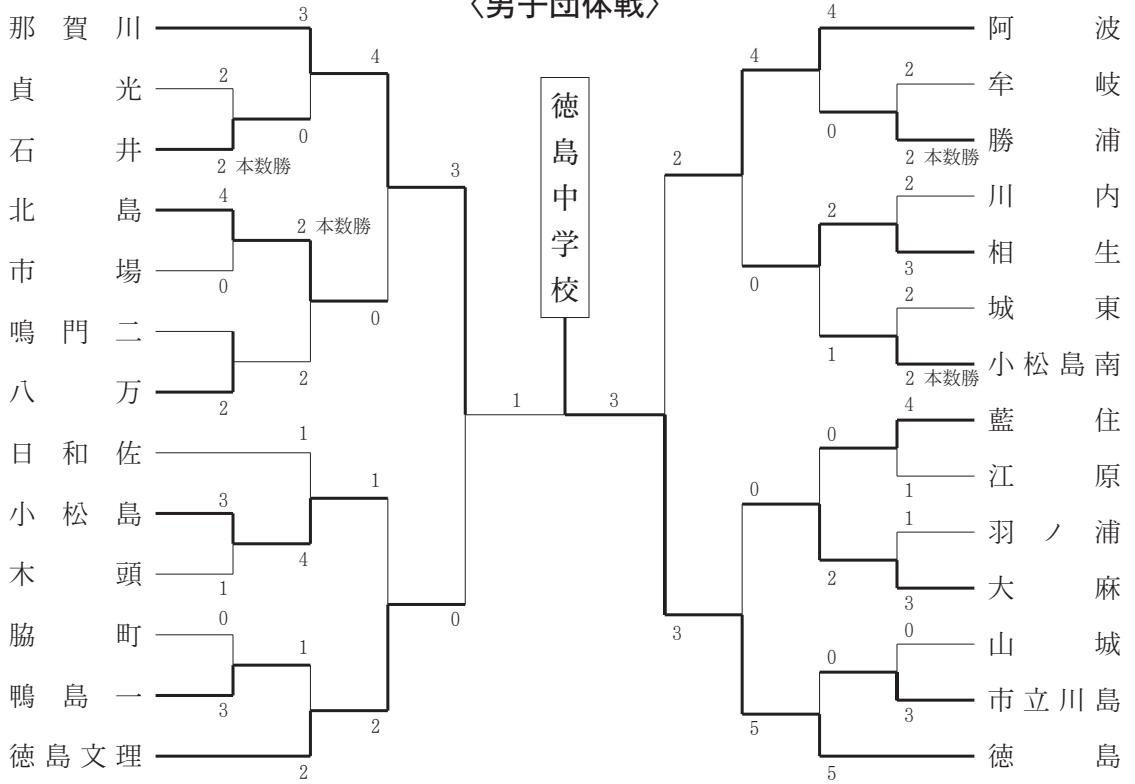
### [男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	後 藤	小山田	松 山	齋	飯 田	△ 1	
	⊗一本勝		延長				
徳 島 中		⊖一本勝	延長	⊗一本勝	⊗⊗	○ 3	
	熊 橋	大 空	松 本	岩 原	片 岡		

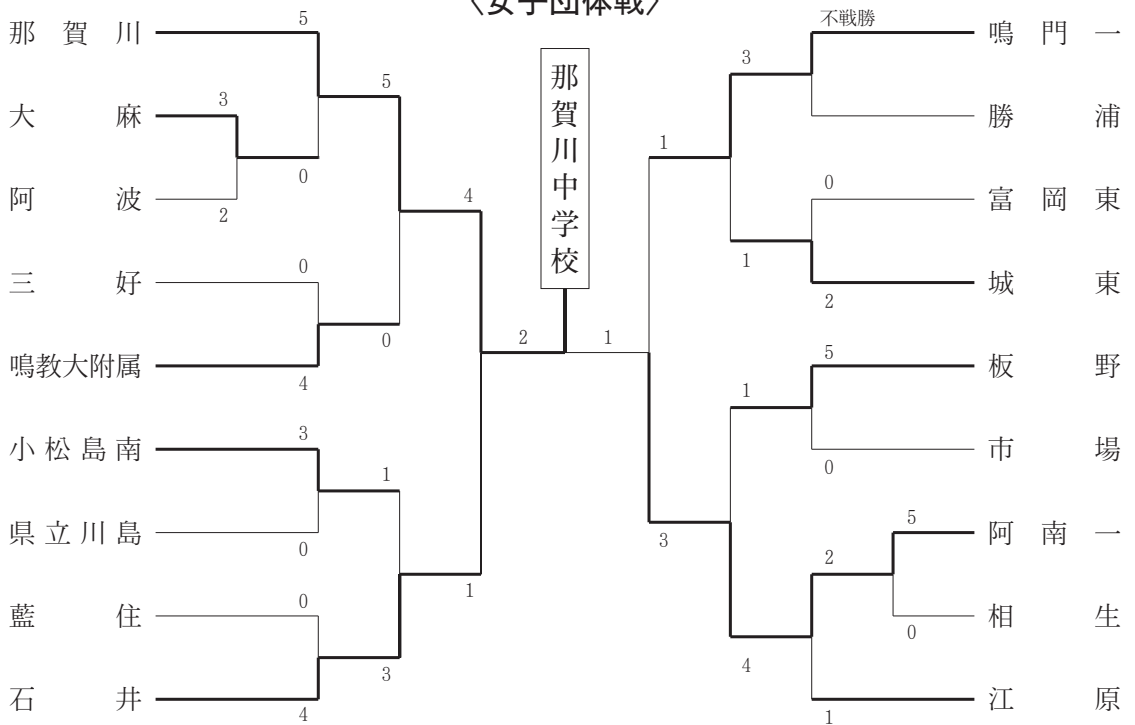
### [女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那賀川中	朝 田	河 野	福 田	齋	檜 田	○ 1	
	⊗一本勝	延長	延長	延長	⊖⊗		
阿南第一中		延長	⊗	延長		△ 1	
	増 井	桑 村	垣 内	賀 上	田 邊		

〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉



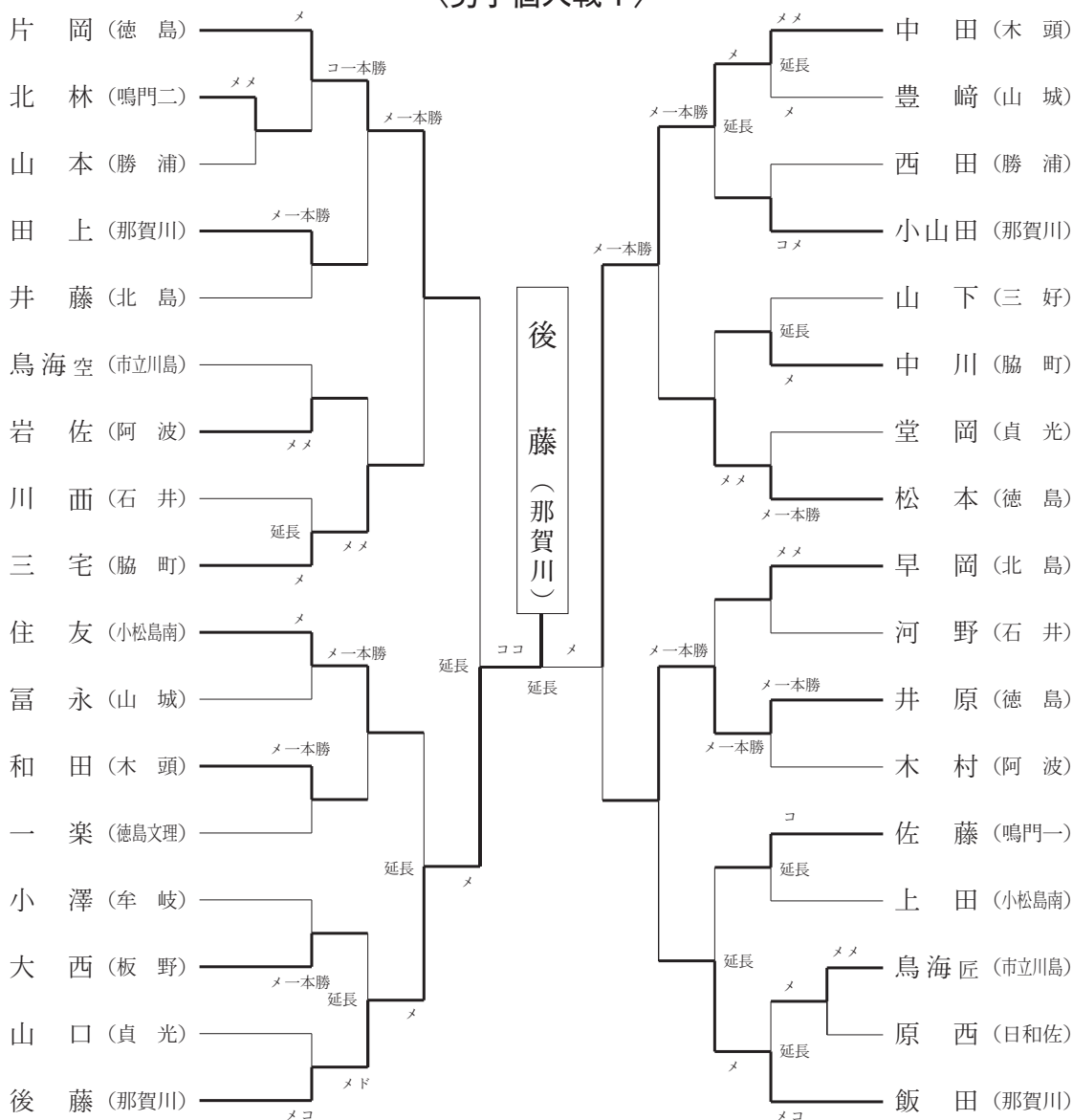
# 第70回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

## 【 個人戦 】

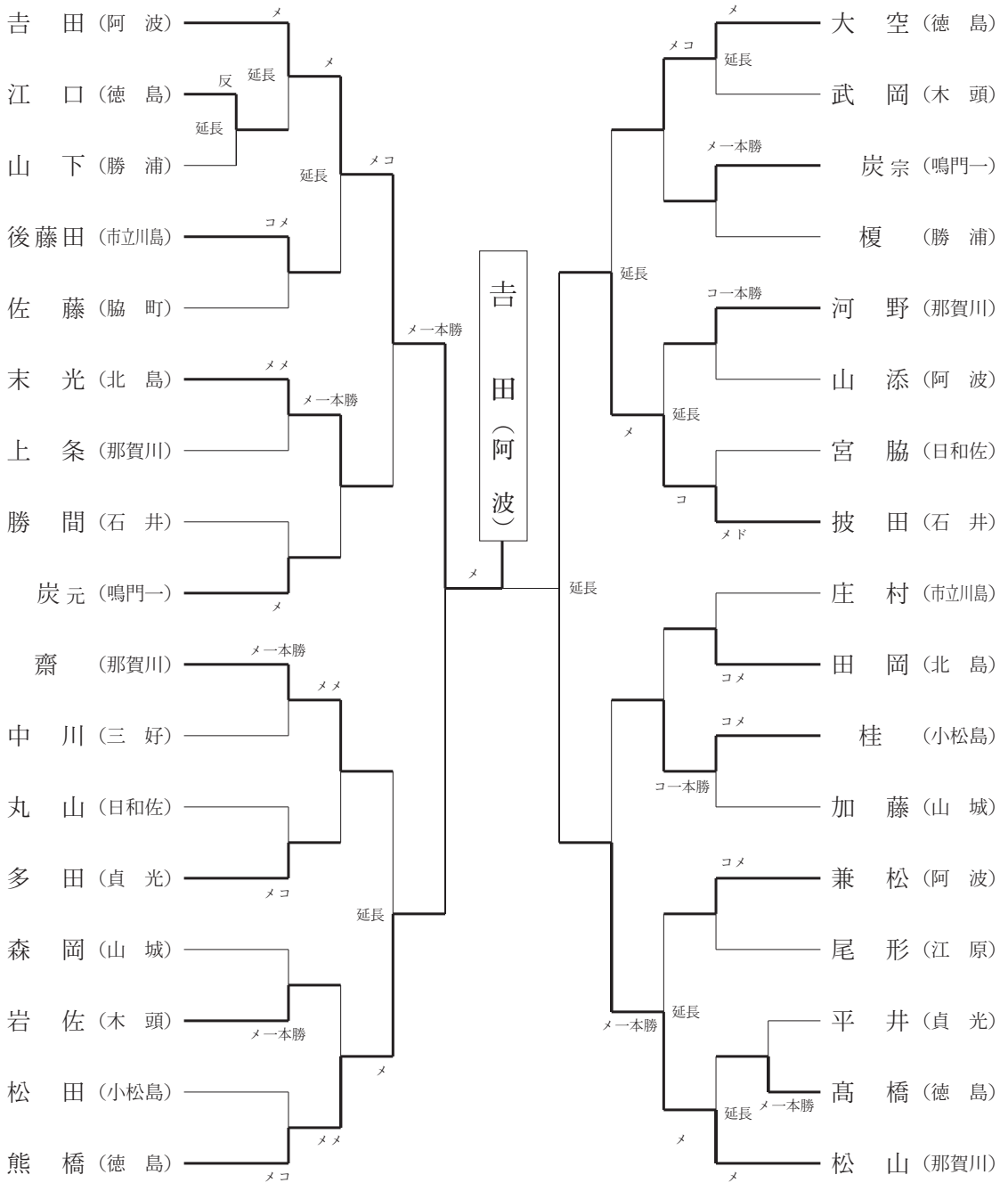
日時 平成28年7月18日(月) 午前9時20分開会  
場所 鳴門ソイジョイ武道館

順位	男子	学校名	順位	女子	学校名
優勝	吉田 晴哉	阿波中	優勝	檜田 胡桃	那賀川中
準優勝	後藤 高志	那賀川中	準優勝	朝田 萌香	那賀川中
第3位	松山 知樹	那賀川中	第3位	塚田 志緒	鳴教大附属中
第3位	中田 洸輝	木頭中	第4位	齋 和佳奈	那賀川中

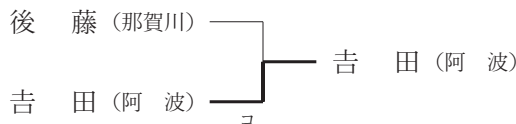
### 〈男子個人戦1〉



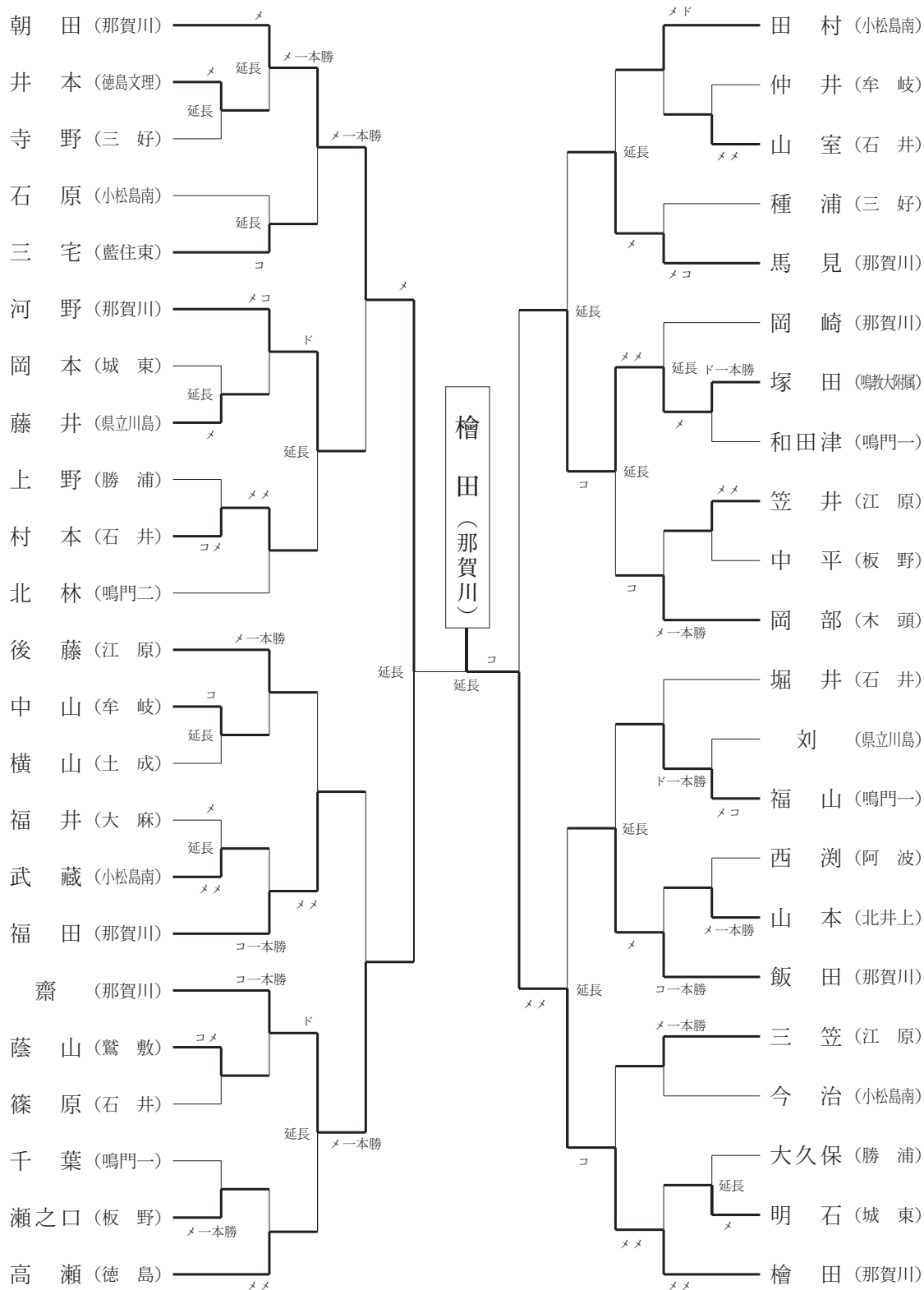
〈男子個人戦2〉



男子個人決勝



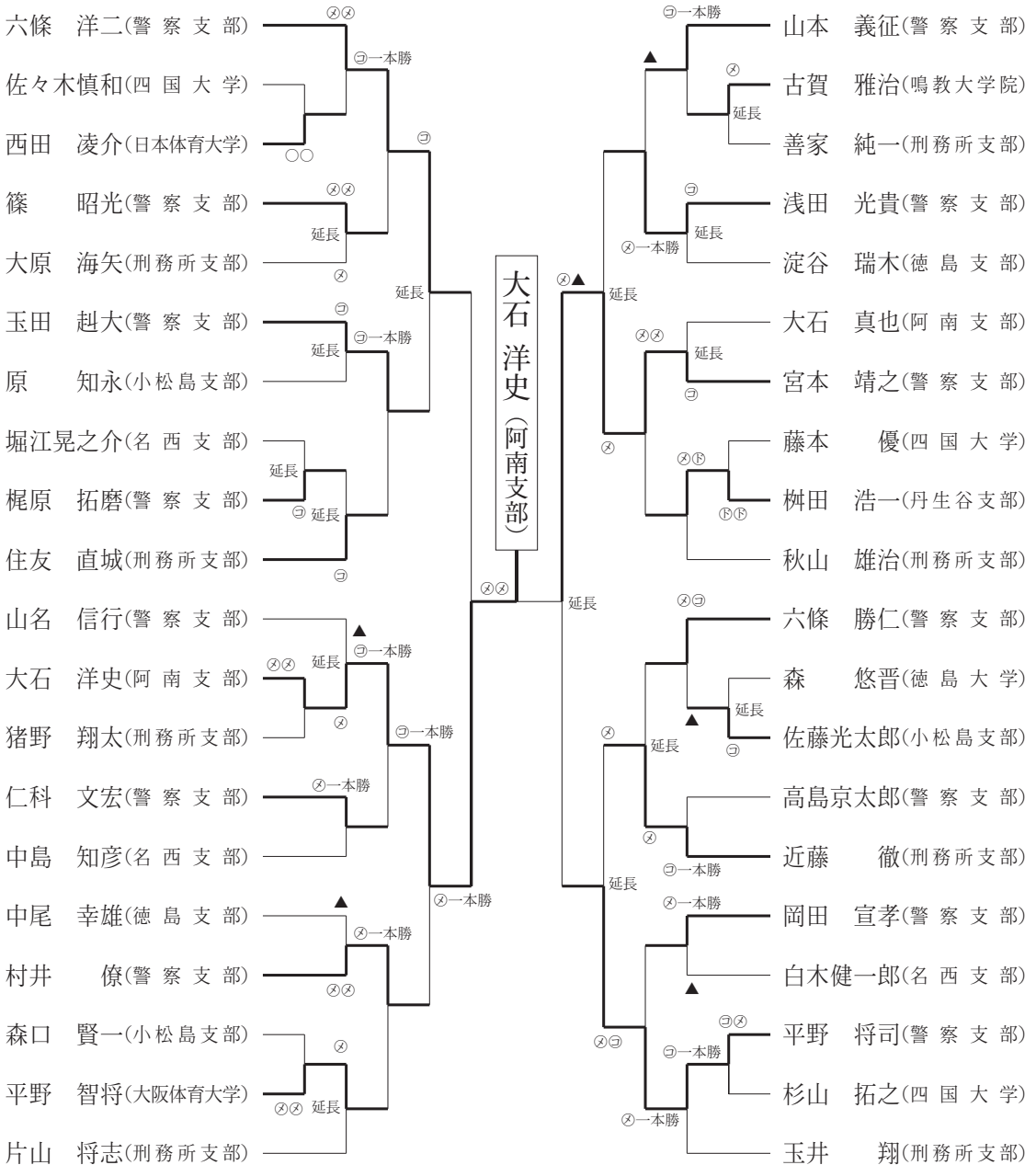
# 〈女子個人戦〉





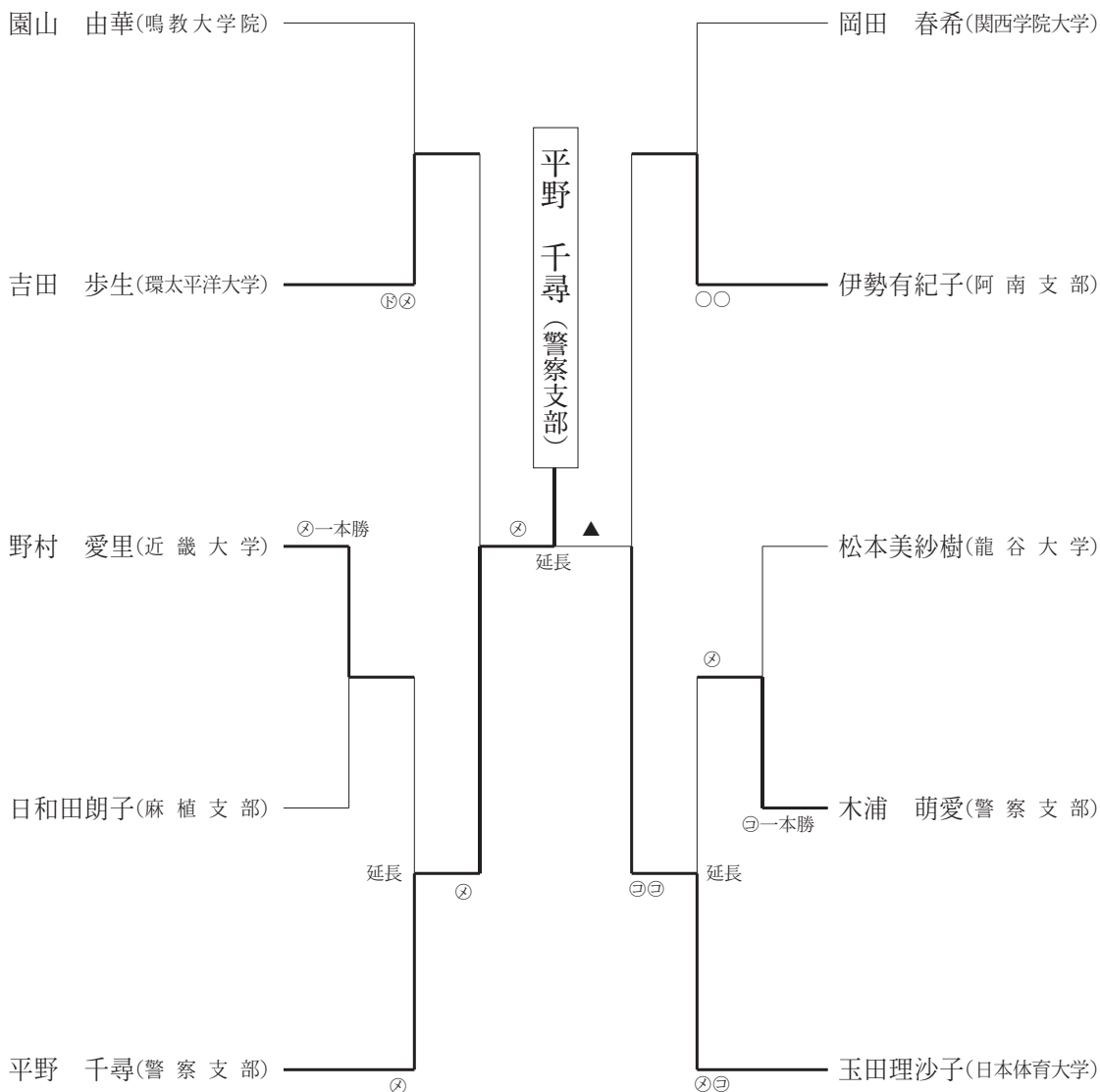
## 第28回 徳島県剣道選手権大会並びに 第64回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 大石 洋史 (阿南支部)	日時 平成28年 7月24日(日) 午前 9時30分開会
準優勝 宮本 靖之 (警察支部)	場所 鳴門ソイジョイ武道館
第三位 六條 洋二 (警察支部)	
第三位 平野 将司 (警察支部)	



# 第19回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第55回 全日本女子選手権大会県予選会

優勝 平野 千尋 (警察支部) 日時 平成28年7月24日(日) 午前9時30分開会  
 準優勝 玉田 理沙子 (日本体育大学) 場所 鳴門ソイジョイ武道館  
 第三位 吉田 歩生 (環太平洋大学)  
 第三位 伊勢 有紀子 (阿南支部)



## 第36回 国民体育大会四国ブロック大会

日時 平成28年8月21日(日)  
場所 愛媛県武道館

〈少年女子〉

〈少年男子〉

### 第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	福崎	堤	長谷川	田	丸	3	3	○
	⊗一本勝			⊗一本勝	⊗一本勝			
香川		一本勝⊖	一本勝⊕			2	2	×
	氏部	谷本	清水	田村	福田			

### 第1試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
高知	唐岩	東野	宮地	江川	平田	2	2	×
				⊗	⊗			
徳島	一本勝⊖	延長	延長	延長	延長	3	3	○
	熊橋	⊗美馬	⊗湯浅	高瀬	鳴川			

### 第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
愛媛	安田	渡邊	二神	杉野	近藤	3	3	○
	⊕一本勝		⊗	⊖				
徳島		延長	延長	延長	一本勝⊗	2	2	×
	福崎	⊗山崎	長谷川	田	丸			

### 第2試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	熊橋	美馬	湯浅	高瀬	鳴川	1	3	×
	⊗	⊗	⊗一本勝					
愛媛	延長			延長		4	7	○
	⊗⊕	⊗山崎	河	⊗杉田	⊕⊖橋本			

### 第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
高知	内濱	佐竹	永野	大住	矢野	2	2	×
		⊖		一本勝⊗				
徳島	一本勝⊗	延長	延長	長	延長	3	3	○
	福崎	山崎	⊕長谷川	田	⊗丸			

### 第3試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	熊橋	美馬	湯浅	高瀬	鳴川	1	1	×
		⊖						
香川	延長	延長	延長	一本勝⊗	一本勝⊕	4	4	○
	⊗宮脇	村上勇	⊖山本	中川	安西			

〈少年男子〉

	香川	徳島	高知	愛媛	勝数	勝者数	取得本数	順位
香川		$\frac{4}{4}$	$\frac{2}{2}$	$\frac{1}{0}$	1	6	7	2
徳島	$\frac{1}{1}$		$\frac{3}{3}$	$\frac{3}{1}$	1	5	7	3
高知	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{2}$		$\frac{0}{0}$	1	5	6	4
愛媛	$\frac{8}{5}$	$\frac{7}{4}$	$\frac{5}{5}$		3	14	20	1

〈成年女子〉

第1試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	平野	伊藤	北村	2	2	×
	⊖一本勝	延長				
愛媛		延長	⊖一本勝	2	2	○
	佐野	馬越	松木			

〈少年女子〉

	香川	徳島	高知	愛媛	勝数	勝者数	取得本数	順位
香川		$\frac{2}{2}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{1}$	1	6	8	3
徳島	$\frac{3}{3}$		$\frac{3}{3}$	$\frac{2}{2}$	2	8	8	2
高知	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{2}$		$\frac{4}{2}$	0	6	6	4
愛媛	$\frac{5}{4}$	$\frac{3}{3}$	$\frac{3}{3}$		3	10	11	1

第2試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝者数	総本数	勝敗
高知	大井	松本	松田	1	1	×
			⊗			
徳島	一本勝	⊗	延長	2	3	○
	⊗	伊藤	北村			

〈成年女子〉

	香川	徳島	高知	愛媛	勝数	勝者数	取得本数	順位
香川		$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	0	3	4	4
徳島	$\frac{2}{2}$		$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$	2	5	6	2
高知	$\frac{2}{2}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{2}{2}$	2	5	5	3
愛媛	$\frac{4}{2}$	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{1}$		2	5	8	1

第3試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝者数	総本数	勝敗
香川	伊藤	松本	谷本	1	1	×
			Ⓣ一本勝			
徳島	延長	一本勝		2	2	○
	⊗	伊藤	北村			

## 第37回 徳島県女子剣道大会

### 団 体 戦

日 時 平成28年 9 月 4 日(日) 午前 9 時30分  
場 所 中 央 武 道 館

優 勝 川 島 高 校 剣 友 会 B

準優勝 川 島 高 校 剣 友 会 A

第 3 位 小 松 島 支 部

第 3 位 阿 南 支 部

準 決 勝

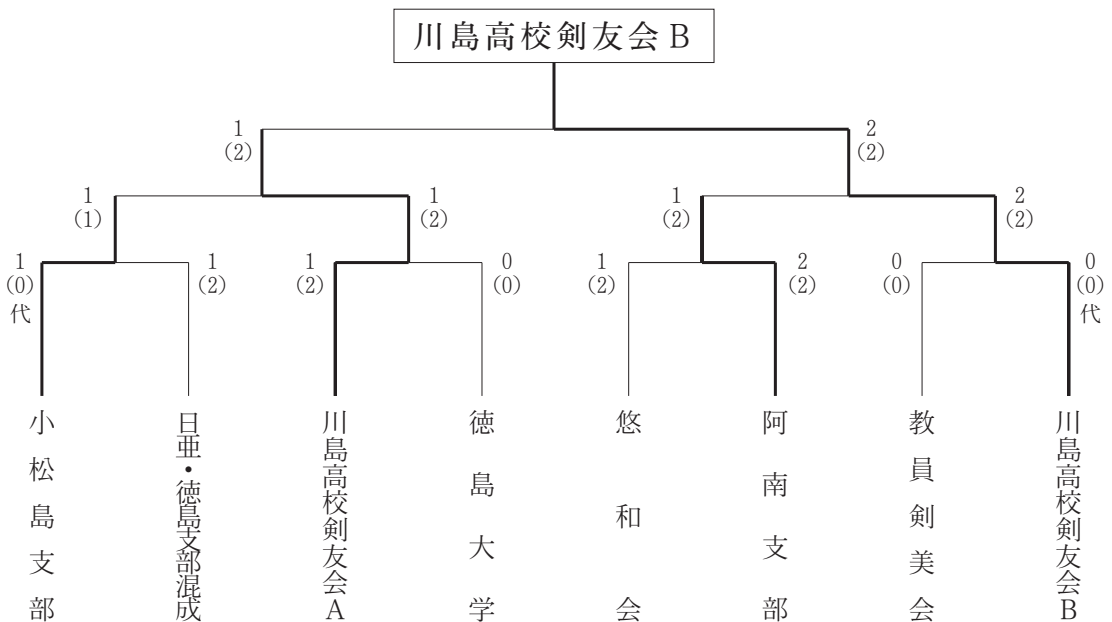
チーム名	先鋒	中堅	大将	
小松島支部	青木	川田	楠本	① 1 1
			① 一本勝	
川島高校 剣友会 A		② ②		△ 2 1
	森永	竹原	上田	

決 勝

チーム名	先鋒	中堅	大将	
川島高校 剣友会 A	森永	竹原	上田	2 1
			○ ○	
川島高校 剣友会 B	② 一本勝	② ②		③ 2
	井口	前田	井若	

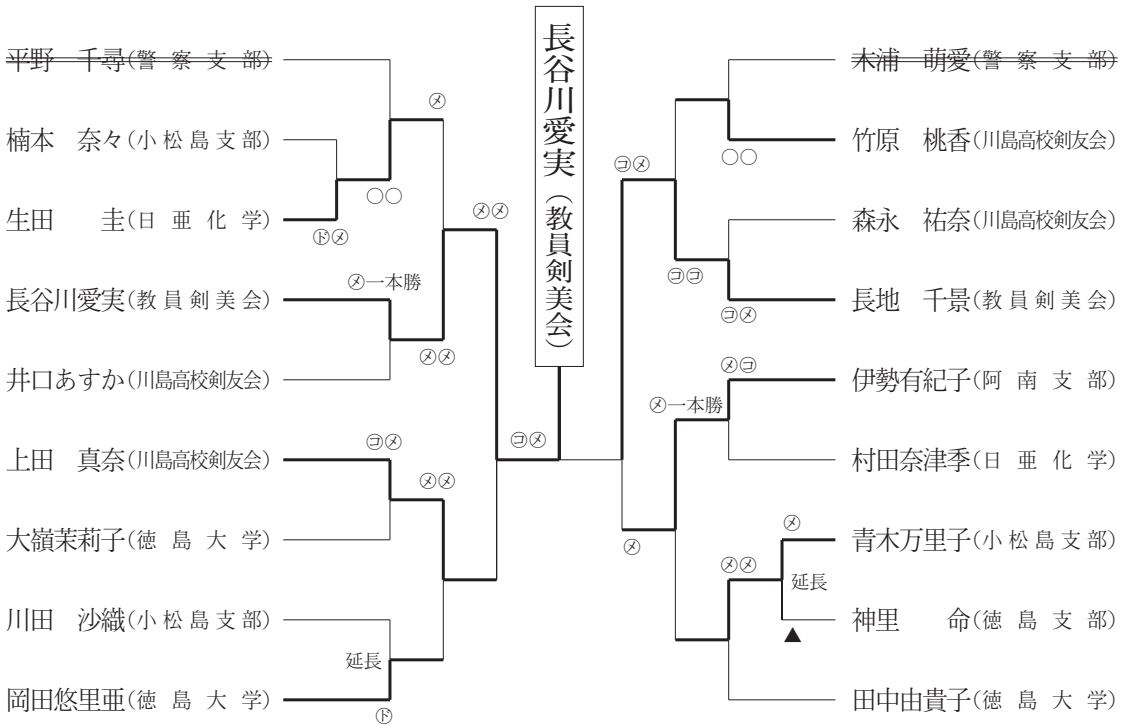
チーム名	先鋒	中堅	大将	
阿南支部	伊勢	山崎	大城	△ 2 1
			○ ○	
川島高校 剣友会 B	② 一本勝	② 一本勝		② 2
	井口	前田	井若	

### 決勝トーナメント



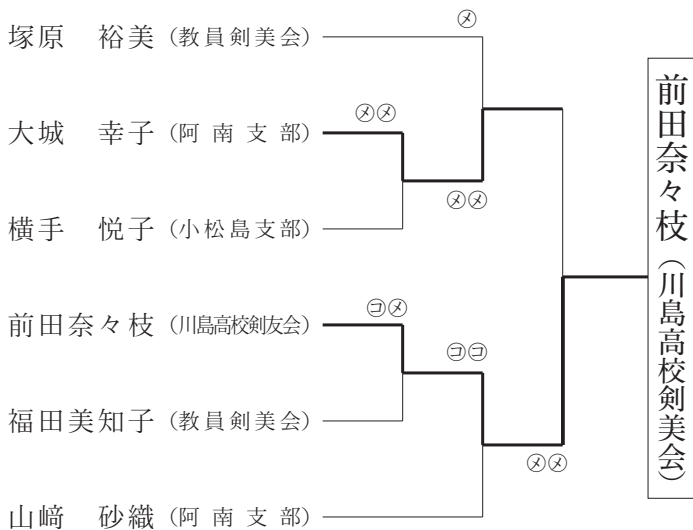
# 個人戦 <区分1>

優勝 長谷川 愛実 (教員剣美会)  
 準優勝 長地 千景 (教員剣美会)  
 第三位 上田 真奈 (川島高校剣友会)  
 第三位 伊勢 有紀子 (阿南支部)



# 個人戦 <区分2>

優勝 前田 奈々枝 (川島高校剣美会)  
 準優勝 大城 幸子 (阿南支部)



## 第47回 徳島県少年剣道錬成大会

### 予選リーグ (団体戦)

日 時 平成28年11月13日(日) 午前9時30分  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

A	徳島少年剣道教室	山川スポーツ少年団修錬館	北島少年剣道教室	勝	勝	得	点	順
				数	者数	本数	数	位
		(5/4)	(5/3)	2	7	10	2	1
	山川スポーツ少年団修錬館	(1/1)	(1/0)	0	1	2	0	3
	北島少年剣道教室	(2/2)	(4/2)	1	4	7	1	2

B	鳴門少年剣道教室	海部川剣道教室	養武館	阿南少年剣道教室	勝	勝	得	点	順
					数	者数	本数	数	位
		(1/1)	(1/0)	(2/2)	1	3	3	1.5	3
	海部川剣道教室	(1/1)	(2/1)	(4/2)	1	4	7	1.5	2
	養武館	(4/3)	(5/2)	(6/4)	3	9	16	3	1
	阿南少年剣道教室	(0/0)	(1/1)	(0/0)	0	1	2	0	4

C	土成剣道スポーツ少年団	北井上剣道教室	和田島少年剣道クラブ	大麻錬成館	勝	勝	得	点	順
					数	者数	本数	数	位
		(0/0)	(0/0)	(6/3)	1	3	6	1	3
	北井上剣道教室	(7/4)	(0/0)	(10/5)	2	9	17	2	2
	和田島少年剣道クラブ	(5/3)	(2/2)	(5/3)	3	8	12	3	1
	大麻錬成館	(1/1)	(0/0)	(0/0)	0	1	2	0	4

D	鳴門市光武館	松茂少年剣道教室	渭東少年剣道教室	勝	勝	得	点	順
				数	者数	本数	数	位
		(9/5)	(8/4)	2	9	17	2	1
	松茂少年剣道教室	(0/0)	(2/1)	1	1	2	1	2
	渭東少年剣道教室	(0/0)	(1/1)	0	1	1	0	3

E	那賀川剣道教室わかあゆ会	徳島春風館	剣道板野道場	勝	勝	得	点	順
				数	者数	本数	数	位
		(10/5)	(10/5)	2	10	20	2	1
	徳島春風館	(0/0)	(6/3)	1	3	6	1	2
	剣道板野道場	(0/0)	(2/1)	0	1	2	0	3

F	上浦剣道教室	藍住剣道スポーツ少年団	相生龍虎館	佐古剣道クラブ	勝	勝	得	点	順
					数	者数	本数	数	位
		(3/2)	(5/3)	(1/1)	1	6	10	1	3
	藍住剣道スポーツ少年団	(7/3)	(5/3)	(4/3)	3	9	16	3	1
	相生龍虎館	(1/1)	(1/1)	(0/0)	0	2	2	0	4
	佐古剣道クラブ	(6/3)	(1/1)	(6/4)	0	8	14	2	2

## 予選リーグ (団体戦)

G	鴨島少年剣道教室	誠武館道場	脇町少年剣道教室	入田錬成会	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	鴨島少年剣道教室	△ 3 1	△ 5 3	△ 0	2	4	8	2	2
誠武館道場	△ 1	△ 6 4	△ 0	1	5	9	1	3	
脇町少年剣道教室	△ 1	△ 0	△ 0	0	1	2	0	4	
入田錬成会	△ 1 1	△ 3 2	△ 6 4	3	7	10	3	1	

H	小松島少剣クラブ	加茂名少年剣道教室	石井少年剣道クラブ	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	小松島少剣クラブ	△ 8 5	△ 8 4	2	9	16	2	1
加茂名少年剣道教室	△ 0	△ 1 1	0	1	1	0.5	2	
石井少年剣道クラブ	△ 0	△ 1 1	0	1	1	0.5	2	

## 準決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
那賀川少年剣道教室	倉橋	羽坂	栗田	小島	小島		0
わかあゆ会							0
小松島少剣クラブ	② 松山	桂	武藏	原	岩原		2
							1

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
徳島少年剣道教室	茨木	佐藤	古川	片岡	添木		1
			①一本勝				1
和田島少年剣道クラブ	一本勝② 渡辺	西崎		一本勝② 横手	岩谷		2
							2

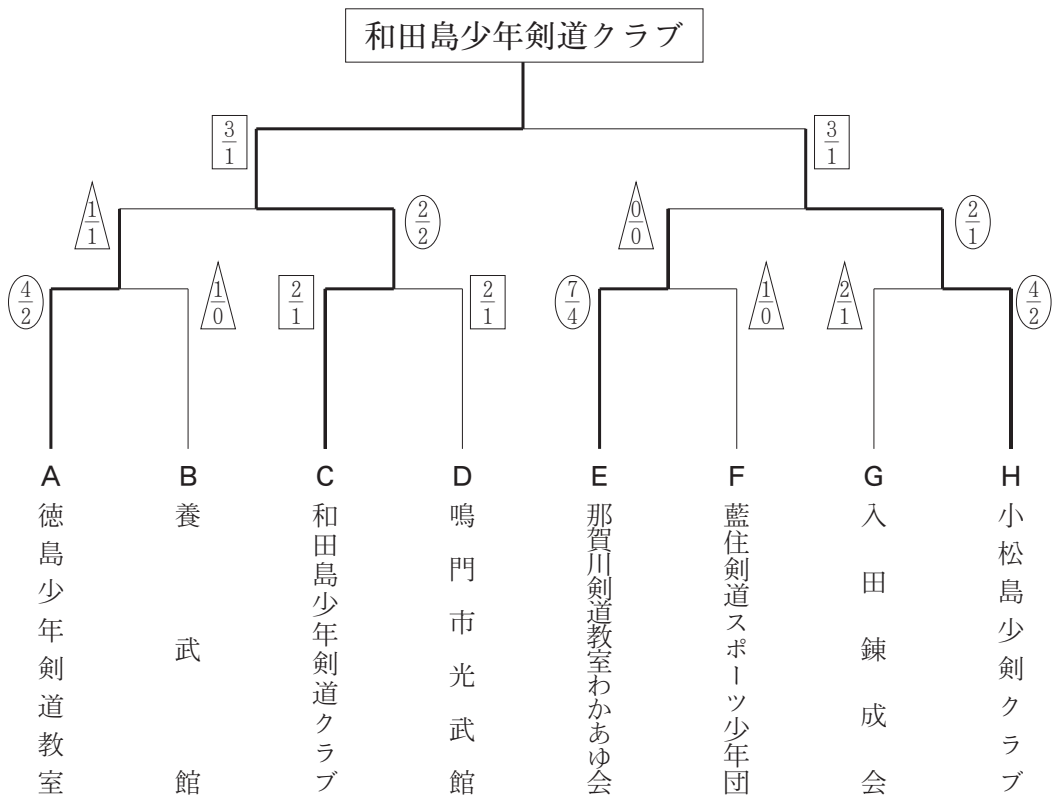


## 決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
和田島少年 剣道クラブ	渡辺	西崎	松本	横手	岩谷	岩谷	3 — 1
		⊕	⊗	⊗	⊗	⊗	
小松島少剣 クラブ	⊗ ⊗	⊖	⊗	⊗			3 — 1
	松山	桂	武蔵	原	岩原	松山	

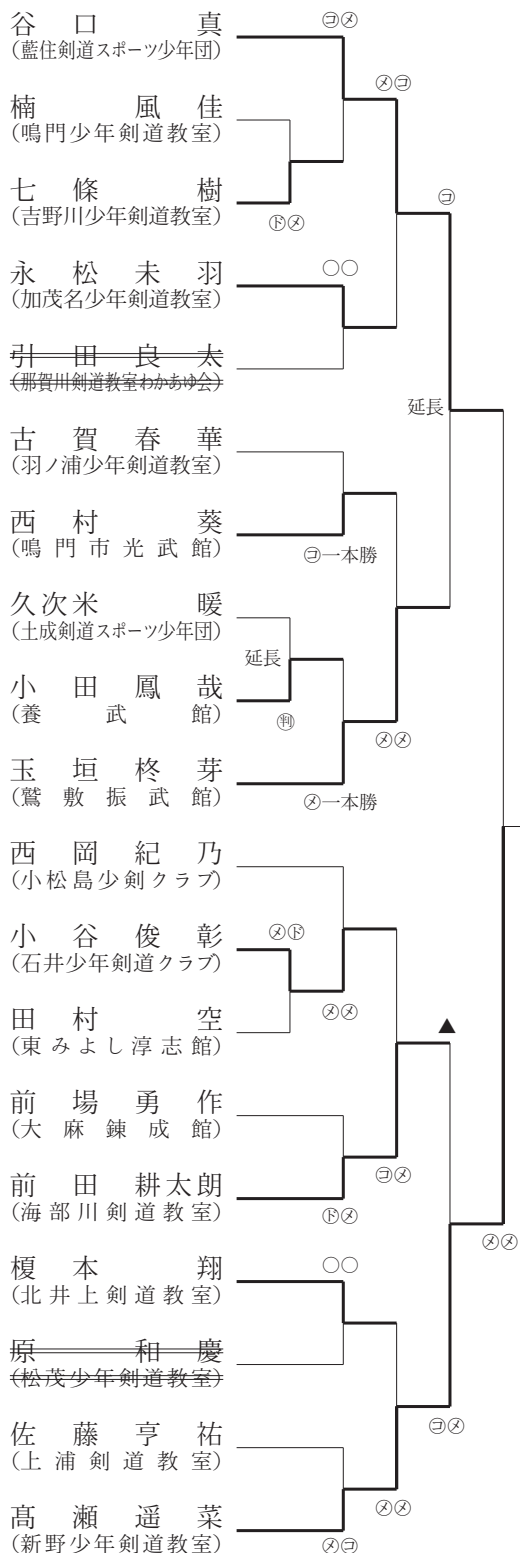
- 優勝 和田島少年剣道クラブ  
 準優勝 小松島少剣クラブ  
 第3位 徳島少年剣道教室  
 第3位 那賀川少年剣道教室わかあゆ会

## 決勝トーナメント

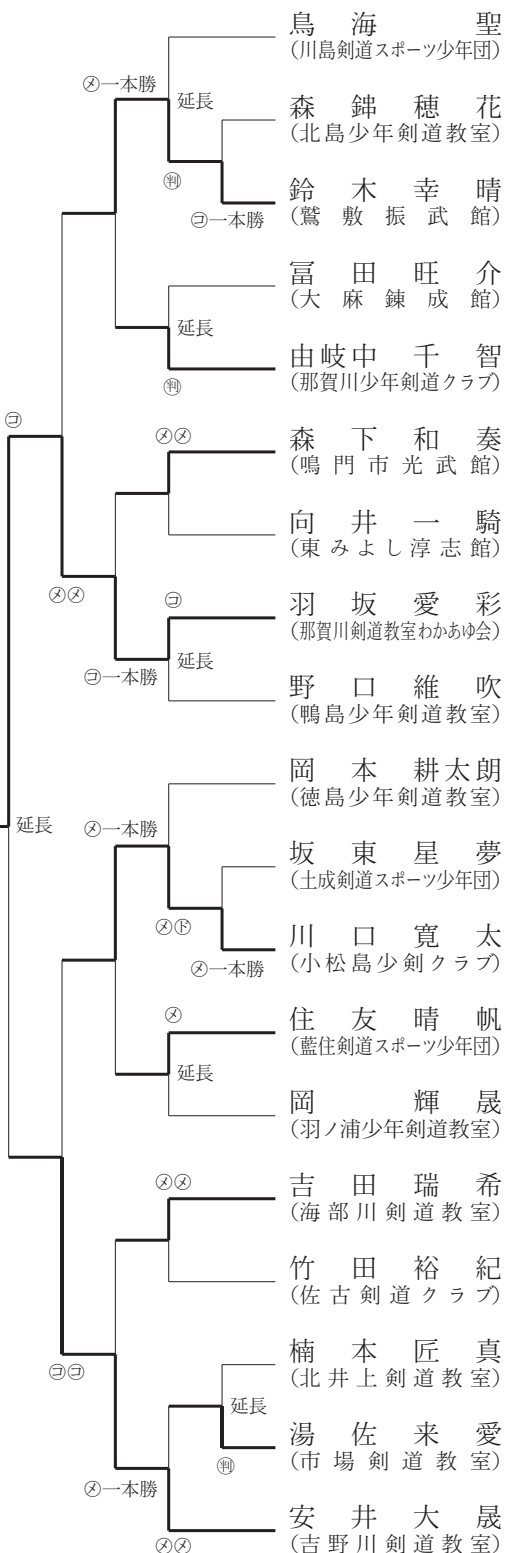


<個人戦B組>

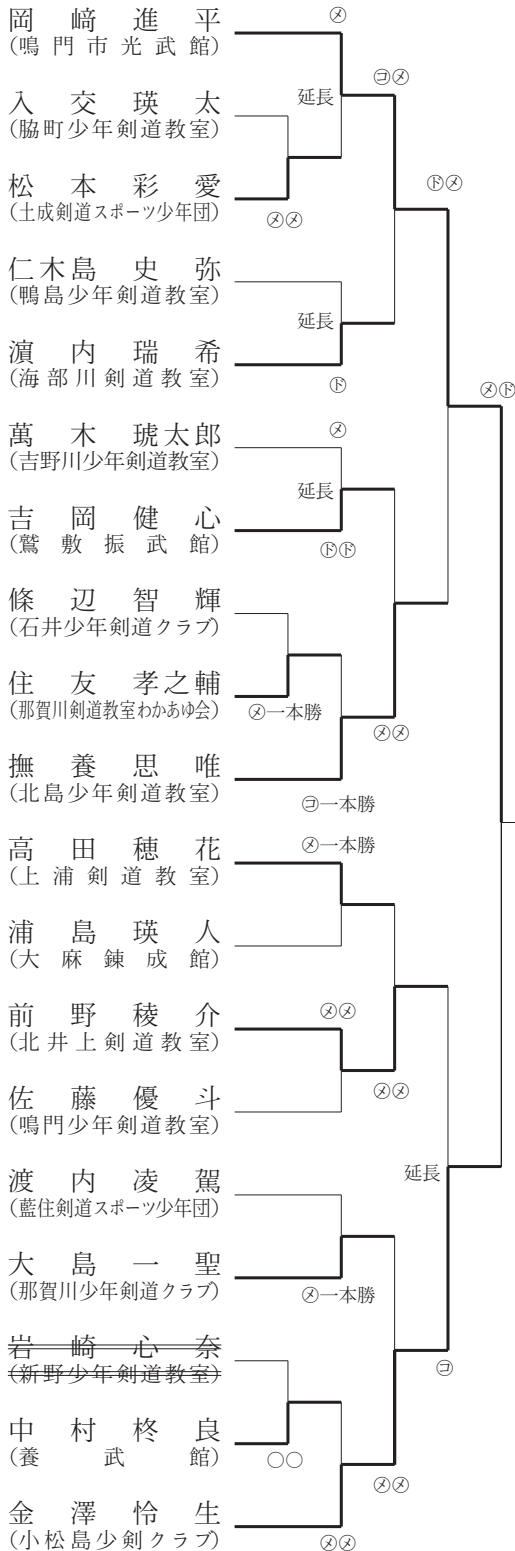
<個人戦A組>



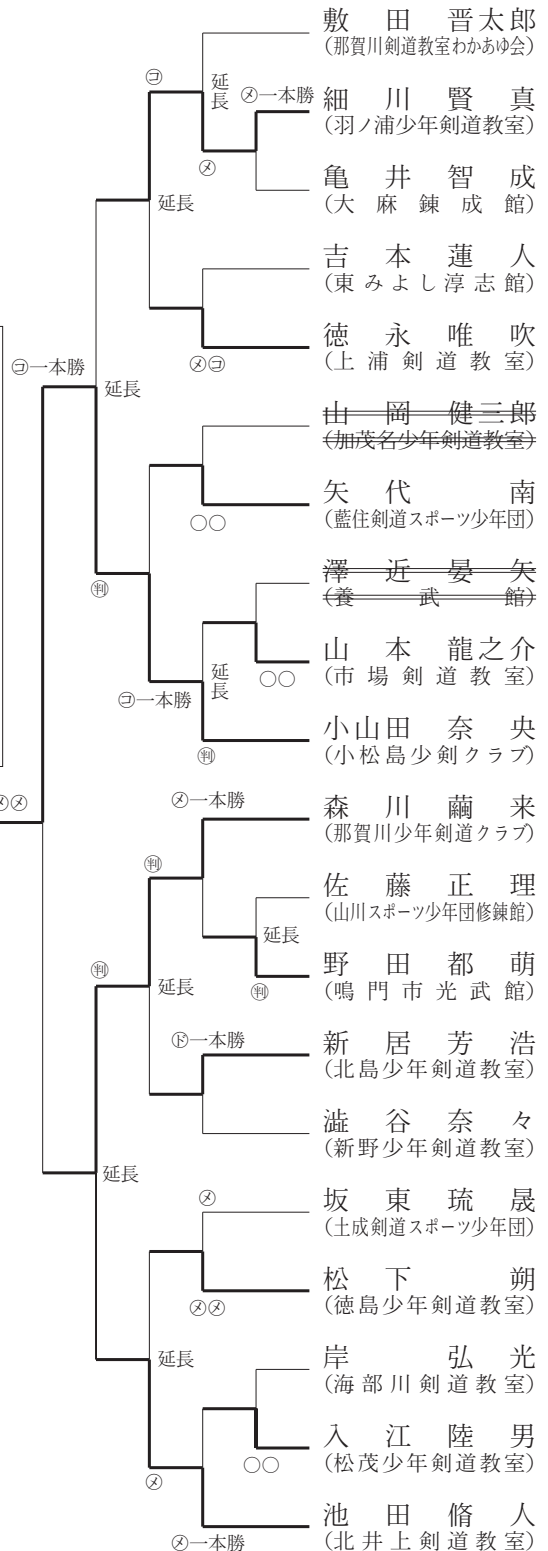
羽坂 愛彩 (那賀川剣道教室わかあゆ会)



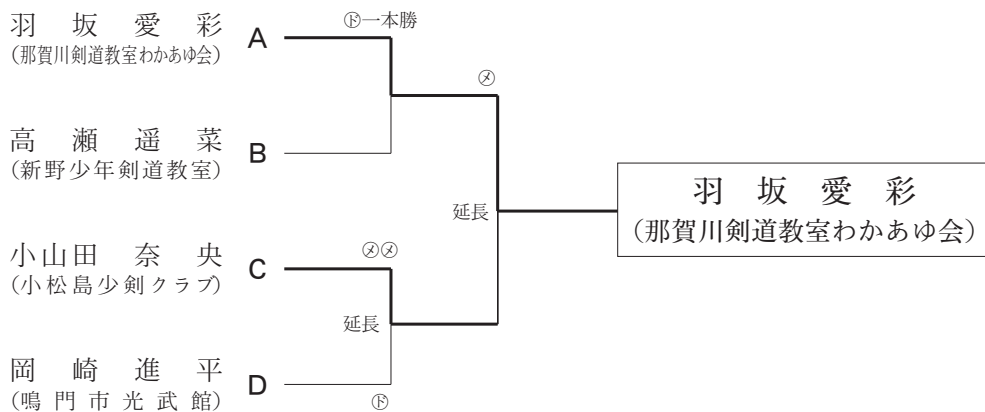
〈個人戦D組〉



〈個人戦C組〉



## 決 勝 戦 (個人戦)



優 勝 羽 坂 愛 彩 (那賀川剣道教室わかあゆ会)

準 優 勝 高 瀬 遥 菜 (新野少年剣道教室)

第 三 位 小 山 田 奈 央 (小松島少剣クラブ)

第 三 位 岡 崎 進 平 (鳴門市光武館)

## 第45回 徳島県社会人剣道大会

### 予選リーグ

日時 平成28年11月27日(日) 午前9時30分  
場所 鳴門ソイジョイ武道館

A	名西	月曜会	板野東	勝数	勝者数	得点数	点	順位
	A	B	A					
名西 A		(8/3)	(7/4)	2	7	15	2	1
月曜会 B	(3/0)		(2/0)	0	0	5	0	3
板野東 A	(0/0)	(3/1)		1	1	3	1	2

B	養武	美馬支部	鳴門支部	勝数	勝者数	得点数	点	順位
	館	B	部					
養武館		(6/4)	(5/4)	2	8	11	2	1
美馬支部 B	(1/1)		(1/1)	0	2	3	0	3
鳴門支部	(0/0)	(5/3)		1	3	6	1	2

C	小松島支部	徳島支部	さくら会	勝数	勝者数	得点数	点	順位
	A	B	会					
小松島支部 A		(8/5)	(5/2)	2	7	13	2	1
徳島支部 B	(1/1)		(2/0)	0	1	3	0	3
さくら会	(3/1)	(6/3)		1	4	9	1	2

D	阿南支部	県庁剣道部	小松島	勝数	勝者数	得点数	点	順位
	C	吉野川市役所	A					
阿南支部 C		(4/2)	(2/2)	2	4	6	2	1
県庁剣道部 吉野川市役所	(3/2)		(0/0)	0	2	3	0	3
小松島 A	(1/1)	(8/5)		1	6	9	1	2

E	北井上剣道教室	徳島刑務所	美馬支部	勝数	勝者数	得点数	点	順位
	室	B	A					
北井上 剣道教室		(3/1)	(8/5)	2	6	11	2	1
徳島刑務所 B	(0/0)		(10/5)	1	5	11	1	2
美馬支部 A	(0/0)	(0/0)		0	0	0	0	3

F	鷺敷振武館	名西	徳島支部	勝数	勝者数	得点数	点	順位
	A	C	A					
鷺敷振武館 A		(6/4)	(0/0)	1	4	6	1	2
名西 C	(0/0)		(0/0)	0	0	1	0	3
徳島支部 A	(3/2)	(7/4)		2	6	10	2	1

## 予選リーグ

G	三好支部	月曜会 C	大塚製菓	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	三好支部	△ 1	△ 1	0	2	3	0	3
月曜会 C	(2) 1	△ 1	1	2	4	1	2	
大塚製菓	(4) 2	(6) 4	2	6	10	2	1	

H	阿波支部 A	小松島支部 B	上八万絆剣道倶楽部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿波支部 A	(4) 2	(8) 5	2	7	12	2	1
小松島支部 B	△ 1	(6) 4	1	5	8	1	2	
上八万絆剣道倶楽部	△ 0	△ 0	0	0	2	0	3	

I	板野東 B	徳島刑務所 A	海部支部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	板野東 B	△ 0	△ 0	0	0	0	0	3
徳島刑務所 A	(10) 5	(7) 4	2	9	17	2	1	
海部支部	(7) 4	△ 0	1	4	7	1	2	

J	阿南支部	藍住剣道 S S	小松島 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿南支部	△ 1	△ 2	0	3	5	0	3
藍住剣道 S S	(4) 2	△ 2	1	4	7	1	2	
小松島 B	(4) 2	(4) 3	2	5	8	2	1	

K	徳島支部 C	鷺敷振武館 B	美馬支部 C	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	徳島支部 C	(5) 2	(4) 2	2	4	9	2	1
鷺敷振武館 B	△ 1	△ 1	0	2	3	0	3	
美馬支部 C	△ 1	(5) 4	1	5	8	1	2	

L	月曜会 A	名西 B	阿波支部 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	月曜会 A	(1) 1	△ 1	1	2	6	1	2
名西 B	△ 0	(3) 1	1	1	3	1	3	
阿波支部 B	(6) 2	△ 1	1	3	8	1	1	

## 準 決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
名 西 A	白木恒	林	近藤	白木洋	久保		$\frac{2}{1}$
	▲(X)				一(⊗) 本勝		
北井上 剣道教室	(⊕)	(⊖)(X)		一本勝(⊗)			$\frac{2}{1}$
	金野	佐野	富田	香川	吉田		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島刑務所 A	玉井	住友	片山将	井口	片山尊		$\frac{6}{3}$
	(⊕)(⊕)		(⊖)(⊗)		(⊖)(⊖)		
阿波支部 B							$\frac{0}{0}$
	塩田	十川	安丸	兼松	安田		

## 決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
北井上 剣道教室	金野	佐野	富田	香川	吉田	吉田	$\frac{2}{1}$
		一(⊗) 本勝		▲	(⊗)	(⊗)	
徳島刑務所 A	一本勝(⊗)				(⊖)		$\frac{2}{1}$
	玉井	住友	片山将	井口	片山尊	片山尊	

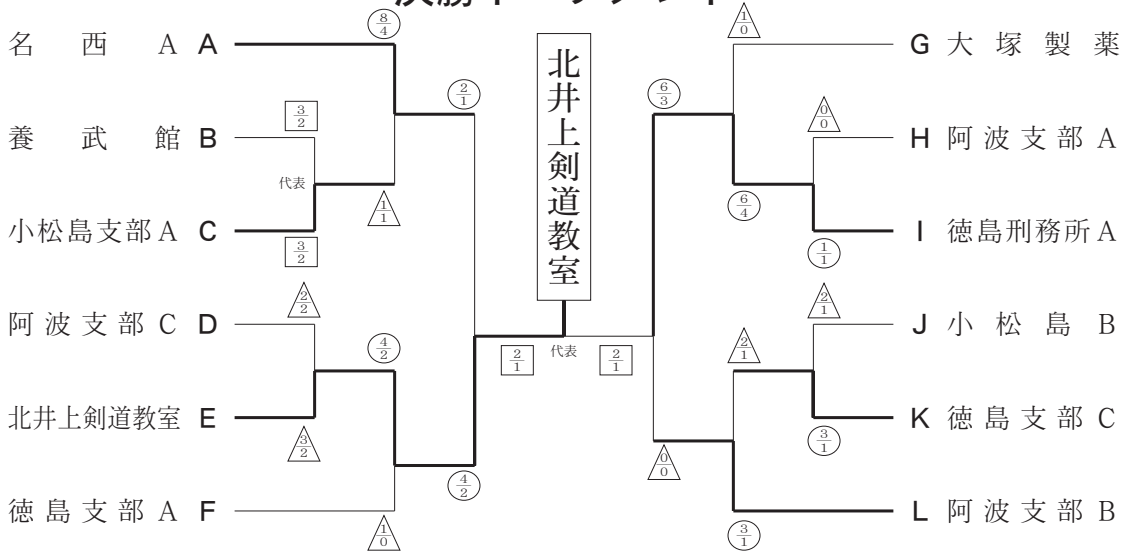
優勝 北井上剣道教室

準優勝 徳島刑務所 A

第3位 名 西 A

第3位 阿波支部 B

## 決勝トーナメント



# 第34回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会 第39回 全国スポーツ少年団剣道交流大会

## 小学生の部

日 時 平成28年12月4日(日) 午前10時開会  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

### 団体予選リーグ

A	阿南A	海部	徳島C	麻植A	得点	勝者数	総本数	順位
阿南A		(6/3)	(7/4)	(4/1)	3	8	17	1
海部	(1/0)		(2/1)	(4/2)	0	4	7	4
徳島C	(0/0)	(7/4)		(1/1)	1	5	8	3
麻植A	(3/1)	(7/3)	(4/2)		2	6	14	2

B	鳴門	名西	板野B	徳島B	得点	勝者数	総本数	順位
鳴門		(7/4)	(5/3)	(5/2)	3	9	17	1
名西	(1/0)		(2/1)	(4/2)	0	3	7	4
板野B	(2/1)	(7/4)		(3/1)	1	6	12	3
徳島B	(3/1)	(6/3)	(4/2)		2	6	13	2

C	小松島	徳島D	麻植B	阿波	得点	勝者数	総本数	順位
小松島		(9/4)	(7/4)	(7/4)	3	12	23	1
徳島D	(1/0)		(4/2)	(2/1)	1	3	7	3
麻植B	(0/0)	(3/2)		(4/2)	0	4	7	4
阿波	(0/0)	(3/1)	(5/2)		2	3	8	2

D	徳島A	板野A	那賀	阿南B	得点	勝者数	総本数	順位
徳島A		(8/5)	(9/5)	(2/2)	3	12	19	1
板野A	(0/0)		(2/1)	(1/0)	0	1	3	4
那賀	(0/0)	(3/2)		(0/0)	1	2	3	3
阿南B	(1/1)	(4/2)	(6/3)		2	6	11	2

### 準 決 勝 戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
阿南A	本庄	羽坂	倉橋	岩佐	栗田	6/3
	⊕ ⊕	⊗ ⊗	延長	延長	延長	
鳴門	⊗ 浅井	森下	千葉	山尾	秋山	2/0
	⊗ ⊗	⊗ ⊗	延長	延長	延長	

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
小松島	橋本	岩原	原	松山	岩谷	4/3
		⊗ ⊗	一本勝 長	⊗ 延長		
徳島A	一本勝 ⊗ 片岡	佐藤	添木	古川	富田	3/2
	⊗ ⊗					

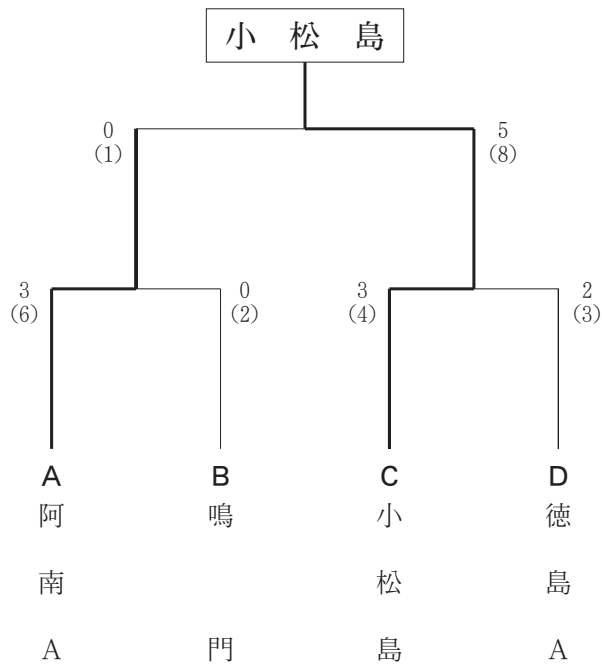


## 決 勝 戦

優勝 小 松 島  
 準優勝 阿 南 A  
 第3位 鳴 門  
 第3位 徳 島 A

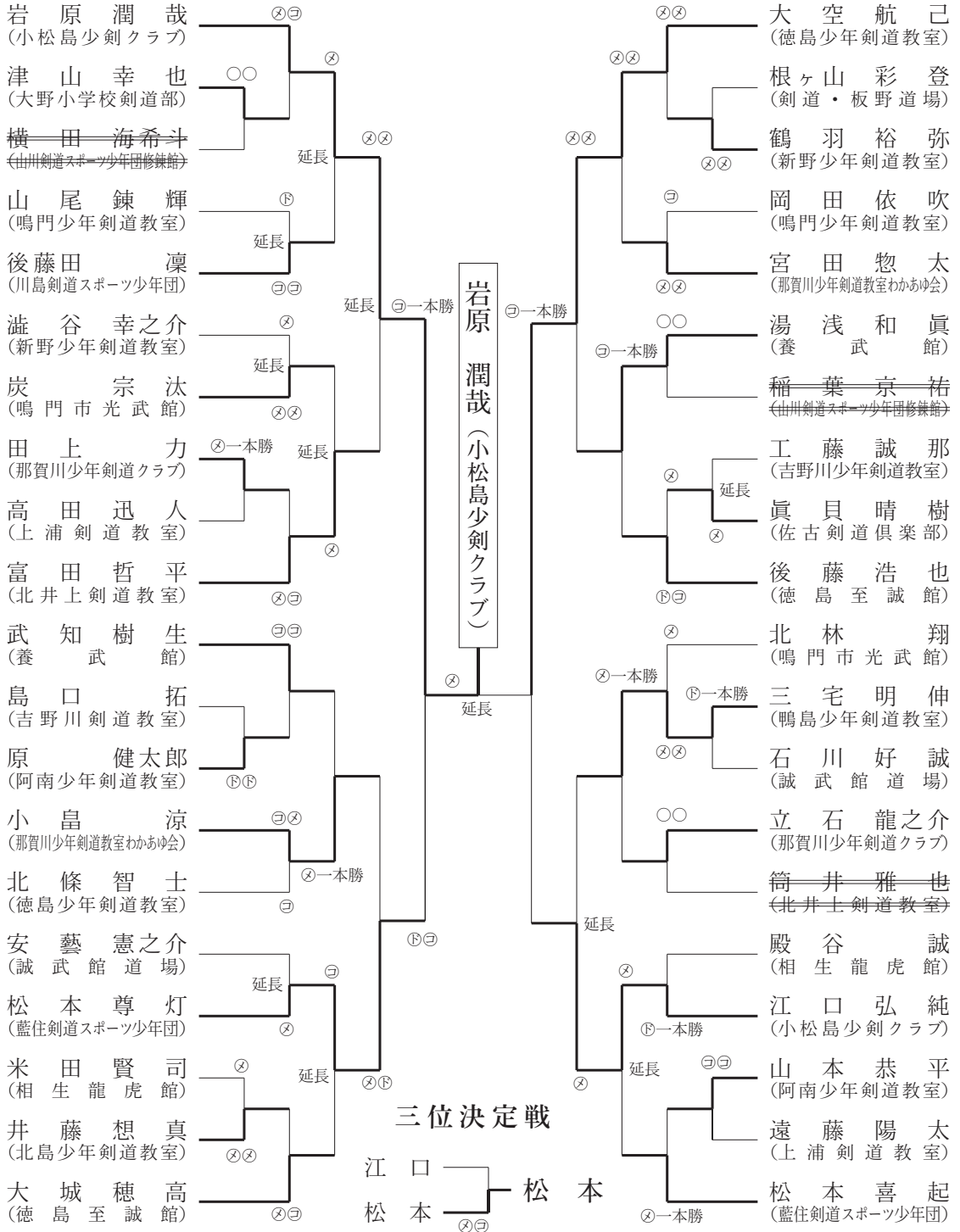
	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
阿南A	本庄⊗	羽坂	倉橋	岩佐	栗田	$\frac{1}{0}$
	延長					
小松島	⊙ 橋本	⊕ 岩原	一本勝⊙ 原	⊙ 松山	一本勝⊗ 岩谷	$\frac{8}{5}$

## 決勝トーナメント



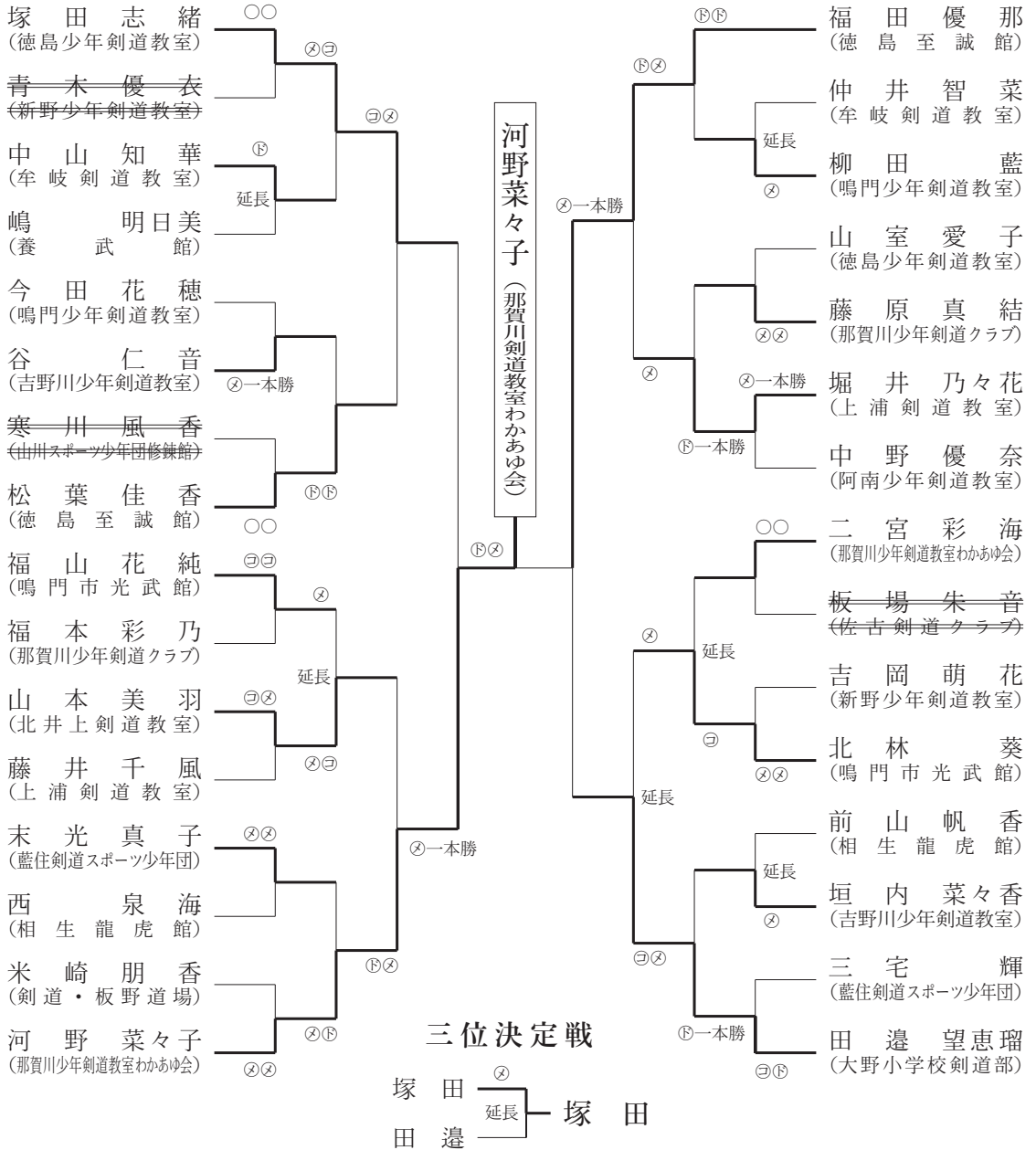
# 中学生男子 (個人戦)

優勝 岩原潤哉 (小松島少剣クラブ)  
 準優勝 大空航己 (徳島少年剣道教室)  
 第三位 松本尊灯 (藍住剣道スポーツ少年団)  
 第三位 江口弘純 (小松島少剣クラブ)



# 中学生女子 (個人戦)

優勝 河野 菜々子 (那賀川剣道教室わかあゆ会)  
 準優勝 福田 優那 (徳島至誠館)  
 第三位 塚田 志緒 (徳島少年剣道教室)  
 第四位 田邊 望恵瑠 (大野小学校剣道部)



# 第65回 全日本都道府県対抗剣道優勝大会

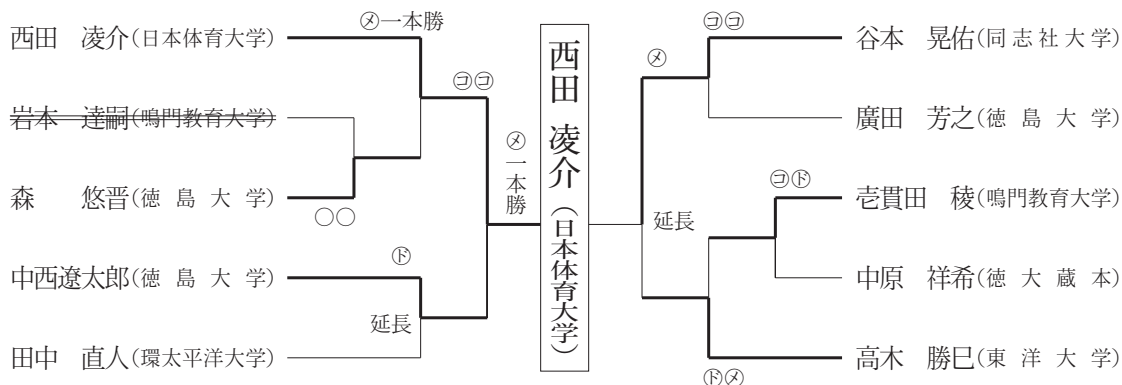
## 第9回 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

### 【男子】

日時 平成28年12月18日(日) 午前9時30分開会  
場所 鳴門ソイジョイ武道館

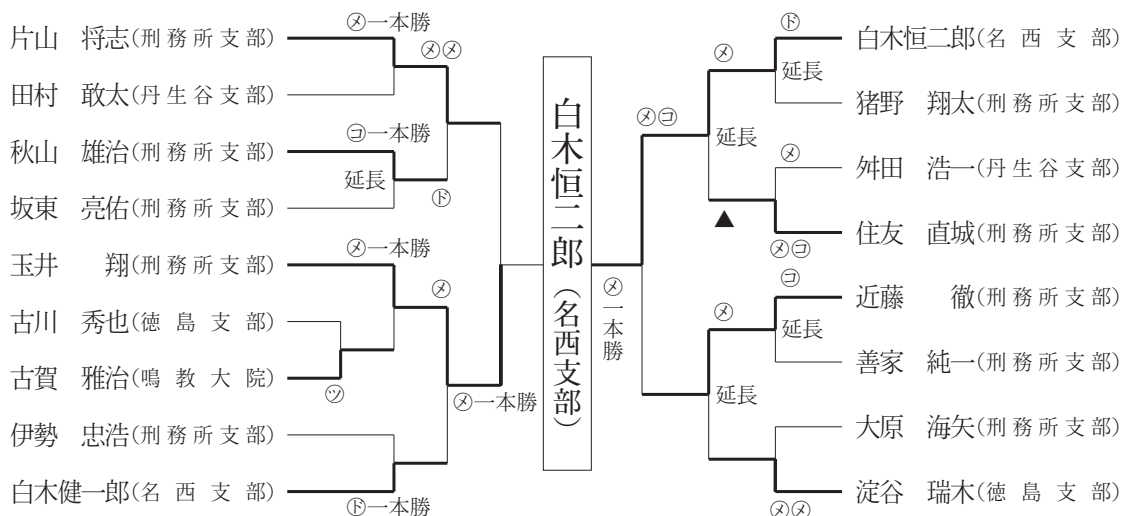
第1位 西田 凌介 (日本体育大学)  
第2位 谷本 晃佑 (同志社大学)

#### 〈次鋒〉



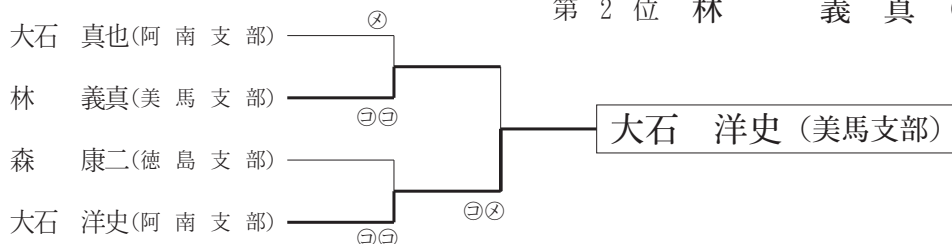
#### 〈5将〉

第1位 白木 恒二郎 (名西支部)  
第2位 玉井 翔 (刑務所支部)



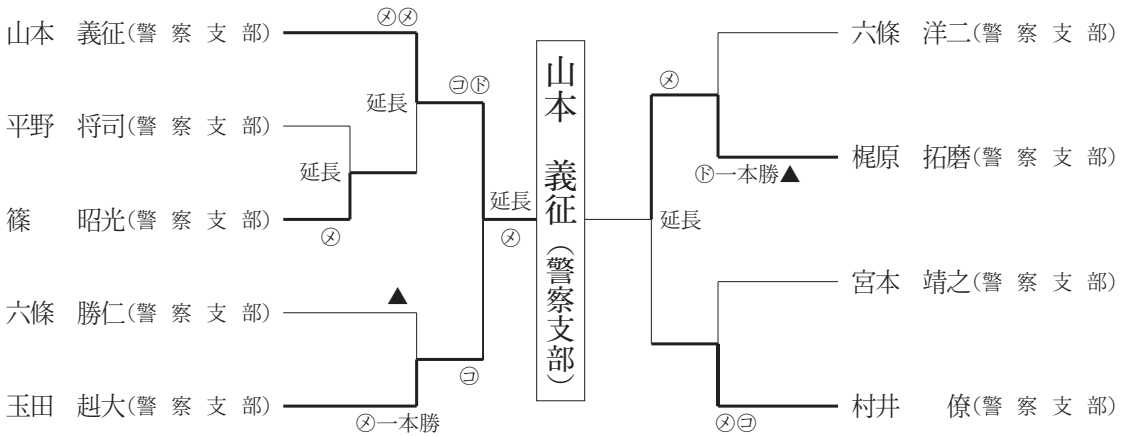
#### 〈中堅〉

第1位 大石 洋史 (阿南支部)  
第2位 林 義真 (美馬支部)



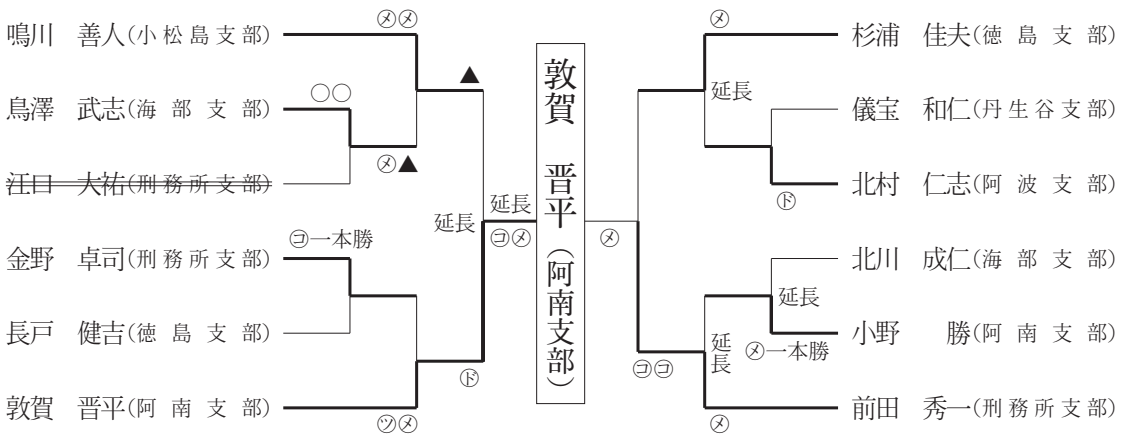
〈3将〉

第1位 山本 義征 (警察支部)  
 第2位 梶原 拓磨 (警察支部)



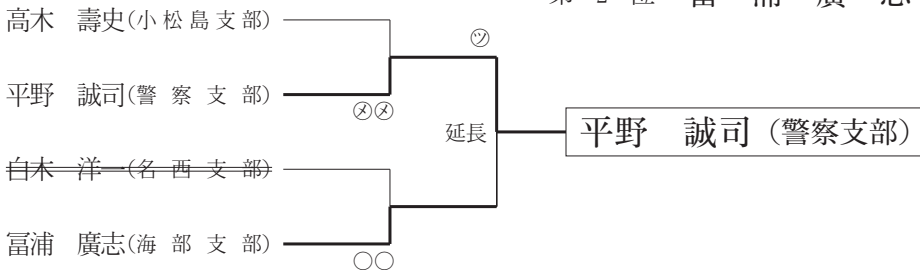
〈副将〉

第1位 敦賀 晋平 (阿南支部)  
 第2位 前田 秀一 (刑務所支部)



〈大将〉

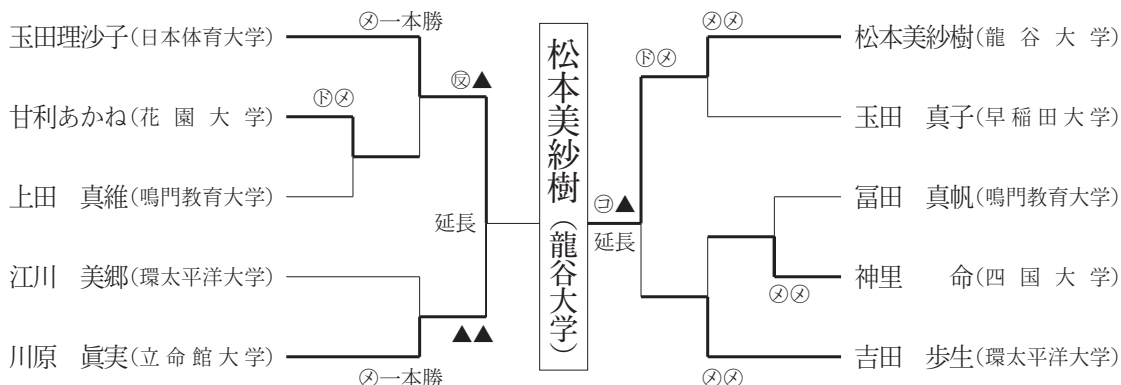
第1位 平野 誠司 (警察支部)  
 第2位 富浦 廣志 (海部支部)



# 【女子】

## 〈次鋒〉

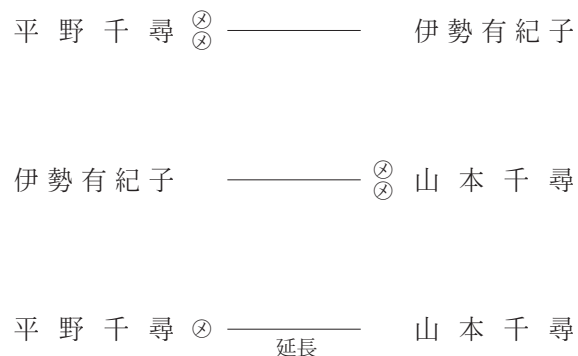
- 第 1 位 松 本 美紗樹 (龍谷大学)  
 第 2 位 玉 田 理沙子 (日本体育大学)



## 〈中堅〉

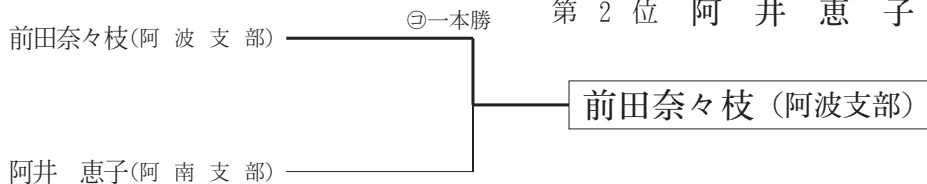
- 第 1 位 平 野 千 尋 (警察支部)  
 第 2 位 山 本 千 尋 (徳島支部)

	平野千尋	伊勢有紀子	山本千尋	勝数	得本数	順位
平野千尋	—	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$	2	3	1
伊勢有紀子	$\frac{0}{0}$	—	$\frac{0}{0}$	0	0	3
山本千尋	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	—	1	2	2



## 〈副将〉

- 第 1 位 前 田 奈々枝 (阿波支部)  
 第 2 位 阿 井 恵子 (阿南支部)



## 〈大将〉

- 第 1 位 北 村 環 (阿波支部)



# 徳島新聞に見る戦いの跡

昇

2016年(平成28年)3月7日 月曜日

スポーツ (20)

## 那賀川3度目V女子

### 剣道

#### 四国中学新人大会

剣道の第11回四国中学校新人大会は6日、阿波中学校に4県の新人大会ベスト4チームが参加して行われ、女子是那賀川が2年ぶり3度目の優勝を飾った。男子は城辺(愛媛)が初制覇し、那賀川と徳島が3位入賞した。

▽1位と徳島関係



女子決勝・那賀川対龍雲 大将戦でメンを奪う那賀川の榎田(右)＝阿波中

### 積極的な姿勢が奏功

那賀川女子の決勝の相手は、本年度の全国中学校体育大会ベスト8の丸亀東を破った龍雲。強豪に対し、状況判断よく戦った2人が勝利を引き寄せた。

先鋒(せんほう)、次鋒と引き分けた後、竹刀を握った中堅馬見は「相手とフリースタイルが似ている。スピードで勝負する」。試合開始直後、素早く相手の竹刀を払ってメンを決め、白星を先に行かせた。

(宮本真)

- 【男子】予選リーグA組(阿波) 2勝1敗、B組(徳島) 2勝1敗
- C組(市川) 3勝0敗、D組(那賀川) 3勝
- ▽4位トナメント1回戦 市川 3-1 龍雲(愛媛)
- 立川 3-1 龍雲(愛媛) △決勝
- 市川 3-1 龍雲(愛媛)
- ▽2位トナメント1回戦 明徳義塾(富山) 2-1 阿波
- ▽1位トナメント1回戦 満濃(香川) 2-1 徳島、城辺(愛媛) 1-0 那賀川 △決勝
- 1-龍雲
- 【女子】予選リーグB組(阿波) 3勝0敗、D組(那賀川) 3勝0敗
- ▽4位トナメント1回戦 坂出(香川) 3-1 阿波、市川 4-1 徳島 △決勝
- 1-坂出
- 榎田 ドミ 多田
- 馬見 ムイ 藤本
- 朝田 坂口
- 飯田 田中
- 那賀川 2-0 龍雲
- ▽決勝
- 榎田 1-0 高畑
- ▽1位トナメント1回戦 那賀川 1-0 高畑

## 阿南で活動25年 少年剣道の強豪

# 徳島至誠館 解散へ

県内少年剣道クラブの強豪「徳島至誠館」(阿南市羽ノ浦町)が25年の歴史に幕を閉じる。指導者の中山繁輝副館長(58)も同市羽ノ浦町、徳島文理中高教諭が、教員を退職し都内に転居するため。これまでに教えた小学生は115人。13日、かつての教え子も交えて閉館記念けいこを行い、長年親しんだ道場に別れを告げる。

徳島至誠館は、繁輝 いる。

さんの父啓男さん(86) 練習は週3回で、毎日が日和佐中学校校長を 回2時間ほど行っている。退職後の1991年。週1回はOBの中に、自宅横に道場を構 学生も参加する。繁輝 えた。当初、教え子は さんは、基礎を体に覚 11人で、館長の啓男さ え込ませることを主眼 んと繁輝さんの2人 で指導している。 教えていたが、啓男さ 「目的は心身を鍛え んが高齢になったた ること。目標は大会で め、約10年前から繁輝 勝つこと」がモット さんが一人で指導して 1。県内の全少年剣道

## 指導者が転居 あす最後のけいこ

チームが参加する県下少年剣道錬成大会で14回優勝するなど、県内のさまざま大会で多くの栄冠を勝ち取った。が、今後はずっと寂しい。中学校に行っても教えてもらったことを忘れず、剣道が続けたい」と名残惜しそうに話す。(杉本宏文)



25年の歴史に幕を閉じる徳島至誠館の中山繁輝さん(右)と阿南市羽ノ浦町



# 小松島少剣夕 全国3位

## 剣道

第42回関西選抜少年優勝大会(2月20、21日・大阪府岸和田市総合体育館)は関西を中心に全国から2千人が参加して行われ、小松島少剣夕クラブ(松田宙大、小山田亮太、岩原千佳、原拓海、松山若樹、桂大二郎)が小学生の部で3位入賞を果たした。



関西選抜少年優勝大会で3位に入った小松島少剣夕クラブ

◇徳島県関係  
 ▼4回戦 小松島少剣1-0小  
 道場B(雲冠) ▼準決勝 東野教  
 曾根剣友会A(大阪) ▼準々決勝 室(福岡) 3-1小松島少剣

小松島少剣1(代表勝ち) 1洗心

# 春の全国高校選抜大会

2016年(平成28年)3月18日 金曜日



全国選抜大会県予選の女子決勝で優勝を決めた富岡東の山崎  
 鳴門ソレイユ武道館

## 富岡東女子 8強目指す

### 剣道

(27、28日・愛知県春日井市総合体育館)

男子の城北は予選リーグで三重、近大和歌山と同組。戦力は互角で、決勝トーナメント進出の可能性がある。美馬主将は出足が鋭く、鳴川は長身を生かして戦う。村本は敗れて、西條は足さば

- 【剣道】
- |     |       |    |
|-----|-------|----|
| 城   | 北(男子) | 学年 |
| 氏   | 名     | ②  |
| ◎美馬 | 州一    | ②  |
| 鳴川  | 了介    | ②  |
| 村本  | 健太    | ②  |
| 山田  | 健太    | ②  |
| 熊橋  | 健太    | ①  |
| 西條  | 賢太    | ①  |
| 西名  | 晴樹    | ①  |
- 監督一福多 雅英
- 富岡東(女子)
- |     |     |   |
|-----|-----|---|
| ◎丸岡 | 由理奈 | ② |
| 福崎  | ひかり | ② |
| 猪野  | 明日香 | ② |
| 高野  | 加奈子 | ② |
| 山崎  | 舞   | ① |
| 富田  | 瑠利  | ① |
| 片岡  | 瑞季  | ① |
- 監督一長井 薫

女子の富岡東は不動の  
 きが素早く、熊橋は積極  
 的な攻めを持ち味とす  
 る。  
 大将・丸岡を中心に8強  
 入りを狙う。片岡は器用  
 さが光り、福崎は思い切  
 りが良い。猪野は試合巧  
 者で山崎は勝負勘に優れ  
 る。まずは小塚(沖繩)、  
 富山北部との予選リーグ  
 を順当に突破したい。



# 養武館が団体制す

## 小学1年 個人戦は上田に栄冠

### 剣道

第22回藤花旗争奪少年大会(3月6日・石井中)は21教室、56人が参加して行われた。団体戦は養武館(先鋒)神田幸一郎、次鋒)宮田晃季、中堅)野崎隆王、副将)湯



【上】藤花旗争奪少年大会団体の部で優勝した養武館  
【下】個人の部の優勝者



浅和真、大将)武知樹(1少年団)③前田優莉(土成スポーツ少年団)▽2年①佐藤優多(上浦教室)②佐藤輔輔(吉野川少年教室)③富田真喜(北島少年教室)④多田健人(養武館)▽3年①蔵本望海(川島スポーツ少年団)②大塚伶斗(鴨島少年教室)③西庄真慶(みなと少年クラブ)④篠原嵩也(入田錬成会)▽4年①三宅澄(藍住スポーツ少年団)②井川凱

翔(誠武館道場)③撫養麗唯(北島少年教室)③島海聖(川島スポーツ少年団)▽5年①富田将太郎(北井上教室)②谷本英(佐古クラブ)③斎藤悠宇(みなと少年クラブ)④沖野友哉(佐古クラブ)▽6年①富永涼介(吉野川少年教室)②宮田颯太(北井上教室)③大前誠也(藍住スポーツ少年団)④永浜幹大(藍住スポーツ少年団)

【個人】小学1年の上田優(土成スポーツ少年団)②市瀬晴己(佐古クラブ)③武田博斗(土成スポーツ少年団)

【団体】①養武館の藍住スポーツ少年団②吉野川少年教室③北井上教室



美波町奥河内の日和佐中学校教諭富浦廣志さん(56)が剣道で、阿波市市場町八幡の自営業坂本憲一さん(68)が居合道で、それぞれ最高段位の8段を取得した。県剣道連盟によると、剣道8段は県内で

10人目、居合道8段は3人目の快挙。富浦さんは「お世話になった方々にやっと合格の報告ができる」、坂本さんは「段位の重みをひしひしと感ずる」と喜んでい

# 最高位 8段取得

剣道 富浦さん (美波町)

居合道 坂本さん (阿波市)

剣道と居合道の8段の審査は全日本剣道連盟が行い、7段取得から10年以上を経た46歳以上が実技と形で審査を受ける。剣道は1636人が受けて合格したのは17人(合格率1.0%)、居合道は142人のうち合格者は6人(4.2%)の難関だった。

## 稽古重ね難関突破

富浦さんは10年前から年2回の審査に挑戦し続けており、21度目で念願を果たした。3年前に「稽古を続けることが自分の生き方」と考えるよ

うになってから、さらに練習に打ち込むようになったという。剣道を始めたのは日和佐中1年時。友人に誘われたのがきっかけだった。「稽古するたびに自分自身の成長を実感でき」と、日和佐高校と大阪体育大でも続けた。現在は日和佐中剣道部で顧問を務める。「互いに鍛え合う剣道仲間として、後進の指導に全力を注ぎたい」と、目標を語った。

20代の頃から徳島の郷土力を研究している坂本さんは、実際に力を扱うことへの関心もあり、36歳で居合道を始めた。今回の審査に向けては、指導する県内の練習会4カ所での稽古に加え、審査の1カ月前から毎朝2時間特訓し、9度目の挑戦を果たさせた。「審査では気迫や体さばり、剣の動きなどで完璧が要求される。冷静に自分の居合ができ

た」



【右】剣道8段に合格した富浦さん(美波町の日和佐中体育館)  
【左】居合道8段を取得した坂本さん(阿波市市場町の八幡小)



剣道

# 鳴門市光武館A制す

## 低学年は小松島少剣クV

第16回堀金旗争奪少年大会・小松島少剣クラブ創立42周年記念(5月29日・小松島市立体育館)は団体45チーム、個人245人が参加して熱戦を展開した。団体の小学校高学年は鳴門市光武館A(先鋒⇨秋山颯汰、次鋒⇨豊田雄大、中堅⇨千葉翔太、副将⇨岡崎進平、大将⇨千葉陸登)、低学年は小松島少剣クラブ(先鋒⇨岩本響輝、次鋒⇨大和優星、中堅⇨吉岡隼、副将⇨桑田隆希、大将⇨橋本和馬)がそれぞれ制した。

【団体】小学低学年①小松島少剣②木頭錬心館③上浦教室④同高学年①鳴門市光武館A②小松島少剣A③養武館A④和田島【個人】小学1・2年①松本泰和②木頭錬心館③津島生小



【上】堀金旗争奪少年大会団体高学年を制した鳴門市光武館A  
【下】低学年で優勝した小松島少剣クラブ



松島少剣)③水松申守(加茂名教) 教室)米倉真史(徳島教室)大塚一松島少剣)②岩本響輝(小松島少等)④大和希輔(那賀川教室わか) 仁業(鳴門市光武館)中川遥守(剣)③四宮真一郎(鳴島教室)④あゆみ会▽敢闘賞 阿井輝(阿南) 鳴島教室)▽3年①吉岡隼(小松島少剣)②松島少剣)③松島少剣)④松島少剣)⑤松島少剣)⑥松島少剣)⑦松島少剣)⑧松島少剣)⑨松島少剣)⑩松島少剣)⑪松島少剣)⑫松島少剣)⑬松島少剣)⑭松島少剣)⑮松島少剣)⑯松島少剣)⑰松島少剣)⑱松島少剣)⑲松島少剣)⑳松島少剣)㉑松島少剣)㉒松島少剣)㉓松島少剣)㉔松島少剣)㉕松島少剣)㉖松島少剣)㉗松島少剣)㉘松島少剣)㉙松島少剣)㉚松島少剣)㉛松島少剣)㉜松島少剣)㉝松島少剣)㉞松島少剣)㉟松島少剣)㊱松島少剣)㊲松島少剣)㊳松島少剣)㊴松島少剣)㊵松島少剣)㊶松島少剣)㊷松島少剣)㊸松島少剣)㊹松島少剣)㊺松島少剣)㊻松島少剣)㊼松島少剣)㊽松島少剣)㊾松島少剣)㊿松島少剣)

鈴木葉二(酒東教室) 櫻本まおん(佐古) 谷本真智子(佐古) 室(山下悠人(木頭錬心館)▽5年①近藤正輝(石井)②三宅澄(藍住)ボトツ少年団)③小山田也(入田錬成)④橋本和馬(小松島少剣)⑤蔵本望海(川島)ボトツ少年団)▽敢闘賞 山岡仙太郎(小松島少剣) 森脇康生(酒東教室) 谷口真(藍住)ボトツ少年(加茂名教) 島海岸(川島)ボトツ少年団) 大塚伶斗(鳴島教) 細川賢真(羽浦教室)▽6年①原平佳(小松島少剣)②松山英樹(小松島少剣)③安井大晟(吉野川教室)④岩谷優夢(和田島)▽敢闘賞 落窪翔太(山川修練館) 原拓海(小松島少剣) 桂大二郎(小松島少剣) 千葉陸登(鳴門市光武館)





美馬支部管内錬成大会の小学3年の決勝戦で  
激しく打ち合う両宅と荒尾



中学男子 堂岡 V 正木 3年の部

剣道

第10回徳島県連盟美馬支部管内錬成大会美馬警署管内防犯大会(7月3日・六吹スポーツセンター)は小学生35人、中学生38人が参加して行われた。中学生男子3年の部は堂岡俊介(貞光中)が、同女子は正木彩加(江原中)がそれぞれ優勝した。入賞した小学生4人と中学生3人は県防犯少年大会(7月29日・鳴門ソレイジョ武道館)に美馬警察署チームとして出場する。

【小学生】1・2年の③宅海誠(勝教塾)②天浦理紗(徳島春風館)③黒田律(徳島春風館)③

藤水聡真(半由教塾)▽3年の①岡泰志(勝教塾)②荒尾春汰(勝教塾)③坂本陽(半由教塾)③佐藤せり(半由教塾)▽4年の①天沼太朗(徳島春風館)②佐藤生(北林翔(鳴門))が



鳴門市防犯少年大会の入賞者

小学生 秋山 V  
中学生 北林

第13回鳴門市防犯少年大会(6月12日・鳴門市光武館)は県大会出場を懸け、小・中学生が熱いこもった戦いを繰り広げた。小学生は秋山颯汰(光武館)が優勝、中学生は北林翔(鳴門))が

南(勝教塾)③黒田俊(徳島春風館)③横山千恵(徳島春風館)▽5・6年の①藤本豪太(徳島春風館)②八木健也(勝教塾)③三宅由衣斗(勝教塾)③岡七美(勝教塾)【中学生】男子1・2年の①中田佳吾(江原)②尾形直紀(江原)③藤岡蓮(勝町)③中川陽(勝町)▽3年の①堂岡俊介(貞光)②中川一樹(勝町)③三宅紀(勝町)④田沼浩(貞光)▽4年の①正木彩加(江原)②野崎まひろ(江原)③荻井知捺(江原)④後藤香(江原)▽代表選手 八木健也、岡七佳吾、三宅由衣斗、藤本豪太、藤岡蓮、尾形直紀、中田佳吾

制した。

小学生の上位4人と中学生の上位3人は、鳴門警察署チームとして県防犯少年大会に出場する。【小学生】①秋山颯汰(光武館)②岡崎蓮(勝町)③豊田雄大(所属は未定)④鳴門市武館【中学生】①北林翔(鳴門)②北林美(鳴門)③岡崎理(鳴門市武館)④炭法(鳴門)

2016. 7. 25

# 全国高校総体

中国

第7日

4人が2回戦へ。剣道女子団体の富岡東は予選で敗退し、男子個人も初戦で姿を消した。4回戦を戦ったソフトテニス男子のつるぎの2組はいずれも敗れた。このほか、柔道女子63kg級で、藍住中出身の嘉重春樟(東大阪敬愛)が3位入賞した。県勢は第8日の4日は7競技に出場する。

全国高校総体体育大会(インターハイ)第7日は3日、岡山市のジップアリーナ岡山などで13競技が行われた。徳島県勢は7競技に出場し、柔道女子70kg級の延口美咲(富岡西)がベスト16入りした。弓道女子個人の岡崎小夏(徳島市立)は予選を通過し、決勝に進んだ。卓球は男女シングルスの1回戦が行われ、

# 富岡東 女子団体予選敗退



女子団体予選・富岡東対埼玉栄 メンを奪い、大将戦を制した富岡東の丸岡君=ジップアリーナ岡山

剣道		柔道		空手道		弓道		射撃		卓球		バドミントン		ソフトテニス		男子個人	
多田敬祐	丸岡君	伊藤大剛	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君
丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君	丸岡君

## 大将戦で意地の1勝

「悔しいけど、大将と次鋒、中堅が連続で一本、後、次鋒の猪野がコテで丸岡主将は2年から大将としての役目は果たせたと勝手を許した。副将戦で一本勝ち、副将の山崎も感じてきた。「重圧」感。終わってすっきり引き分けた時点で負けは「敗れて1〜2年なり、勝も感じていた」という丸岡主将は「悔、成長して決まったが、大将戦では延長戦の末、丸岡主将は「相手は弱しきらず、引き分けて予選敗退が決まった。今回の雪辱は後輩たちに見せた。長井監督が「チームの戦は先鋒戦を落とした精神的支柱」と評価する(乾宗里)

2016. 8. 8

第54回四国中学校総合体育大会最終日は7日、4県で11競技が行われ、剣道男子の徳島が50年ぶり2度目、体操女子の鳴門一が10年ぶり11度目、新体操女子の生光学園が4年ぶり6度

# 四国中学校総合体育大会

2016. 8. 8  
最終日

目の栄冠にそれぞれ輝いた。このほか、準優勝のバスケットボール男子の海陽、バレーボール男子の協町、新体操女子の羽ノ浦が全国中学校体育大会（全中）出場権を獲得した。

## 男子団体 半世紀ぶり 徳島が制す

剣道

（高松市香川総合体育館）  
【男子】団体予選リーグA組  
①徳島 ②勝1分け③高知 高

知②勝1分け③那賀川（徳島）  
1勝②敗④丸亀東（香川）③敗①  
1、2位は勝者数による▽B組龍雲（香川）③勝②徳島（徳島）①勝①敗1分け③明徳塾（高知）  
1勝①敗1分け④全土（愛媛）③敗②②、3位は勝者数による。各組1、2位が決勝トーナメントへ。  
▽決勝トーナメント1回戦 徳島③①城辺▽決勝 徳島（熊鷹）大空、松本、嶺、片岡②①高知  
徳島は50年ぶりの度目の優勝。  
▽個人決勝 高平（愛媛・城辺）メー 山下（愛媛・三間）  
【女子】団体予選リーグA組那賀川③勝②徳島②丸亀東（香川）①勝①敗1分け③東予東（愛媛）①勝①敗1分け④高知学芸（高知）敗②②、3位は勝者数による▽B組龍雲（香川）②勝①分け②高知①勝1分け③久万（愛媛）①勝①敗④阿南一（徳島）③位①①、2位は松本数による。各組1、2位が決勝トーナメントへ。

▽決勝トーナメント1回戦 高知②①那賀川▽決勝 龍雲②①高知  
龍雲は初優勝。  
▽個人準決勝 榎田（徳島・那賀川）梅見（徳島・那賀川）  
1-0で迎えた高知との大将戦。徳島の片岡主将は相手がコテを外して動きが止まった瞬間を見逃さず、得意の引きメンを放った。「打てると思ったとき、自然に体が反応して手が出ていた」。練習で磨いた技で50年ぶりの優勝をつかみ取った。

### 勝負どころ逃さず

先鋒の熊鷹、次鋒の大空、中堅の松本が引き分け。副将の岩原が相手の体勢を崩した後に飛び込んでメンを決め、大将に  
那賀川）梅見（徳島・那賀川）、飯田（徳島・那賀川）  
下木（高知・高知学芸）準決勝大塚（高知・高知学芸）メー 榎田（中原・高知・野市）メー 飯田（決勝 中原メー）大塚  
つないだ。  
「ここしかないという勝負どころを逃さなかった」と選手をねぎらった豊田監督。片岡主将は「全中では昨年の予選敗退の悔しさを晴らし、ベスト8入りを目指して頑張りたい」と決意を新たにしていた。  
（須見千次郎）



# 剣道 鳥海、居合道 森が制覇 中学2年 5段以上

## 総 合

2016年度吉野川市市民体育祭剣道・居合道大会(8月7日・吉野川市ふるさとセンター)は97人が参加して熱い攻防を繰り広げた。剣道中学2年の部は鳥海空(市立川島中)が優勝、居合道一般(5段以上)は森将夫(徹心道場)が制した。

【剣道】小学2年以下①中川遥(守鴨島少剣)②日和田房果(山田澤)市立川島③藤川風香(市川少剣)④多田煌(鴨島少剣)・立川③藤井千風(上浦少剣)折坂ちゆ(上浦少剣)▽3・4年①四宮真一郎(鴨島少剣)②真田一輝(吉野川少剣)③蔵本望海(山島少剣)④株田隆介(上浦少剣)▽5・6年①落窪太(山川少剣)②大塚未流依(鴨島少剣)③野尻壮馬(山川少剣)④海部(鴨島少剣)▽中学生①三宅剛伸(鴨島)②藤誠那(鴨島)③花川裕基(上浦少剣)▽小学生①松本涼楓(徹心道場)②大森悠生(徹心道場)③大森奏(徹心道場)④藤元哉(徹心道場)⑤藤元天(徹心道場)⑥藤井浄裕(徹心道場)⑦吉岡修(徹心道場)



吉野川市市民体育祭剣道・居合道大会の入賞者ら

# 小松島少剣クが優勝 小学生



阿土少年錬成大会団体小学生の部を制した小松島少剣クラブ

## 剣 道

第44回阿土少年錬成大

会(8月17日・木頭体育館)は徳島、高知の両県から小学生191人、中学生89人が集い、日ごろの鍛錬の成果を披露した。団体小学生は小松島少剣クラブが優勝。個人中学生は宮田惣太(那賀川少年剣道クラブ)が制した。

◇徳島関係の上位  
【団体】小学生①小松島少剣②那賀川教室わかあゆ会③大野小▽中学生②阿南一中③養武館④木頭中  
【個人】小学1・2年③松本泰利(木頭心館)▽3・4年②桑原康輔(那賀川教室わかあゆ会)③本庄創恵(大野小)▽5・6年②阿部星一(佐古クラブ)③桂天一郎(小松島少剣)  
▽中学生③角元伸輔(阿南一中)③高橋将(那賀川中)▽2年①宮田惣太(那賀川少年クラブ)②本木歩(那賀川中)③山崎周(養武館)④眞員晴樹(佐古クラブ)

(徹心道場)吉岡修(徹心道場)



# 剣道

## 251人参加 白熱の攻防

第44回阿北地区大会  
(9月19日・石井中)は  
富永ますみ6段昇段祝賀



阿北地区大会中学男子の部で優勝した徳島中学校⑤、女子の部1位の石井中学校A



阿北地区大会高校男子の部を制した鳴門渦潮高校A⑤、女子の部優勝の川島高校

大会を兼ねて行われた。中学22、高校14校の251人が参加、白熱した攻防を繰り広げた。中学男子は徳島、女子は石井A、高校男子は鳴門渦潮A、

女子は川島がそれぞれ制した。

【中学】男子①徳島(先鋒②空航③、次鋒④松本尊灯、中堅⑤岩原龍哉、副将⑥江口純、大将⑦松本喜起)⑧北島⑨阿波⑩北井上

▽女子①石井A(先鋒②山室愛子、次鋒③佐藤祐理、中堅④森本乃愛、副将⑤大西千晴、大将⑥土井直子)⑦石井B⑧阿波・市場・県立川島⑨鳴教大付

【高校】男子①鳴門渦潮A(先鋒②板野修造、次鋒③吉本嵐丸、中堅④小島拓也、副将⑤前田龍司、大将⑥古川勇真)⑦城北A⑧城ノ内A⑨徳島科技

▽女子①川島(先鋒②田口ひかり、次鋒③藤岡真奈、中堅④猪口育秀、副将⑤岩崎妙香、大将⑥森本夢)⑦鳴門⑧城北

2016年(平成28年)10月17日



準々決勝で勝見(左)を攻める大石―日本武道館

# 大石(徳島文理) 8強 初優勝

中・高教

## 剣道

全日本選手権

剣道日本一を決める第64回全日本選手権は3日、東京・日本武道館で64人によるトーナメントで争われ、徳島県の大石洋史(徳島文理中・高教)がベスト8に入っ



大石洋史

た。県勢の8強入りは1985年に準優勝した近藤巨(県連盟)以来31年ぶり。

昨年準優勝の勝見洋介(5段、神奈川県警)が初優勝を果たした。決勝で国友錬太郎5段(福岡県警)と対戦し、小手を決めての1本勝ちだった。国士舘大3年で初出場の宮本敬太4段が4強入りと健闘。準決勝で勝見に屈した。史上3人目の

大会2連覇を狙った西村英久5段(熊本県警)は準々決勝で国友に敗れた。

## 県勢31年ぶりの快挙

徳島に帰郷したばかりの剣士が31年ぶりの吉報をもたらした。8強入りした大石は「何とか8強までは進みたいと思っていたので、実現できてよかった」と舌を弾ませた。

いに乗って2、3回戦も勝ち進んだが、準々決勝で、優勝した勝見に惜敗した。

阿南市生まれ。大体大を卒業後、2011年に国体が開かれることになったという山口へ。高校の教員をしながら団体などで活躍し、昨年の和歌山国体では団体2回戦で徳島県チームとも対戦した。

今春から徳島文理中の剣道部を指導しており、自身も研さんを続けている。

185センチの長身を生かしたメンが得意技。初戦は新潟の選手と戦い、延長戦で相手の突きをかわしてメンで仕留めた。勢

8月に沖繩で開かれた全国教職員大会の義務教育の部でも優勝。徳島県の中心選手として周囲の期待が大きく、「一層練習して、今後の大会でも勝ちたい」と意欲を示した。(平尾貴宏)

勝見洋介(準優勝だった)の悔しい思いを忘れたことほなかつた。出はなをそくく技が特徴だったが、警戒されてきたため自分から攻め込んで1本を取れる技に取り組んできた。本番でその成果を出せてよかった。

勝見洋介(準優勝だった)の悔しい思いを忘れたことほなかつた。出はなをそくく技が特徴だったが、警戒されてきたため自分から攻め込んで1本を取れる技に取り組んできた。本番でその成果を出せてよかった。

2016. 11. 5



全日本剣道選手権で初優勝した

かつみ ようすけ  
勝見 洋介さん

自分があるのは皆さんのおかげ



10月28日に30歳になったばかりの剣士が、悲願の晴れ舞台に立った。3歳から始めた剣道で憧れの日本一。昨年準優勝の雪辱を果たし「諦めずに続けてきてよかった。忘れようとしても、忘れられなかった」と苦い経験を糧にして、歓喜を手繰り寄せた。

岡山県倉敷市出身。兄の健太さんの影響で竹刀を握った。他のスポーツとは縁がない。「生涯を通して続けられるし、全国に友達をつくらることができる」と剣道に魅了されている。

この1年で大きな発奮材料があった。昨年の大会から11日後の11月14日に第一子の恵那ちゃんが誕生した。愛くるしい顔を見れば「稽古が厳しい中でも、リラックスすることができた」。試合会場に訪れたままな娘も力の源になった。

師であり、6度の日本一に輝いた宮崎正裕氏ら周囲は「とにかく稽古熱心」と口をそろえる。鹿屋体育大剣道部の1学年後輩で、4段の腕前を持つ妻の恵さんも「休みの日もずっと剣道をしている。夫の趣味は何なのでしょいか」と苦笑いをするしかない。

優勝後に色紙に記したのは座右の銘の「感謝」。「強くもなかった自分を、宮崎先生が神奈川県警に誘ってくださった。今の自分があるのは皆さんのおかげ以外ない」とさらなる恩返しを期す。背筋を伸ばし美しく語る姿が、剣道に真摯に取り組み生きざまを映し出す。

昨年は世界選手権日本代表として団体優勝に貢献しており、剣道界を引っ張る存在として期待されている。



月日 (夕刊) 2016年(平成28年)11月19日 土曜日

岡山県美作市で開かれた総務大臣賞争奪第15回女子剣道大会「お通杯」(同市主催)で、徳島県警総合相談センターの平野千尋巡查長(27)＝鳴門市大津町徳長＝が優勝した。けがの苦し

み乗り越えて手にした栄冠に「こつこつ積み重ねてきたことは間違っでなかった」と喜ぶ。来年秋の全日本女子剣道選手権でのベスト8を目標に、さらに稽古に励んでいる。

## 総務大臣賞争奪 女子剣道大会

# 平野巡查長(県警)が優勝

## けがの苦しみ乗り越え

大会は10月23日に美作市の武蔵武道館で開かれ、団体2部門、個人5部門に国内外のメント準々決勝で国体優勝経験のある岐阜県の選手を下すなどして頂点まで駆け上がった。



お通杯の個人戦18～29歳の部で優勝を飾った平野さん＝徳島市論田町の県警察学校

警察官の父誠司さん(53)の影響で小学3年の時に剣道を始めた。大阪体育大2年の2009年に全日本女子剣道選手権ベスト16、翌10年に関西女子学生選手権優勝などの実績を上げ、現在、五段の腕前だ。

最近「結果を出さなければいけない」という重圧やバイク事故によるけがで、全日本女子剣道選手権では県予選敗退するなど振るわなかったが「自分らしい剣道を」と奮起した。

昨年4月、将来の指導者となる県警特別訓練員に女性で初めて選ばれた。「女性には女性の方が教えやすい場合もあると思うので、自身を修練し、

後輩も指導していければ」と笑顔を見せた。(櫃本恵)





# 小松島市団体制す

## 個人男子 岩原 女子 河野栄冠

### 剣道

第34回徳島県ス波特少年団交流大会(12月4日・鳴門ソイヨイ武道館)は第39回全国ス波特少年団交流大会徳島県予選を兼ねて行われた。団体は各郡市選抜の16チーム、個人は男女150人が参加、白熱した攻防を繰り広げた。団体は小松島市チームが優勝、個人男子は岩原潤哉(小松島少剣クラブ)、女子は河野菜々子(那賀川剣道教室わかあゆ会)がそれぞれ制した。

団体1位の小松島市と個人1位の岩原、河野は全国交流大会(来年3月25〜27日・名古屋市愛知武道館)に出場する。  
 【団体】小学生①小松島市(先鋒 橋本和馬 小松島少剣 次鋒 川原千佳 小松島少剣 中堅 川原千佳)



原拓海 小松島少剣、副将 川原 夢 和田島之三(②阿南市A) 愛彩 那賀川教室わかあゆ会、倉橋秀汰 那賀川教室わかあゆ会、岩佐ほのか 那賀川教室わかあゆ会、粟田星舞 那賀川教室わかあゆ会、③鳴門市(浅井未来 鳴門市光武館、森下和奏 鳴門市光武館、千葉陸登 鳴門市光武館、山尾心那 鳴門教室、秋山颯太 鳴門市光武館) ④徳島市A(片岡恭二朗 徳島教室、佐藤ひろ 加茂名教室、深木陽仁 徳島教室、古川ちひろ 徳島教室、富田将太郎 北井上教室)

【個人】中学生男子①岩原潤哉(小松島少剣) ②大空航巳(徳島教室) ③松本尊灯(藍住ス波特少年団) ④江口弘純(小松島少剣)  
 ▼女子①河野菜々子(那賀川教室わかあゆ会) ②福田郁那(徳島至誠館) ③塚田志緒(徳島教室) ④田邊恵留(大野小剣道部)  
 徳島県ス波特少年団交流大会の個人男子で優勝した岩原(右端)、団体制した小松島市チーム

2016. 11. 6

# 男子 徳島 王座 女子 那賀川

## 剣道

県中学新人大会  
剣道の第41回徳島県中学校新人大会は5日、鳴門ソイジヨイ武道館で男子36校、女子25校が参加して団体戦が行われた。男子は徳島が2年連続6度目、女子是那賀川が4年連続16度目の優勝を果たした。男女の上位4校は来年3月5日、阿波中で開かれる第12回四国中学校新人大会に出場する。

八万▽2回戦 徳島5-0 鳴島	【女子】1回戦 加茂名 不敵
一、鳴門2-4 〇山城、木頭2	勝 脇岡、富岡東2(本勝)
(代表勝) 2松茂、徳島文理3	2牟岐、大麻3-0北島、羽浦
12石井、小松島 不敵勝、牟岐、相生3-1白和佐、城東2	3-0松茂、鳴門2(代表勝)
1阿南、阿波5-0新野、北島5	ち2城東、八万3-1板野、阿
〇脇野、小松島南2-1北井	波2-0藍住、瀬戸5-0土成
〇脇野、小松島南2-1北井	鳴教大付3-0勝浦、同戦 那
上、勝浦2-1城西、鳴教大付4	賀川5-0加茂名、大麻〇代表
1三好、川内4-0藍住、八万	勝〇富岡東、江原2-0羽
3-0市場、江原1-0板野、那	賀川5-0加茂名、大麻〇代表
賀川4-0大麻▽3回戦 徳島4	浦、徳島文理4-1鳴門、石井
1鳴門2、徳島文理5-1〇木	4-0八万、小松島南1-0阿
頭、小松島2-0相生、阿波2	波 国府2-1瀬戸、阿南3-1
(本勝) 2城東、北島3-1	1鳴教大付準々決勝 那賀川5
小松島南 鳴教大付3-1勝浦	〇大麻、江原3-1徳島文理
川内3-1八万、那賀川4-0江	石井2-1小松島南、阿南3-1
原▽準々決勝 徳島3-1徳島文	2国府準決勝 那賀川4-0江
理、小松島2-1阿波、北島4-	原、石井3-1阿南
〇鳴教大付、那賀川2-0川内	▽決勝
準決勝 徳島4-0小松島、那賀	那賀川5-0石井
川3-0北島	〇河野、山室
▽決勝	〇岩本、佐藤
徳島2-0那賀川	〇飯田、森本
〇天空、メメコ 小山田	〇岡崎、大西
松本尊、メメコ 後藤	〇福田、土井
岩原、メメコ 二宮	
〇江口、メメコ 福本	
松本喜、大城	

2016. 11. 28



鳴門市民体育祭の入賞者

## 剣道

# 小学高学年 秋山(鳴門市 光武館) 制す

## 中学男子 北林翔 女子 北林葵

2016年度鳴門市民体育祭(10月22日・鳴門市光武館)は小学3道

場、中学4校の84人が参加、白熱した攻防を展開した。小学高学年は秋山颯太(鳴門市光武館)が優勝、中学男子は北林翔、女子は北林葵の鳴門二中勢が制した。

【小学】1・2年①大塚仁(豊田大晴)②元倉謙(西村清川)以上鳴門市光武館▽3・4年①浅井未来(福池謙信)②秋山颯太(鳴門市光武館)③柳田周作(鳴門少年教室)▽5・6年①秋山颯太(千葉陸彦)②豊田雄大(岡崎進平)以上鳴門市光武館

【中学】男子①北林翔(鳴門二)②炭宗汰(鳴門一)③小笠原太(大麻)④吉田麗矢(鳴門二)

▽女子①北林葵(鳴門二)②福山花純(鳴門一)③柳田藍(鳴門二)④増金いおり(大麻)

# 剣道

◆第23回東みよし町近県大会(12月18日・ふれりーナみよし)

◇徳島県関係の上位

【団体】小学の山川スポーツ少年団修錬館△中学男子の阿波中

A 【個人】小学1年の山本匠真(市場)②坂東輝夢(土成少剣)③松本有生(土成少剣)▽2年①上田優(土成少剣)②前田優莉

(土成少剣)③武田脩斗(土成少剣)▽3年の岡泰志(脇町少剣)▽4年の藏本望海(川島少剣)②島海芹(川島少剣)③前田優真(土成少剣)▽5年の野尻壮馬(山川少剣)②島海聖(川島少剣)③原田紘輔(山川少剣)▽6年①庄嶋蓮(淳志館)③小原将暉(土成少剣)▽中学1年女子③瀧本響(阿波)▽2年男子①兼松凌真(阿波)②大岩恒輝(阿波)▽高校男子①近藤堪太(池田)②後藤尚樹(阿波西)③葛籠徳人(池田)▽同女子①井内未来(阿波西)②竹崎真帆(池田)

2017. 1. 9

新 月 日 2017年(平成29年)1月16日 月曜日

# 松山 全国3位 個人小学 高学年の部

## 剣道



松山若樹

全国選抜国体強化第47回久枝大会(1月3日・愛媛県武道館)は茨城県から沖縄県までの道場が参加して行われた。徳島県勢は、松山若樹(小松島少剣)が353人出場の個人小学高学年の部で3位入賞を果たした。中学団体は徳島至誠館(先鋒)大城穂高、次峰住友、大洋、中堅、後藤高志、副

将朝田萌香、大将川飯田翔太)がベスト8に入り、敢闘賞を獲得した。◇徳島県関係の上位

【個人】小学高学年1回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 福田恭一郎(愛媛)▽2回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 大前龍海(大阪)▽3回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 西山響(愛媛)▽4回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 大町拓海(愛媛)▽5回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 石誠也(和歌山)▽6回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 森永享成(福岡)▽7回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 石誠也(和歌山)▽7回戦 松山若樹(小松島少剣)×メー 後藤迅(岐阜)▽準決勝 池田萌香(福岡)コト松山順位③松山

【団体】中学1回戦 徳島至誠館2-0△治東中(愛媛)▽2回戦 徳島至誠館4-0木積スポーツ少年団(島根)▽3回戦 徳島至誠館1-0奥悠心会(広島)▽4回戦 森安修道館(福岡)2-1徳島至誠館



久枝大会の中学生団体でベスト8の徳島至誠館

2017年(平成29年)1月16日 月曜日

# 男子城北V富岡東女子

## 剣道

### 全国高校選抜大会県予選

剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第61回男子、第51回女子県高校新人大会は15日、鳴門ソイジヨイ武道館に男子18校、女子7校が参加して団体戦が行われ、男子は城北が2年連続5度目、女子は富岡東が3年連続28度目の優勝を果たした。男女の優勝校は全国大会(3月27、28日・愛知県春日井市総合体育館)に出場し、各上位4校が四国新人大会(2月4、5日・東かがわ市のとらまるてぶくろ体育館)に進む。

### 【男子】団体1回戦

- 1 徳勝市立 鳴門3-0 阿波2-2 回戦 阿波1-3 0 世田、鳴門瀧
- 2 代表勝ち 0 徳勝北 徳勝文理 3-0 城東 富岡5-0 小松島 城内4-0 阿南高専 川島4-0 海浜 徳島技1-0 那賀 城北1-1 鳴門準々決勝
- 鳴門瀧潮0 (代表勝ち) 0 阿南工 徳勝文理1-0 富岡西 城ノ内3-1 0 川島 城北3-1 徳島技準々決勝 鳴門瀧潮4-0 徳勝文理 城北2-1 0 城ノ内3-3 位決定戦 徳勝文理1-0 城ノ内
- ▽決勝
- 城北 1-0 鳴門瀧潮
- 熊北 1-0 坂野
- 矢野 1-1 山下
- 西名 1-1 小島

富田 1 前田  
西條 1 古川

### 【女子】予選1回戦

- 1 勝勢川第1勝1敗3鳴門瀧潮2 敗1富岡東 川島が決勝トナメ
- ント(マ)リノ富岡西3勝0 城北勝1敗3鳴門1勝敗(4城ノ内3敗1富岡西 城北が決勝トナメント)
- ▽3位決定戦 川島2(未救勝ち) 決勝
- 富岡東 3-0 富岡西
- 0 富田 コー
- 0 城メー
- 山崎 相川
- 山口 大原
- 明口メー 儀宝
- 片岡 ツメ 橋本

### 1年生が大活躍

○：順当に勝ち上がり3連覇した富岡東



富岡東の岡西との決勝で、メンを2本奪って優勝を決めた1年生の副将



明口＝写真右は「無理をせず、得意な形でメンが入ったので良かった」と顔をほころぼせた

我々強く戦った城北が、先鋒の熊橋が挙げた1勝を守り抜き、2年連続の栄冠を手にした。前回大会の決勝でも先鋒を務め、一本負けした



男子決勝・鳴門瀧潮対城北 先鋒戦を制し、2連覇に貢献した城北の熊橋(＝鳴門ソイジヨイ武道館(家長良匡撮影))

## 先鋒の1勝 手堅く守る

城北

先鋒富田がコテで1本勝ちを収めて流れをつくと、1年生の次鋒大城がメン2本で完勝。中堅

熊橋は「悔しい気持ちを思い出し、奮い立った」。昨年11月の県選手権個人戦を制した勢いを持ち込み、試合開始間もないメンで勝ち、チームに勝利を呼び込んだ。

「絶対にこのリードを守る」。次鋒矢野、中堅西名、副将富田が引き分けてつなぎ、大将の西條主将も積極的に前に出る相手をつまらなくした。ゲームメーカーの県チャンピオンで先勝し、残りの選手で手堅く守る戦いぶりだった。

年末年始の休みは元日の遠征で腕を磨いた。西條主将は「目標の全国大会出場を果たしほっとしている。団精力を生かして、一試合一試合をしっかり頑張りたい」と決意を語った。

(須見千次郎)

# 剣道

## 男子那賀川 女子小松島V

遠藤旗争奪第33回新野少年錬成大会(12月23日・新野中)は団体20チーム、個人177人が参加

して白熱した攻防を展開した。団体男子是那賀川少年剣道教室わかあゆ会(先鋒II倉橋秀汰、中堅II栗田星舞、大将II尾畑翔)、女子は小松島少剣クラブ(先鋒II松山若



新野少年錬成大会女子団体を制した小松島少剣クラブ



活躍した那賀川剣道教室わかあゆ会

室③海部川教室A  
 【個人】小学1年の阿井輝(阿南教室)②樫福悠季(坂野クラブ)③本木匠(小松島少剣)③福岡鈴(木頭錬心館)▽2年の松本奏利(木頭錬心館)②津島優生(小松島少剣)③大和希輔(那賀川教室わかあゆ会)③櫻原空(和田島クラブ)▽3年の吉岡隼(小松島少剣)②佐藤偉輔(吉野川教室)③渡辺日日期(和田島クラブ)③四宮真一郎(鴨島教室)▽4年の西岡優太(木頭錬心館)②青木謙真(那賀川教室わかあゆ会)③大塚侑斗(鴨島教室)③ウイクス ショシユア(養武館)▽5年の小山田奈央(小松島少剣)②渡辺汰己(和田島クラブ)  
 ③岡崎進平(鳴門市光武館)③中野脩大(立江教室)▽6年の住友孝之輔(那賀川教室わかあゆ会)  
 ②鳴門教生(鳴門市光武館)③西宮海緒(阿南教室)③西岡紀乃(小松島少剣)  
 ◆清原杯争奪第61回県下大会(11月3日・阿南市スポーツ総合センター)  
 【小学】①小松島少剣クラブ②鳴門市光武館③那賀川教室わかあゆ会A③北井上教室  
 【中学】男子①徳富②那賀川③小松島③阿波④女子①那賀川②右井③鳴門二・海陽合同③大麻  
 【高校】男子①鳴門渦潮A②城北A③富岡西③城北B④富岡東②富岡西③城北③川島  
 【一般】男子①阿南支部B②阿南支部A③徳島支部③徳島刑務所A④女子①教員剣美会A②東條会③阿南支部あなん剣友会A④川島剣好会

2017. 1. 23



清原杯争奪県下大会小学校の部を制した小松島少剣クラブ



017年(平成29年)3月1日 水曜日

読んで学ぼう

# 創立40年を記念 児童生徒が熱戦

## 三好・山城の少年剣道クラブ 部員減 解散危機乗り越え

三好市山城町の少年剣道クラブ「三好市山城町剣道修練クラブ」の創立40周年記念大会が2月26日、地元の山城中学校体育館であり、児童生徒が日頃の稽古の成果を披露した。



熱戦を繰り広げる子どもたち＝三好市山城町

修練クラブの29人と近隣の剣道場に通う11人が参加。開会式では修練クラブを代表し、近藤邑樹君(12)＝山城小6年＝が「たくさん先生に指導してもらっていることに感謝し、最後まで正々堂々と力強く宣誓した。子どもたちや指導者による合同演武で、基本の動きを披露。小学生は学年別、中学生は男女別に分かれて、気迫のこもった熱戦を繰り広げた。

修練クラブは1977年発足。約20年前には小学生だけで50人以上が所属し、県西部のタイトルを総なめにしたこともあるという。少子化のため一時、選手は数人に減ったが、保護者らが一丸となって部員集めに奔走し、解散の危機を脱した。道場長の島尾眞且さん(68)＝同市山城町重実＝は「多くの子どもたちに剣道の楽しさを伝えながら、強かった頃に戻りたい」と話した。(阿部研一)



# 佐古クラブ 団体制す

## 個人6年は富田が優勝

### 剣道

第23回藤花旗争奪少年大会(3月5日・石井)

中)は21教室の232人が参加、白熱した攻防を繰り広げた。団体は佐古英)が優勝、個人6年は富田将太郎(北井上剣道教室)が制した。



藤花旗争奪少年大会団体制した佐古剣道クラブ



個人の部の優勝者

【団体】①佐古②藤花③北井上教室④石井

【個人】小学1年①近藤徳文(誠武館)②中野惺那(北島教室)③大西琉聖(加茂名教室)④松本有生(土成)▽2年①上田優(土成)②中川尊(鴨島教室)③武田脩斗(土成)④前田優莉(土成)▽3年①井上裕貴(吉野川教室)②岡崎嵩也(吉野川教室)③富田真吾(北島教室)④佐藤幸輔(吉野川教室)▽4年①藤原嵩也(入田練成会)②近藤真桜(石井)③三宅遠(麗佳)④大塚伶斗(鴨島教室)▽5年①近藤正獅(石井)②野尻壮馬(山川修練館)③香川悠(上浦教室)④内海輝貴(養武館)▽6年①富田将太郎(北井上教室)②海部樹(鴨島教室)③森吉新(北島教室)④谷川俊輔(松茂教室)

平成二十九年 度

# 剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※平成二十九年度は、以下の問題より各段二問  
出題されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の  
剣道修行の参考のために記述したものである。  
名称等、正確に記憶しておかねばならない事  
柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分の  
レベルで考え、自分の言葉で表現することを  
求めている。決して、試験のためだけに丸暗  
記して、こと足りえたと思わないでもらいた  
い。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負  
の気迫で取り組み、今の自分のありのままを  
表現すべきである。また、そのことが採点者  
の高い評価を受けることにつながることも付  
記しておく。

## 【剣 道】

### ※ 初段の部

① 中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

- (1) 肩を落として背筋を伸ばす。
- (2) 首筋を立てて顎を引く。
- (3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
- (4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
- (5) 目は全体を見つめる。

② 三つの間合を説明しなさい。

間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

(1) 一足一刀の間合⇨剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。

(2) 遠い間合(遠間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。

(3) 近い間合(近間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③ 基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
- (2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
- (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。

④ 日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。

- (1) 中段の構え⇨すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
- (2) 上段の構え⇨太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。
- (3) 下段の構え⇨剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
- (4) 八相の構え⇨太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
- (5) 脇構え⇨半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

⑤ 「切り返しの目的」を述べなさい。

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① 「剣道で礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② 「打突の好機」について説明しなさい。

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

- (1) 相手の動作の起り頭(出ばな)
- (2) 技の尽きたところ(動作や技が終わったと

ころ)

- (3) 居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- (4) 引き端(退がるころ)
- (5) 受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- (6) 息を深く吸うところ(息を吸うときは、相手の動作が止まる)

③ 「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。

- (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
- (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
- (3) 礼儀作法を重んじる。
- (4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
- (5) 基本に忠実に稽古をする。
- (6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
- (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ 剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

- (1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
- (2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起す。
- (3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。
- (5) 「正しい鍔せり合いと注意点」を説明しなさい。

鍔せり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃してきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元をさげ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

- (1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
- (2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
- (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
- (4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
- (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
- (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

## ※ 三段の部

### ① 「平常心」について説明しなさい。

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

### ② 「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

- (1) 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
- (2) 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。
- (3) 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

### ③ 互格稽古で注意することを書きなさい。

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行く。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。

- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

- (4) 間合のとおり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

### ④ 剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きや気位といった剣道の原理原則をも学得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

- (1) 礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。
- (2) 姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。
- (3) 間合を知り、機敏な動作が修得できる。
- (4) 技について自分の悪い癖がとれる。
- (5) 気合が練られ、充実した気合が得られる。
- (6) 剣道の気位が高まり、風格が備わる。

### ⑤ 「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。(竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出な

いように一ばいに持ち、右手は鏝にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。)竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。(打突に際しては緊張と解緊をたくみに行き、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。)

## ※ 四段の部

### ① 有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機合・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢(発声)・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

## ② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚⇨予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼(恐)⇨恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑⇨相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑⇨心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

## ③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならぬ。もし、打突した後に油断していたならば、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残

そうとするとところに心が止まってしまおうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

## ④ 剣道形を行うときの「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した氣勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。  
 (2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作(一拍子)で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎧の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

## ⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給(食塩水、スポーツドリンク等)を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。

## ※ 五段の部

### ① 審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

- (1) 公正無私であること。
- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣道に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。

### ② 「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に

備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちごこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

### ③ 互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。指導上の留意点

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。

- (4) 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。
- (5) 相手をより好まないで、多くの人と稽古をさせる。

### ④ 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。

- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。

- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するときには後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

### ⑤ 剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うっ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ



て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

(1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

水で体表を冷却したり、頸部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

(2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

## 【居合道】

### ※ 初段の部

① 居合道を習おうとした動機を記せ。

(例は示さない、自分の考えで述べよ。)

② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をすすめる上で大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀を使っている運動である関係上、万が一にもその使用方法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心が必要である。

③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹(真竹)材が使用される。目釘は、目釘穴と同

じ太さに削り、頭部分をやや大きくする。目釘の竹の表面側(表)を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』作法における、

「(一) 携刀姿勢」・「(二) 出場」・「(三) 神座への礼」より穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

### ※ 二段の部

① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の内磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をするには、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位(約三〜四セ)で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人指し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

### ③ 居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五釐先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

### ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

## ※ 三段の部

### ① 居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

### ② 残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

### ③ 自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになること、おのずから自信が湧いてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を發揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

### ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

## ※ 四段の部

### ① 居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

### ② 序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の運速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことはよい。抜刀について説明すると、鯉口を切って静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならぬ。

③ 気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の動きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(五カ所)による問題を二問出題する。

※ 五段の部

① 真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証(コピーは不可)を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならぬ。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

② 守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己

の流派をみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

③ 居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』における一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(各五カ所)による問題を二問出題する。



# 平成29年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事				
月	日	曜日	行事	主催
4	2	日	第72回国体一次予選会	9:30～ ソイジョイ武道館 県剣連
	9	日	少年剣道教室指導者講習会	9:30～ ソイジョイ武道館 〃
	14	金	西部交流稽古会	19:00～ 市立川島中学校 〃
	16	日	第42回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館 〃
	22	土	南部交流稽古会	16:00～ 鷺敷B&G体育館 〃
	29	祝土	第1回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソイジョイ武道館他 〃
5	7	日	剣道中央講習伝達講習会	9:30～ ソイジョイ武道館 〃
	14	日	居合道春季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館 県剣連
	27	土	第46回中学校剣道選手権大会	9:30～ ソイジョイ武道館 中体連
	28	日	第1回剣道審査会(二段以上)	10:00～ ソイジョイ武道館 県剣連
6	未	未	国体第二次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館 〃
	3~4	土~日	第57回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～ 那賀川スポーツセンター 高体連
	17~18	土~日	日本剣道形講習会	9:30～ 中央武道館 県剣連
	24	土	四国インカレ大会	9:30～ ソイジョイ武道館 四国大学連
	25	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソイジョイ武道館他 県剣連
	未	未	国体第二次予選会(男子)、国体第三次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館 〃
7	8~9	土~日	第71回徳島県中学校総合体育大会	9:30～ ソイジョイ武道館 中体連
	17	祝月	第65回全日本剣道選手権大会県予選会 第56回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30～ ソイジョイ武道館 県剣連
	21~23	金~日	剣道土用稽古	19:00～ 中央武道館他 県剣連
	28	金	第30回徳島県防犯少年柔道・剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館 警察本部
8	6	日	第54回四国中学校総合体育大会	9:00～ 徳島市立体育館 四国中体連
	20	日	国体四国ブロック大会	9:30～ 藍住町体育館 四国連合会
			四国教職員大会 稽古会	14:00～ 中央武道館他 四国学剣連
	21	月	四国教職員大会	9:00～ 徳島市立体育館 四国学剣連
	27	日	剣道 四、五段受審者講習会	9:30～ 中央武道館 県剣連
			長期育成強化訓練	9:30～ 那賀川スポーツセンター 〃
未	未	国体第三次予選会(男子)	9:30～ 警察学校体育館 〃	
9	3	日	第38回女子剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館 〃
	10	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	10:00～ ソイジョイ武道館 〃
	17	日	居合道伝達講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館 〃
	23	祝土	第23回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	10:00～ 松茂町第二体育館 高齢者友会
10	24	日	眉山ライオンズ剣道大会	9:00～ 徳島市市立体育館 眉山ライオンズ
	7	土	第14回徳島県中学校剣道1年生大会	10:00～ アミノアリーナホール 中体連
	14	土	第9回三者対抗剣道大会(阿南支部)	13:00～ 阿南武道館 県剣連
	15	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ 松茂町第二体育館他 〃
	22	日	秋季講習会(全剣連後援)	9:30～ 松茂町総合体育館 〃
11	27	金	西部交流稽古会	19:00～ 脇町小学校 〃
	4	土	第41回中学校剣道新人大会	9:30～ ソイジョイ武道館 中体連
	5	日	第51回高等学校剣道選手権大会	9:30～ ソイジョイ武道館 高体連
	10	金	南部交流稽古会	19:00～ 阿南スポーツセンター 県剣連
	12	日	居合道秋季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館 〃
			第48回県下少年剣道錬成大会	10:00～ 松茂町総合体育館 〃
19	日	第3回剣道審査会(二段以上)	10:00～ 松茂町第二体育館 〃	
23	祝木	眉山杯大学剣道大会	9:30～ 徳島文理大学 大学連	
26	日	第46回徳島県社会人剣道大会	10:00～ 那賀川スポーツセンター 県剣連	
12	2	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00～ 脇町うだつアリーナ 後援全剣連
	3	日	第40回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	10:00～ 松茂町総合体育館 県体協
	9	土	常任理事会	13:00～ 未定 県剣連
	17	日	第66回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第10回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	10:00～ 論田B&G 海洋センター 〃
1	6	土	新年役員会、互礼会	13:30～ 未定 〃
	7	日	平成30年 稽古始め	9:30～ 松茂町総合体育館 〃
	14	日	第61回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	10:00～ 那賀川スポーツセンター 高体連
	20	土	第28回県下中学校剣道強化錬成大会	10:00～ 松茂町総合体育館 中体連
	21	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ 松茂町第二体育館他 県剣連
	25~27	木~土	剣道寒稽古	19:00～ 中央武道館 〃
	28	日	長期育成強化訓練	9:30～ 那賀川スポーツセンター 〃
2	3~4	土~日	第17回四国高等学校剣道新人大会	9:30～ アミノアリーナホール 四国学剣連
	11	祝日	第39回県下高等学校剣道大会	10:00～ 松茂町総合体育館 (財)落穂園
	18	日	第4回剣道審査会(二段以上、称号)	10:00～ 論田B&G 海洋センター 県剣連
			居合道県下大会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館 〃
24	土	平成29年度理事会	13:00～ 未定 〃	
3	3~4	土~日	第12回四国中学校剣道新人大会	9:00～ 阿波中学校 四国学剣連
	11	日	平成29年度 総会	13:00～ 未定 県剣連
	18	日	高段位受審者研修会	9:30～ 松茂町総合体育館 〃
25	日	平成30年度審査員講習会	9:30～ 松茂町総合体育館 〃	

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
4	8	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣連
5	3	祝水	称号(教士・錬士)	京都市	〃
6	23	金	七・六段審査会(高山市)	岐阜県	〃
	30	金	七・六段審査会	大阪府	〃
11	11	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
	18	土	七・六審査会	東京都	〃
	27	月	称号(教士・錬士)	〃	〃

月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	8	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	29	祝土	六段審査会	京都市	〃
	30	日	七段審査会	〃	〃
5	1~2	月~火	八段審査会	〃	〃
	6	土	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	13	土	七段審査会	名古屋市	〃
	14	日	六段審査会	〃	〃
8	19	土	七段審査会	長野県	〃
	20	日	六段審査会	〃	〃
	26	土	七段審査会	福岡県	〃
11	27	日	六段審査会	〃	〃
	11	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	18	土	七段審査会	名古屋市	〃
	19	日	六段審査会	〃	〃
	25	土	六段審査会(八王子市)	東京都	〃
	27~28	月~火	七段審査会(足立区)	〃	〃
	27	月	称号(教士・錬士)	〃	〃
	29~30	水~木	八段審査会	〃	〃

月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	1~2	土~日	第52回西日本中央講習会	兵庫県	全剣連
	8	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	16	日	第15回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋	全剣連
	29	祝土	第65全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2~5	火~金	第113回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	13~14	土~日	第22回女子審判講習会	姫路市	全剣連
6	14	日	第69回四国四県剣道大会	香川県	後援 全剣連
	5	月	第39回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	11	日	第56回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	14~18	水~日	第55回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
7	17~18	土~日	四国高等学校総合体育大会	愛媛県	高体連
	17	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連
	8	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	15	土	第9回全日本都道府県女子剣道優勝大会	東京都	全剣連
8	22	土	第51回全日本女子学生剣道選手権大会	夫阪市	後援 全剣連
	23	日	第65回全日本学生剣道選手権大会	東京都	共催 全剣連
	22~23	土~日	平成29年度 全日本少年少女武道錬成大会	東京都	共催 全剣連
	24~29	月~土	平成29年度 玉竜旗高校剣道大会	福岡市	後援 全剣連
	5	土	第59回全国教職員剣道大会	上尾市	共催 全剣連
9	10~12	木~土	第64回全国高等学校総合体育大会	仙台市	共催 全剣連
	18~20	金~日	第47回全国中学校剣道大会	佐賀市	共催 全剣連
9	2	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	2~3	土~日	第45回居合道中央講習会	京都府	全剣連
	9~12	土~火	第30回全国健康福祉祭剣道交流大会	秋田県	後援 全剣連
	10	日	第63回全日本東西対抗剣道大会	福岡県	全剣連
	17	日	第12回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪市	後援 全剣連
	18	祝月	第60回全日本実業団剣道大会	東京都	後援 全剣連
10	24	日	第56回全日本女子剣道選手権大会	長野県	全剣連
	1~3	日~火	第72回国民体育大会剣道大会	愛媛県	主管 全剣連
	21	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島県	後援 全剣連
			第52回全日本居合道大会	広島県	全剣連
29	日	第65回全日本学生剣道選手権大会(団体戦)	東京都	後援 全剣連	
11	3	祝金	第65回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	11~12	土~日	第66回全国青年剣道大会	東京都	主管 全剣連
12	8~10	金~日	第116回社会体育指導員講習会(初級)	和歌山県	全剣連
	2	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
3	未定	未定	第3回女子剣道指導法講習会	未定	共催 全剣連
	17	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高知県	後援 全剣連
	25~27	日~火	第40回全国スポーツ少年団剣道交流大会	東京都	共催 全剣連
27~28	火~水	第27回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	共催 全剣連	

☆徳島県剣道連盟 稽古会《中央武道館》

木曜日 19:00~19:15(体操・素振り) 19:15~20:00(小中高一般/基本~指導稽古)  
20:00~20:45(高・一般/合同稽古)

毎月第1木曜日 日本剣道形の稽古(対象は中学生以上) 19:00~19:45 19:45~20:45(基本稽古、合同稽古)

\*稽古会休みのお問合わせは、事務局またはホームページでご確認ください。

徳島県剣道連盟(執務時間 平日午前10時~午後4時)  
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106号 TEL.088-652-2337・FAX 088-652-2360

# 平成29年度 級位・段位 審査会実施計画表

《 剣 道 》 \*西部の申込先が変わりました。  
初段以下一覽表 \*本年度より8月の審査会は実施致しません。

《 剣 道 》  
二段以上・称号一覽表

《 居合道 》  
級位・称号一覽表

## 《審査受験申込時の注意》

- ① 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有する級位、段位を受験した年月日は確認して、氏名のフリガナ、下等を正確に記入し、審査料を添えて申込書。
- (この申込書は、合格後全剣連への登録の基となりますので全て明記すること。)

- ② 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を書くこと。

- ③ 現段位を果外で登録受験した者は、その県名を記入すること。

- ④ 審査受験申込書の締切日は一覽表のとおりとし、事務局へ郵送又は郵便便受けに直接投函する場合は、締切日までに届くようにすること。なお事務局へ郵送又は直接郵便便受けに投函した場合は、締切日までに必ず申込書が到達しているか事務局に確認すること。

- ⑤ 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事とし、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事。また大学生については、県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。
- 小・中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。
- ⑥ 剣道四、五段の受審者は、一覽表の指定講習会を必ず受講すること。
- ⑦ 申込み締切後においては、審査会出席時の審査料の返金は、行わないこととする。

- \* 以上の項目が守れない場合は受審できませんのでご注意ください。

審査日	申込み締切日	中 部	西 部	南 部
4/29 (祝土)	4/15 (土)	ソノオイ 武道館 (徳島支部)	美郷ふるさと センター 体育館	阿南武道館
6/25 (日)	6/11 (日)	ソノオイ 武道館 (鳴門支部)	市場 ふれあい センター	小松島市立 体育館
10/15 (日)	10/1 (日)	松茂町 第二体育館 (坂野東支部)	三野体育館	相生体育館
1/21 (日)	1/7 (日)	松茂町 第二体育館 (鳴門支部)	穴吹スポーツ センター	美濃町日和佐 総合体育館

*木刃基本技 3級・・・4本まで		2級・・・6本まで		1級・・・9本	
中 部	西 部	南 部	中 部	西 部	南 部
〒770-0861 徳島県 島本島 市住吉 3丁目 3番地 3丁 目	〒779-3402 徳島県 吉野川 市住吉 3丁目 3番地 3丁 目	〒775-0203 徳島県 海部 市住吉 3丁目 3番地 3丁 目	〒770-0861 徳島県 島本島 市住吉 3丁目 3番地 3丁 目	〒779-3402 徳島県 吉野川 市住吉 3丁目 3番地 3丁 目	〒775-0203 徳島県 海部 市住吉 3丁目 3番地 3丁 目

剣 道				居 合 道			
審査日	申込み締切日	審査 段 位	審 査 会 場	四五段 講習会場 日時、会場	審査日	申込み締切日	審 査 会 場
5/28 (日)	5/14 (日)	二段～ 五段	ソノオイ 武道館	中央武道館	5/14 (日)	4/30 (日)	松茂町 第二体育館
9/10 (日)	8/27 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソノオイ 武道館	中央武道館	9/17 (日)	9/3 (日)	松茂町 第二体育館
11/19 (日)	11/5 (日)	二段～ 五段	松茂町 第二体育館		11/12 (日)	10/29 (日)	松茂町 第二体育館
2/18 (日)	2/4 (日)	二段～ 五段 (称号)	論田B&G 海洋センター		2/18 (日)	2/4 (日)	松茂町 第二体育館

注意 1. 称号審査については、行事予定表の伝達講習会(6月)または、秋季講習会(10月)を受講の上、1年以内に上記審査会において受講する事。  
注意 2. 四、五段受審予定者は、上記の講習会又は、伝達講習会、秋季講習会(いずれかを受講すること。受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。)

《 剣道審査申込先 》		《 居合道 審査申込先 》	
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マツゾウ106号 徳島県剣道連盟 事務局内 藤川 和秋 宛	TEL 088-652-2337 FAX 088-652-2360	〒776-0004 吉野川市鳴島町中島381-3 居合道部事務局 徳山 豊 宛	TEL 0883-24-2457

# 徳島県剣道連盟 審査資格

平成29年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、2級より受審できる。
1 級	小学6年生以上を受審資格とする。
初 段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日）平成24年4月1日より 居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、2級及び1級を認定とし初段から受審できる。
二 段	初段を1年以上経過した者。
三 段	二段を2年以上経過した者。
四 段	三段を3年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段を4年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
六 段	五段を5年以上経過した者。
七 段	六段を6年以上経過した者。
八 段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

\*級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

## 審査料・登録料（消費税含）一覧表

平成29年4月1日現在

〈単位＝円〉

	入 会 金 (徳島県で初めて受審する者)	審 査 料 (消費税8%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税8%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	"	1,500	—	3,500
1 級	"	2,000	—	3,500
初 段	"	3,000	3,000	6,900
二 段	"	4,000	4,000	9,060
三 段	"	5,000	5,000	12,300
四 段	"	6,000	6,000	17,700
五 段	"	8,000	8,000	23,100
六 段	"	10,800	—	45,200
七 段	"	15,120	—	56,000
八 段	"	19,440	—	77,600
錬 士	"	18,360	—	45,200
教 士	"	27,000	—	77,600
範 士	"	—	—	164,000

## 剣道連盟事務局だより

事務局次長 熊澤 信行



平成二十七年四月より二年間、三木毅会長の指示と叱咤激励されながら、事務局を無事に務めさせて頂きました。会員の皆様には、年間行事予定に毎週の様にと、土日に開催行事が有り、事務局として、文書発送、各大会と各講習会及び各審査会などの出欠確認と準備、各会場確保、各補助金申請、各大会賞状と昇級・昇段証書手配準備、各出入金額確認、各行事昼食手配など多岐にわたり取り組んでまいりましたが、不備や確認漏れがあり、二年間、誠に心配りが足りず申し訳ありませんでした。この二年間は反省と会員皆様のご協力に感謝しております。会長に次期事務局として任期についてお伺いしたところ、次期は事務局として任務に付けと指示があり、各者に相談し引き続き事務局として会員皆様のお手伝いをさせて頂きたいと思っておりますので、今後二年間、今以上に会員皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

平成二十九年度の事務局からの業務内容報告とお願いについて列挙致します。

(前回記載内容と同文もあり)

### 一、審査について

各支部長及び各学校と各道場の責任者は、申請者に自分で申請書を記入させた後、前回受審日などすべての項目に間違いがないことを確認し、捺印と審査料を添えて、期日を守り申請してください。その後に審査部の役員が受験者名簿を審査会場ごとに作成しておりますので、誤記入や記載漏れがありましたら、効率的な運営ができません。各支部長及び各学校と各道場の責任者は、昇級・昇段が妥当な受審者か判断し、申請手続きをしてください。また、昇段時の賞状は、事務局で全剣連に申請内容をフロッピーディスクで入力し、送付後、約一カ月半前後に全剣連より事務局に届きます。個別に送付はしておりませんので、各種大会での伝達配布か、事務局に確認後に取りに来てください。

高段昇段者と称号合格者の方も、賞状は県内審査と同様です。また、登録料は期日までに、徳島県剣道連盟が、一括して入金しておりますのでご理解ください。また、全剣連より高段者に称号の錬士・教士称号受験促進依頼がございますので、各該当者は是非ご検討ください。

### 二、徳島県剣道連盟主催の大会と講習会について

各支部長及び各学校と各道場の責任者は、各参加希望者に周知徹底して頂き、個別に事務局へ確認や大会要項の送付依頼などは効率的運営に支障をきたす為に、各内容の周知方法の確立をお願い



いたします。並びに、会員の多数の参加者を期待しておりますが、審査会同様に期日厳守と参加費徴収を御守りください。試合抽選やプログラム作成、参加者名簿作成には準備が必要な為、ご協力を願います。

### 三、各販売書籍について

「徳島の剣道」の二十三号に編集後記に執筆代表が、毎年新たに自分の子どもが誕生したような感慨と記載しています。執筆者のボランティア精神とたゆまぬ努力の上に発行することができます。 「徳島の剣道三十二号」は会員皆様のご理解とご協力の上すべて完売するように努力致しましたが、努力不足で在庫となりました。「徳島の剣道三十三号」は減冊予定とし本年度は、完売に向け会員の皆様もご協力願います。また、原稿依頼者も、締め切り期日と文書入力作業削減の為にパソコン等のご活用促進をお願いします。毎年四月発行を目指して作業活動しております。全剣連より自動的に送付してくる全剣連カレンダー（一部千円）は、二十八年度分は完売しましたが、毎年三十部送付されてきますので、十一月の少年練成大会で販売予定と全剣連発行の剣窓の購読（全国でワースト三から脱出）は、皆様の販売促進協力方向で進んでいますので、今後ともご協力をよろしく願います。

剣道指導要領と剣道授業の展開及び木刀による基本稽古法など、書籍の在庫販売もご協力願います。（全剣連のホームページでも注文可（手数料必要あり））

### 四、徳島県剣道連盟ホームページ掲載について

各種大会・講習会・県外審査会等と試合結果（徳島新聞転載含み）及び写真を掲載しておりますが、不慣れなうえ、技術力のなさに、誤字脱字と不適切な表現があれば、ご容赦ください。（徳島県剣道連盟強化稽古日程は、強化委員長が作成しております。）

### 五、役割分担について

全責任者は会長と理事長が担いますが、基本的業務を次のように分担し、活動を進めています。

- ・全剣連関係と四国ブロック関係交渉の窓口は理事長
- ・徳島県関係・体協関係・スポーツ振興財団等の関係交渉と各種助金申請等交渉の窓口は事務局長
- ・県内各試合・講習・会議の資料作成準備、県内行事予定の場所申請・使用料支払いと役員・審判員の出欠最終確認及び昼食手配（人員確定は経費節約に不可欠な為）は事務局次長と専従職員とで今後とも経費節約に努めて、執行役員全員が協力し運営して参ります。お願いとして、各出欠報告者は、期日までに早めに事務局に連絡をお願いします。

### 六、役員等の計報の手配と連絡について

関連関係者の計報の確認が取れ次第、事務局に報告依頼と関連関係者に連絡をお願いします。

## 七、今後は徳島県の人口減少が確実な現状について

剣道人口も減少の方向が推察されます。徳島県剣道連盟会員一人一人が徳島人に声をかけ、少なくとも現状維持に、オール徳島で取り組んで行きたいものです。そのためにも事務局は元より、会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。





## 徳島県剣道稽古場所一覧（平成29年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島県立中央武道館	少年（水・木・土）17:00-19:00
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00-21:00 少年（日）18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00-19:45 少年（日）17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00-19:00 一般（水・土）19:00-21:00
	宅宮（えのみや） 剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30-21:30 一般（火・土）21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）19:00-21:00 少年（木・土）19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00-19:00 少年（日）9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00-20:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30-20:30 少年（土）17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木 武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00-20:00 少年（土）9:00-11:00 一般（月）20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年（月・木）19:00-20:30 一般（月）20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年（木・土）19:00-20:30 一般（木・土）20:30-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00-22:00

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般(火・木・土) 21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	原 多三夫 088-692-5780	藍住町武道館	少年(火・木・土) 19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年(火・水) 19:30-21:00 少年(日) 9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館(火) 阿波中学校体育館(木)	少年(火・木) 19:00-21:00
	土成町 剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年(火・金) 19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年(火・木・土) 19:30-21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般(月) 20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年(火・金) 19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般(月・木・土) 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般(月・水・土) 19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年・一般(水) 19:30-21:30
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年(土) 18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般(水・土) 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年(火・金) 19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年(水) 20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	柳谷照男 0883-42-6936	川島中学校体育館	少年・一般(20:00-21:30)
	上浦剣道教室	柳谷照男 0883-42-6936	上浦小学校体育館	少年(水・土) 18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	三木 毅 0883-24-1934	鴨島第一中学校武道館	少年(火・木・土) 19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年(火・木・土) 19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年(水・土) 19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年(火・水・金・土) 20:00-22:00
	寶 壽 館	日和田慈海 0883-42-3605	醫 光 寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

徳島の剣道

阿南支部	阿南少年剣道教室	須藤恭宏 0884-22-6402	阿南市武道館（火・金） 阿南第一中武道館（木）	少年（火・木・金）19:00-21:00 一般（火・金）21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土）18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木）18:30-20:30 一般（水）21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（火・木・土）19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川B&G体育館（水・金）	少年（火・水・金）19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金）19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金）19:00-21:00 一般（水）19:30-21:00
丹生谷支部	振武館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年（水・金）19:00-21:00 一般（水・金）21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年（火・木・土）16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年（月・水）18:00-19:30 （金）18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木）19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金）19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	坂野少年剣道クラブ	櫻木鉄也 0885-38-2302	坂野小学校体育館	少年（月・木）19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日）18:30-20:00
	芝田剣道クラブ直心館	岩田善則 0885-32-3319	芝田小学校体育館	少年（月・金）19:00-21:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般（月・水）19:00-21:00 少年・一般（土）18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木）16:30-18:00 一般（水・第2金・第4金） 18:00-20:00
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
			警察学校体育館	一般 土 9:30-12:00
	女子部稽古会	中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00	

# 居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 五段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門道場	六段・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門ソイジョイ武道館 サブ道場	土曜日 18:00～20:30
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

## 編集後記

私が「徳島の剣道」の編集担当になって、もう二十三年の月日がたっていました。

毎号の編集後記には、発行遅れの言い訳が多く、心苦しばかりです。今年は汚名返上とばかりに、早めに作業を進めていたのですが、折り悪く、勤務先の職場改革があり、私自身が精神的に集中して編集作業に向かえず、今日に至ってしまいました。その間、三木会長と西谷理事長がわざわざ私の職場まで来ていただき、私への激励とともに編集作業の分担や効率的な編集についての提案をいただきました。次号以降に活かして参ります。

私自身の編集作業に取り組む姿勢は、そのまま私の剣道に取り組む姿勢ではないか、さらには、人生を生きる自分の姿勢ではないかと思えるようになりました。甘え心があり、自分を律することができていない！

猛省しつつ、再度、編集作業の効率化にチャレンジして参ります。

## 『徳島の剣道』第三十三号

### 編集委員会

西	井	柴	久	加	別	笠	中	熊	藤	西	三	木
本	内	田	保	藤	宮	井	村	澤	川	谷	木	原
浩	勝	宗	隆	哲	憲		稔	信	和	肇		資
章	則	忠	司	裕	治	勝	裕	行	秋	一	毅	裕

## 『徳島の剣道』第33号

平成29年11月30日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 三 木 毅

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6  
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360